

令和2年度健やか親子21実態調査 その1

妊娠・出産・育児に関する実態調査
報告書

令和3年3月

千葉県

健康福祉部児童家庭課

はじめに

「健やか親子21」は、21世紀の母子保健の取組の方向性と目標を示し、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画として、平成13年から取り組みが開始されました。平成27年度からは、令和6年度までを運動期間とする「健やか親子21（第2次）」が開始されています。

これを受け、本県においても「すべての子どもが健やかに育つ社会」の実現を目指す「健やか親子21（第2次）」を推進するため、様々な取り組みが行われていますが、今回、妊娠・出産・育児に関する現状を把握し、今後の母子保健施策に反映させるため、健やか親子21実態調査その1として「妊娠・出産・育児に関する調査」を実施しました。

この結果、「核家族」が87.5%、「妊娠中に仕事を持っていた人」が69.2%と、過去の調査と比較すると最も割合が高くなっており、本県でも核家族化や女性の社会進出の増加といった、近年のわが国の傾向が顕著になっています。また「近所づきあいはしたくない」人の割合が倍増し、育児について相談する相手として「友人・知人」の割合が減少するなど、地域の中での母親の孤立が懸念される結果も見られました。

このような調査結果を踏まえ、千葉県子ども・子育て支援プラン2020の柱である、「安心して妊娠・出産し、ゆとりをもって子どもを育てられる環境づくり」・「子どもが愛情に包まれて健やかに成長し、自立できる環境づくり」を目指し、住民や関係機関・団体の参画を得ながら、母子保健施策の更なる推進を図ってまいりたいと考えております。

また、本報告書が関係者の皆様のお役に立てることができれば幸いです。

最後に、調査に御協力をいただきました保護者の皆様をはじめ、市町村の母子保健担当者の方々に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

千葉県健康福祉部児童家庭課長

尾関 範子

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査対象者	1
4. 調査の方法	1
5. 回収結果	1
6. 調査の内容	2
7. 時系列比較	2
8. 調査実施機関	2
II 調査結果	3
1. 回答者の属性及び地域とのかかわり	3
(1) 年齢分布	3
(2) 職業	4
(3) 居住地域	4
(4) 居住年数	5
(5) 住居形態	5
(6) 近所づきあい	6
(7) 家族構成	9
(8) 子どもの数	10
(9) 子どもの年齢	11
2. 第1子の妊娠時について	12
(1) 第1子妊娠時の年齢	12
(2) 母子健康手帳の交付時期	13
(3) 妊娠中の定期健診の受診	15
(4) 健診を受けなかった理由	16
(5) 日常生活指導	17
(6) 日常生活の注意	19
(7) 出産直前の体重の増加	20
(8) 妊娠中期の運動	21
(9) 妊娠中の喫煙	22
(10) たばこの種類	25
(11) 喫煙本数	26
(12) たばこを吸っていた理由	27
(13) 妊娠中の喫煙に対する知識	28
(14) 同居家族の喫煙	29
(15) 妊娠中の飲酒	30
(16) 飲酒頻度	33
(17) 飲酒量	34
(18) 妊娠中の飲酒に対する知識	35

目 次

(19) 母親学級への参加状況	36
(20) 母親学級へ参加した場所	37
(21) 母親学級へ参加した満足度	38
(22) 母親学級へ参加しなかった理由	39
(23) 両親学級、父親学級への夫の参加希望	41
(24) 両親学級、父親学級への夫の参加可能性	42
(25) 妊娠とわかったときの本人の気持ち	43
(26) 妊娠とわかったときの夫の様子	45
(27) 妊娠中の就労状況	46
(28) 妊娠中の職業	47
(29) 仕事上の配慮の有無	50
(30) 配慮してもらえなかった点	52
(31) 母性健康管理指導事項連絡カードの認知	54
(32) 母性健康管理指導事項連絡カードの利用経験	56
(33) マタニティマークの認知	57
(34) マタニティマークの使用経験	58
(35) マタニティマークの効果	59
(36) マタニティマークを使用しなかった理由	61
3. 第1子の出産時について	62
(1) 里帰り出産	62
(2) 里帰り出産の時期	63
(3) 里帰り出産の理由	64
(4) 保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことの有無	65
(5) 困ったことの内容	66
(6) 出産の状態	67
(7) 立ち会い出産	67
(8) 妊娠週数	70
(9) 出生時の子どもの体重	71
(9-1) 出生時の子どもの身長	73
(10) 出産時の気持ち	74
(11) 出産の満足度	75
(12) 産後の協力者の有無	77
(13) 産後の協力者	78
(14) 産後の抑うつ状態の有無	79
4. 第1子の育児について	82
(1) 生後1か月までの授乳の内訳	82
(2) 母乳のみにしなかった理由	83
(3) 子どもの寝かせ方	84
(4) うつ伏せ寝にした理由	85
(5) 乳幼児突然死症候群(SIDS)の知識	86
(6) BCG接種	87

(7) BCG接種時期	87
(8) BCG接種を受けなかった理由	88
(9) 四種混合接種	89
(10) 四種混合接種が済んだ時期	90
(11) 四種混合接種を受けなかった理由	91
(12) 麻しん・風しん(MR)の接種	92
(13) 麻しん・風しん(MR)の接種時期	93
(14) 麻しん・風しん(MR)の接種を受けなかった理由	94
5. 子どもの事故予防等について	95
(1) 事故による死亡が多い事実の認知	95
(2) 階段から落ちない工夫	97
(3) 浴槽に落ちない工夫	98
(4) 子どもだけの留守番の防止	99
(5) 異物の誤飲の防止	100
(6) 玄関からの飛び出し防止	101
(7) チャイルドシートの使用状況	102
(8) 心肺蘇生法の認知	103
(9) 心肺蘇生法の習得場所	104
(10) 子どもの心肺蘇生法の習得	105
(11) 心肺蘇生法の実践	106
(12) 日中の育児を主に行う人	107
(13) 夫の育児参加状況	108
(14) 夫の育児参加の満足度	109
(15) 育児について相談する相手の有無	114
(16) 育児について相談する相手	117
(17) 現在の気分	118
6. 子どもの健康管理について	125
(1) 小児科のかかりつけ医の有無	125
(2) 小児科のかかりつけ医の満足度	126
(3) 小児科のかかりつけ医を持たない理由	127
(4) 市町村(医師会)の休日・夜間救急診療所の受診経験	128
(5) 夜間に子どもの具合が悪くなったときの対応	129
(6) 乳幼児健診の受診場所	131
(7) 乳幼児健診を受けた感想	132
(8) 千葉県に望むこと	134
III まとめ	136
IV 使用した調査票	139



I 調査概要

1. 調査の目的

子育て中の母親の妊娠・出産・育児に関する現状を調査することにより、「健やか親子21」をはじめとする母子保健の施策に反映させることを目的とする。

2. 調査期間

令和2年9月1日～10月31日

3. 調査対象者

千葉県内に在住し、調査期間中に1歳6か月児健康健診あるいは3歳児健康診査を受診する児の母親3,631人。（了解の得られた43市町村を対象とした）

調査対象43市町村

地域	市町村名
①中央地域	千葉市
②東葛地域	柏市、習志野市、鎌ヶ谷市、市川市、浦安市、松戸市、流山市、我孫子市
③北東地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、白井市、富里市、栄町、香取市、神崎町、多古町、東庄町、銚子市、旭市、匝瑳市
④外房地域	東金市、山武市、大網白里市、芝山町、横芝光町、茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、長柄町、勝浦市、大多喜町
⑤南部地域	館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町、木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

4. 調査の方法

市町村に依頼し、1歳6か月児健康健診及び3歳児健康診査の会場において、保護者に調査票を配布し、自宅に持ち帰って記入・返送してもらう無記名のアンケート方式で実施した。

5. 回収結果

対象者数：3,631人

回答者数：1,228人（回収率：33.8%）

6. 調査の内容

- (1) 生活環境
- (2) 第1子の妊娠時について
- (3) 第1子の出産時について
- (4) 第1子の育児について
- (5) 子どもの事故予防等について
- (6) 子どもの健康管理について

7. 時系列比較

この調査は平成12年度、17年度、24年度にも実施され、その結果をもとに一部時系列比較を行った。

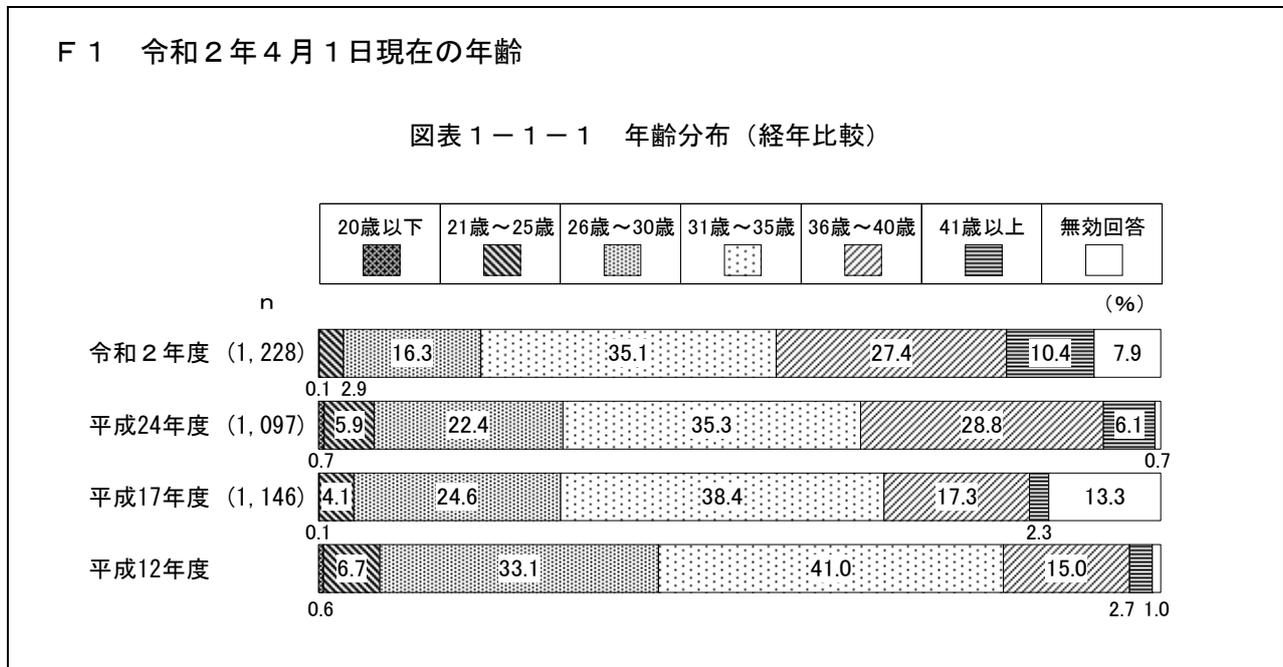
8. 調査実施機関

千葉県が株式会社エスピー研に委託して実施した。

II 調査結果

1. 回答者の属性及び地域とのかかわり

(1) 年齢分布



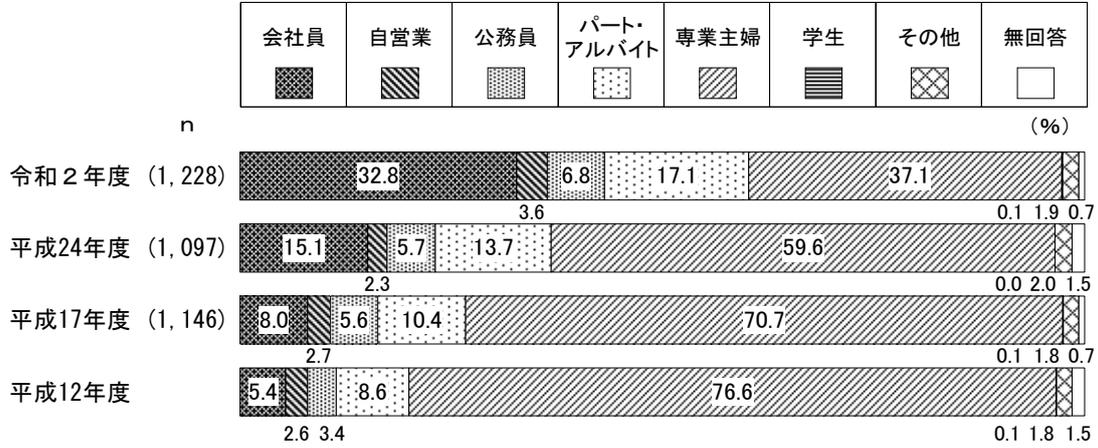
年齢分布は、「31歳～35歳」が35.1%で最も高く、次いで「36歳～40歳」（27.4%）、「26歳～30歳」（16.3%）、「41歳以上」（10.4%）となっている。

過去の調査と比較すると、「41歳以上」は平成24年度より4.3ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。一方、「26歳～30歳」は平成24年度より6.1ポイント減少しており、平成12年度以降減少傾向にある。

(2) 職業

F 2 現在のお仕事は何ですか。

図表 1-2-1 職業（経年比較）



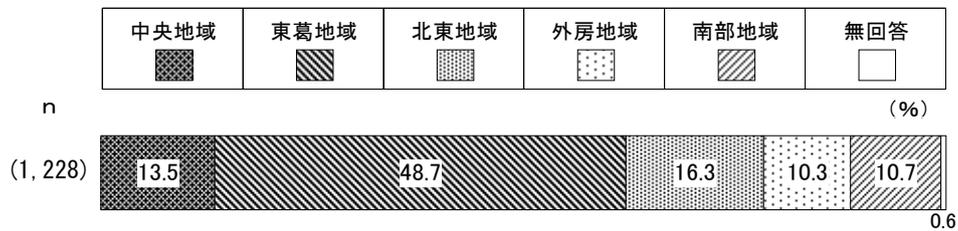
職業は、「専業主婦」が37.1%で最も高く、次いで「会社員」（32.8%）、「パート・アルバイト」（17.1%）、「公務員」（6.8%）となっている。

過去の調査と比較すると、「会社員」は平成24年度より17.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「専業主婦」は平成24年度より22.5ポイント減少しており、平成12年度以降減少傾向にある。

(3) 居住地

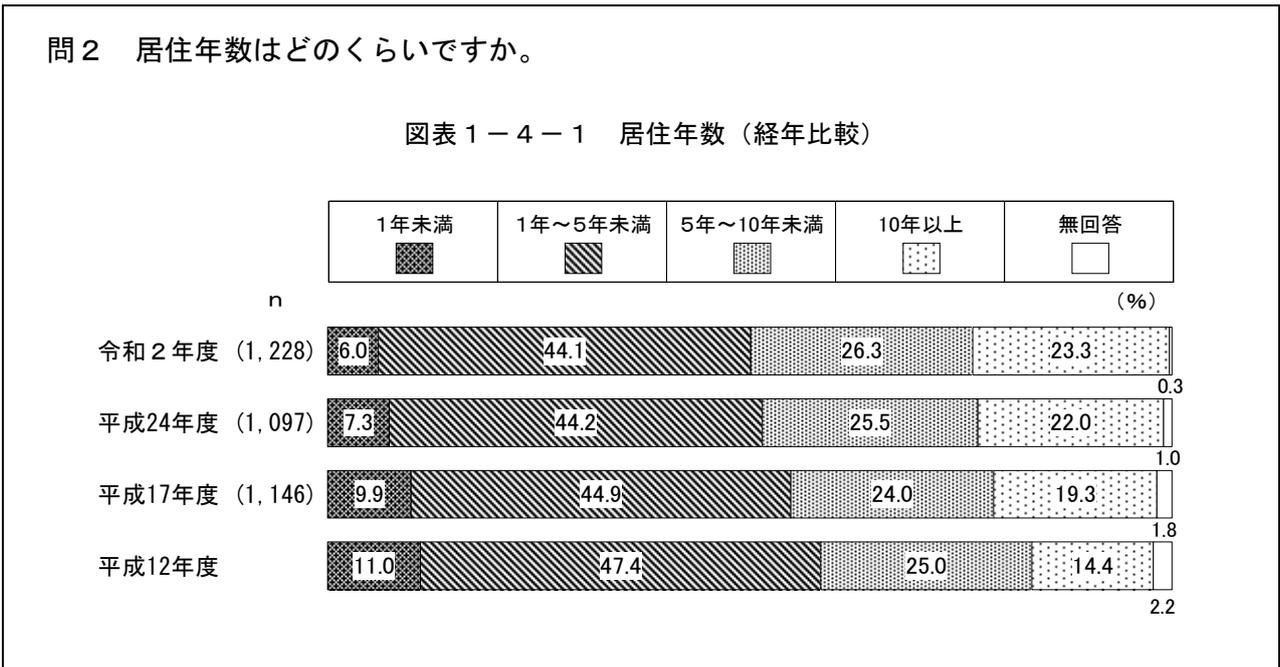
問1 住んでいるところはどこですか。

図表 1-3-1 居住地（経年比較）



居住地は、「東葛地域」が48.7%で最も高く、次いで「北東地域」（16.3%）、「中央地域」（13.5%）、「南部地域」（10.7%）、「外房地域」（10.3%）となっている。

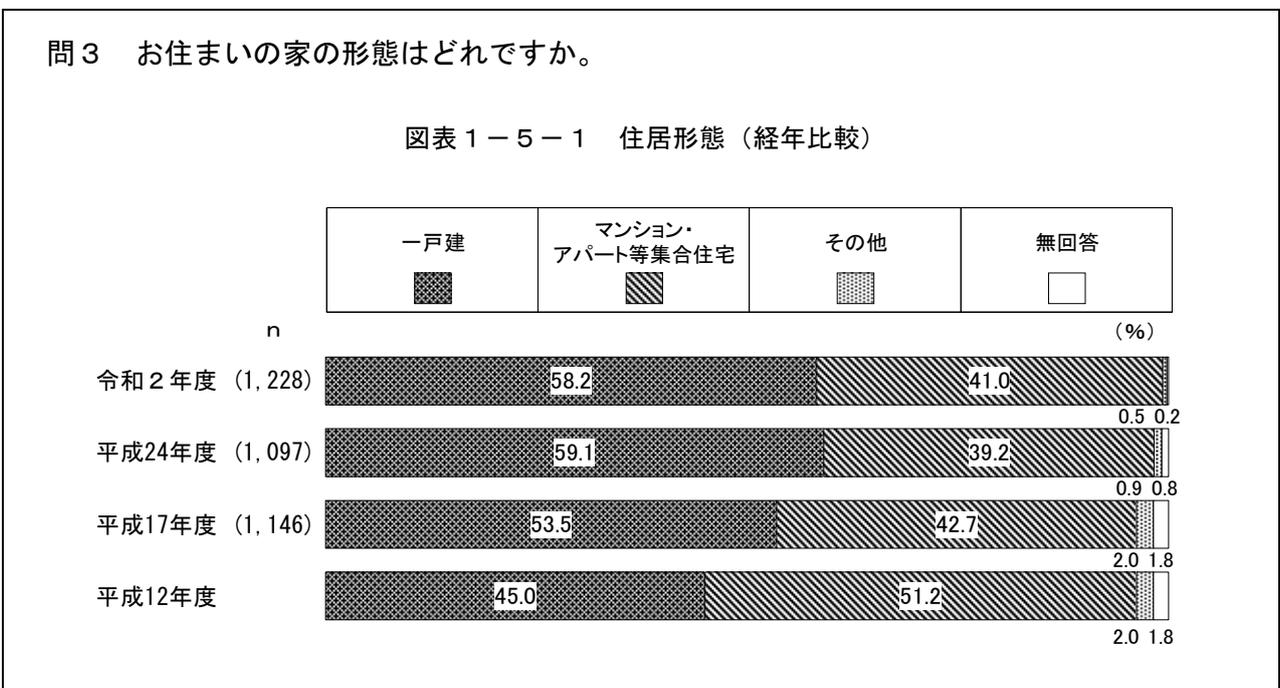
(4) 居住年数



居住年数は、「1年～5年未満」が44.1%で最も高く、次いで「5年～10年未満」（26.3%）、「10年以上」（23.3%）、「1年未満」（6.0%）となっている。

過去の調査と比較すると、「10年以上」は平成12年度以降増加傾向にある。一方、「1年未満」は平成12年度以降減少傾向にある。

(5) 住居形態



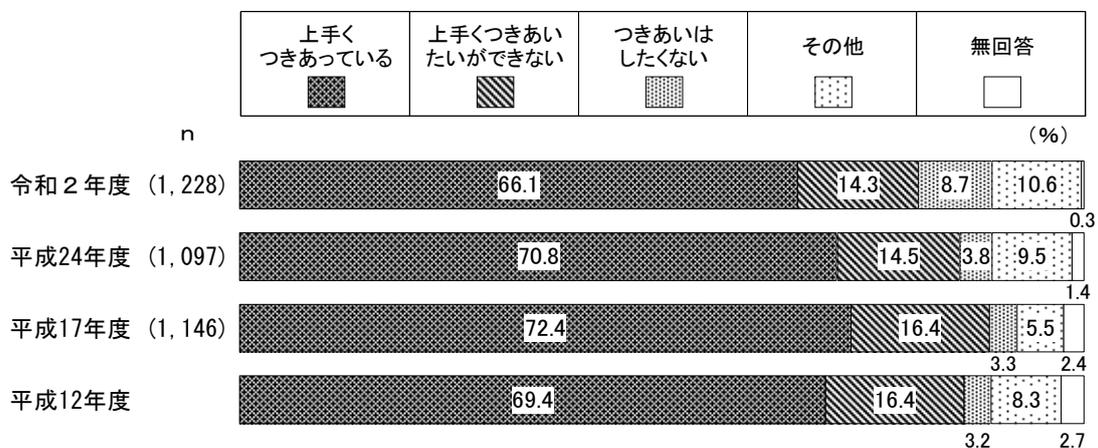
住居形態は、「一戸建」が58.2%、「マンション・アパート等集合住宅」は41.0%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(6) 近所づきあい

問4 あなたは日頃の近所づきあいについてどのように考えていますか。

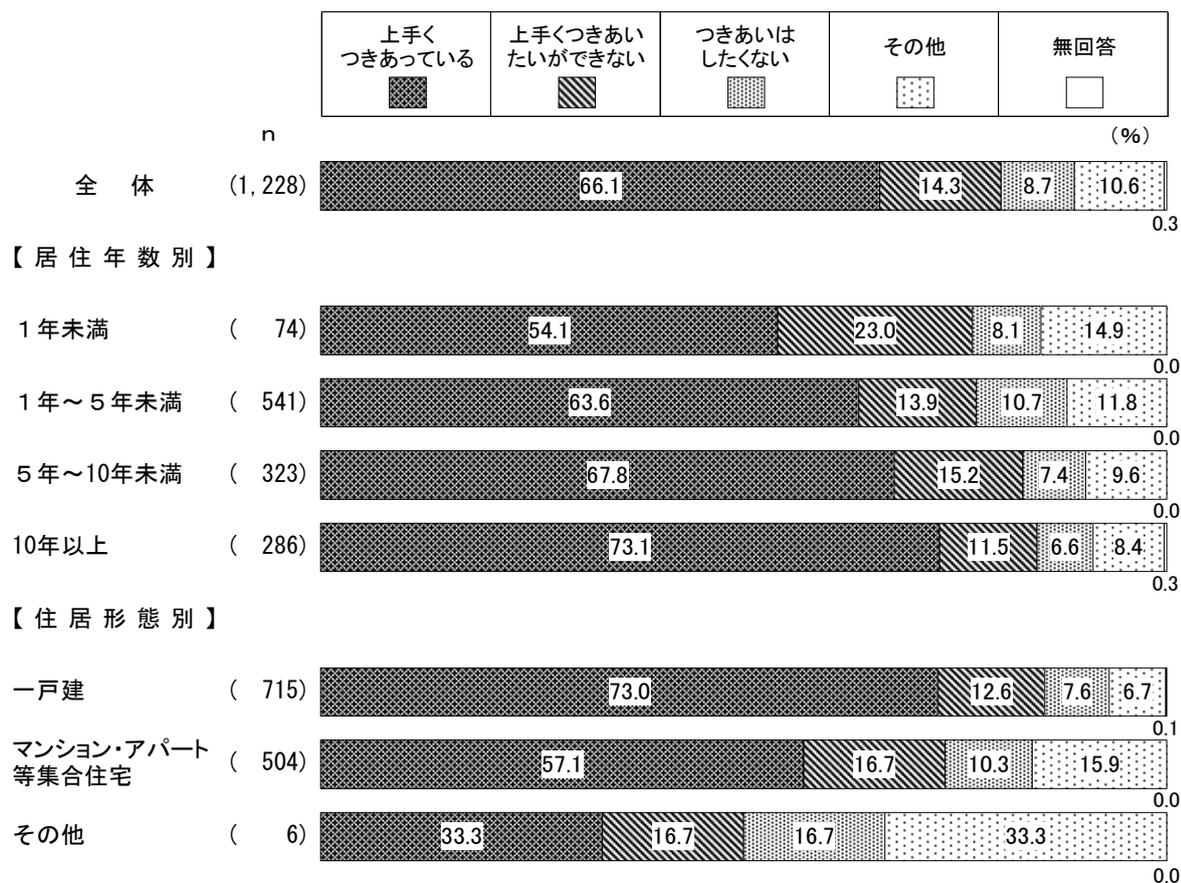
図表1-6-1 近所づきあい（経年比較）



近所づきあいについて聞いたところ、「上手くつきあっている」が66.1%となっている。一方、「上手くつきあいたいができない」は14.3%、「つきあいはしたくない」は8.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「つきあいはしたくない」は平成24年度より4.9ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「上手くつきあっている」は平成24年度より4.7ポイント減少しており、平成17年度以降減少傾向にある。

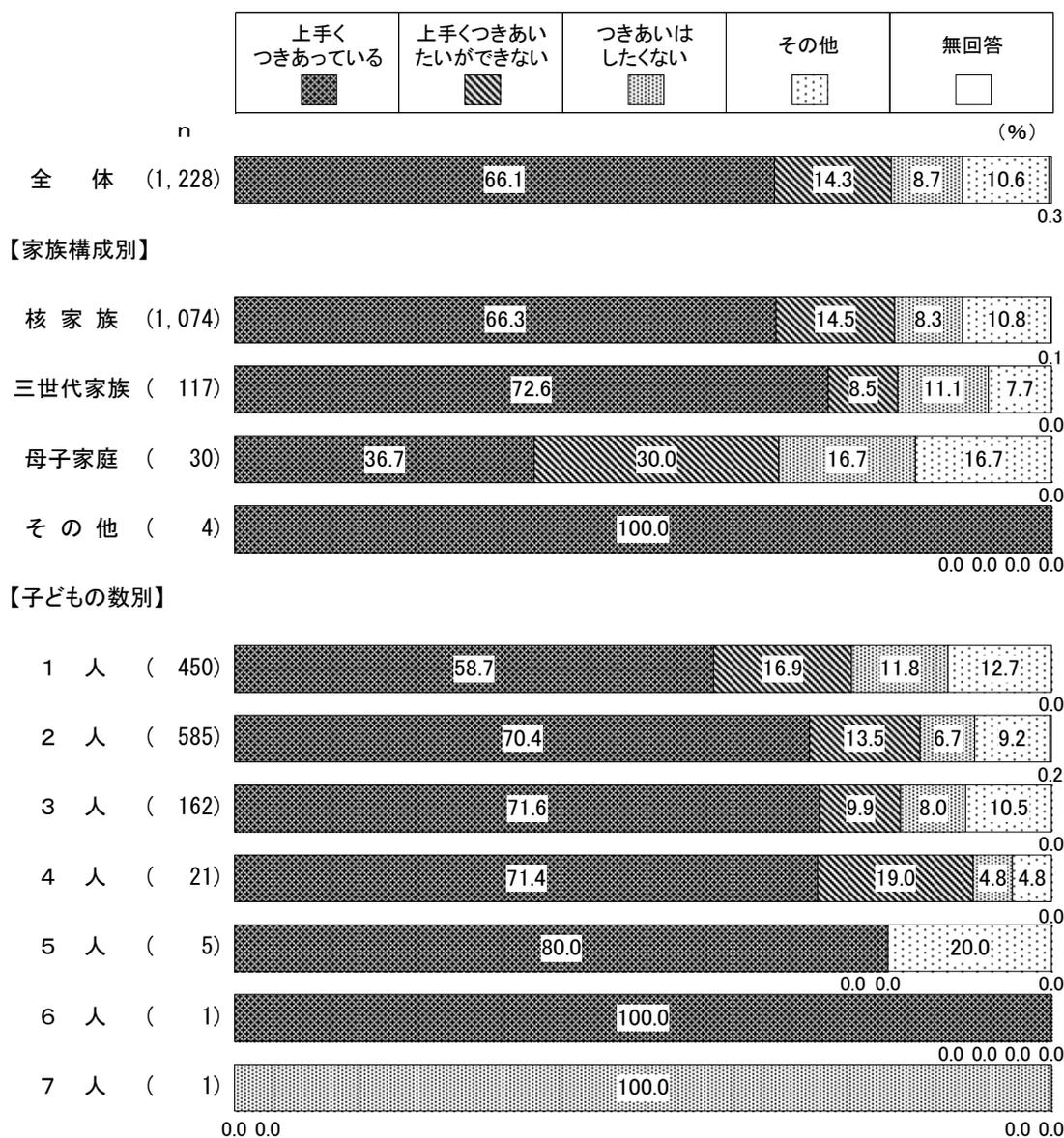
図表 1-6-2 近所づきあい（居住年数別、住居形態別）



居住年数別でみると、「上手くつきあっている」は居住年数が長くなるほど割合が高く、“10年以上”で73.1%と高くなっている。「上手くつきあいたいができない」は“1年未満”で23.0%と高くなっている。

住居形態別でみると、「上手くつきあっている」は“一戸建”（73.0%）が“マンション・アパート等集合住宅”（57.1%）より15.9ポイント高くなっている。一方、「上手くつきあいたいができない」は“マンション・アパート等集合住宅”（16.7%）が“一戸建”（12.6%）より4.1ポイント高くなっている。

図表 1-6-3 近所づきあい（家族構成別、子どもの数別）



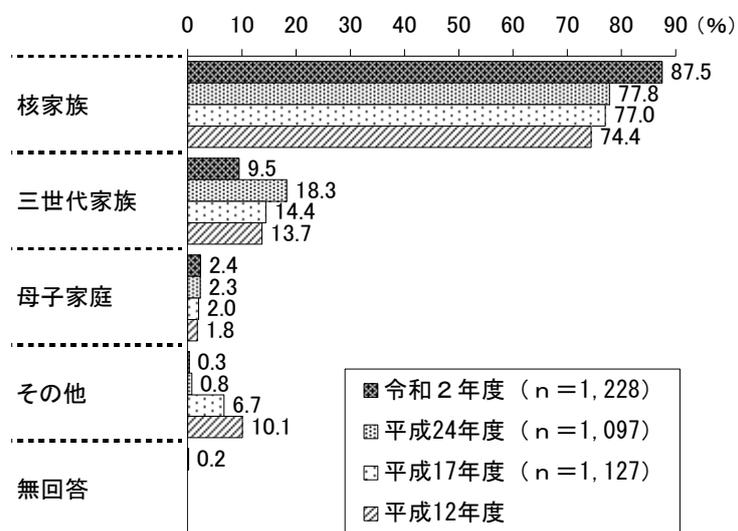
家族構成別で見ると、「上手くつきあっている」は“三世代家族”で72.6%、“核家族”で66.3%と高くなっている。「上手くつきあいたいができない」は“母子家庭”で30.0%と高くなっている。

子どもの数別で見ると、「上手くつきあっている」はおおむね子どもの人数が多くなるほど割合が高くなっている。

(7) 家族構成

問5 あなたの家族構成について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表1-7-1 家族構成（経年比較）[複数回答]



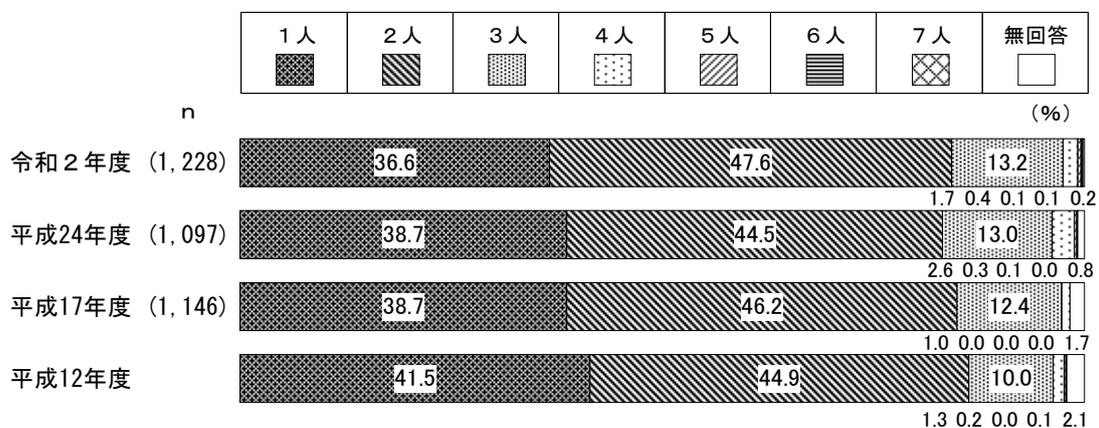
家族構成は、「核家族」が87.5%で最も高く、次いで「三世代家族」（9.5%）、「母子家庭」（2.4%）となっている。

過去の調査と比較すると、「核家族」は平成24年度より9.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「三世代家族」は平成24年度より8.8ポイント減少している。

(8) 子どもの数

問6 お子さんは何人いますか。

図表1-8-1 子どもの数(経年比較)



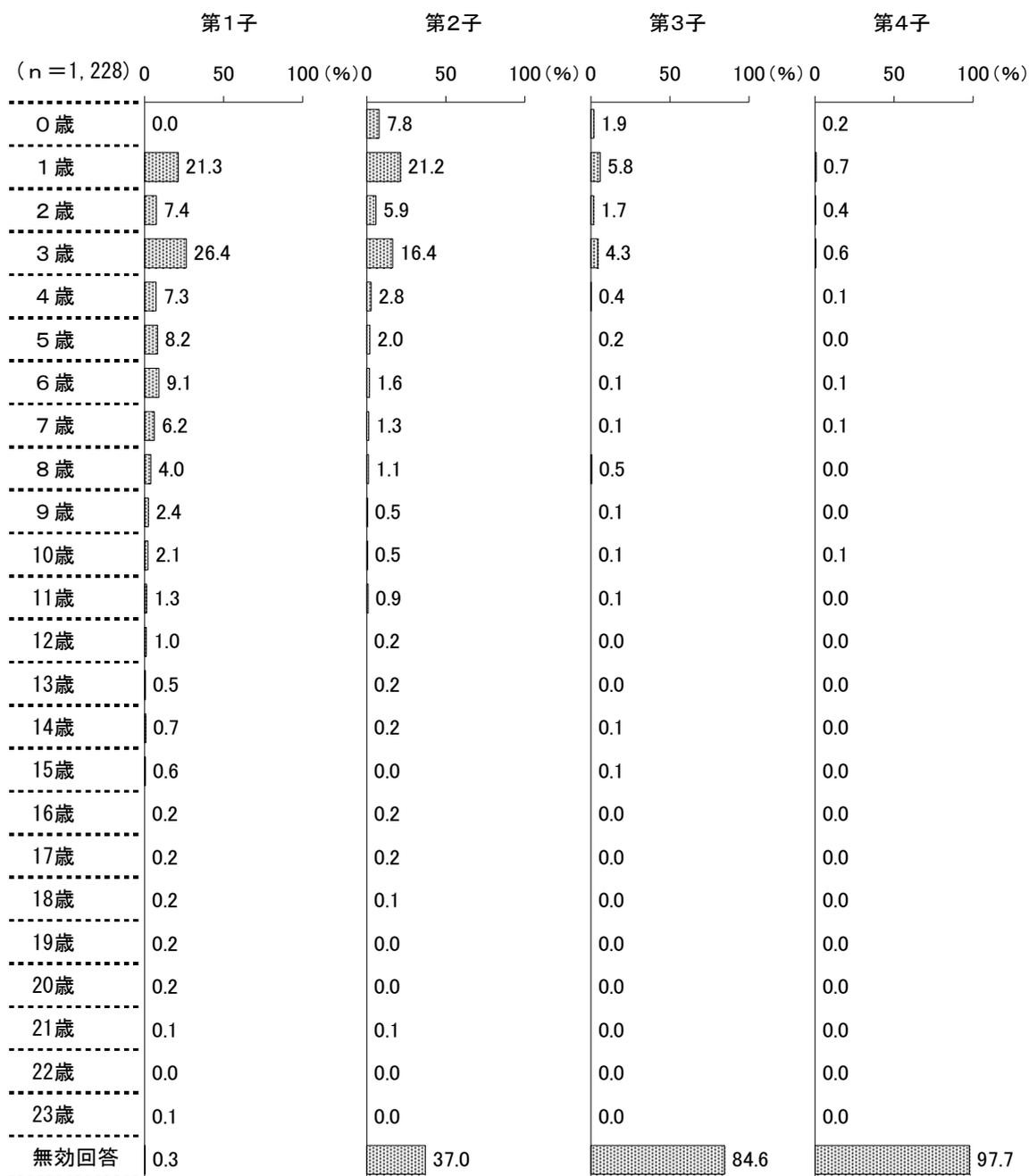
子どもの数は、「2人」が47.6%で最も高く、次いで「1人」(36.6%)、「3人」(13.2%)、「4人」(1.7%)となっている。

過去の調査と比較すると、「2人」は平成24年度より3.1ポイント増加している。

(9) 子どもの年齢

問6-1 お子さんの年齢を高い順にお書きください。

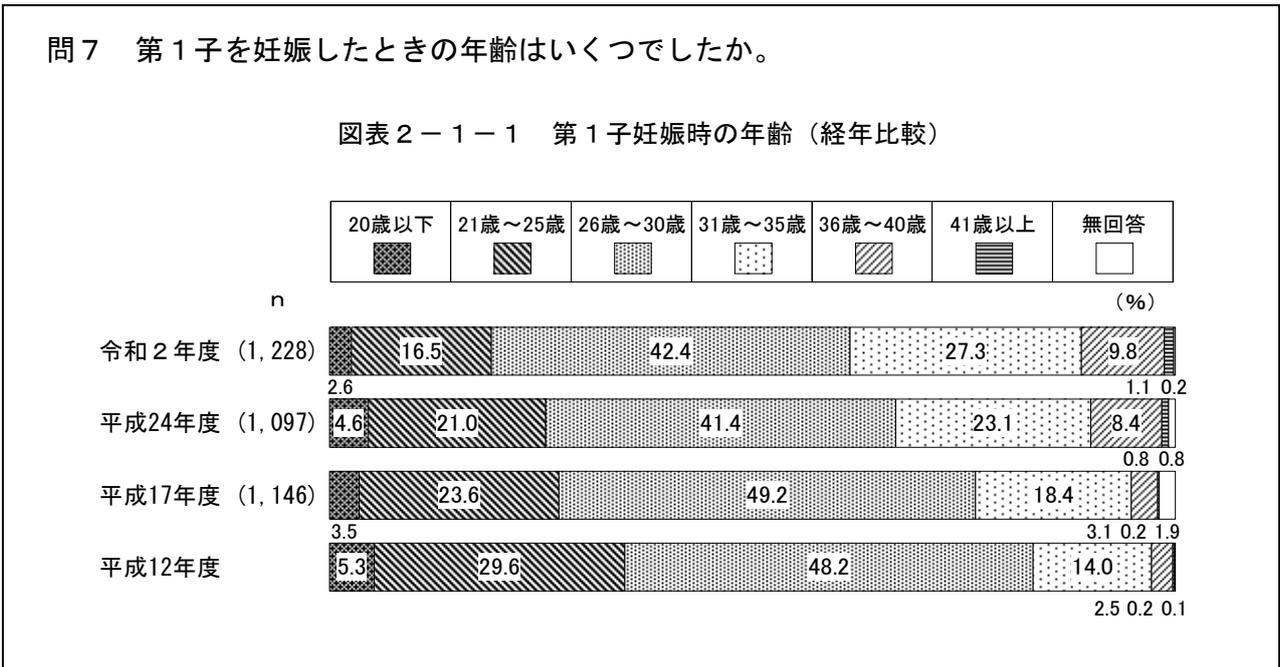
図表1-9-1 子どもの年齢 [複数回答]



回答者の子どもの年齢は、第1子では「3歳」が26.4%で最も高く、次いで「1歳」(21.3%)、「6歳」(9.1%)、「5歳」(8.2%)となっている。第2子では「1歳」が21.2%で最も高く、次いで「3歳」(16.4%)、「0歳」(7.8%)、「2歳」(5.9%)となっている。

2. 第1子の妊娠時について

(1) 第1子妊娠時の年齢



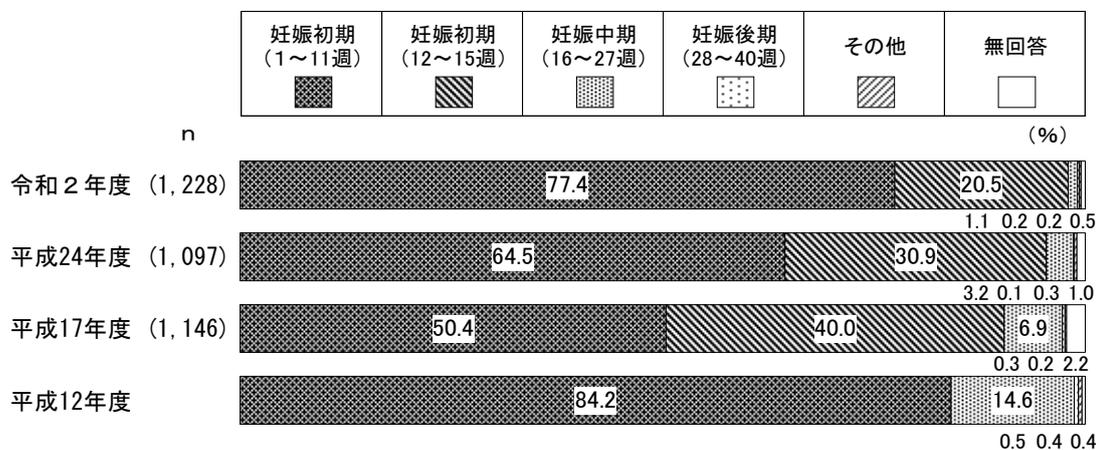
第1子を妊娠したときの年齢を聞いたところ、「26歳～30歳」が42.4%で最も高く、次いで「31歳～35歳」（27.3%）、「21歳～25歳」（16.5%）、「36歳～40歳」（9.8%）となっている。

過去の調査と比較すると、「31歳～35歳」は平成24年度より4.2ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「21歳～25歳」は平成24年度より4.5ポイント減少しており、平成12年度以降減少傾向にある。

(2) 母子健康手帳の交付時期

問8 母子健康手帳の交付を受けたのは、いつ頃でしたか。

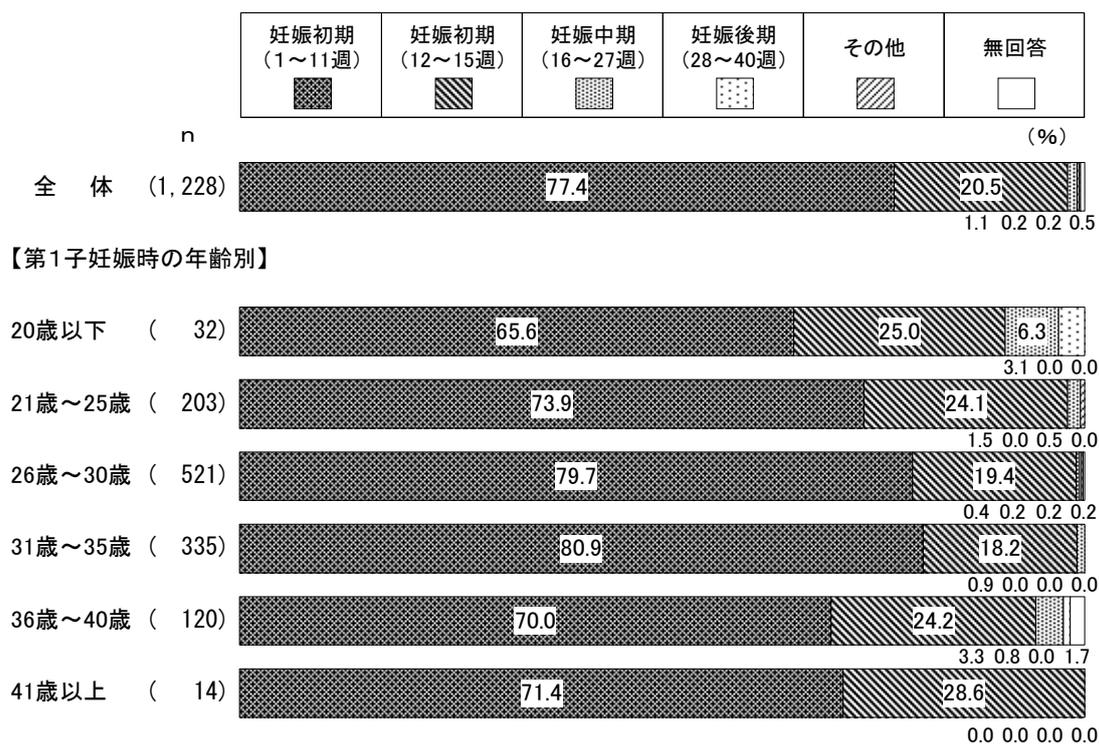
図表2-2-1 母子健康手帳の交付時期（経年比較）



母子健康手帳の交付時期を聞いたところ、「妊娠初期（1～11週）」が77.4%で最も高く、次いで「妊娠初期（12～15週）」（20.5%）、「妊娠中期（16～27週）」（1.1%）、「妊娠後期（28～40週）」（0.2%）となっている。

過去の調査と比較すると、「妊娠初期（1～11週）」は平成24年度より12.9ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

図表 2-2-2 母子健康手帳の交付時期（第1子妊娠時の年齢別）

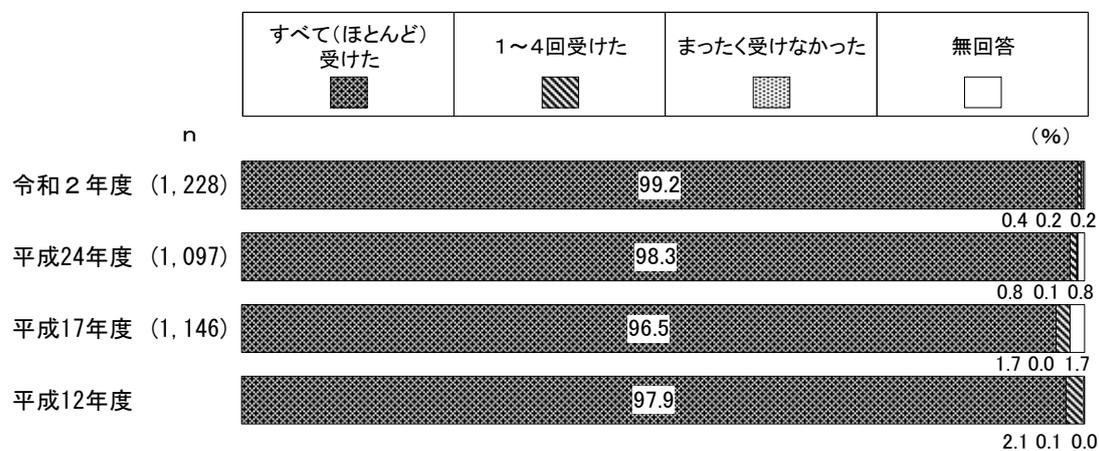


第1子妊娠時の年齢別で見ると、「妊娠初期（1～11週）」は“31歳～35歳”で80.9%、“26歳～30歳”で79.7%と高くなっている。

(3) 妊娠中の定期健診の受診

問9 妊娠中、定期的に健診を受けましたか。

図表2-3-1 妊娠中の定期健診の受診（経年比較）



妊娠中、定期的に健診を受けたか聞いたところ、「すべて(ほとんど)受けた」が99.2%となっている。一方、「1~4回受けた」は0.4%、「まったく受けなかった」は0.2%となっている。

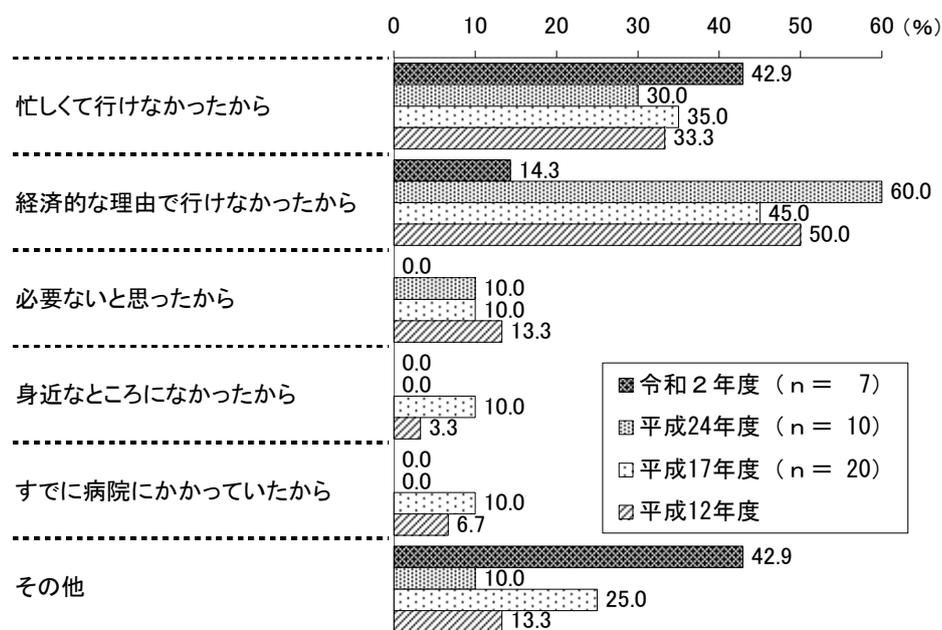
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(4) 健診を受けなかった理由

問9で「1～4回受けた」「まったく受けなかった」と答えた方へ

問9-1 健診を受けなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表2-4-1 健診を受けなかった理由（経年比較）[複数回答]



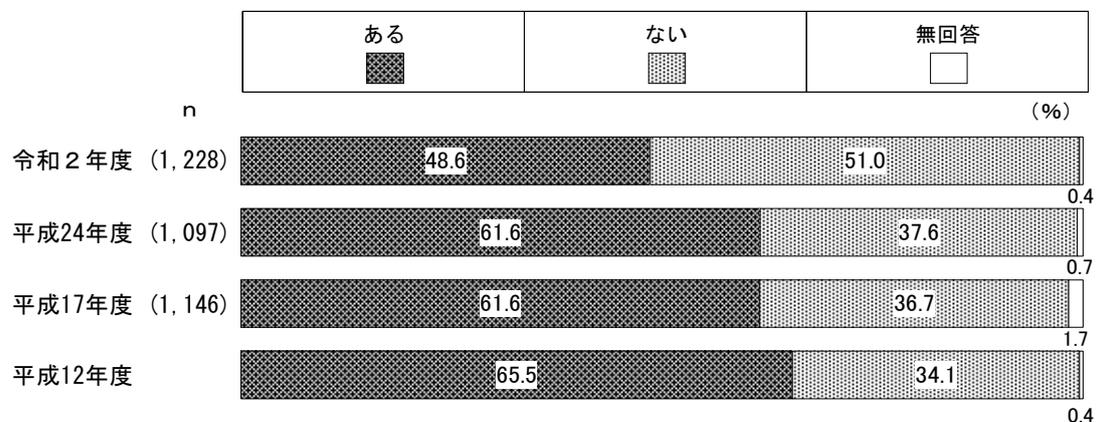
妊娠中の定期健診を「1～4回受けた」または「まったく受けなかった」と答えた人（7人）に、健診を受けなかった理由を聞いたところ、「忙しくて行けなかったから」が42.9%で最も高く、次いで「経済的な理由で行けなかったから」（14.3%）となっている。

過去の調査との比較は、基数が少ないため参考に図示する。

(5) 日常生活指導

問10 妊婦健診時、医師や助産師などから日常生活の指導を受けたことがありますか。

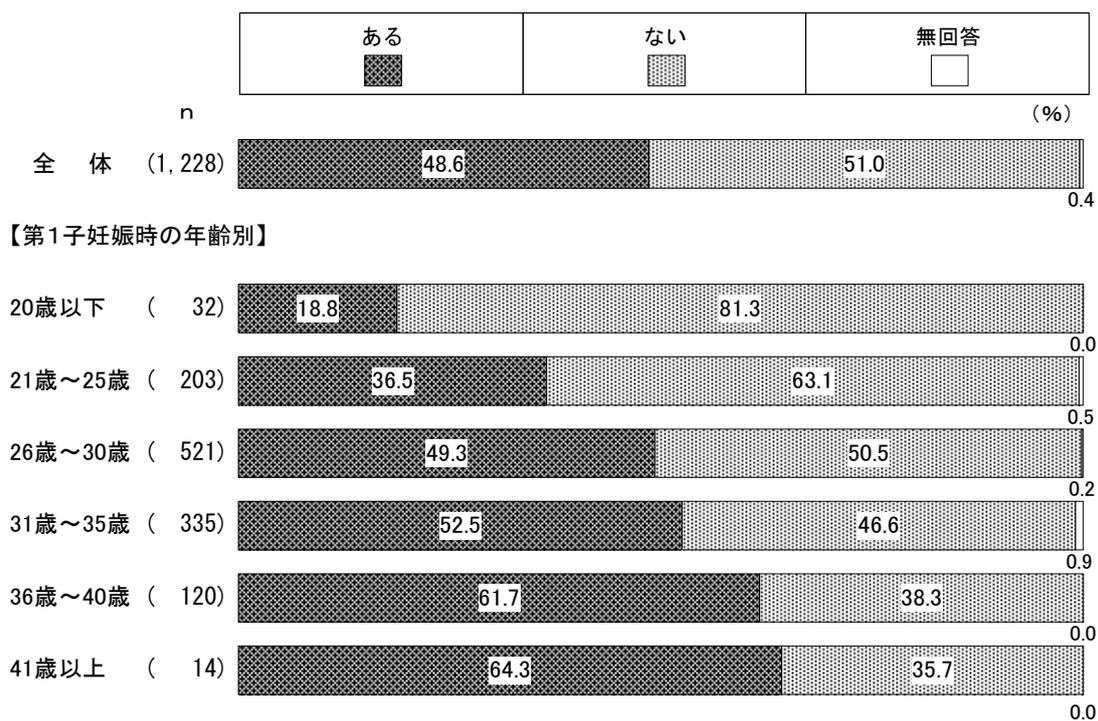
図表 2-5-1 日常生活指導（経年比較）



日常生活の指導を受けたことがあるか聞いたところ、「ある」が48.6%、「ない」は51.0%となっている。

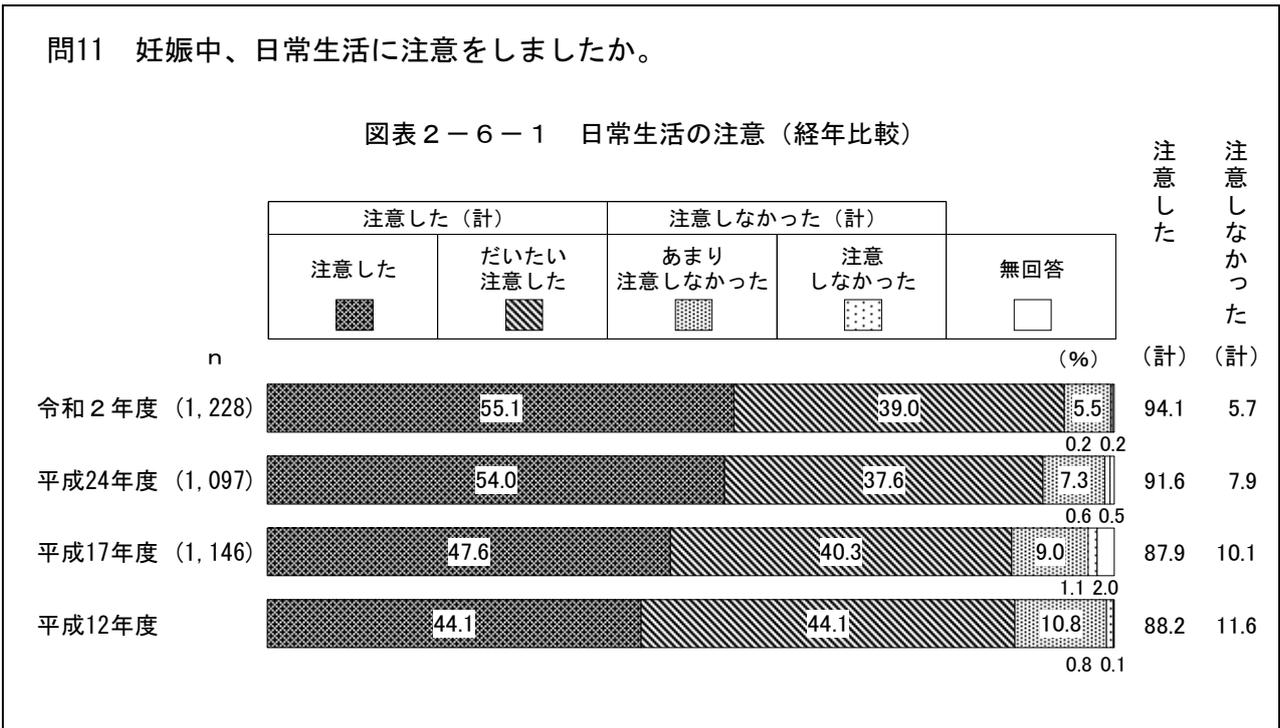
過去の調査と比較すると、「ない」は平成24年度より13.4ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表 2-5-2 日常生活指導（第1子妊娠時の年齢別）



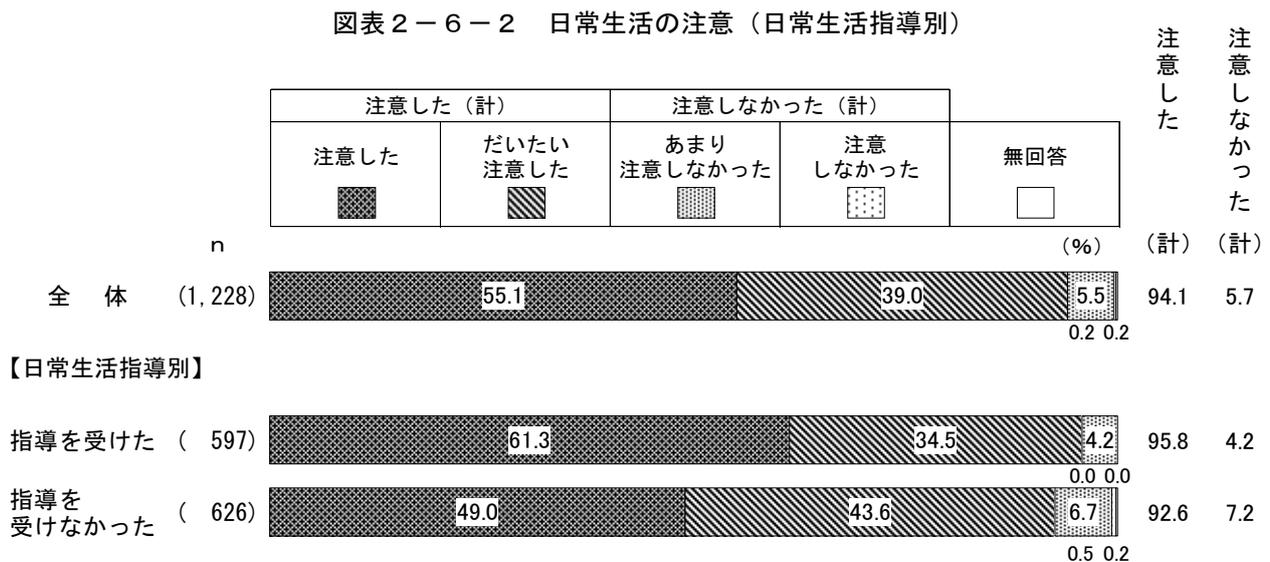
第1子妊娠時の年齢別で見ると、「ある」は第1子妊娠時の年齢が高くなるほど割合が高く、“41歳以上”で64.3%と高くなっている。一方、「ない」は第1子妊娠時の年齢が低くなるほど割合が高く、“20歳以下”で81.3%と高くなっている。

(6) 日常生活の注意



妊娠中、日常生活に注意をしたか聞いたところ、「注意した」が55.1%で最も高く、これに「だいたい注意した」(39.0%)を合わせた『注意した(計)』は94.1%となっている。一方、「あまり注意しなかった」(5.5%)と「注意しなかった」(0.2%)を合わせた『注意しなかった(計)』は5.7%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

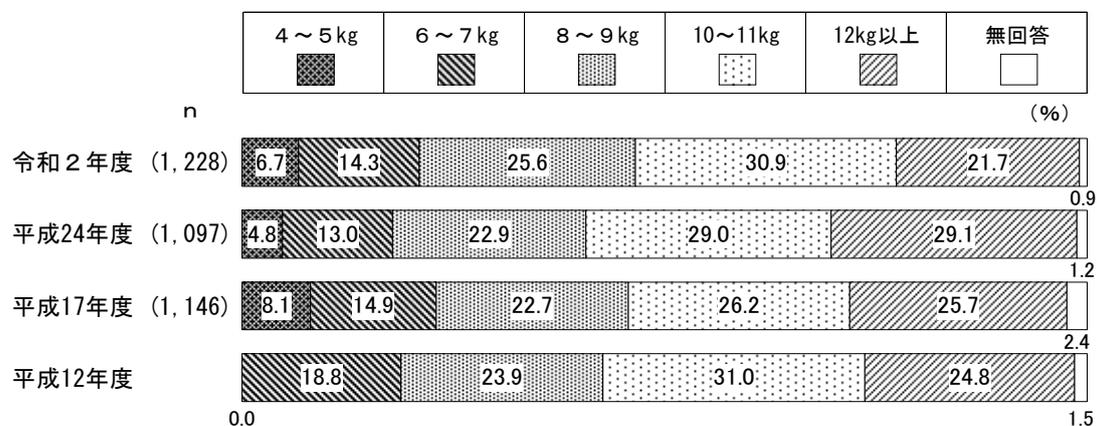


日常生活指導別で見ると、『注意した(計)』は“指導を受けた人”(95.8%)が“指導を受けなかった人”(92.6%)より3.2ポイント高くなっている。

(7) 出産直前の体重の増加

問12 出産直前の体重は、妊娠前にくらべて、どのくらいまで増えましたか。

図表 2-7-1 出産直前の体重の増加（経年比較）



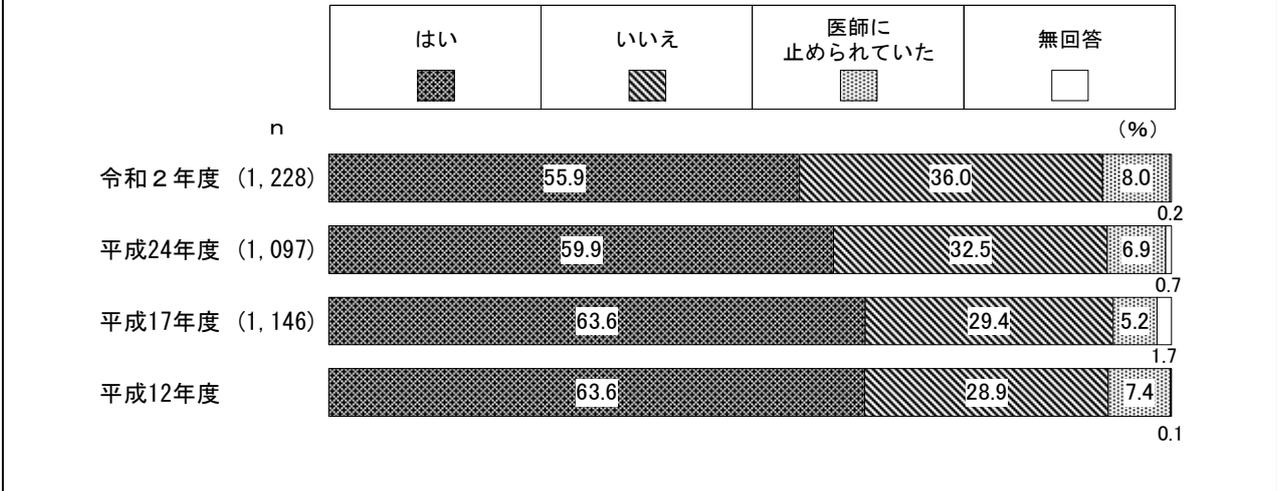
出産直前の体重の増加について聞いたところ、「10~11kg」が30.9%で最も高く、次いで「8~9kg」（25.6%）、「12kg以上」（21.7%）、「6~7kg」（14.3%）となっている。

過去の調査と比較すると、「12kg以上」は平成24年度より7.4ポイント減少している。

(8) 妊娠中期の運動

問13 妊娠中期（16～27週）頃、積極的に身体を動かしましたか。

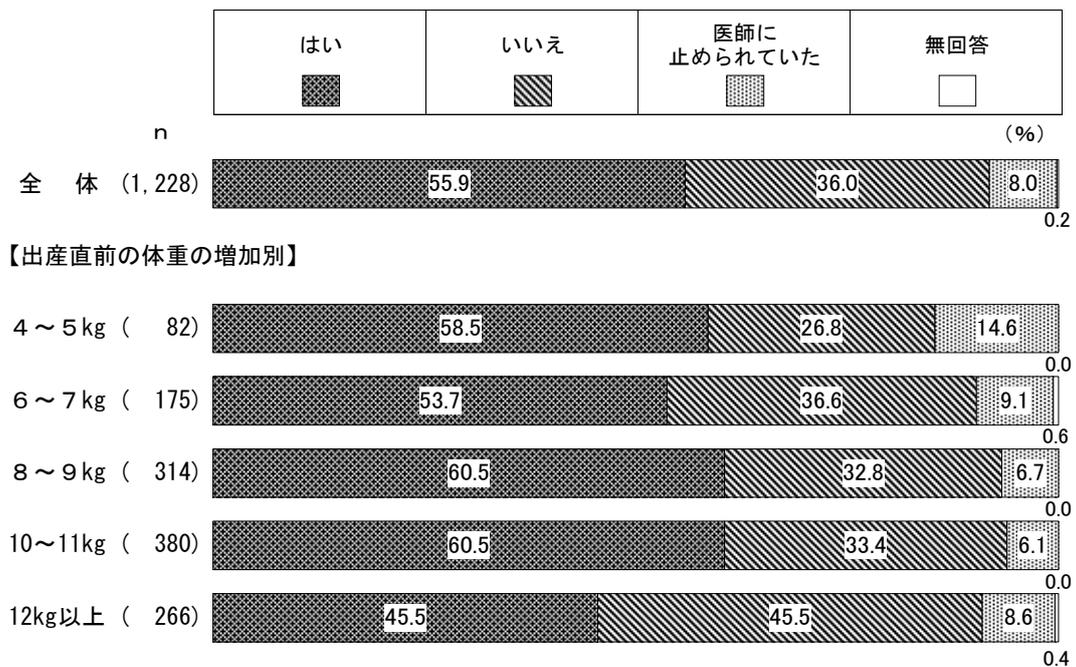
図表2-8-1 妊娠中期の運動（経年比較）



妊娠中期の運動について聞いたところ、「はい」が55.9%、「いいえ」は36.0%となっている。また、「医師に止められていた」は8.0%となっている。

過去の調査と比較すると、「いいえ」は平成24年度より3.5ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表2-8-2 妊娠中期の運動（出産直前の体重の増加別）

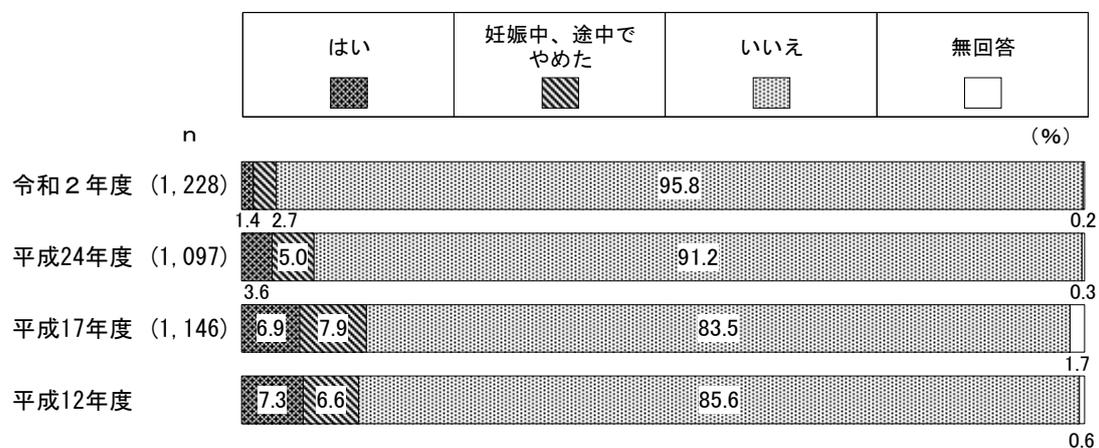


出産直前の体重の増加別で見ると、「はい」は“8～9kg”と“10～11kg”でともに60.5%と高くなっている。一方、「いいえ」は“12kg以上”で45.5%と高くなっている。

(9) 妊娠中の喫煙

問14 妊娠中、喫煙はしていましたか。

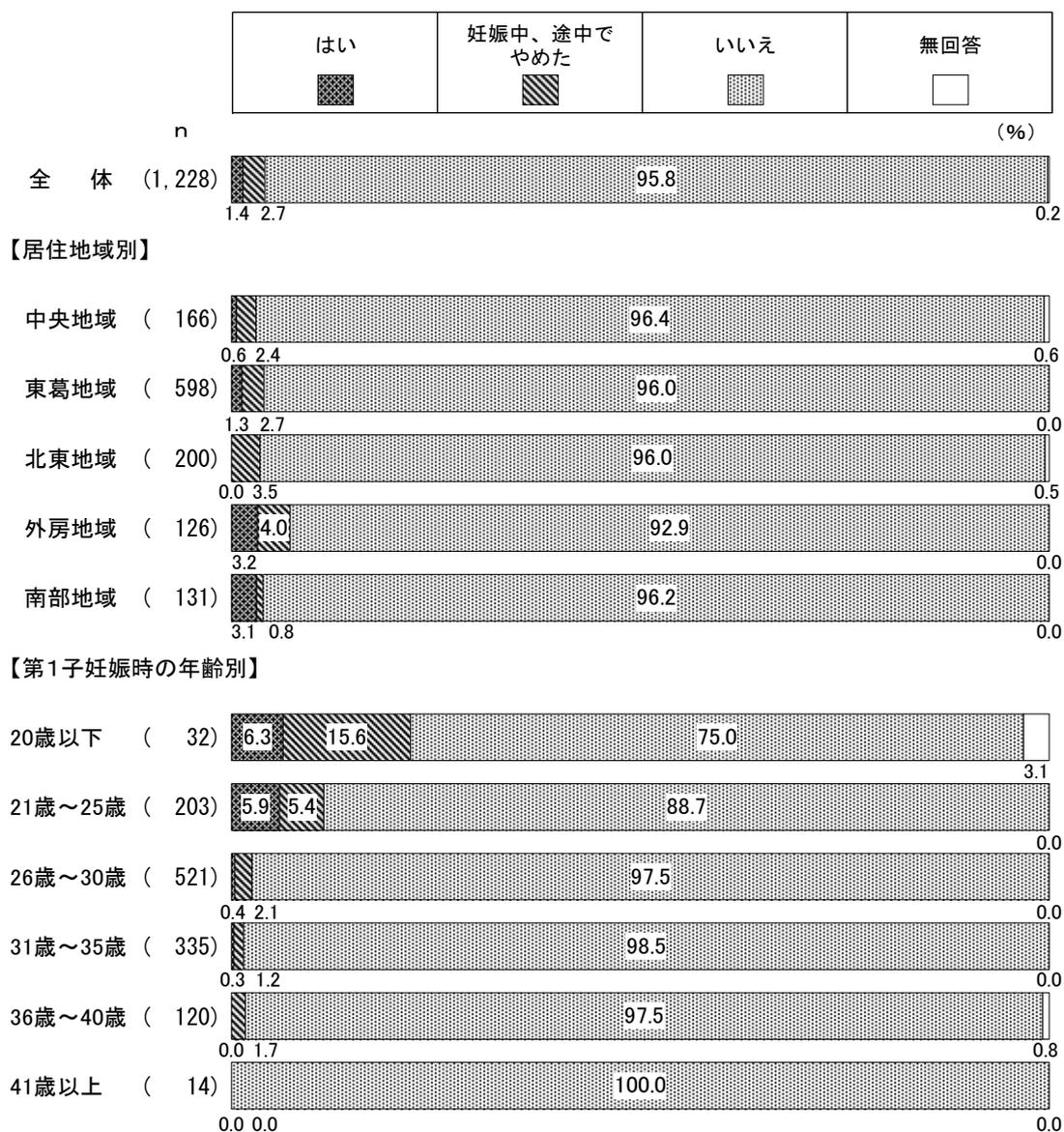
図表 2-9-1 妊娠中の喫煙（経年比較）



妊娠中、喫煙はしていたか聞いたところ、「はい」が1.4%、「妊娠中、途中でやめた」は2.7%となっている。一方、「いいえ」は95.8%となっている。

過去の調査と比較すると、「いいえ」は平成24年度より4.6ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

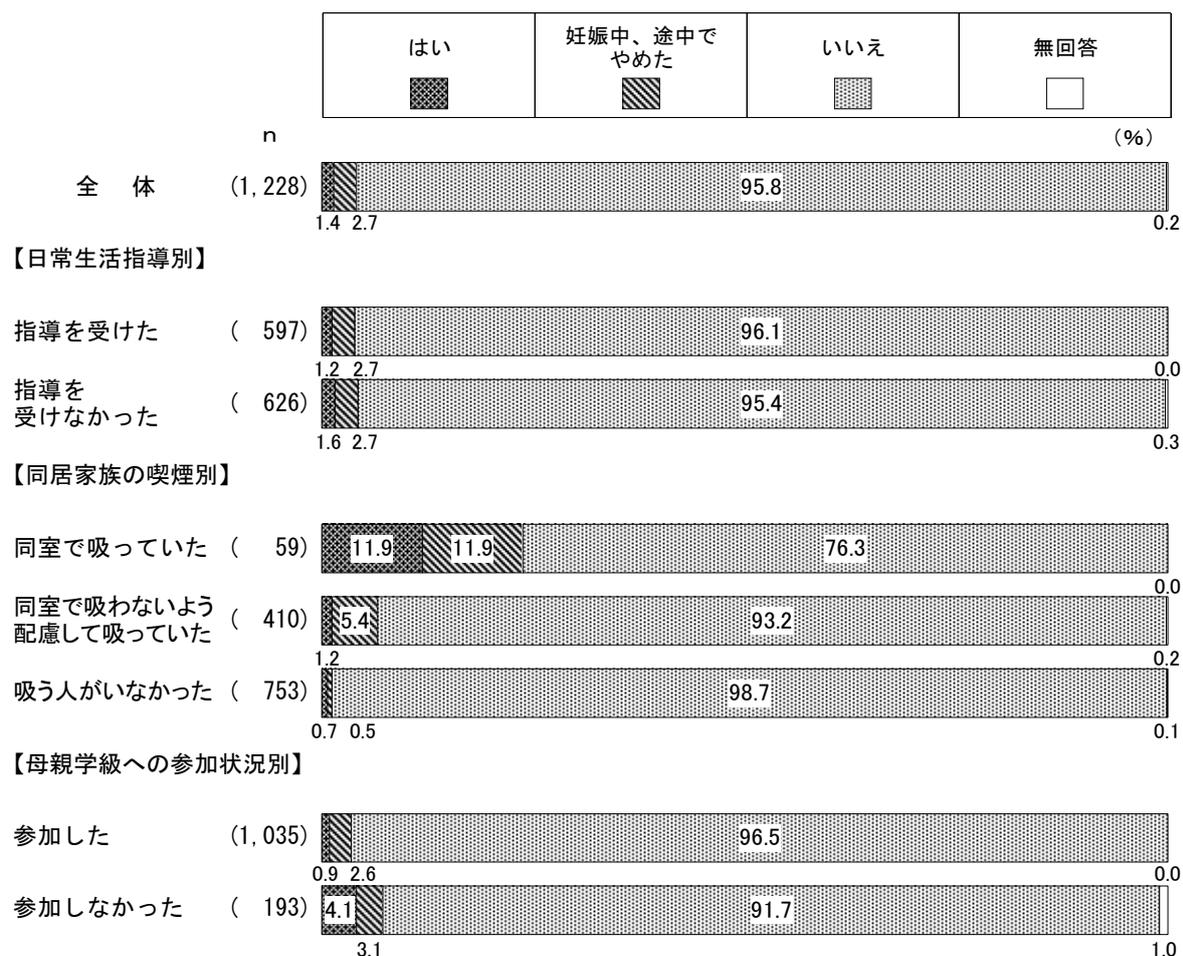
図表 2-9-2 妊娠中の喫煙（居住地域別、第1子妊娠時の年齢別）



居住地域別で見ると、“外房地域”で「はい」が3.2%、「妊娠中、途中でやめた」が4.0%、“南部地域”で「はい」が3.1%となっている。

第1子妊娠時の年齢別で見ると、“20歳以下”で「はい」が6.3%、「妊娠中、途中でやめた」が15.6%、“21歳～25歳”ではそれぞれ5.9%、5.4%となっている。

図表 2-9-3 妊娠中の喫煙（日常生活指導別、同居家族の喫煙別、母親学級への参加状況別）



日常生活指導別で見ると、大きな違いはみられない。

同居家族の喫煙別で見ると、“同居家族が同室で吸っていた”は「はい」と「妊娠中、途中でやめた」が共に11.9%となっている。

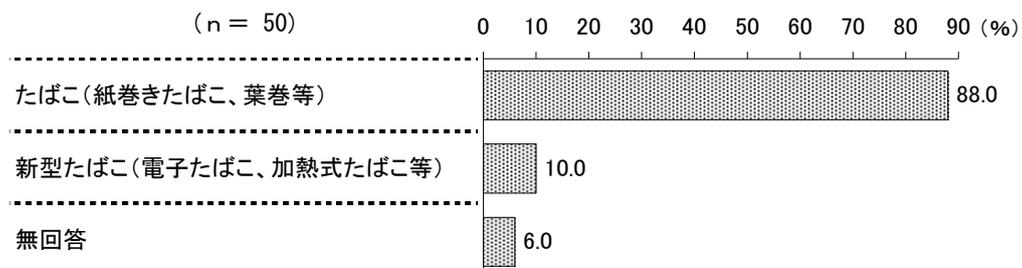
母親学級への参加状況別で見ると、「はい」は“母親学級に参加しなかった人”（4.1%）が“母親学級に参加した人”（0.9%）より3.2ポイント高くなっている。

(10) たばこの種類

問14で「はい」「妊娠中、途中でやめた」と答えた方へ

問14-1 吸っていたたばこの種類は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表2-10-1 たばこの種類 [複数回答]

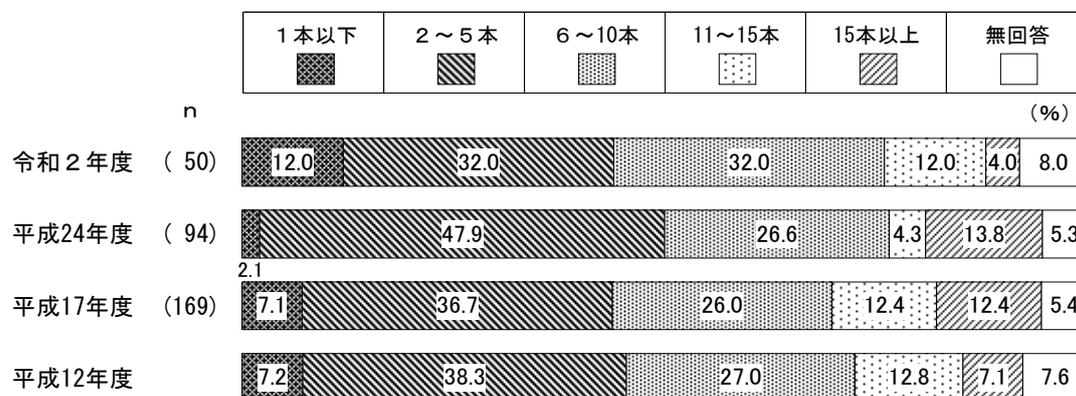


妊娠中の喫煙について、「喫煙していた」または「妊娠中、途中でやめた」と答えた人(50人)に、吸っていたたばこの種類を聞いたところ、「たばこ(紙巻きたばこ、葉巻等)」が88.0%、「新型たばこ(電子たばこ、加熱式たばこ等)」は10.0%となっている。

(11) 喫煙本数

問14で「はい」「妊娠中、途中でやめた」と答えた方へ
問14-2 一日何本くらい吸っていましたか。

図表 2-11-1 喫煙本数（経年比較）



妊娠中の喫煙について、「喫煙していた」または「妊娠中、途中でやめた」と答えた人（50人）に、一日何本くらい吸っていたか聞いたところ、「2～5本」と「6～10本」がともに32.0%で高くなっている。

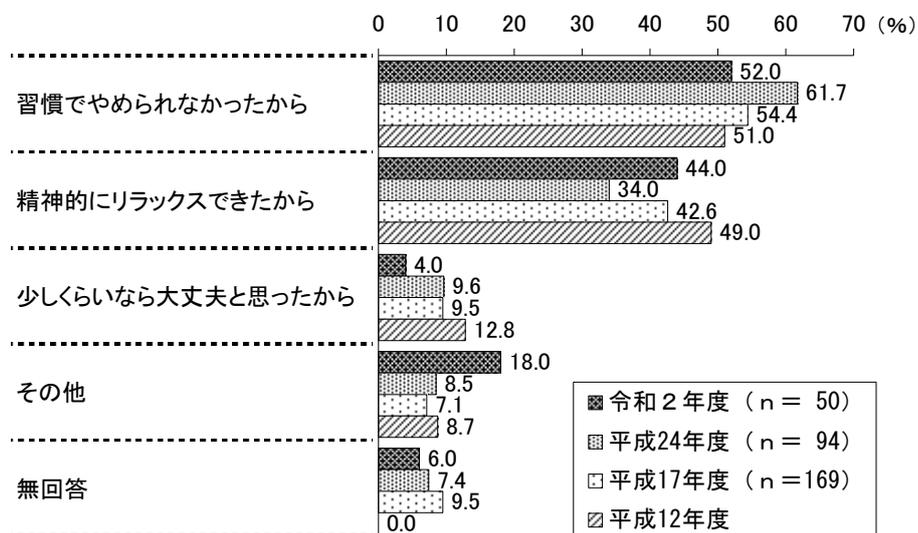
過去の調査と比較すると、「15本以上」は減少している。

(12) たばこを吸っていた理由

問14で「はい」「妊娠中、途中でやめた」と答えた方へ

問14-3 吸っていたのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 2-12-1 たばこを吸っていた理由（経年比較）〔複数回答〕



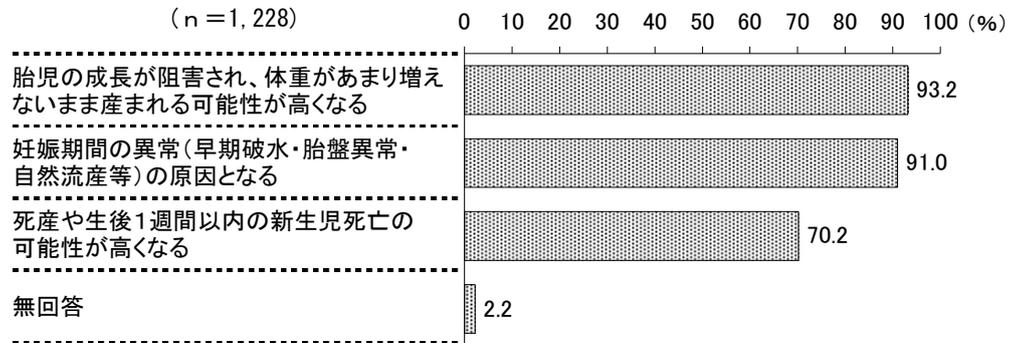
妊娠中の喫煙について、「喫煙していた」または「妊娠中、途中でやめた」と答えた人（50人）に、吸っていた理由を聞いたところ、「習慣でやめられなかったから」が52.0%で最も高く、次いで「精神的にリラックスできたから」（44.0%）、「少しくらいなら大丈夫と思ったから」（4.0%）となっている。

過去の調査と比較すると、「精神的にリラックスできたから」は平成24年度より10.0ポイント増加している。一方、「習慣でやめられなかったから」は平成24年度より9.7ポイント、「少しくらいなら大丈夫と思ったから」は平成24年度より5.6ポイント、それぞれ減少している。

(13) 妊娠中の喫煙に対する知識

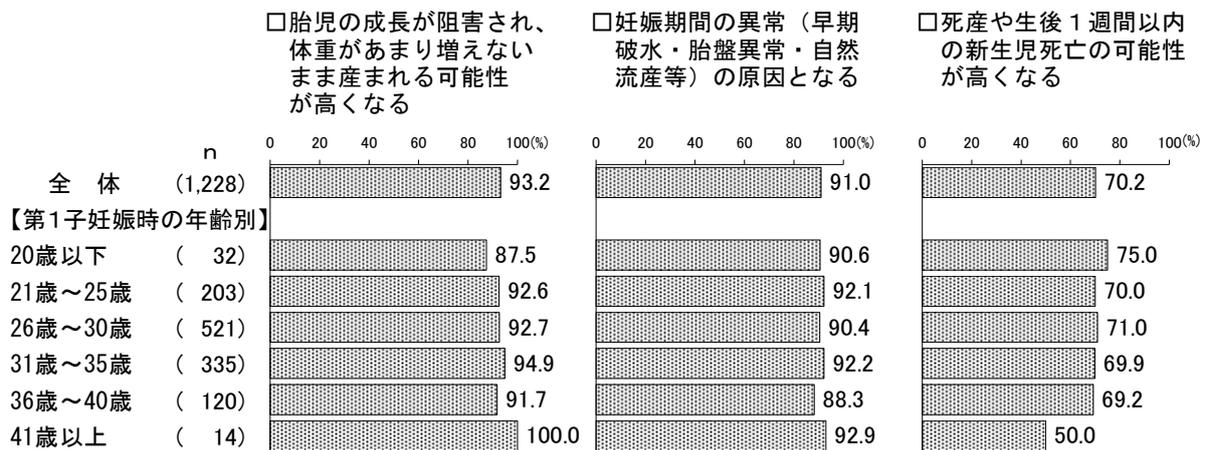
問15 妊娠中の喫煙がお母さんの身体や胎児に与える影響について、どんなことが起こると思いますか。当てはまると思うものすべてに○をつけてください。

図表 2-13-1 妊娠中の喫煙に対する知識 [複数回答]



妊娠中の喫煙がお母さんの身体や胎児に与える影響について聞いたところ、「胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる」が93.2%で最も高く、次いで「妊娠期間の異常(早期破水・胎盤異常・自然流産等)の原因となる」(91.0%)、「死産や生後1週間以内の新生児死亡の可能性が高くなる」(70.2%)となっている。

図表 2-13-2 妊娠中の喫煙に対する知識 (第1子妊娠時の年齢別)

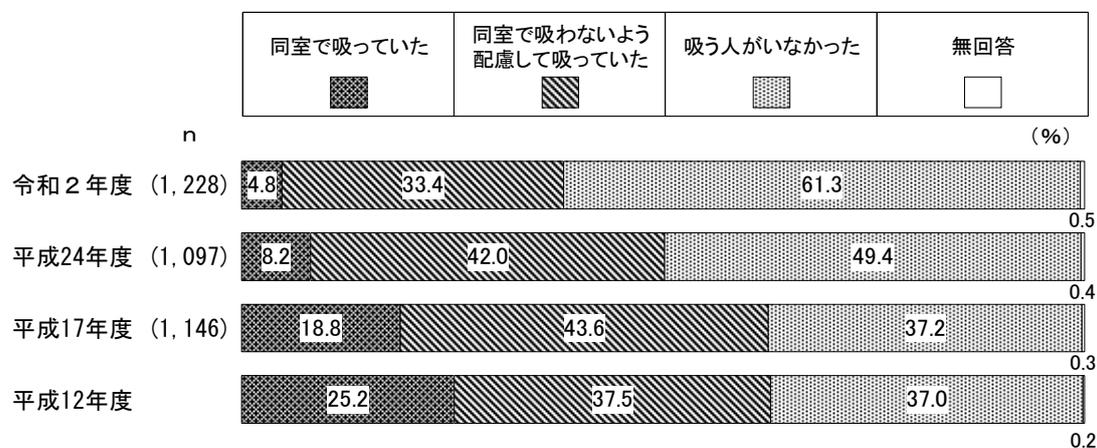


第1子妊娠時の年齢別でみると、「死産や生後1週間以内の新生児死亡の可能性が高くなる」は“20歳以下”で75.0%と高くなっている。

(14) 同居家族の喫煙

問16 妊娠中、同居の家族はたばこを吸っていましたか。

図表 2-14-1 同居家族の喫煙（経年比較）



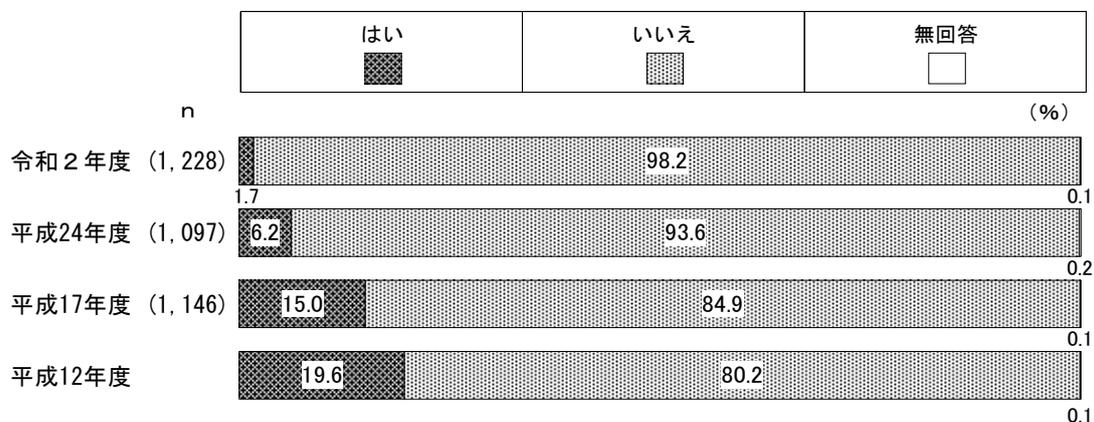
妊娠中、同居の家族はたばこを吸っていたか聞いたところ、「同室で吸っていた」が4.8%、「同室で吸わないよう配慮して吸っていた」は33.4%となっている。一方、「吸う人がいなかった」は61.3%となっている。

過去の調査と比較すると、「吸う人がいなかった」は平成24年度より11.9ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「同室で吸わないよう配慮して吸っていた」は平成24年度より8.6ポイント、「同室で吸っていた」は平成24年度より3.4ポイント、それぞれ減少している。

(15) 妊娠中の飲酒

問17 妊娠中、飲酒はしていましたか。

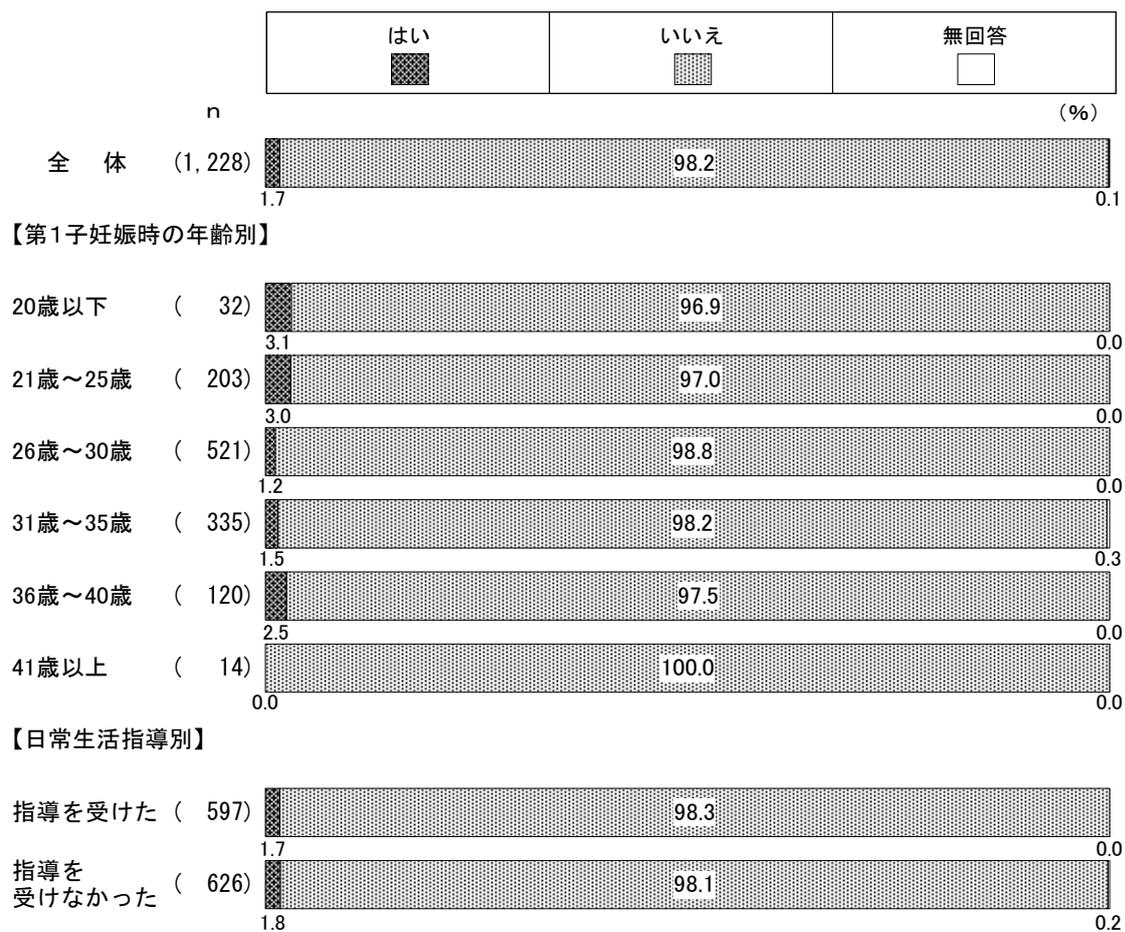
図表 2-15-1 妊娠中の飲酒（経年比較）



妊娠中、飲酒はしていたか聞いたところ、「はい」が1.7%、「いいえ」は98.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「いいえ」は平成24年度より4.6ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

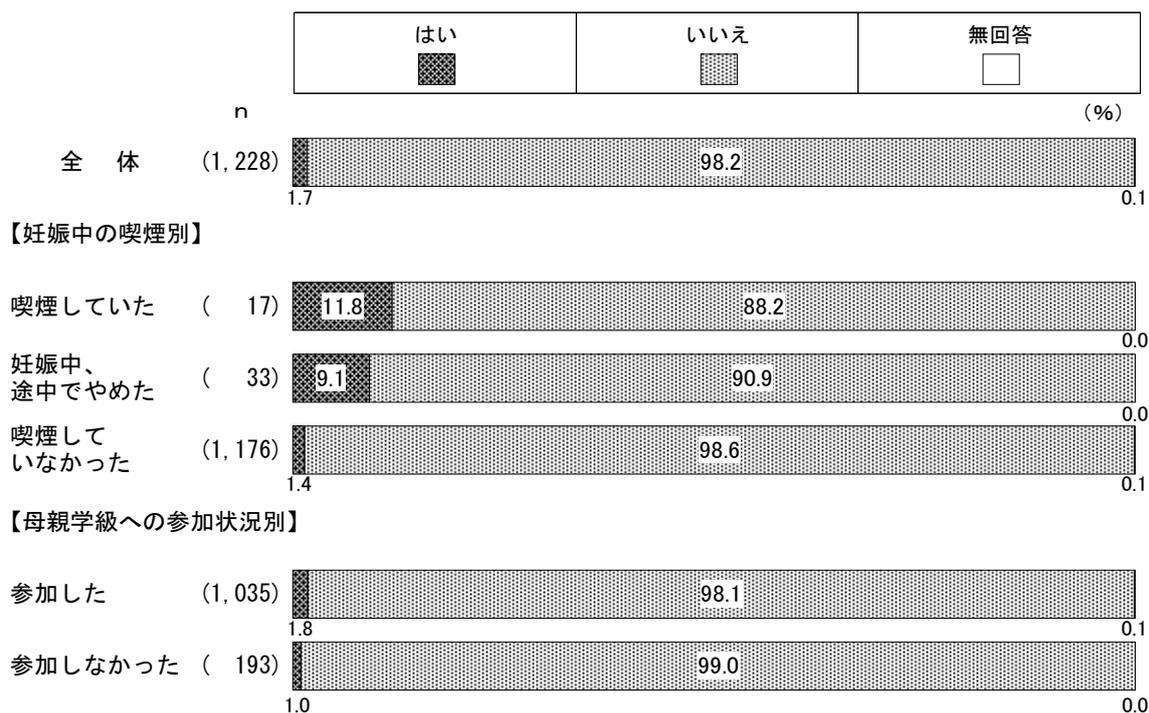
図表 2-15-2 妊娠中の飲酒（第1子妊娠時の年齢別、日常生活指導別）



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「はい」が“20歳以下”で3.1%、“21歳～25歳”で3.0%となっている。

日常生活指導別で見ると、大きな違いはみられない。

図表 2-15-3 妊娠中の飲酒（妊娠中の喫煙別、母親学級への参加状況別）



妊娠中の喫煙別で見ると、「はい」は“喫煙していた”で11.8%、“妊娠中、途中でやめた”で9.1%となっている。

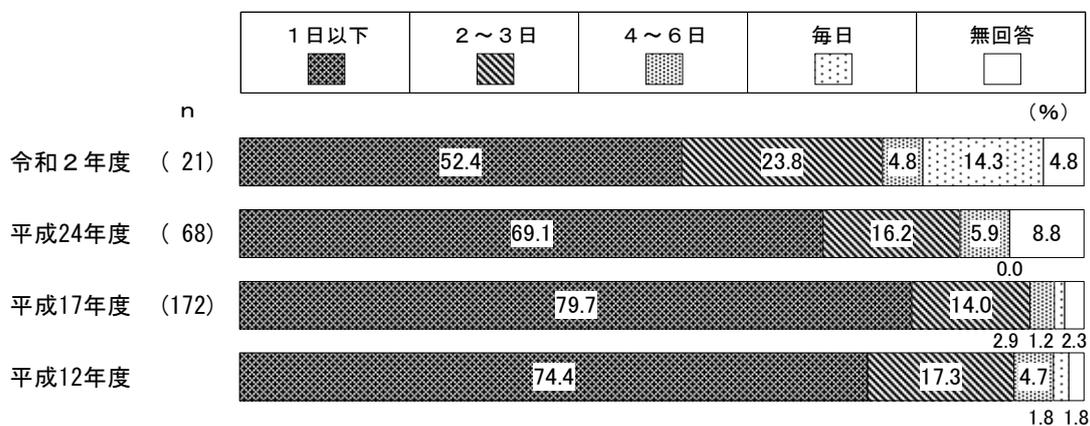
母親学級への参加状況別で見ると、大きな違いはみられない。

(16) 飲酒頻度

問17で「はい」と答えた方へ

問17-1 週に何日くらい飲酒していましたか。

図表 2-16-1 飲酒頻度（経年比較）



妊娠中に「飲酒していた」と答えた人(21人)に、週に何日くらい飲酒していたか聞いたところ、「1日以下」が52.4%で最も高く、次いで「2～3日」(23.8%)、「毎日」(14.3%)、「4～6日」(4.8%)となっている。

過去の調査と比較すると、「毎日」は平成24年度より14.3ポイント増加している。一方、「1日以下」は平成24年度より16.7ポイント減少している。

(17) 飲酒量

問17で「はい」と答えた方へ

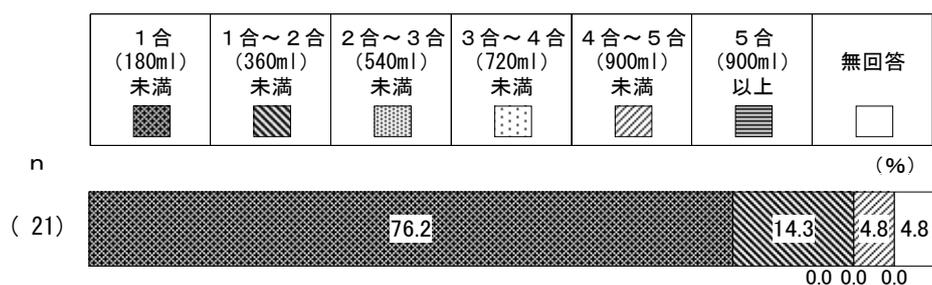
問17-2 妊娠中、1日あたりどれくらいの量を飲んでいましたか。(清酒量に換算)

※清酒 1合(180ml)は、次の量にほぼ相当します。参考にしてください。

ビール・発泡酒 中瓶 1本(500ml)、焼酎 20%(135ml)、焼酎 25%(110ml)、焼酎 35%(80ml)

チューハイ 7%(350ml)、ウィスキーダブル 1杯(60ml)、ワイン 2杯(240ml)

図表 2-17-1 飲酒量

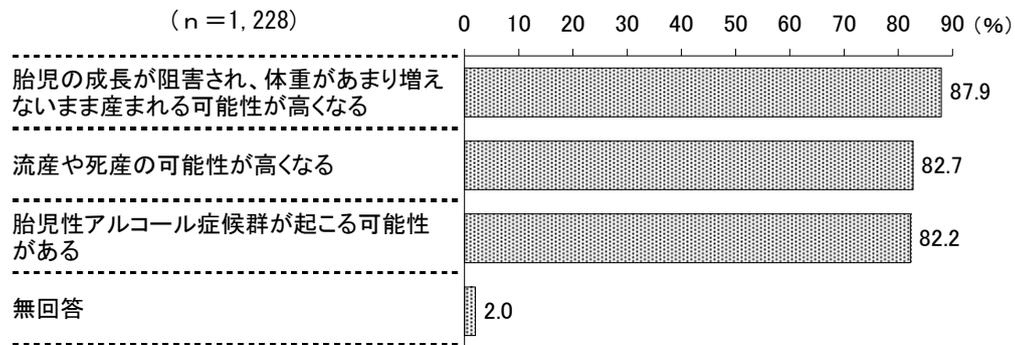


妊娠中に「飲酒していた」と答えた人(21人)に、1日あたりどれくらいの量を飲んでいたか聞いたところ、「1合(180ml)未満」が76.2%で最も高く、次いで「1合～2合(360ml)未満」(14.3%)、「4合～5合(900ml)未満」(4.8%)となっている。

(18) 妊娠中の飲酒に対する知識

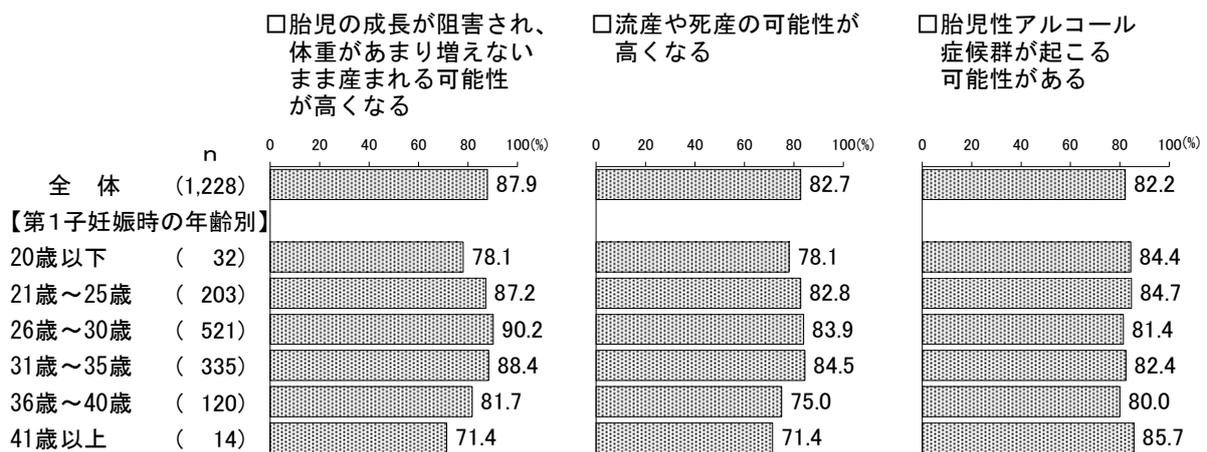
問18 妊娠中の大量飲酒がお母さんの身体や胎児の成長に与える影響について、あてはまると思うものすべてに○をつけてください。

図表 2-18-1 妊娠中の飲酒に対する知識 [複数回答]



妊娠中の大量飲酒がお母さんの身体や胎児の成長に与える影響について聞いたところ、「胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる」が87.9%で最も高く、次いで「流産や死産の可能性が高くなる」(82.7%)、「胎児性アルコール症候群が起こる可能性がある」(82.2%)となっている。

図表 2-18-2 妊娠中の飲酒に対する知識 (第1子妊娠時の年齢別)

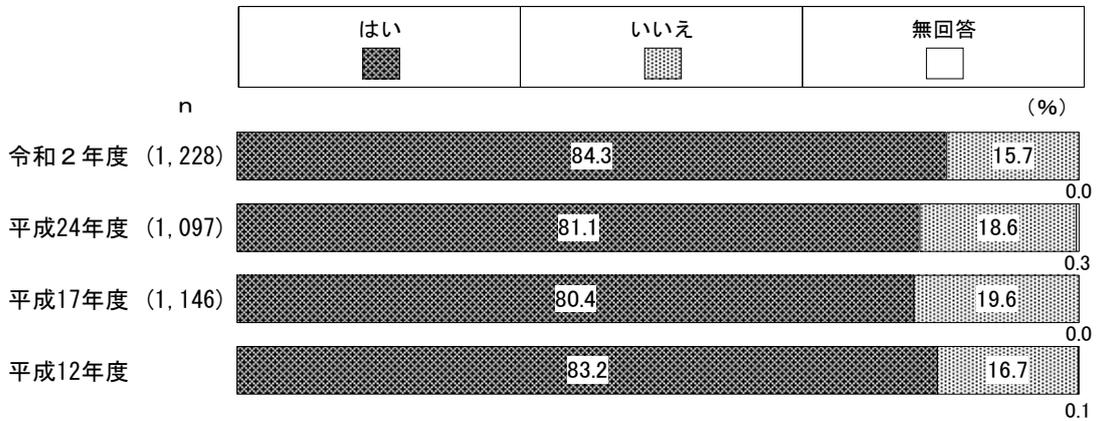


第1子妊娠時の年齢別でみると、「胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる」は“26歳～30歳”で90.2%と高くなっている。「流産や死産の可能性が高くなる」は“21歳～25歳”で82.8%、“26歳～30歳”で83.9%、“31歳～35歳”で84.5%と高くなっている。

(19) 母親学級への参加状況

問19 母親学級に参加しましたか。

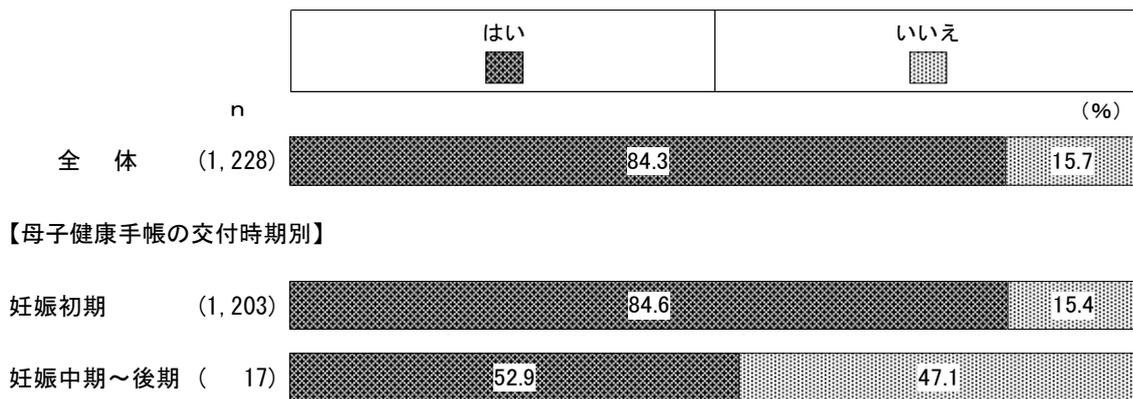
図表 2-19-1 母親学級への参加状況（経年比較）



母親学級に参加したか聞いたところ、「はい」が84.3%、「いいえ」は15.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成24年度より3.2ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

図表 2-19-2 母親学級への参加状況（母子健康手帳の交付時期別）



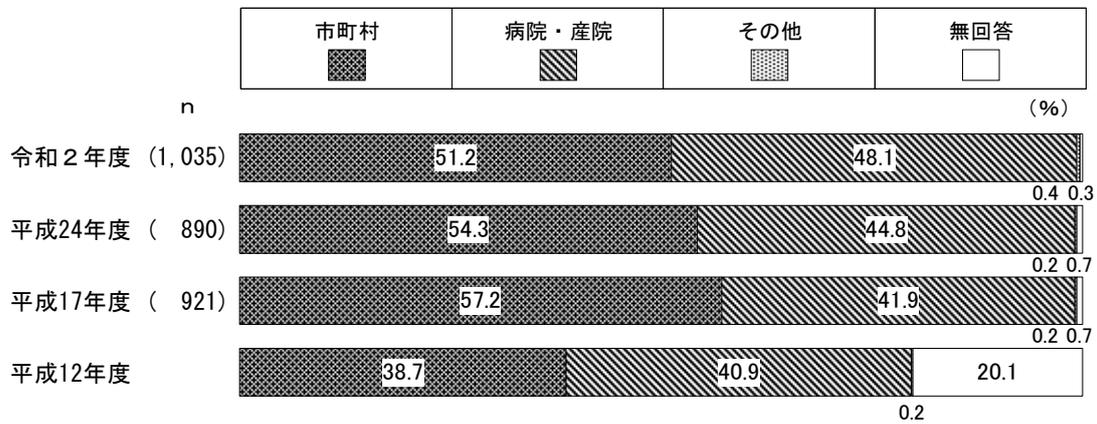
母子健康手帳の交付時期別でみると、「はい」は“妊娠初期”（84.6%）が“妊娠中期～後期”（52.9%）より31.7ポイント高くなっている。

(20) 母親学級へ参加した場所

問19で「はい」と答えた方へ

問19-1 どこで母親学級に参加しましたか。

図表2-20-1 母親学級へ参加した場所（経年比較）



※平成12年度は「重複回答(19.7%)」があり、その値は「無回答」に含めて表記している

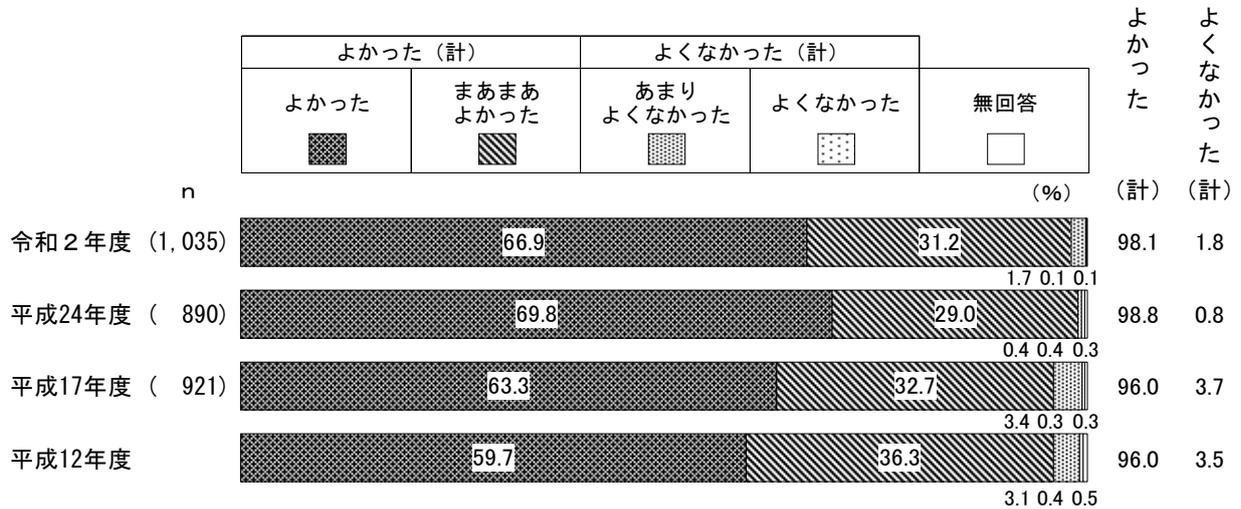
母親学級に「参加した」と答えた人(1,035人)に、どこで母親学級に参加したか聞いたところ、「市町村」が51.2%、「病院・産院」は48.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「病院・産院」は平成24年度より3.3ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。一方、「市町村」は平成24年度より3.1ポイント減少しており、平成17年度以降減少傾向にある。

(21) 母親学級へ参加した満足度

問19で「はい」と答えた方へ
問19-2 参加してよかったと思いますか。

図表 2-21-1 母親学級へ参加した満足度（経年比較）



母親学級に「参加した」と答えた人(1,035人)に、参加してよかったと思うか聞いたところ、「よかった」が66.9%で最も高く、これに「まあまあよかった」(31.2%)を合わせた『よかった(計)』は98.1%となっている。一方、「あまりよくなかった」(1.7%)と「よくなかった」(0.1%)を合わせた『よくなかった(計)』は1.8%となっている。

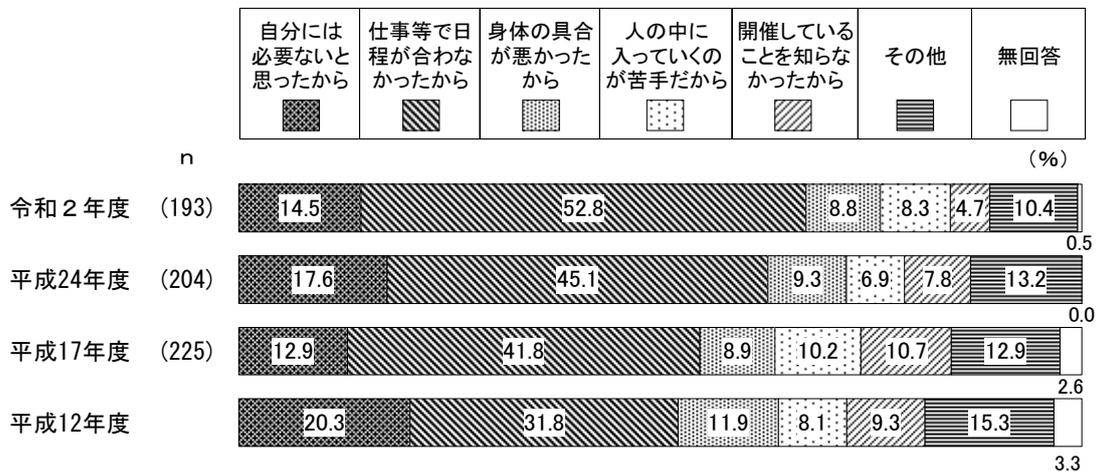
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(22) 母親学級へ参加しなかった理由

問19で「いいえ」と答えた方へ

問19-3 参加しなかった理由で最もあてはまるものは何ですか。

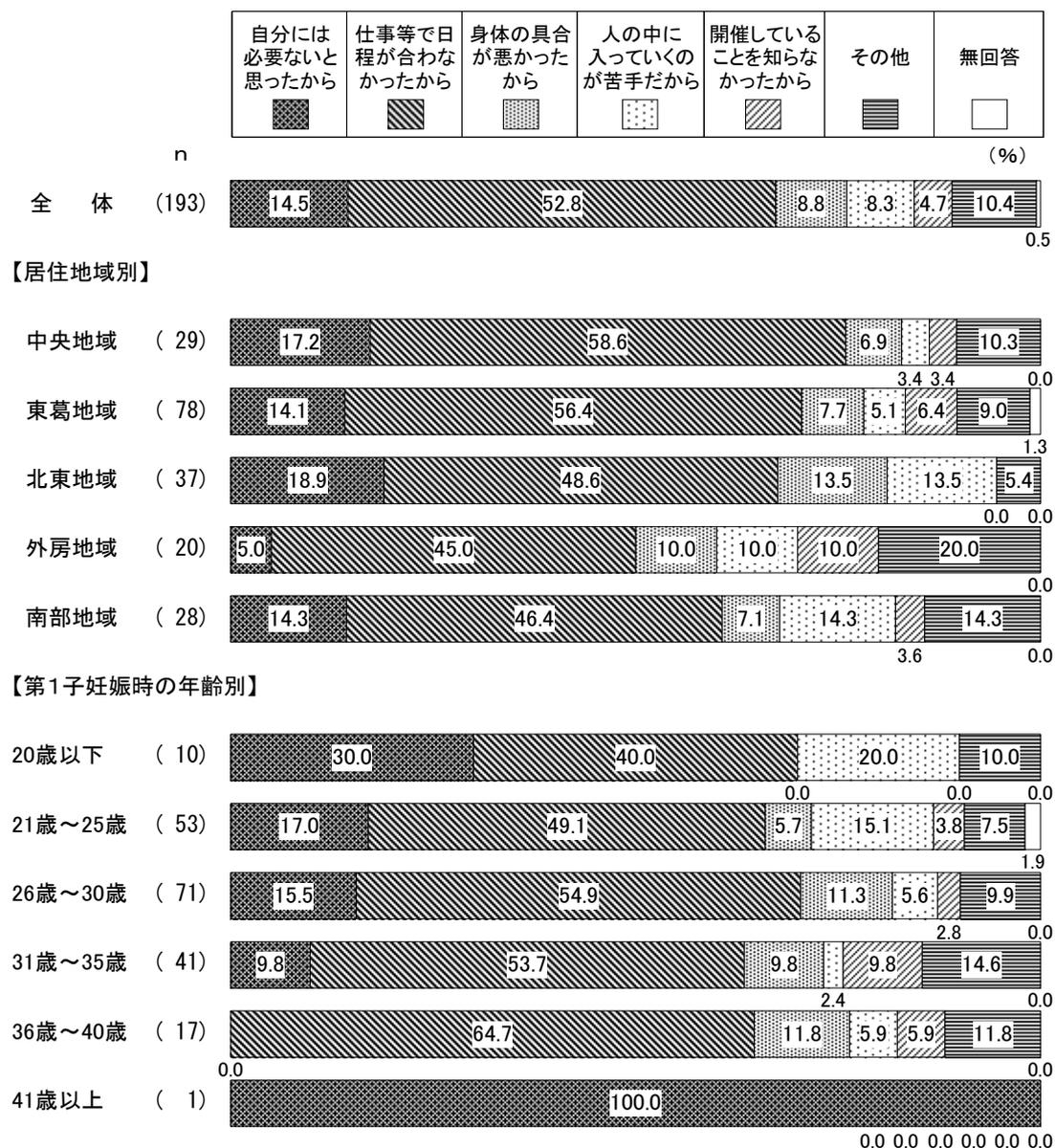
図表2-22-1 母親学級へ参加しなかった理由（経年比較）



母親学級に「参加しなかった」と答えた人（193人）に、参加しなかった理由を聞いたところ、「仕事等で日程が合わなかったから」が52.8%で最も高く、次いで「自分には必要ないと思ったから」（14.5%）、「身体の具合が悪かったから」（8.8%）、「人の中に入っていきるのが苦手だから」（8.3%）となっている。

過去の調査と比較すると、「仕事等で日程が合わなかったから」は平成24年度より7.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「自分には必要ないと思ったから」は平成24年度より3.1ポイント、「開催していることを知らなかったから」は平成24年度より3.1ポイント、それぞれ減少している。

図表 2-22-2 母親学級へ参加しなかった理由（居住地域別、第1子妊娠時の年齢別）



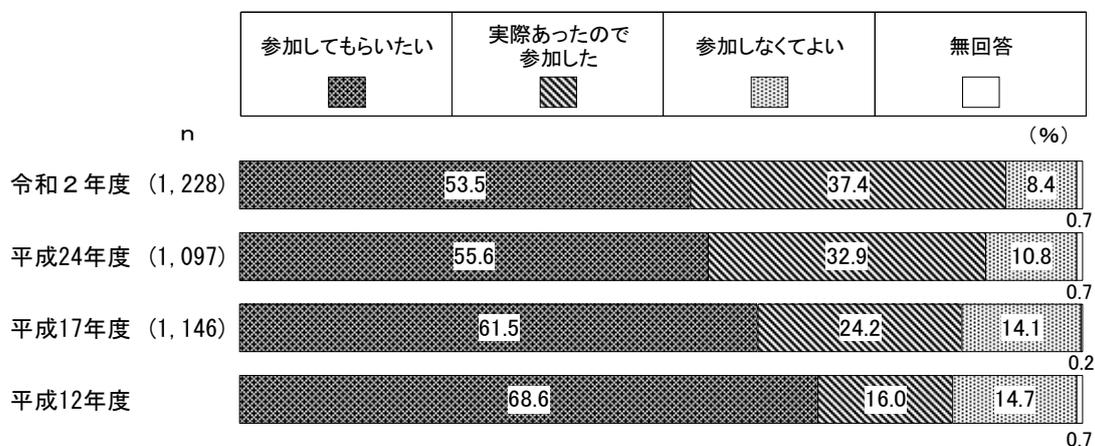
居住地域別で見ると、「仕事等で日程が合わなかったから」は“中央地域”で58.6%、“東葛地域”で56.4%と高くなっている。

第1子妊娠時の年齢別で見ると、「仕事等で日程が合わなかったから」は“36歳～40歳”で64.7%と高くなっている。

(23) 両親学級、父親学級への夫の参加希望

問20 「両親学級」「父親学級」があれば、夫にも参加してもらいたいですか。

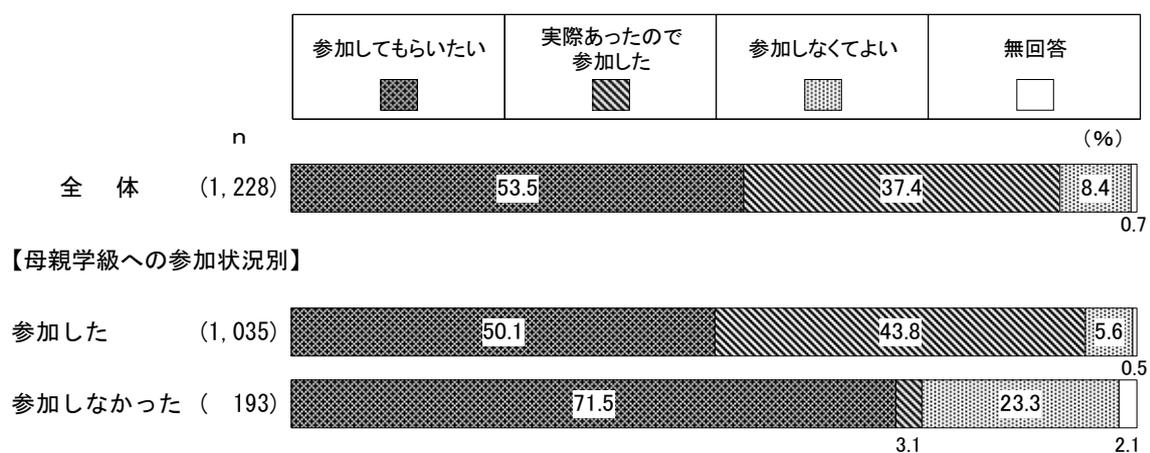
図表 2-23-1 両親学級、父親学級への夫の参加希望（経年比較）



両親学級、父親学級があれば、夫にも参加してもらいたいか聞いたところ、「参加してもらいたい」が53.5%、「実際あったので参加した」は37.4%となっている。一方、「参加しなくてよい」は8.4%となっている。

過去の調査と比較すると、「実際あったので参加した」は平成24年度より4.5ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「参加してもらいたい」と「参加しなくてよい」はともに平成12年度以降減少傾向にある。

図表 2-23-2 両親学級、父親学級への夫の参加希望（母親学級への参加状況別）

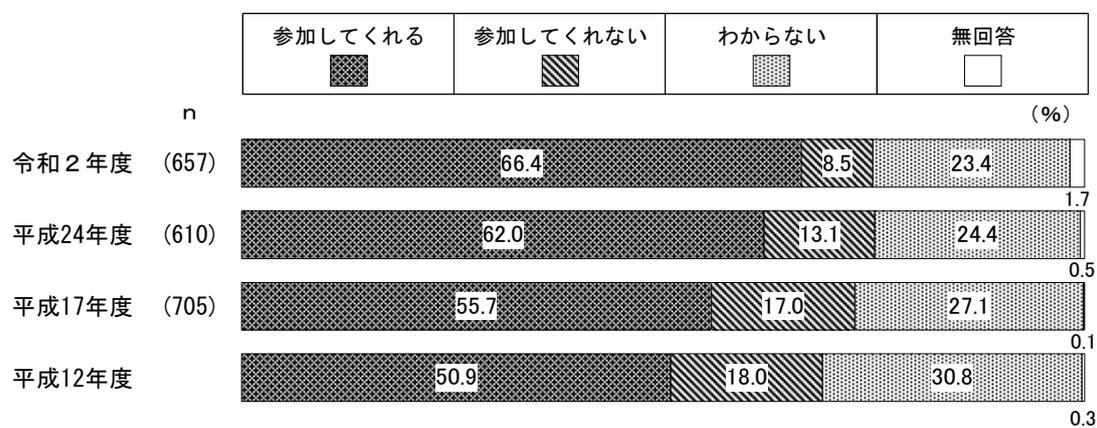


母親学級への参加状況別でみると、「実際あったので参加した」は“母親学級に参加した人”（43.8%）が“母親学級に参加しなかった人”（3.1%）より40.7ポイント高くなっている。一方、「参加してもらいたい」は“母親学級に参加しなかった人”（71.5%）が“母親学級に参加した人”（50.1%）より21.4ポイント高くなっている。

(24) 両親学級、父親学級への夫の参加可能性

問20で「参加してもらいたい」と答えた方へ
問20-1 夫は参加してくれると思いますか。

図表 2-24-1 両親学級、父親学級への夫の参加可能性（経年比較）



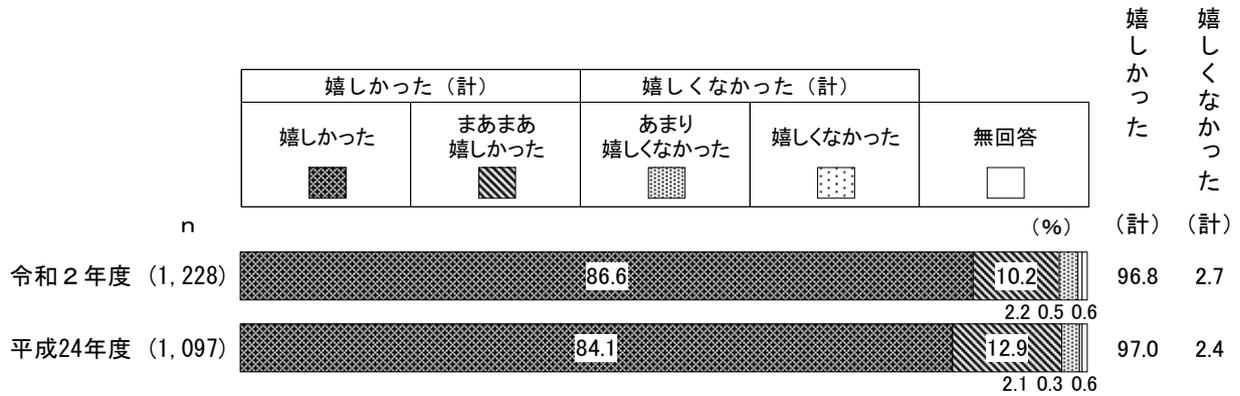
両親学級、父親学級に、夫にも「参加してもらいたい」と答えた人（657人）に、夫は参加してくれると思うか聞いたところ、「参加してくれる」が66.4%、「参加してくれない」は8.5%となっている。また、「わからない」は23.4%となっている。

過去の調査と比較すると、「参加してくれる」は平成24年度より4.4ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「参加してくれない」は平成24年度より4.6ポイント減少しており、平成12年度以降減少傾向にある。

(25) 妊娠とわかったときの本人の気持ち

問21 妊娠とわかったときの気持ちで、最もあてはまるのは次のうちどれですか。

図表 2-25-1 妊娠とわかったときの本人の気持ち（経年比較）

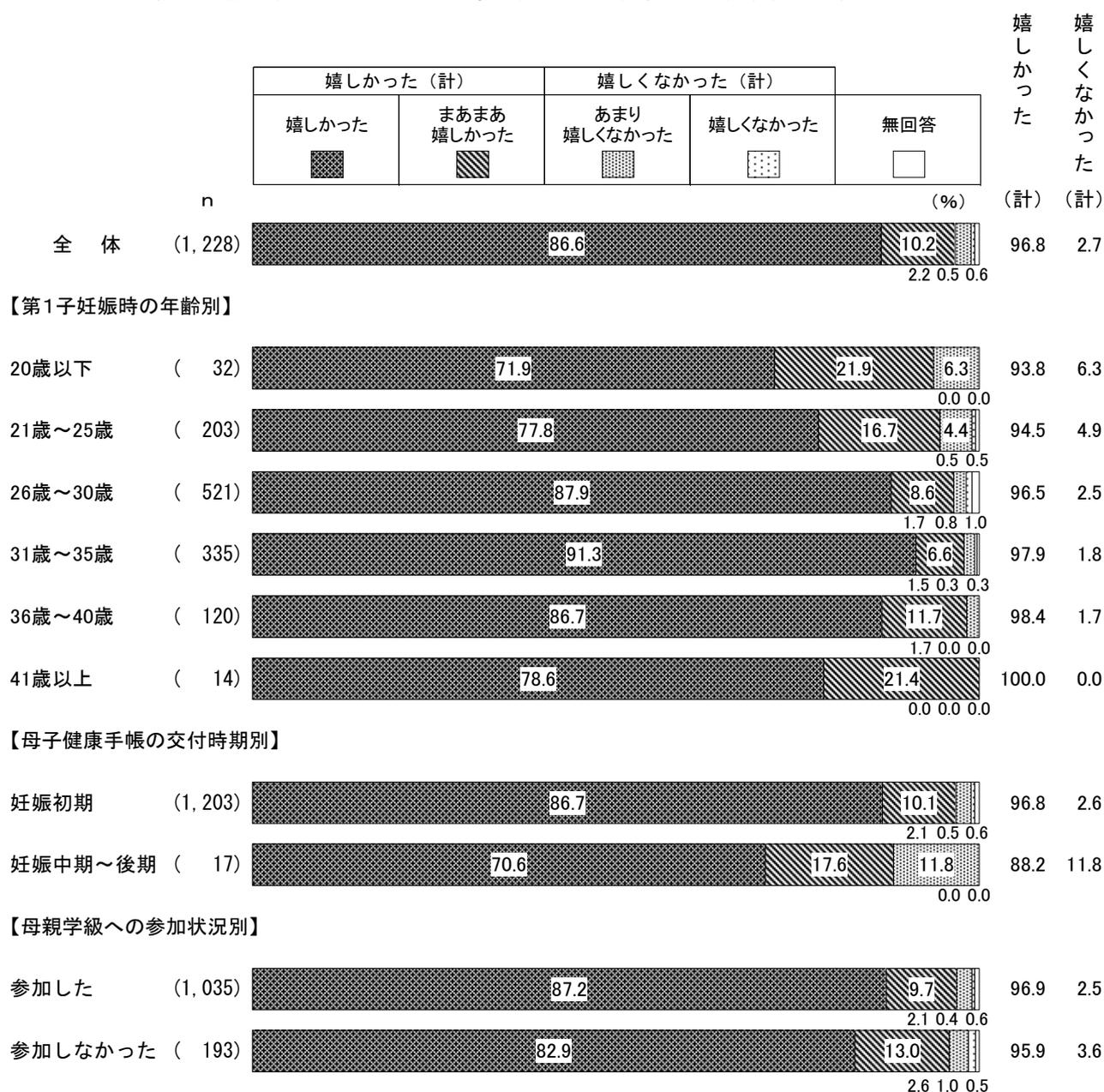


妊娠とわかったときの気持ちを聞いたところ、「嬉しかった」が86.6%で最も高く、これに「まあまあ嬉しかった」（10.2%）を合わせた『嬉しかった（計）』は96.8%となっている。一方、「あまり嬉しくなかった」（2.2%）と「嬉しくなかった」（0.5%）を合わせた『嬉しくなかった（計）』は2.7%となっている。

過去の調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

図表 2-25-2 妊娠とわかったときの本人の気持ち

(第1子妊娠時の年齢別、母子健康手帳の交付時期別、母親学級への参加状況別)



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「嬉しかった」は“31歳～35歳”で91.3%と高くなっている。

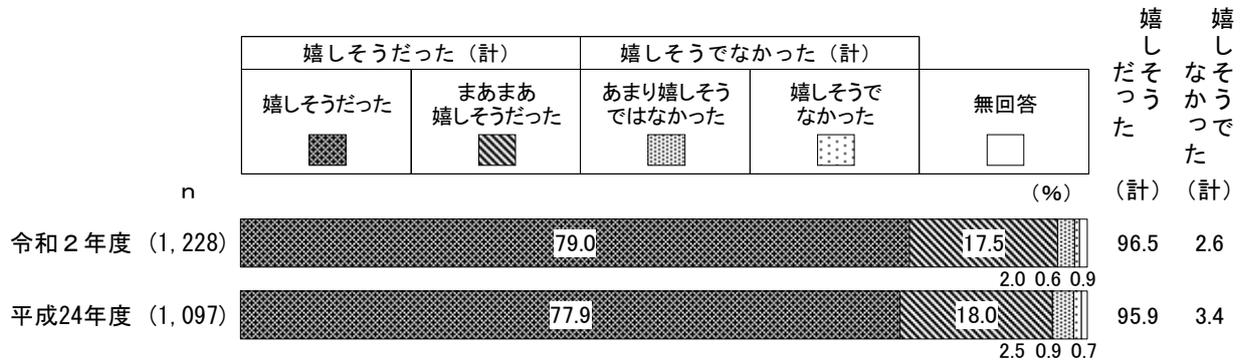
母子健康手帳の交付時期別で見ると、『嬉しかった (計)』は“妊娠初期” (96.8%) が“妊娠中期～後期” (88.2%) より8.6ポイント高くなっている。

母親学級への参加状況別で見ると、「嬉しかった」は“母親学級に参加した人” (87.2%) が“母親学級に参加しなかった人” (82.9%) より4.3ポイント高くなっている。

(26) 妊娠とわかったときの夫の様子

問22 妊娠とわかったときの夫の様子で、最もあてはまるのは次のうちどれですか。

図表2-26-1 妊娠とわかったときの夫の様子（経年比較）



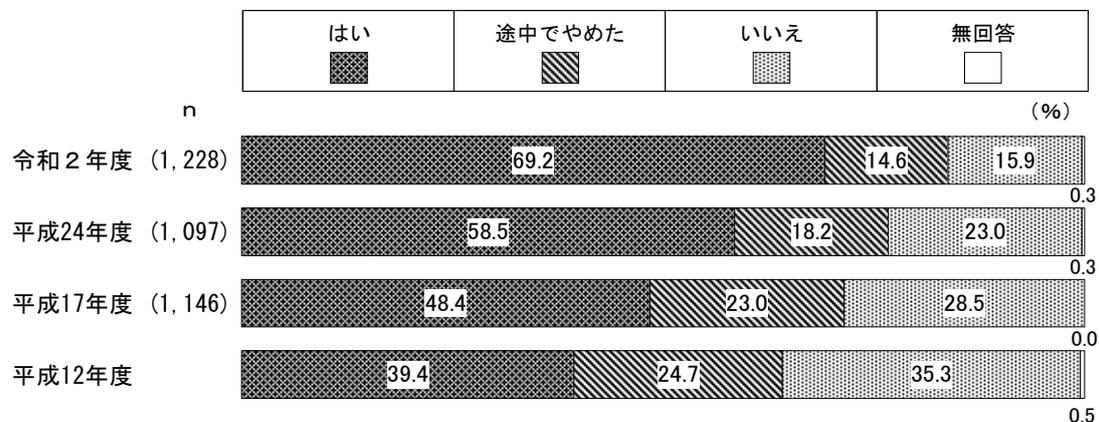
妊娠とわかったときの夫の様子を聞いたところ、「嬉しそうだった」が79.0%で最も高く、これに「まあまあ嬉しそうだった」（17.5%）を合わせた『嬉しそうだった（計）』は96.5%となっている。一方、「あまり嬉しそうではなかった」（2.0%）と「嬉しそうでなかった」（0.6%）を合わせた『嬉しそうでなかった（計）』は2.6%となっている。

過去の調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

(27) 妊娠中の就労状況

問23 妊娠中、仕事をしていたか。

図表2-27-1 妊娠中の就労状況（経年比較）



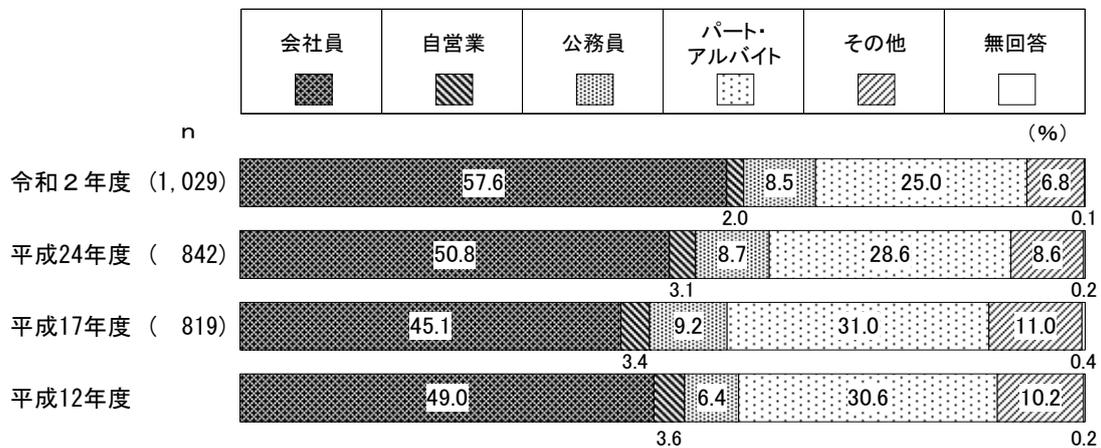
妊娠中、仕事をしていたか聞いたところ、「はい」が69.2%、「途中でやめた」は14.6%となっている。一方、「いいえ」は15.9%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成24年度より10.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

(28) 妊娠中の職業

問23で「はい」「途中でやめた」と答えた方へ
問23-1 職業は何ですか。(あるいは何でしたか)

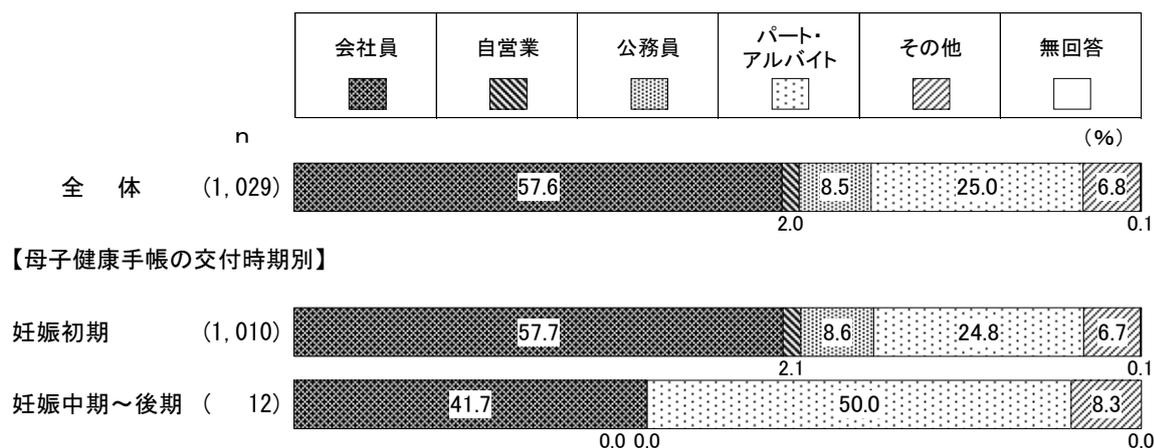
図表 2-28-1 妊娠中の職業(経年比較)



妊娠中に仕事を「していた」または「途中でやめた」と答えた人(1,029人)に、職業を聞いたところ、「会社員」が57.6%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(25.0%)、「公務員」(8.5%)、「自営業」(2.0%)となっている。

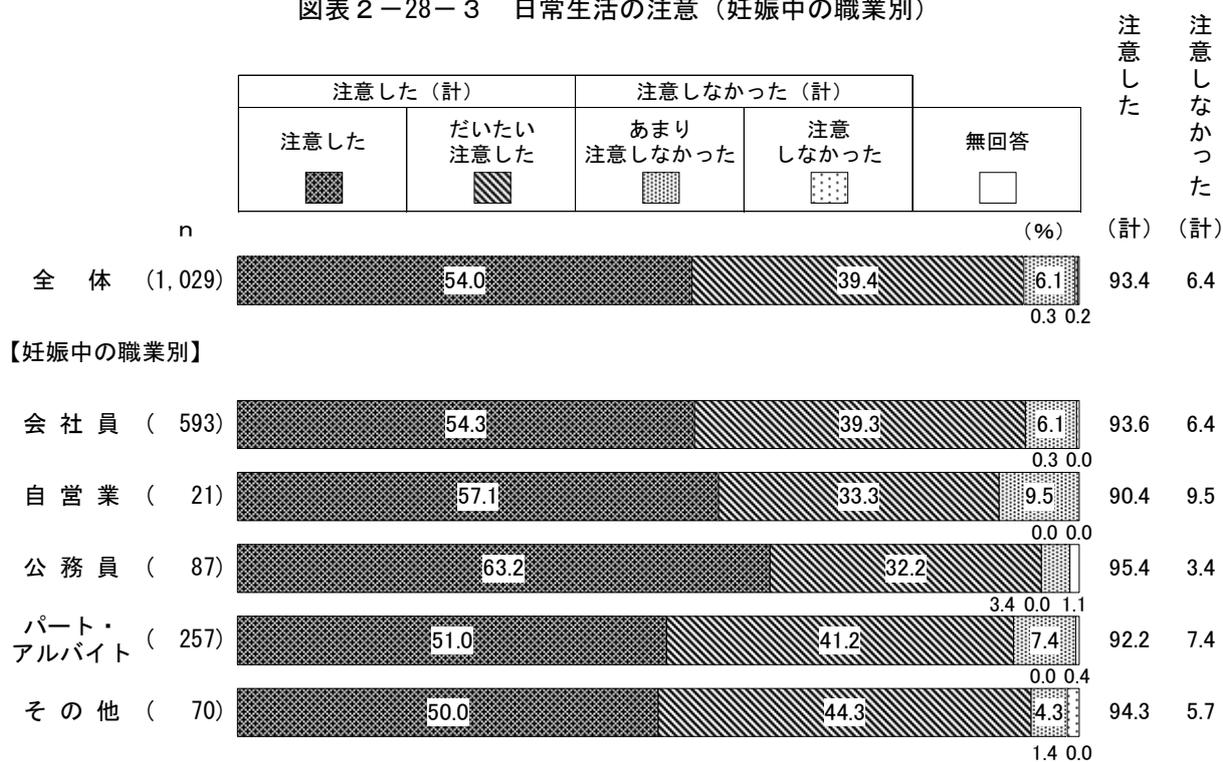
過去の調査と比較すると、「会社員」は平成24年度より6.8ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。一方、「パート・アルバイト」は平成24年度より3.6ポイント減少しており、平成17年度以降減少傾向にある。

図表 2-28-2 妊娠中の職業（母子健康手帳の交付時期別）



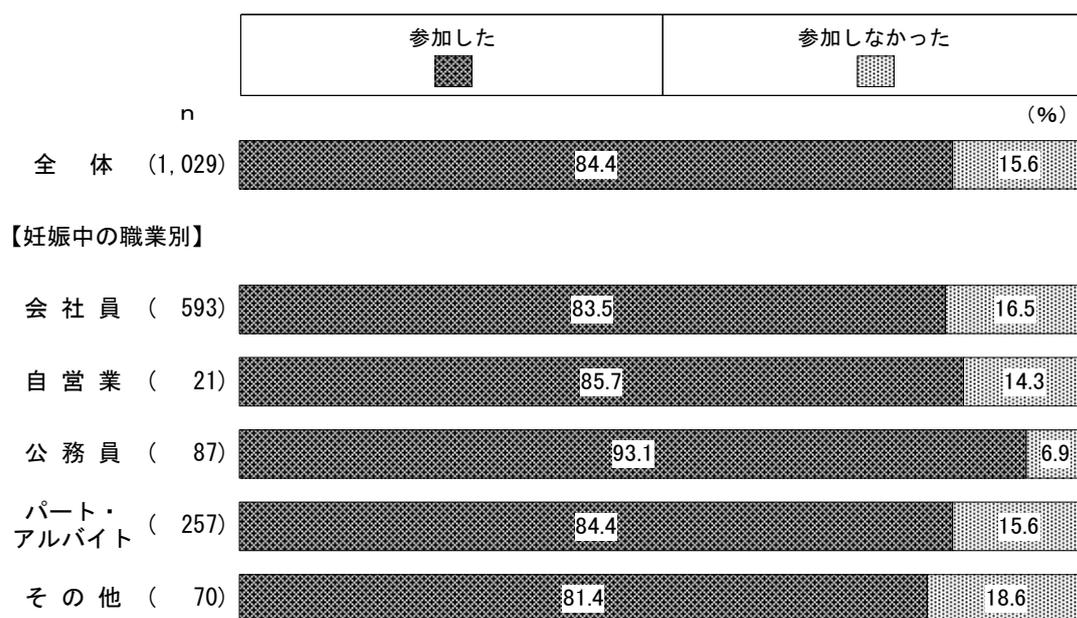
母子健康手帳の交付時期別でみると、「パート・アルバイト」は“妊娠中期～後期”（50.0%）が“妊娠初期”（24.8%）より25.2ポイント高くなっている。一方、「会社員」は“妊娠初期”（57.7%）が“妊娠中期～後期”（41.7%）より16.0ポイント高くなっている。

図表 2-28-3 日常生活の注意（妊娠中の職業別）



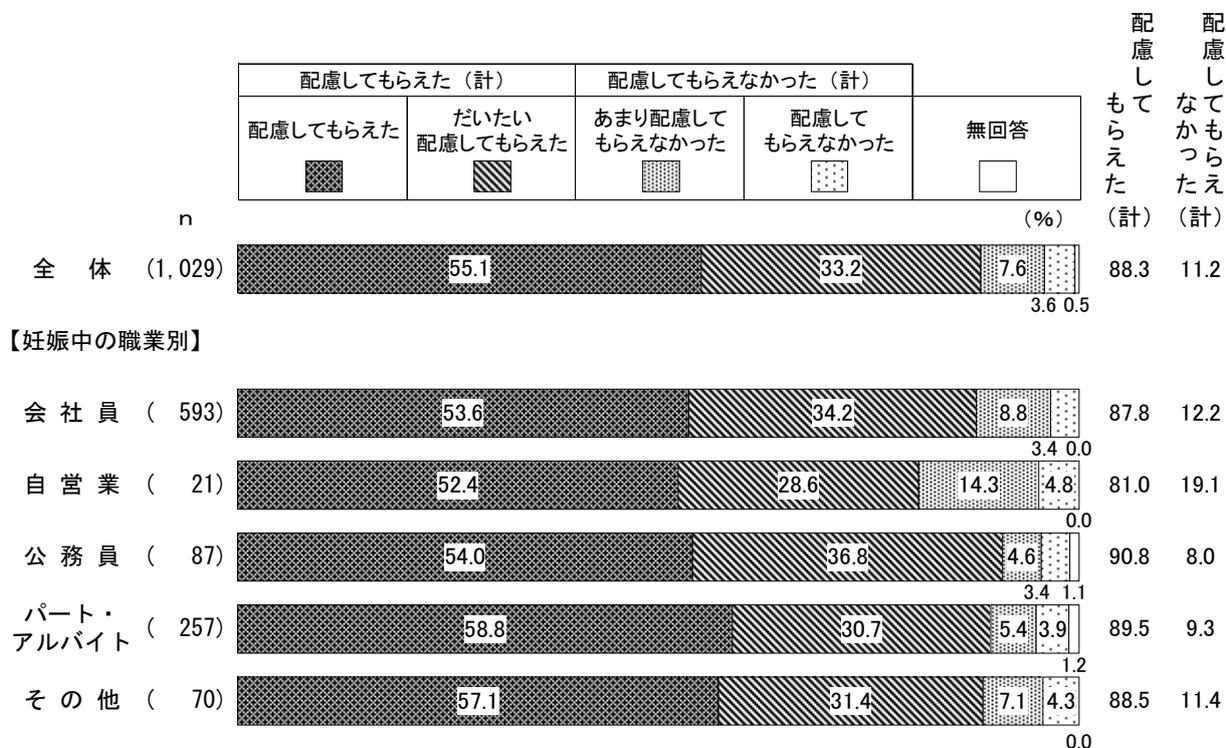
日常生活の注意を、妊娠中の職業別でみると、妊娠中、日常生活に「注意した」は“公務員”で63.2%と高くなっている。

図表 2-28-4 母親学級への参加状況（妊娠中の職業別）



母親学級への参加状況を、妊娠中の職業別でみると、母親学級に「参加した」は“公務員”で93.1%と高くなっている。

図表 2-28-5 仕事上の配慮の有無（妊娠中の職業別）



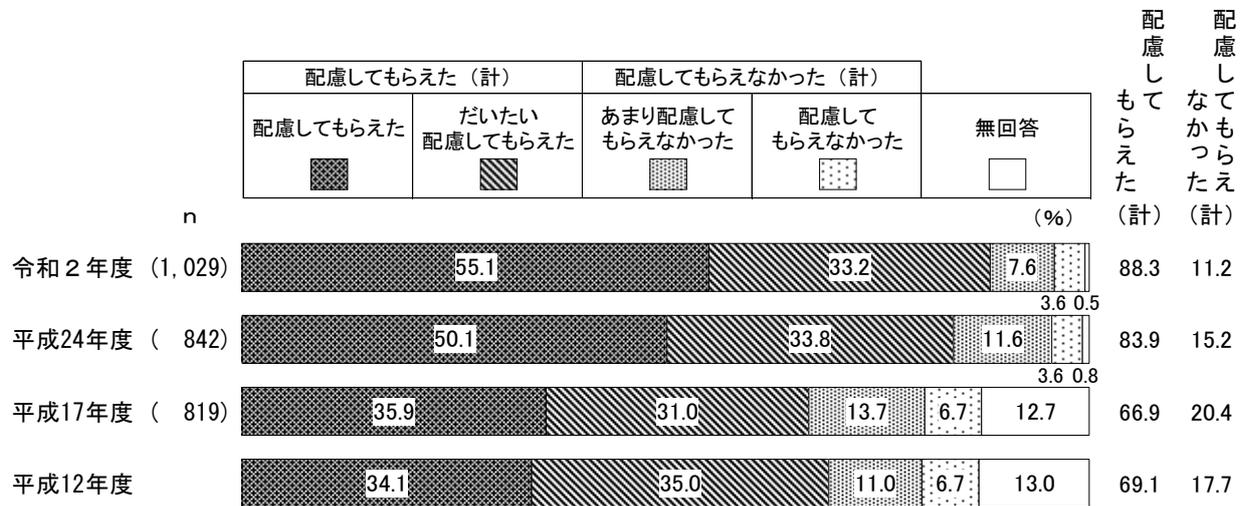
仕事上の配慮の有無を、妊娠中の職業別でみると、妊娠中、仕事上「配慮してもらえた」は“パート・アルバイト”で58.8%と高くなっている。一方、『配慮してもらえなかった（計）』は“自営業”で19.1%となっている。

(29) 仕事上の配慮の有無

問23で「はい」「途中でやめた」と答えた方へ

問23-2 妊娠ということで、仕事上配慮してもらえたと思いますか。

図表2-29-1 仕事上の配慮の有無（経年比較）

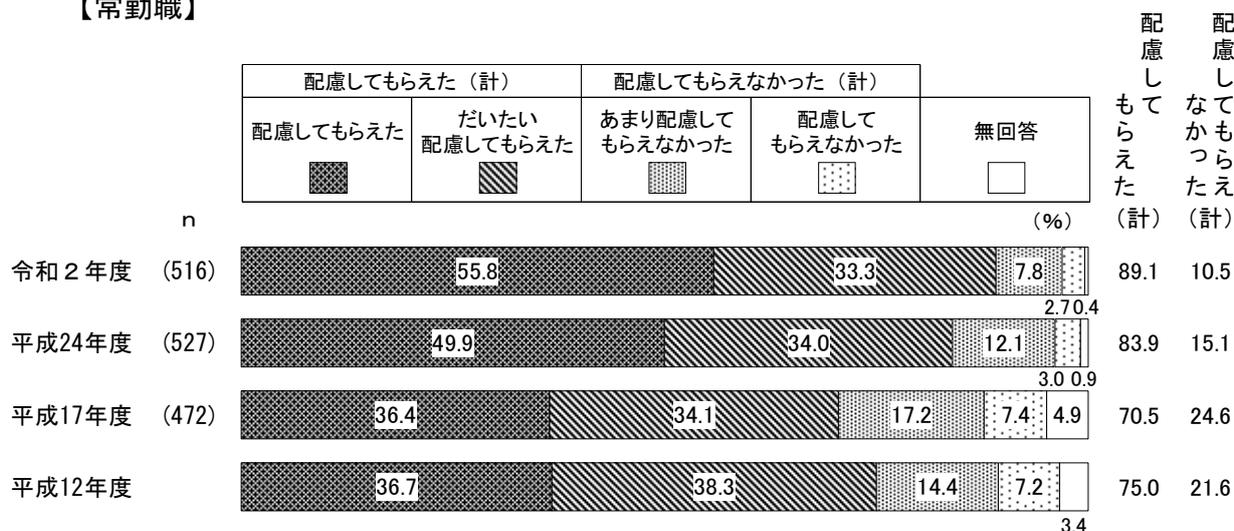


妊娠中に仕事を「していた」または「途中でやめた」と答えた人(1,029人)に、仕事上配慮してもらえたか聞いたところ、「配慮してもらえた」が55.1%で最も高く、これに「だいたい配慮してもらえた」(33.2%)を合わせた『配慮してもらえた(計)』は88.3%となっている。一方、「あまり配慮してもらえなかった」(7.6%)と「配慮してもらえなかった」(3.6%)を合わせた『配慮してもらえなかった(計)』は11.2%となっている。

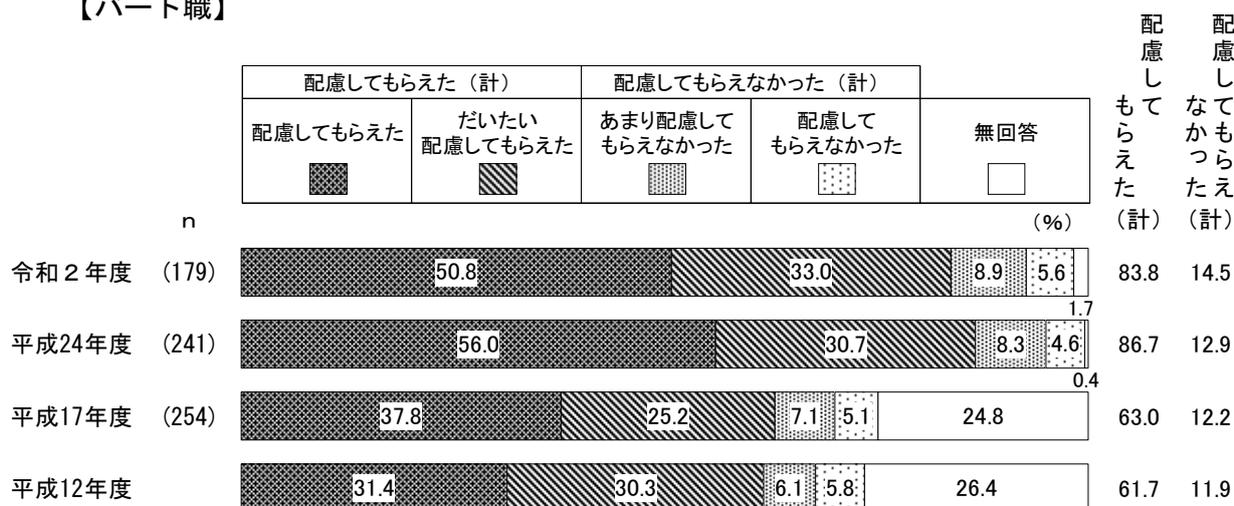
過去の調査と比較すると、『配慮してもらえた(計)』は平成24年度より4.4ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

図表 2-29-2 仕事上の配慮の有無（勤務形態別の経年比較）

【常勤職】



【パート職】



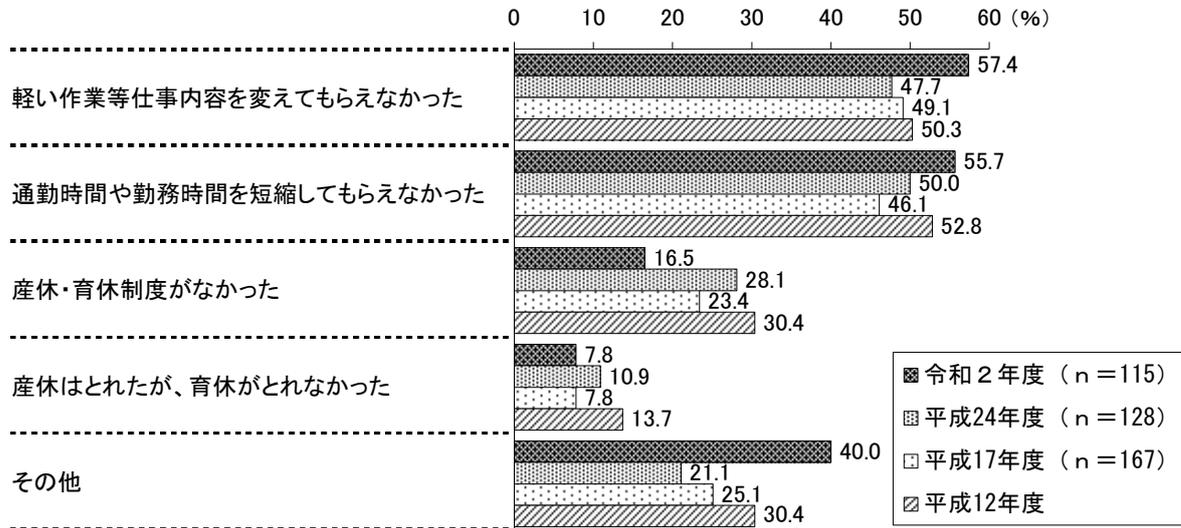
勤務形態別で見ると、常勤職では『配慮してもらえた（計）』は89.1%、『配慮してもらえなかった（計）』は10.5%となっている。また、過去の調査と比較すると、『配慮してもらえた（計）』は平成24年度より5.2ポイント増加してしており、平成17年度以降増加傾向にある。

パート職では『配慮してもらえた（計）』は83.8%、『配慮してもらえなかった（計）』は14.5%となっている。また、過去の調査と比較すると、「配慮してもらえた」は平成24年度より5.2ポイント減少している。

(30) 配慮してもらえなかった点

問23-2で「あまり配慮してもらえなかった」「配慮してもらえなかった」と答えた方へ
 問23-3 どのような点が配慮してもらえませんでしたか。あてはまるものすべてに○をつけて
 ください。

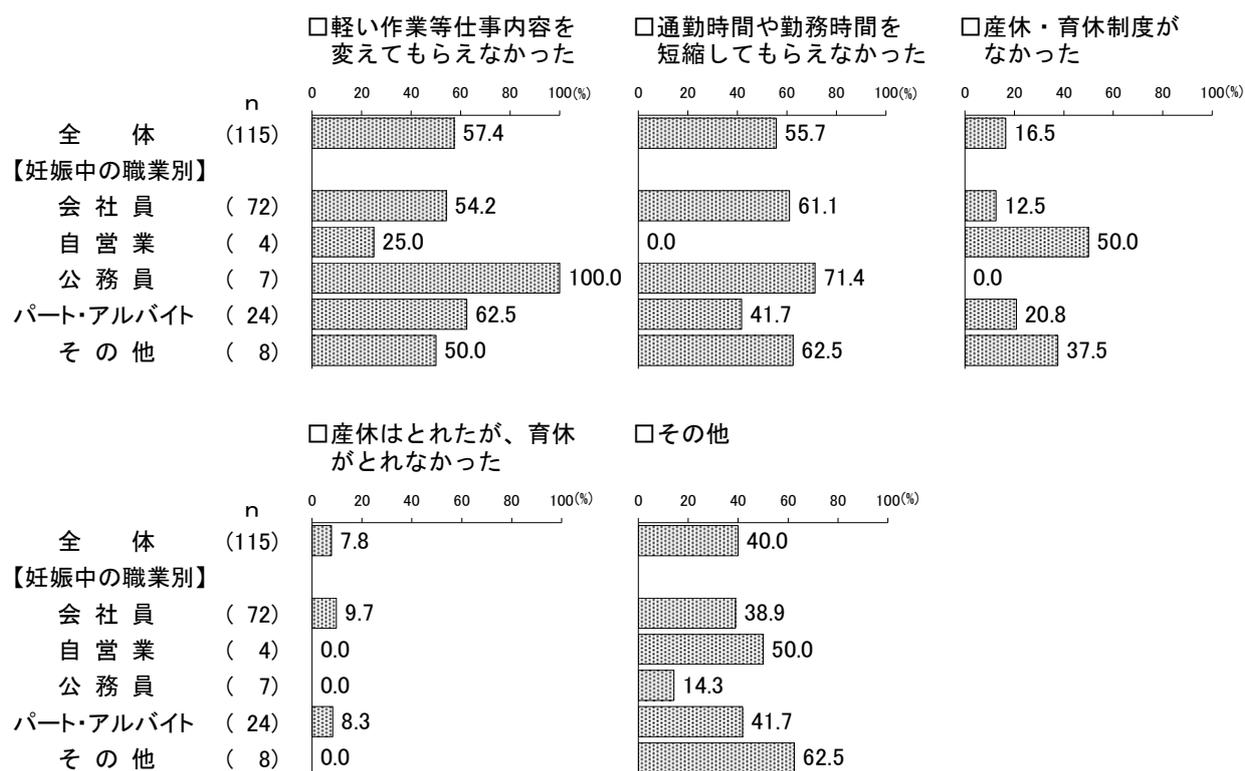
図表2-30-1 配慮してもらえなかった点（経年比較）[複数回答]



仕事上配慮を「あまり配慮してもらえなかった」または「配慮してもらえなかった」と答えた人（115人）に、配慮してもらえなかった点を聞いたところ、「軽い作業等仕事内容を変えてもらえなかった」が57.4%で最も高く、次いで「通勤時間や勤務時間を短縮してもらえなかった」（55.7%）、「産休・育休制度がなかった」（16.5%）、「産休はとれたが、育休がとれなかった」（7.8%）となっている。

過去の調査と比較すると、「軽い作業等仕事内容を変えてもらえなかった」は平成24年度より9.7ポイント、「通勤時間や勤務時間を短縮してもらえなかった」は平成24年度より5.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「産休・育休制度がなかった」は平成24年度より11.6ポイント減少している。

図表 2-30-2 配慮してもらえなかった点（妊娠中の職業別）

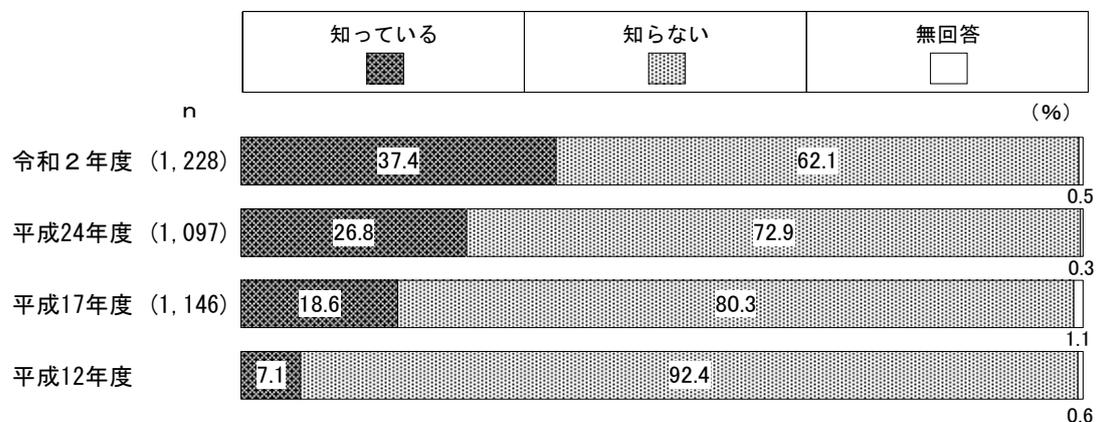


妊娠中の職業別でみると、「軽い作業等仕事内容を変えてもらえなかった」は“パート・アルバイト”で62.5%と高くなっている。「通勤時間や勤務時間を短縮してもらえなかった」は“会社員”で61.1%と高くなっている。

(31) 母性健康管理指導事項連絡カードの認知

問24 母性健康管理指導事項連絡カードを知っていますか。

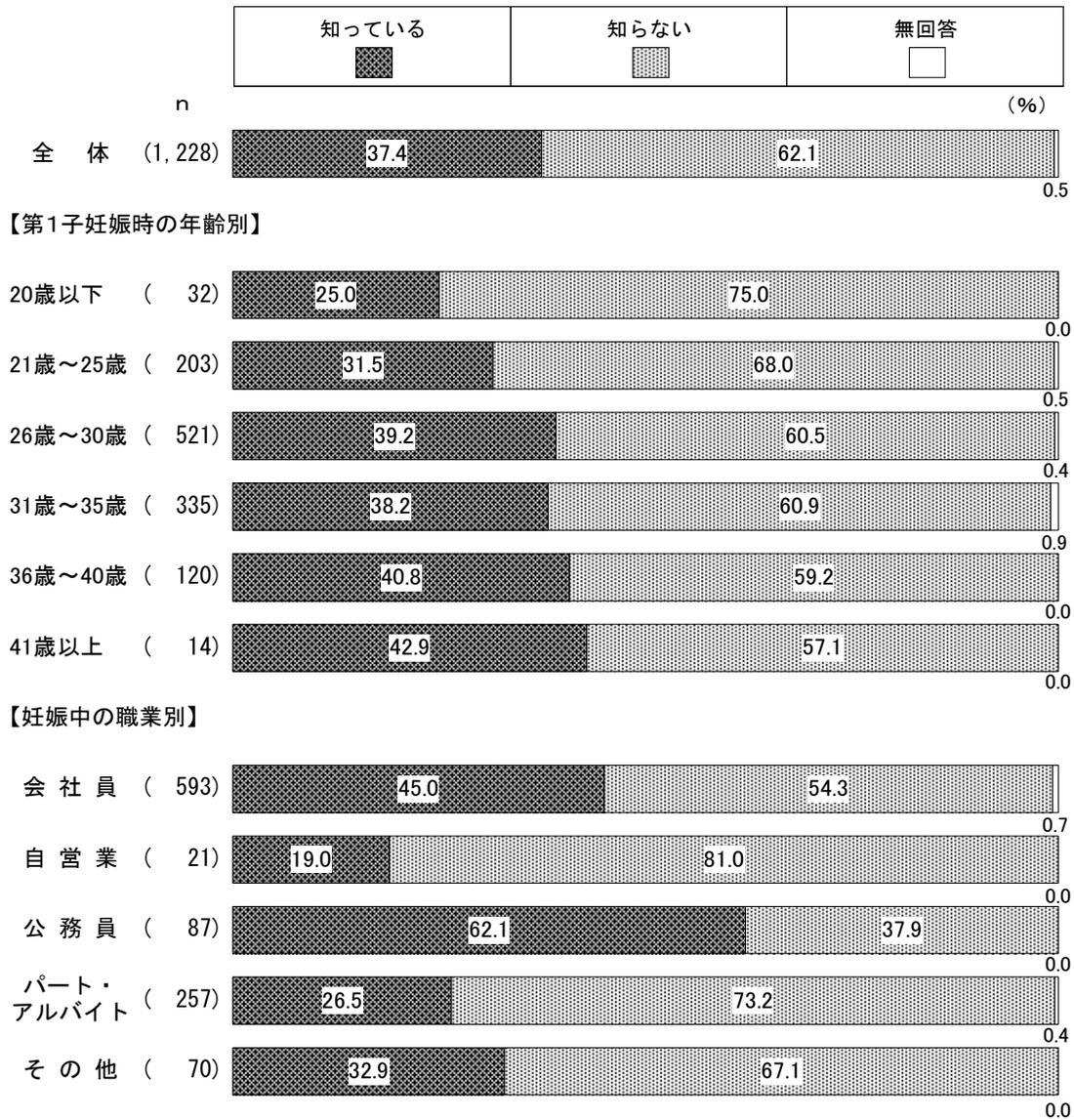
図表 2-31-1 母性健康管理指導事項連絡カードの認知（経年比較）



母性健康管理指導事項連絡カードを知っているか聞いたところ、「知っている」が37.4%、「知らない」は62.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「知っている」は平成24年度より10.6ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表 2-31-2 母性健康管理指導事項連絡カードの認知（第1子妊娠時の年齢別、妊娠中の職業別）



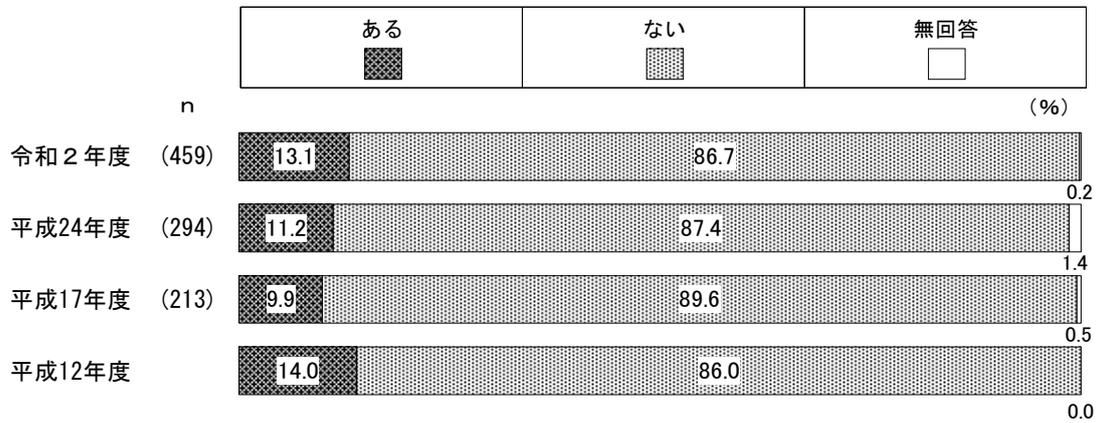
第1子妊娠時の年齢別で見ると、「知らない」はおおむね第1子妊娠時の年齢が低くなるほど割合が高く、“20歳以下”で75.0%と高くなっている。

妊娠中の職業別で見ると、「知っている」は“公務員”で62.1%、“会社員”で45.0%と高くなっている。一方、「知らない」は“自営業”で81.0%、“パート・アルバイト”で73.2%と高くなっている。

(32) 母性健康管理指導事項連絡カードの利用経験

問24で「知っている」と答えた方へ
問24-1 利用したことはありますか。

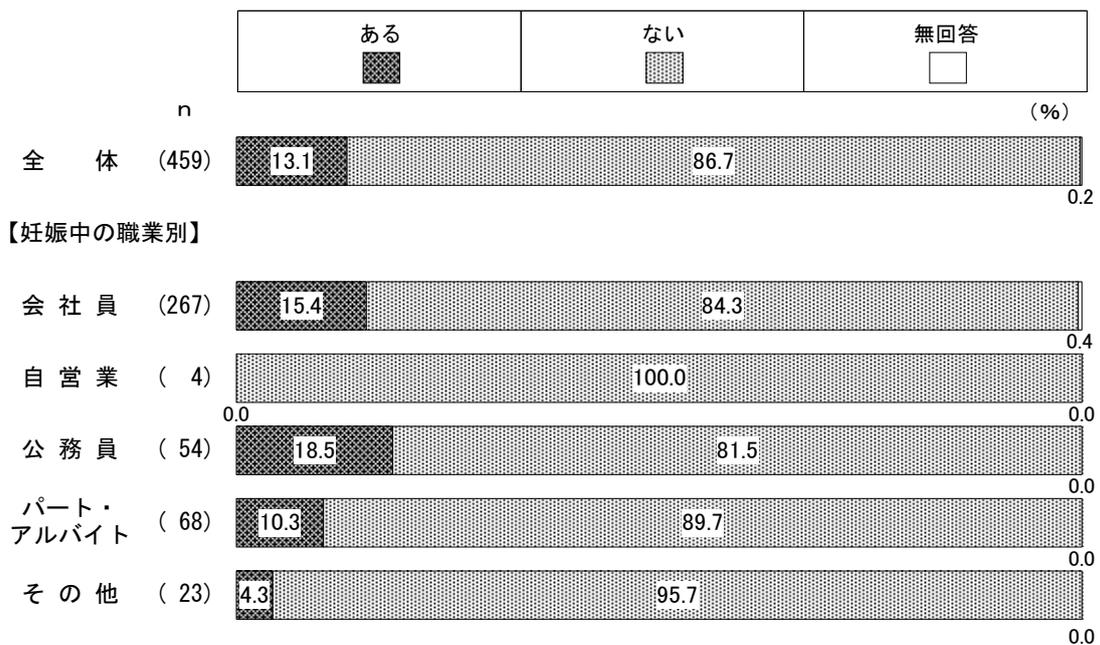
図表2-32-1 母性健康管理指導事項連絡カードの利用経験（経年比較）



母性健康管理指導事項連絡カードを「知っている」と答えた人（459人）に、利用したことはあるか聞いたところ、「ある」が13.1%、「ない」は86.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「ある」は平成17年度以降増加傾向にある。

図表2-32-2 母性健康管理指導事項連絡カードの利用経験（妊娠中の職業別）

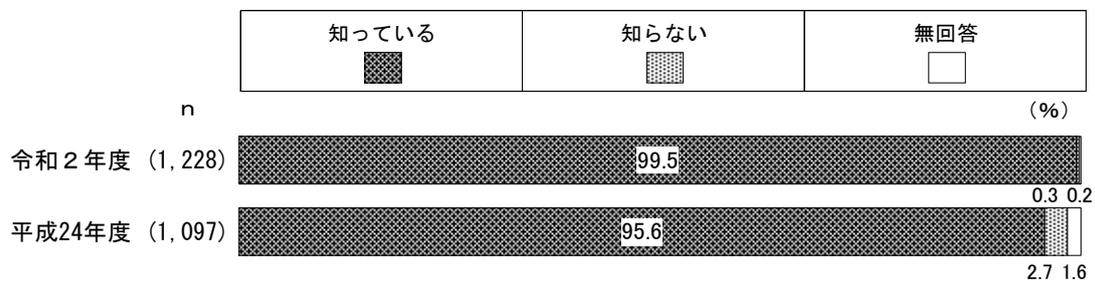


妊娠中の職業別で見ると、「ある」は“公務員”で18.5%、“会社員”で15.4%となっている。

(33) マタニティマークの認知

問25 マタニティマークを知っていますか。

図表2-33-1 マタニティマークの認知（経年比較）



マタニティマークを知っているか聞いたところ、「知っている」が99.5%、「知らない」は0.3%となっている。

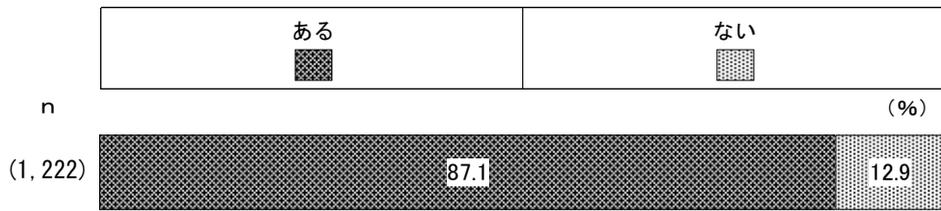
過去の調査と比較すると、「知っている」は平成24年度より3.9ポイント増加している。

(34) マタニティマークの使用経験

問25で「知っている」と答えた方へ

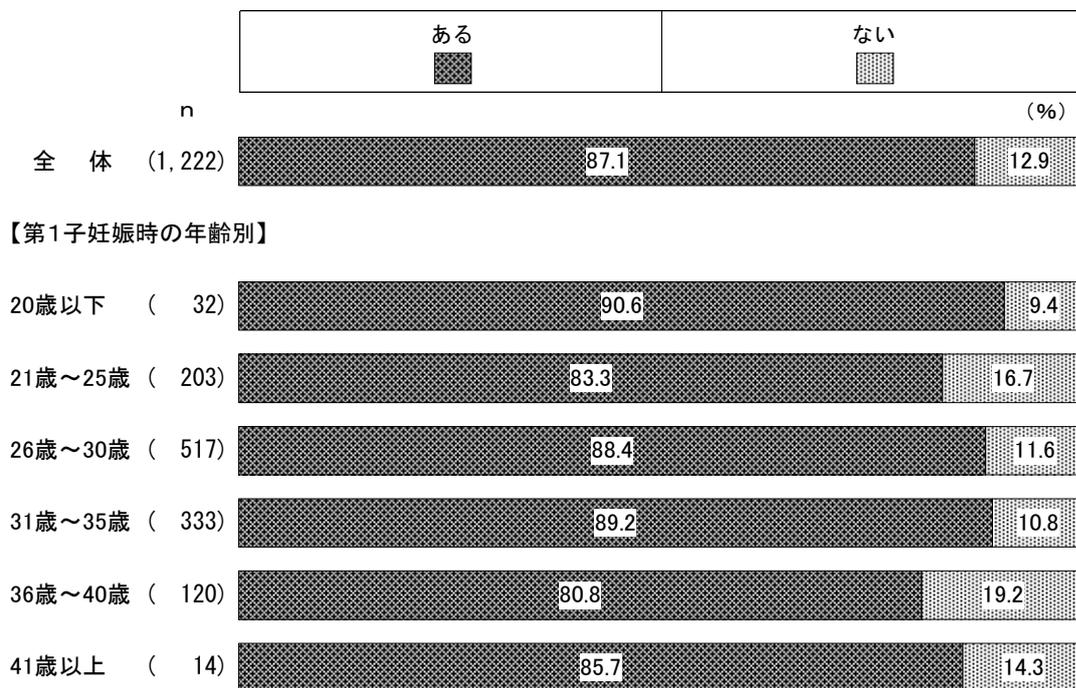
問25-1 マタニティマークを使用したことはありますか。

図表 2-34-1 マタニティマークの使用経験



マタニティマークを「知っている」と答えた人(1,222人)に、使用したことはあるか聞いたところ、「ある」が87.1%、「ない」は12.9%となっている。

図表 2-34-2 マタニティマークの使用経験 (第1子妊娠時の年齢別)



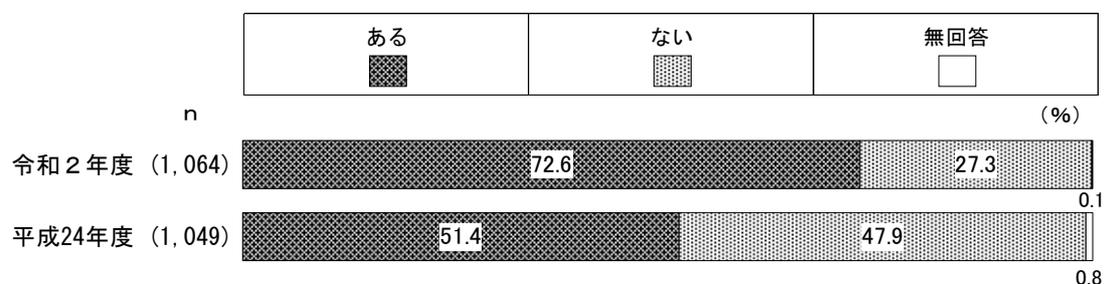
第1子妊娠時の年齢別で見ると、「ある」は“20歳以下”で90.6%と高くなっている。一方、「ない」は“36歳～40歳”で19.2%となっている。

(35) マタニティマークの効果

問25-1で「ある」と答えた方へ

問25-2 マタニティマークの効果を感じたことがありますか。

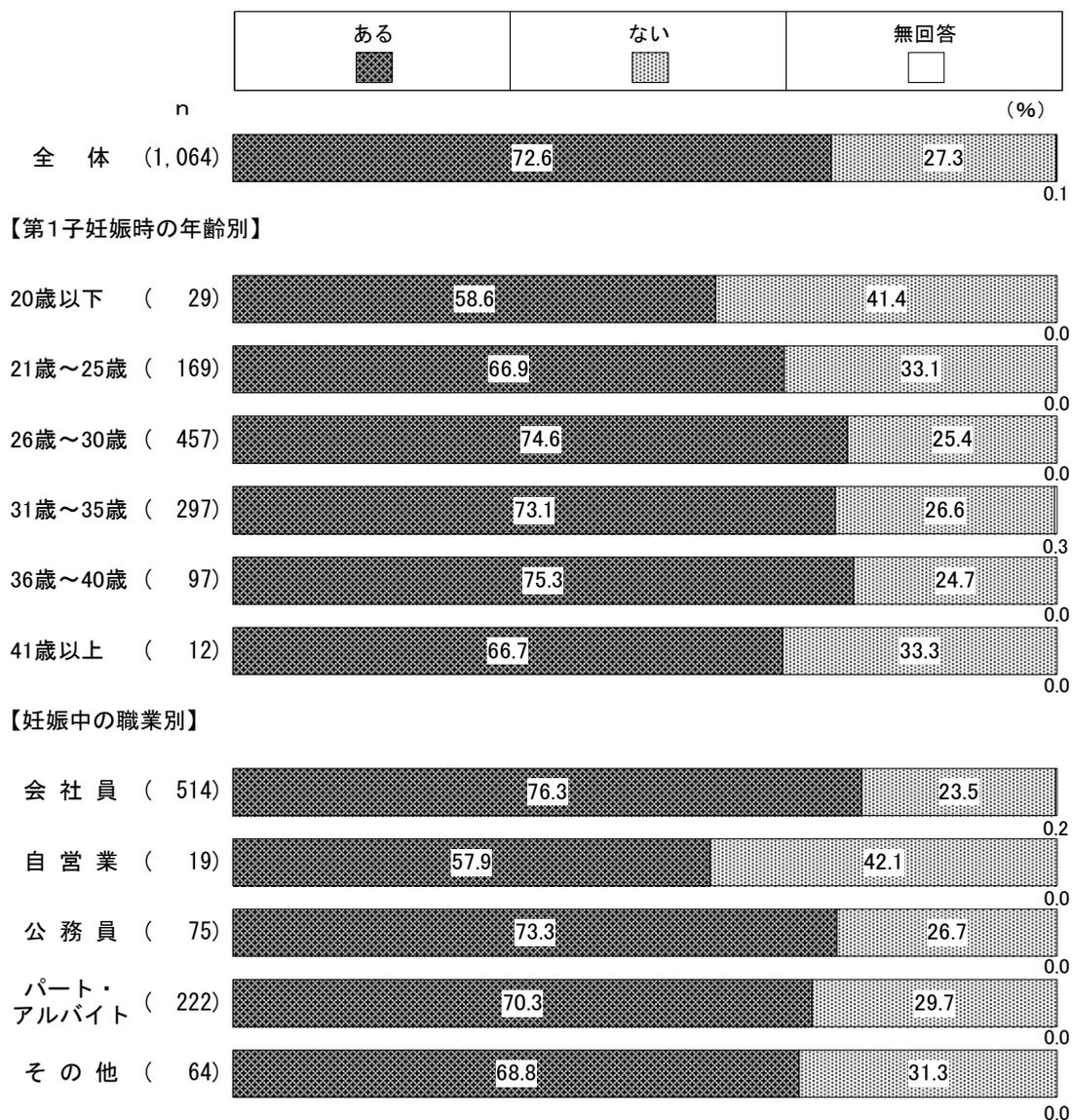
図表2-35-1 マタニティマークの効果（経年比較）



マタニティマークを「使用したことがある」と答えた人（1,064人）に、マタニティマークの効果を感じたことがあるか聞いたところ、「ある」が72.6%、「ない」は27.3%となっている。

過去の調査と比較すると、「ある」は平成24年度より21.2ポイント増加している。

図表 2-35-2 マタニティマークの効果（第1子妊娠時の年齢別、妊娠中の職業別）



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「ある」は“26歳～30歳”で74.6%、“31歳～35歳”で73.1%、“36歳～40歳”で75.3%と高くなっている。

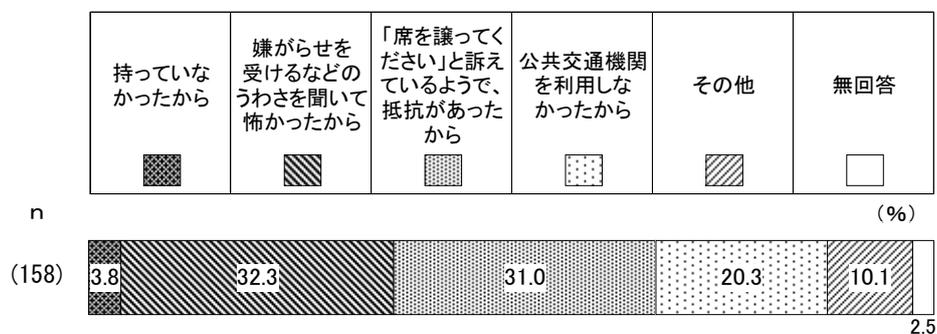
妊娠中の職業別で見ると、「ある」は“会社員”で76.3%と高くなっている。一方、「ない」は“自営業”で42.1%と高くなっている。

(36) マタニティマークを使用しなかった理由

問25-1で「ない」と答えた方へ

問25-3 マタニティマークを使用しなかったのはなぜですか。

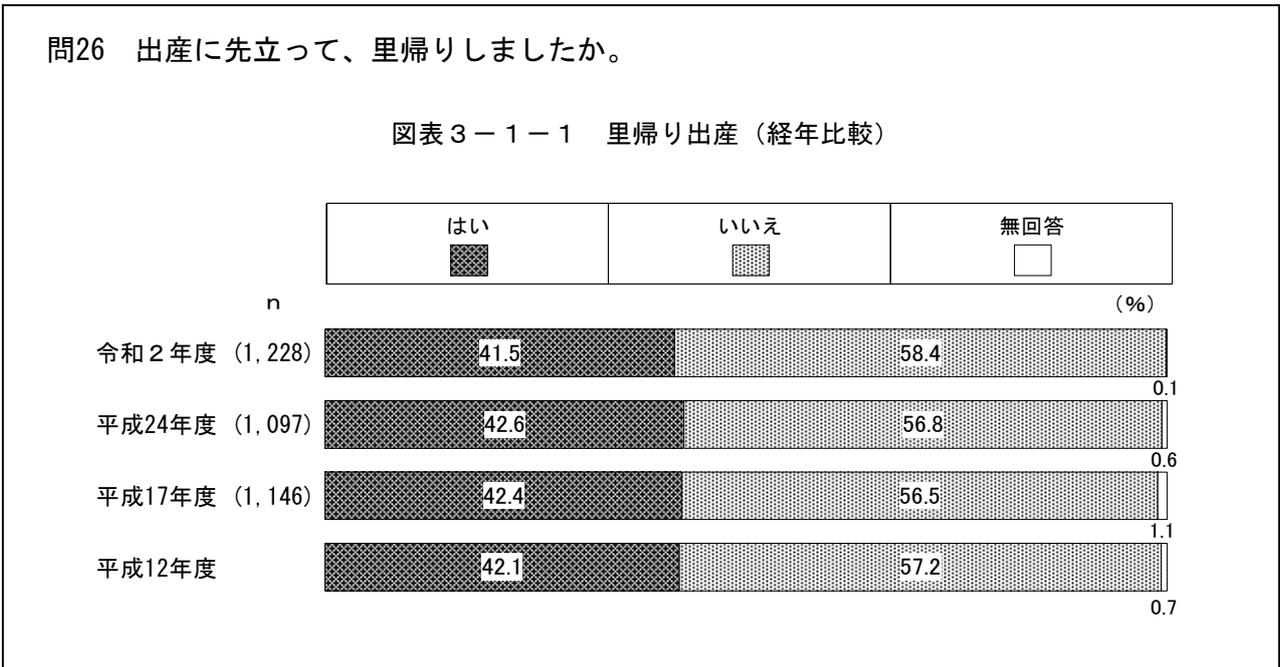
図表 2-36-1 マタニティマークを使用しなかった理由



マタニティマークを「使用したことがない」と答えた人（158人）に、使用しなかった理由を聞いたところ、「嫌がらせを受けるなどのうわさを聞いて怖かったから」が32.3%で最も高く、次いで「『席を譲ってください』と訴えているようで、抵抗があったから」（31.0%）、「公共交通機関を利用しなかったから」（20.3%）、「持っていなかったから」（3.8%）となっている。

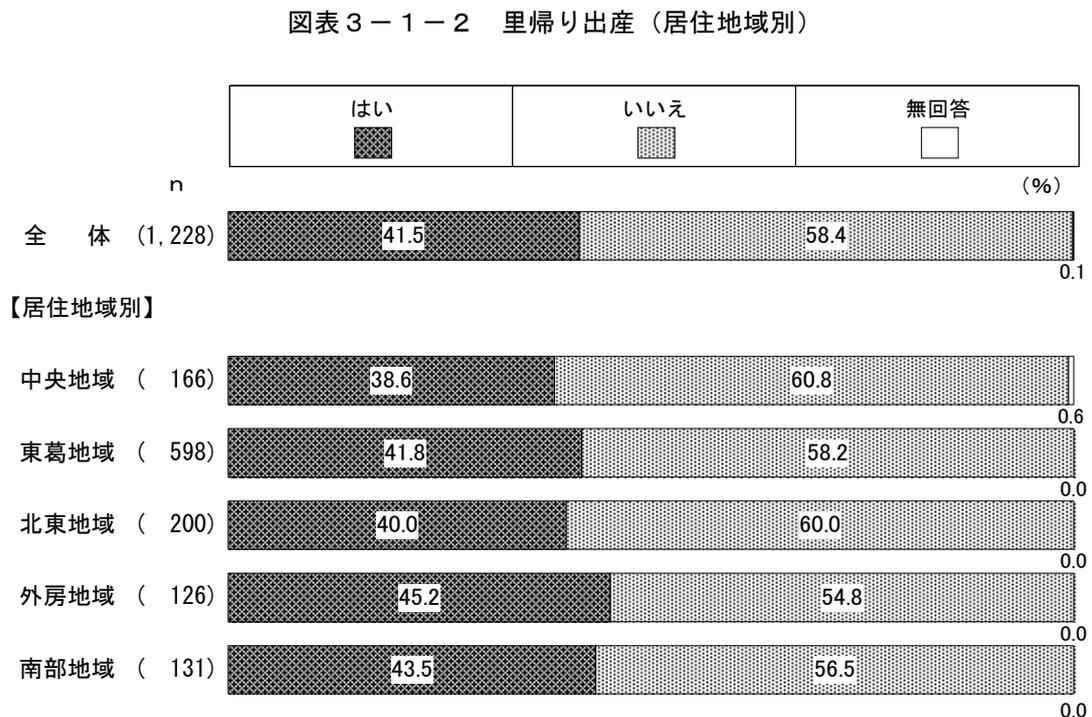
3. 第1子の出産時について

(1) 里帰り出産



出産に先立って、里帰りしたか聞いたところ、「はい」が41.5%、「いいえ」は58.4%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。



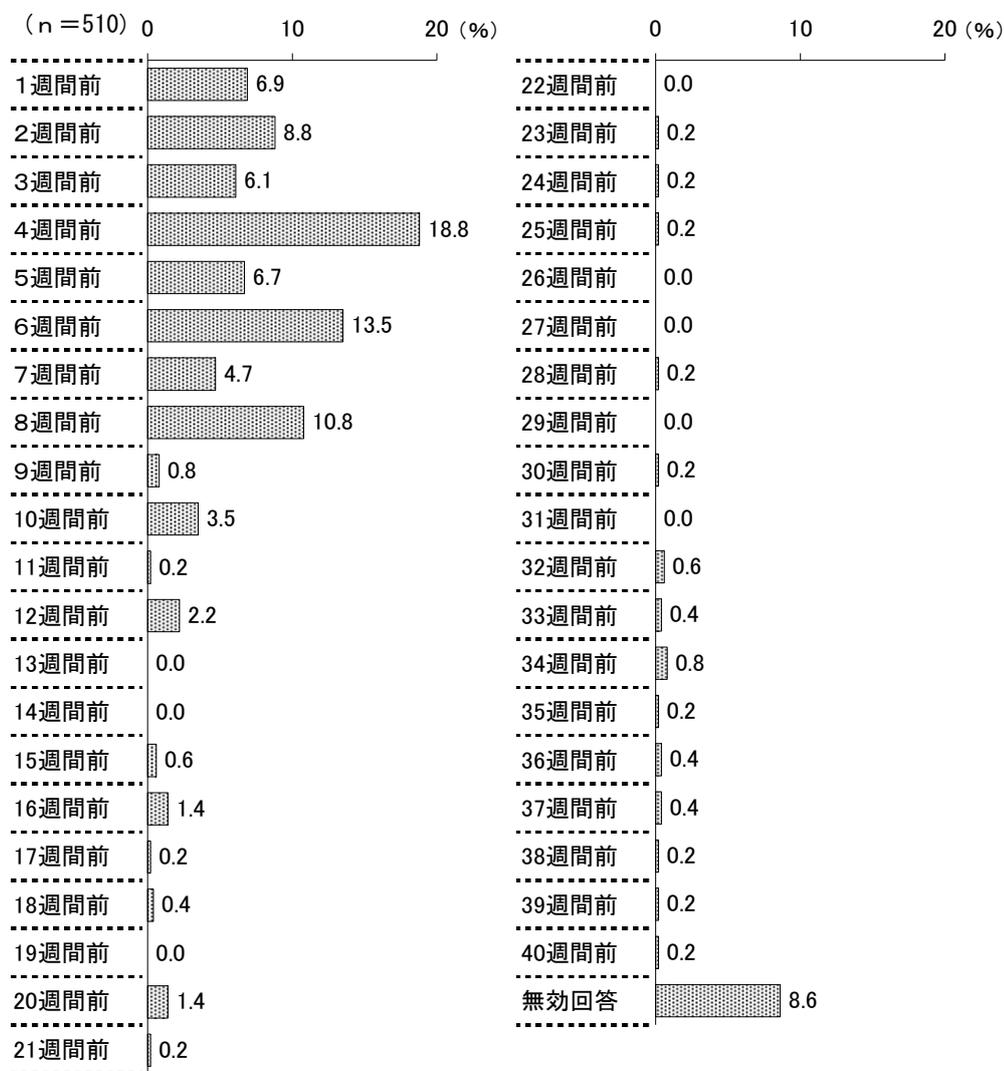
居住地域別でみると、「はい」は“外房地域”で45.2%と高くなっている。一方、「いいえ」は“中央地域”で60.8%、“北東地域”で60.0%と高くなっている。

(2) 里帰り出産の時期

問26で「はい」と答えた方へ

問26-1 いつごろから里帰りしましたか。数字を記入してください。

図表3-2-1 里帰り出産の時期



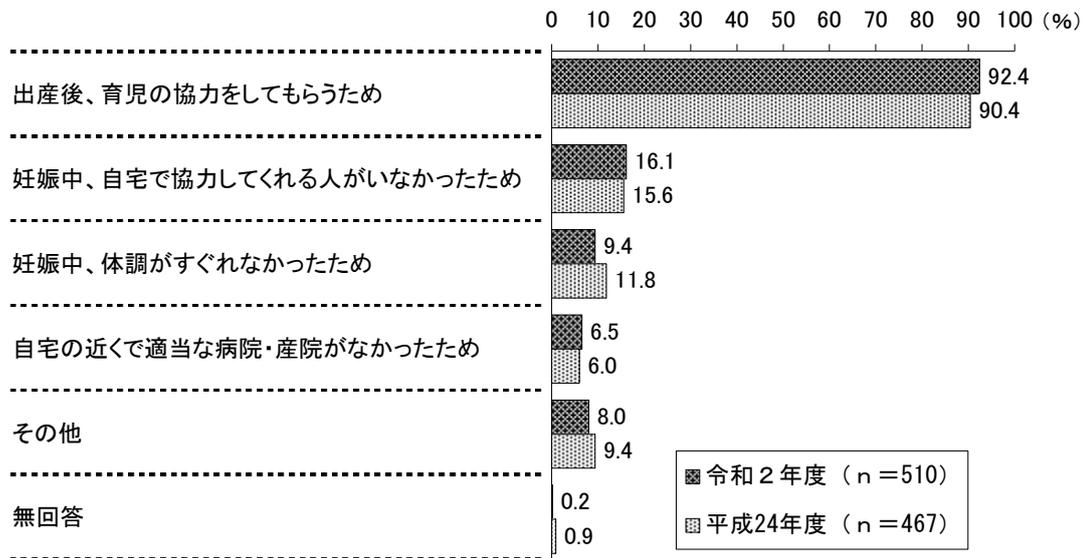
出産に先立って、「里帰りをした」と答えた人(510人)に、いつごろから里帰りしたか聞いたところ、「4週間前」が18.8%で最も高く、次いで「6週間前」(13.5%)、「8週間前」(10.8%)、「2週間前」(8.8%)となっている。

(3) 里帰り出産の理由

問26で「はい」と答えた方へ

問26-2 里帰り出産をした理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表3-3-1 里帰り出産の理由（経年比較）[複数回答]



出産に先立って、「里帰りをした」と答えた人（510人）に、里帰り出産をした理由を聞いたところ、「出産後、育児の協力をしてもらうため」が92.4%で最も高く、次いで「妊娠中、自宅で協力してくれる人がいなかったため」（16.1%）、「妊娠中、体調がすぐれなかったため」（9.4%）、「自宅の近くで適当な病院・産院がなかったため」（6.5%）となっている。

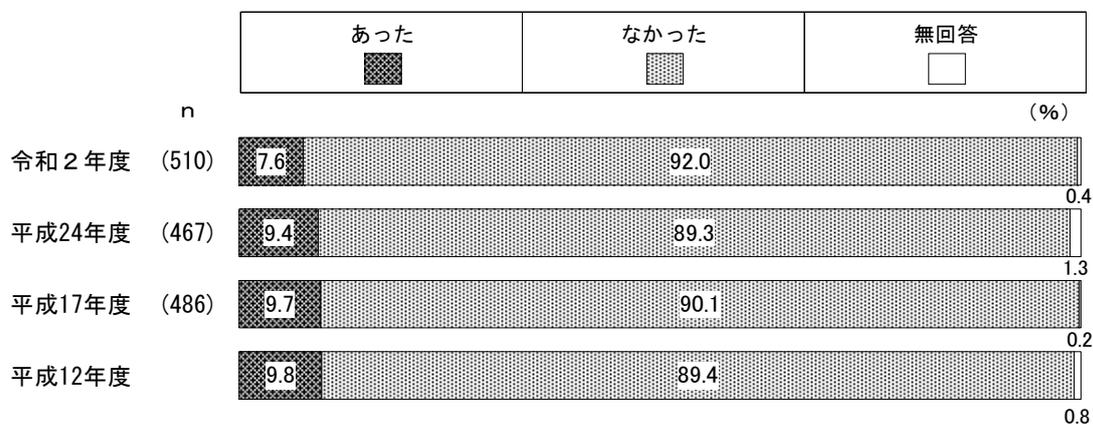
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(4) 保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことの有無

問26で「はい」と答えた方へ

問26-3 里帰り出産で保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことがありましたか。

図表3-4-1 保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことの有無（経年比較）



出産に先立って、「里帰りをした」と答えた人（510人）に、保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことがあったか聞いたところ、「あった」が7.6%、「なかった」は92.0%となっている。

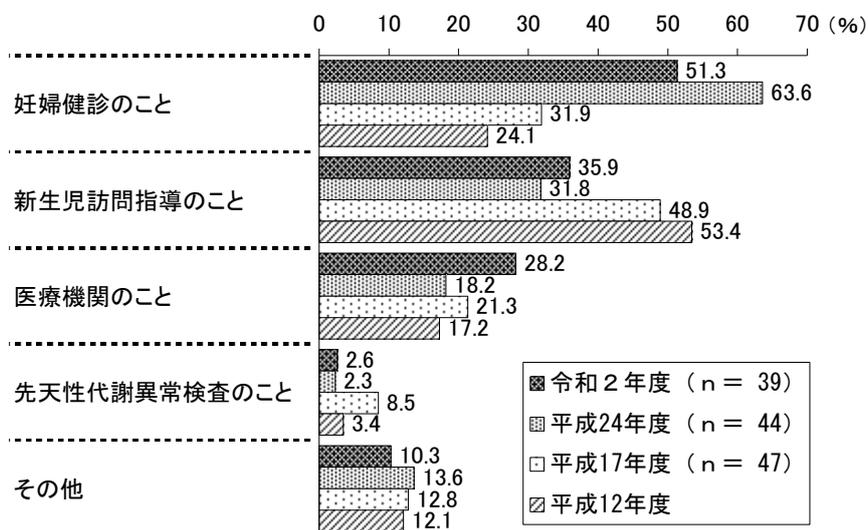
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(5) 困ったことの内容

問26-3で「あった」と答えた方へ

問26-4 どのようなことで困りましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 3-5-1 困ったことの内容（経年比較）〔複数回答〕



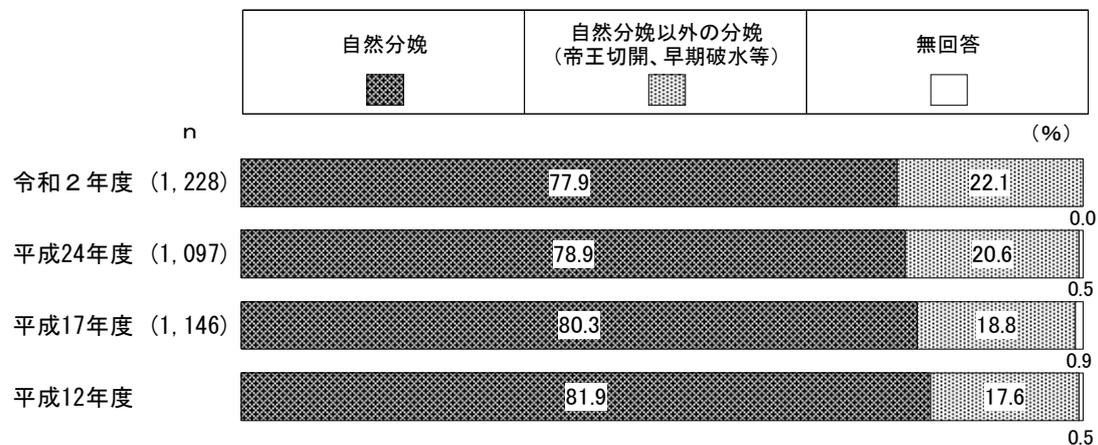
里帰り出産で保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことが「あった」と答えた人（39人）に、困ったことの内容を聞いたところ、「妊婦健診のこと」が51.3%で最も高く、次いで「新生児訪問指導のこと」（35.9%）、「医療機関のこと」（28.2%）、「先天性代謝異常検査のこと」（2.6%）となっている。

過去の調査と比較すると、「医療機関のこと」は平成24年度より10.0ポイント、「新生児訪問指導のこと」は平成24年度より4.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「妊婦健診のこと」は平成24年度より12.3ポイント減少している。

(6) 出産の状態

問27 出産の状態はどうでしたか。

図表3-6-1 出産の状態（経年比較）



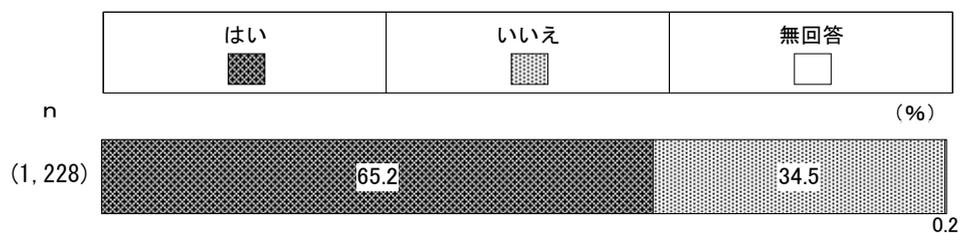
出産の状態を聞いたところ、「自然分娩」が77.9%、「自然分娩以外の分娩（帝王切開、早期破水等）」は22.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「自然分娩以外の分娩（帝王切開、早期破水等）」は平成12年度以降増加傾向にある。

(7) 立ち会い出産

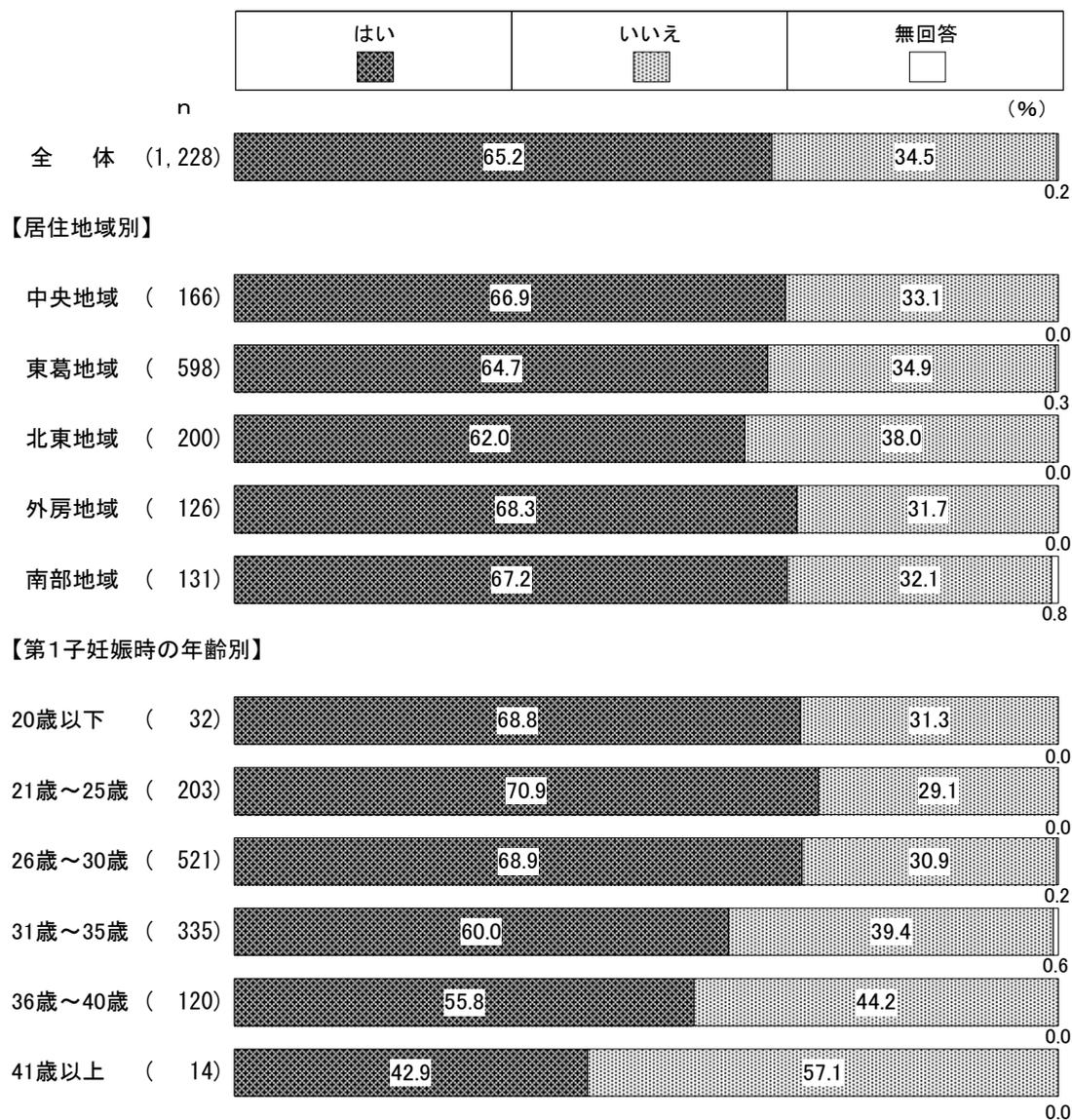
問28 立ち会い出産でしたか。

図表3-7-1 立ち会い出産



立ち会い出産だったか聞いたところ、「はい」が65.2%、「いいえ」は34.5%となっている。

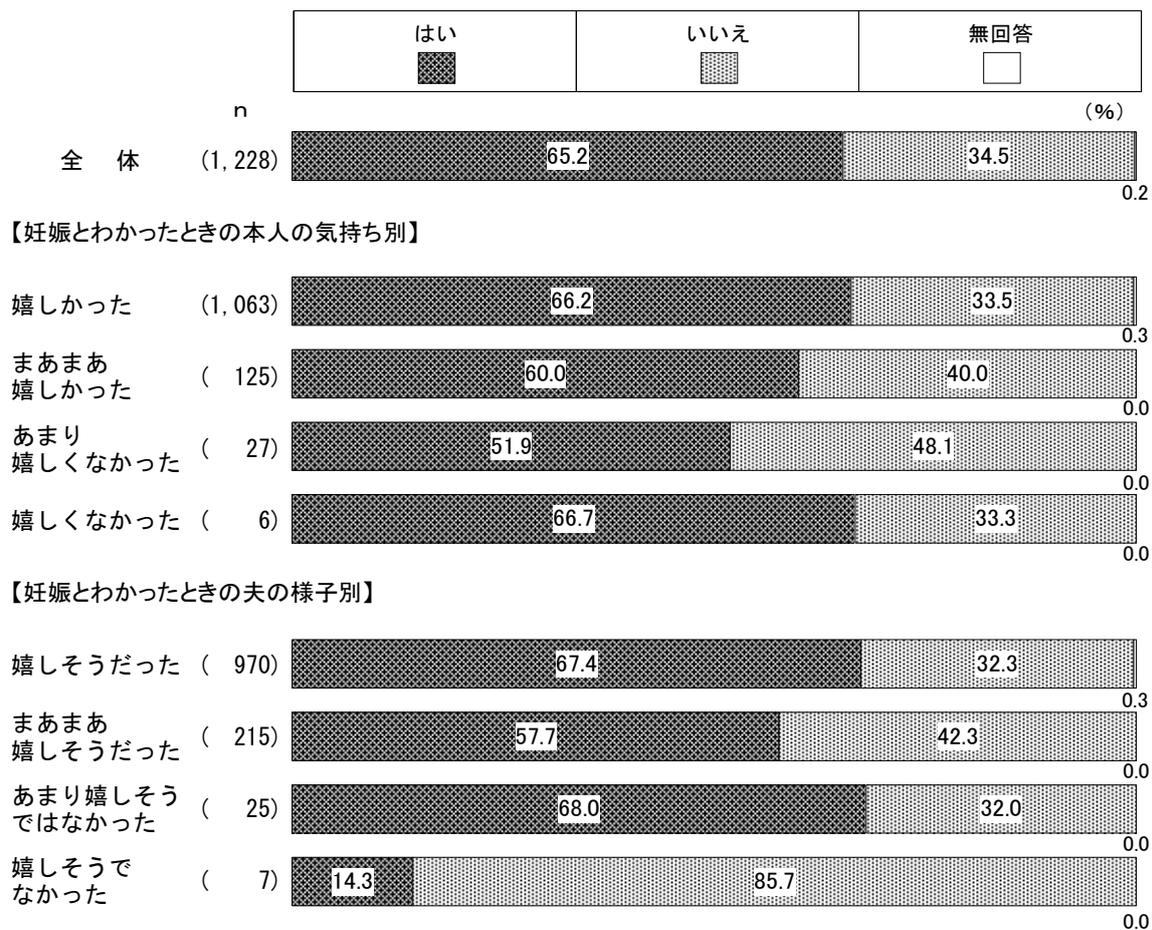
図表 3-7-2 立ち会い出産（居住地域別、第1子妊娠時の年齢別）



居住地域別でみると、「はい」は“外房地域”で68.3%と高くなっている。一方、「いいえ」は“北東地域”で38.0%と高くなっている。

第1子妊娠時の年齢別でみると、「はい」はおおむね第1子妊娠時の年齢が低くなるほど割合が高く、“21歳～25歳”で70.9%と高くなっている。一方、「いいえ」は“41歳以上”で57.1%と高くなっている。

図表3-7-3 立ち会い出産（妊娠とわかったときの本人の気持ち別、妊娠とわかったときの夫の様子別）



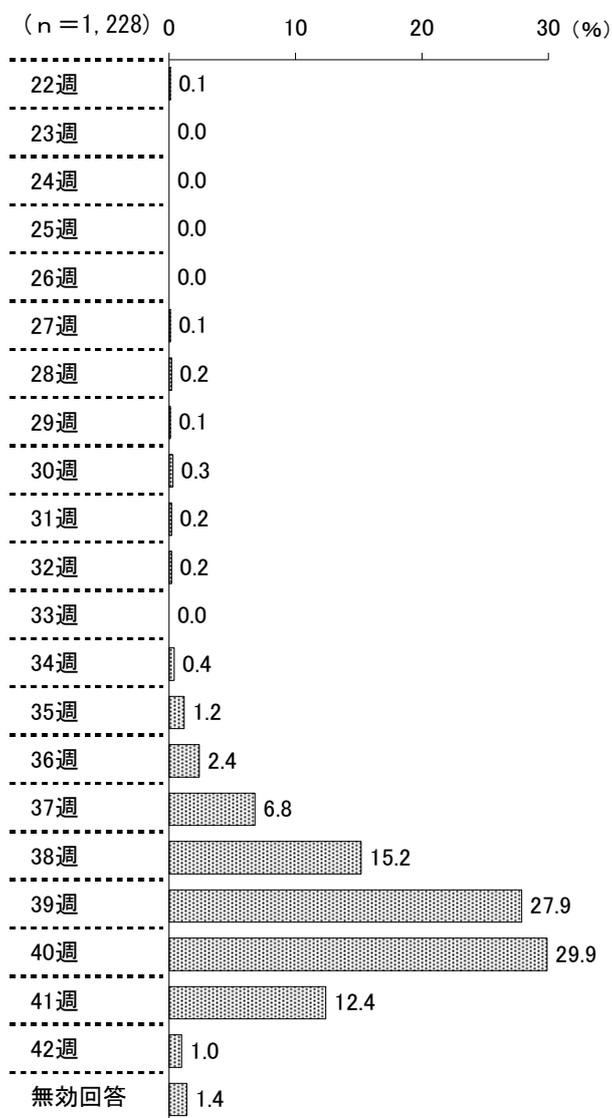
妊娠とわかったときの本人の気持ち別でみると、「はい」は“嬉しかった人”で66.2%と高くなっている。一方、「いいえ」は“あまり嬉しくなかった人”で48.1%と高くなっている。

妊娠とわかったときの夫の様子別でみると、「いいえ」は“夫がまあまあ嬉しそうだった人”で42.3%と高くなっている。

(8) 妊娠週数

問29 出産時の妊娠週数はどのくらいでしたか。数字を記入してください。

図表3-8-1 妊娠週数

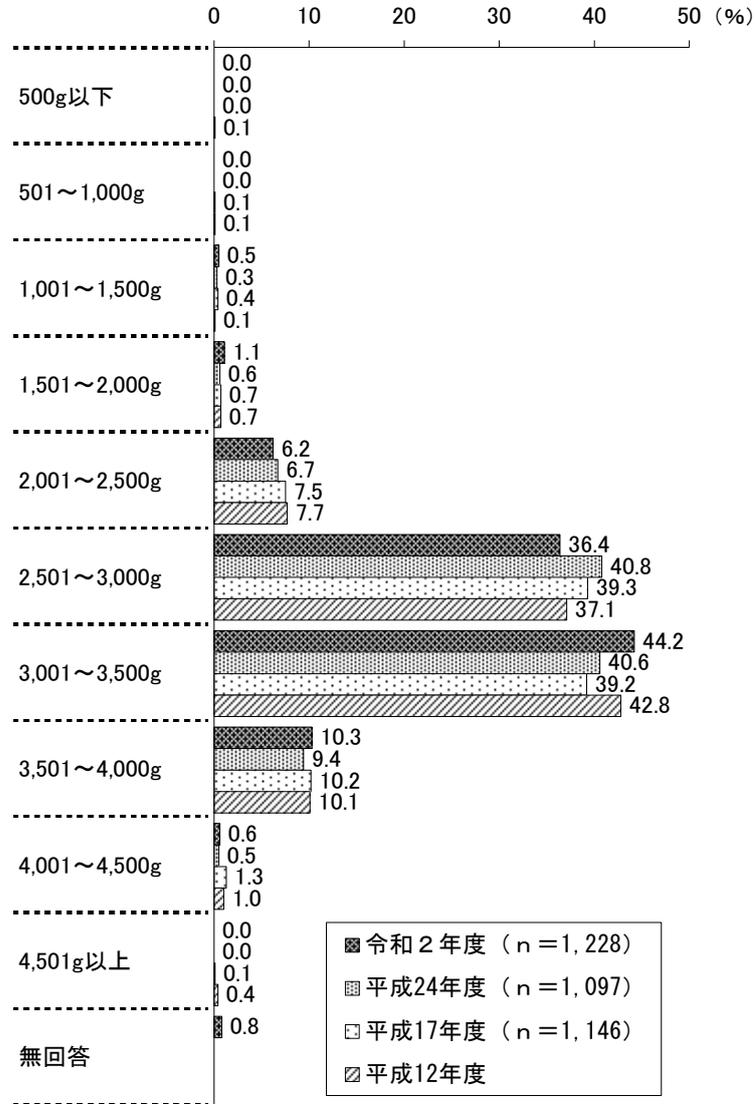


出産時の妊娠週数を聞いたところ、「40週」が29.9%で最も高く、次いで「39週」（27.9%）、「38週」（15.2%）、「41週」（12.4%）となっている。

(9) 出生時の子どもの体重

問30 出生時のお子さんの体重と身長はどのくらいでしたか。数字を記入してください。

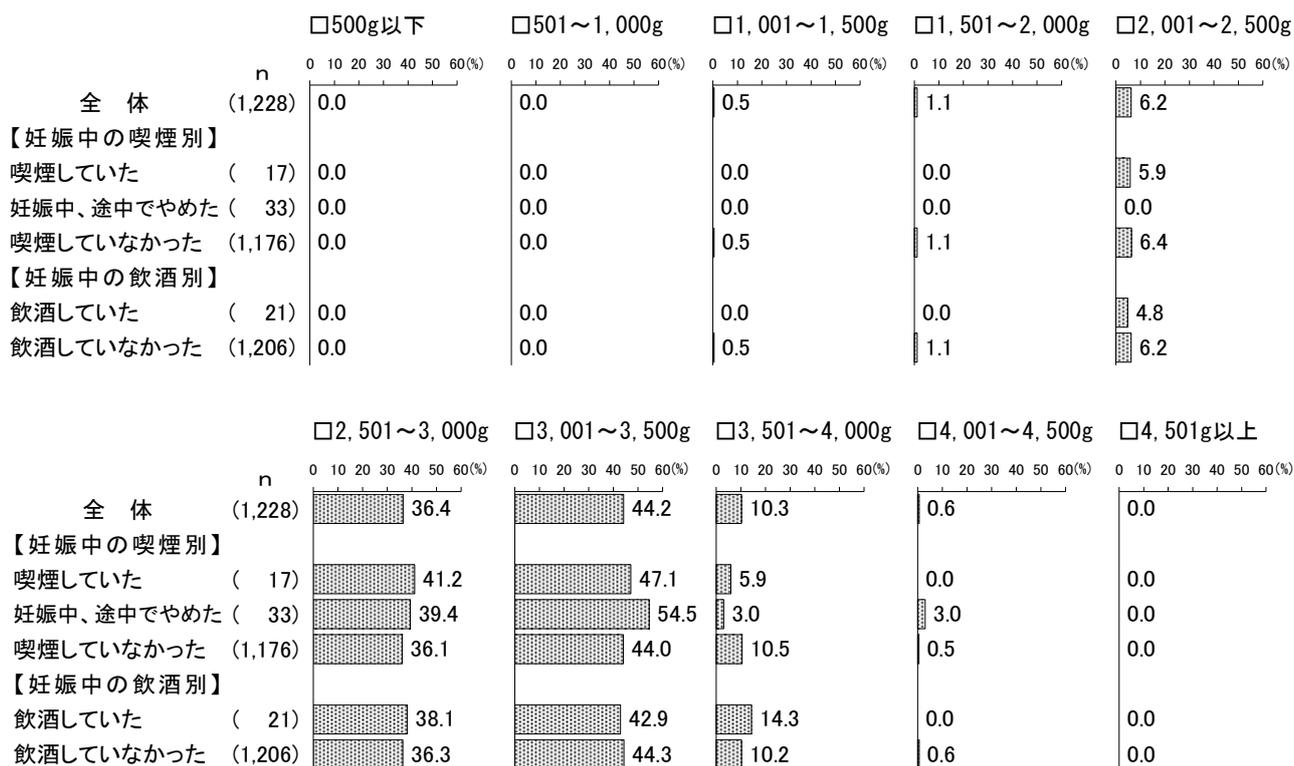
図表3-9-1 出生時の子どもの体重（経年比較）



出生時の子どもの体重を聞いたところ、「3,001~3,500g」が44.2%で最も高く、次いで「2,501~3,000g」(36.4%)、「3,501~4,000g」(10.3%)、「2,001~2,500g」(6.2%)となっている。

過去の調査と比較すると、「3,001~3,500g」は平成24年度より3.6ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。一方、「2,501~3,000g」は平成24年度より4.4ポイント減少している。

図表3-9-2 出生時の子どもの体重（妊娠中の喫煙別、妊娠中の飲酒別）



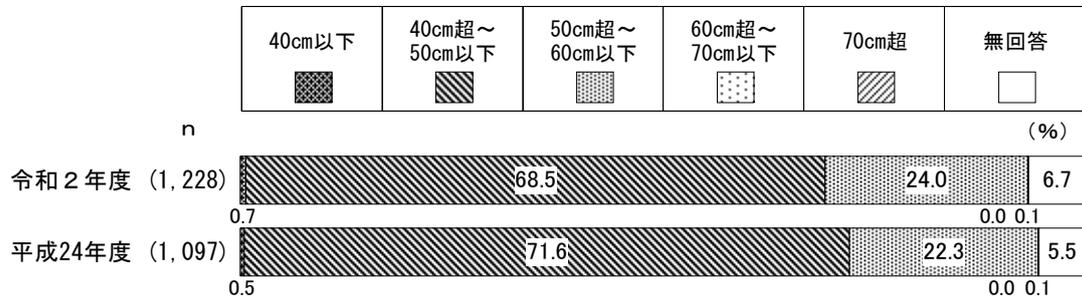
妊娠中の喫煙別で見ると、「2,501~3,000g」は「妊娠中に喫煙していた人」で41.2%と高くなっている。「3,001~3,500g」は「妊娠中、途中でやめた人」で54.5%と高くなっている。

妊娠中の飲酒別で見ると、「3,501~4,000g」は「飲酒していた人」（14.3%）が「飲酒していなかった人」（10.2%）より4.1ポイント高くなっている。

(9-1) 出生時の子どもの身長

問30 出生時のお子さんの体重と身長はどのくらいでしたか。数字を記入してください。

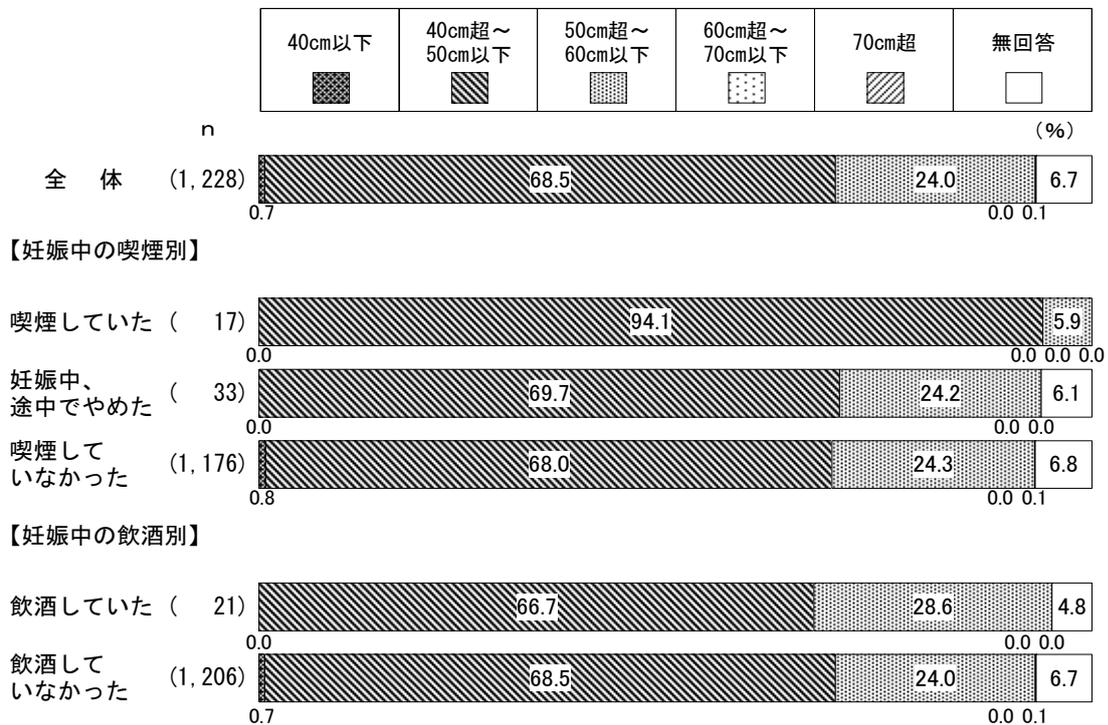
図表3-9-3 出生時の子どもの身長（経年比較）



出生時の子どもの身長を聞いたところ、「40cm超～50cm以下」が68.5%で最も高く、次いで「50cm超～60cm以下」（24.0%）となっている。

過去の調査と比較すると、「40cm超～50cm以下」は平成24年度より3.1ポイント減少している。

図表3-9-4 出生時の子どもの身長（妊娠中の喫煙別、妊娠中の飲酒別）



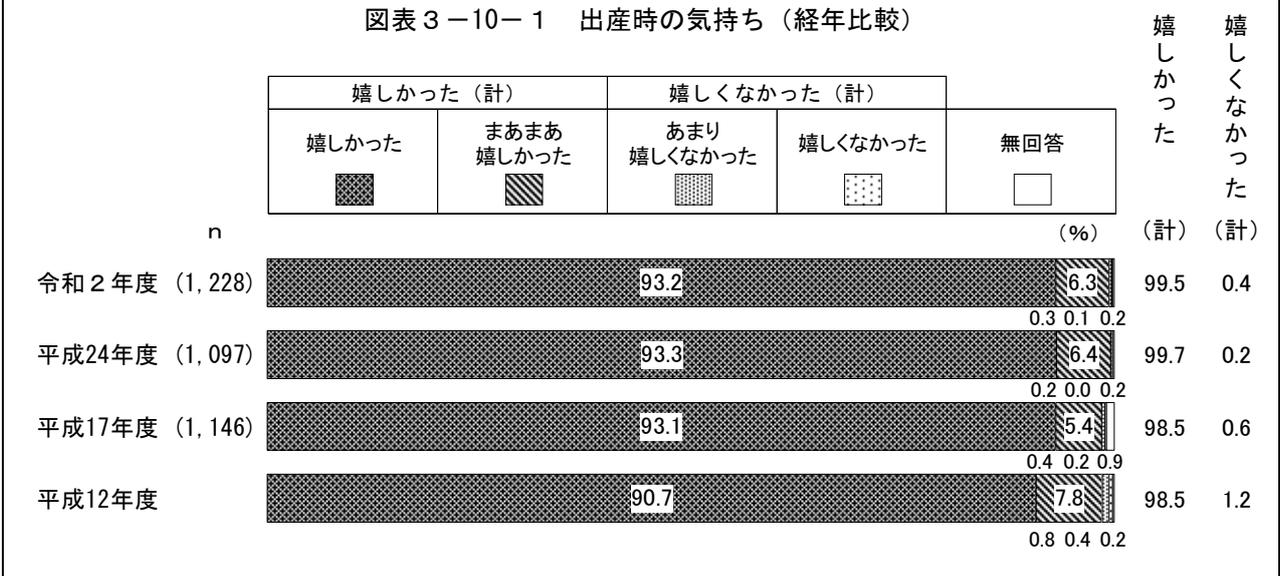
妊娠中の喫煙別で見ると、「40cm超～50cm以下」は“妊娠中に喫煙していた人”で94.1%と高くなっている。

妊娠中の飲酒別で見ると、「50cm超～60cm以下」は“飲酒していた人”（28.6%）が“飲酒していなかった人”（24.0%）より4.6ポイント高くなっている。

(10) 出産時の気持ち

問31 出産し、お子さんの顔を見たときに嬉しいと感じましたか。

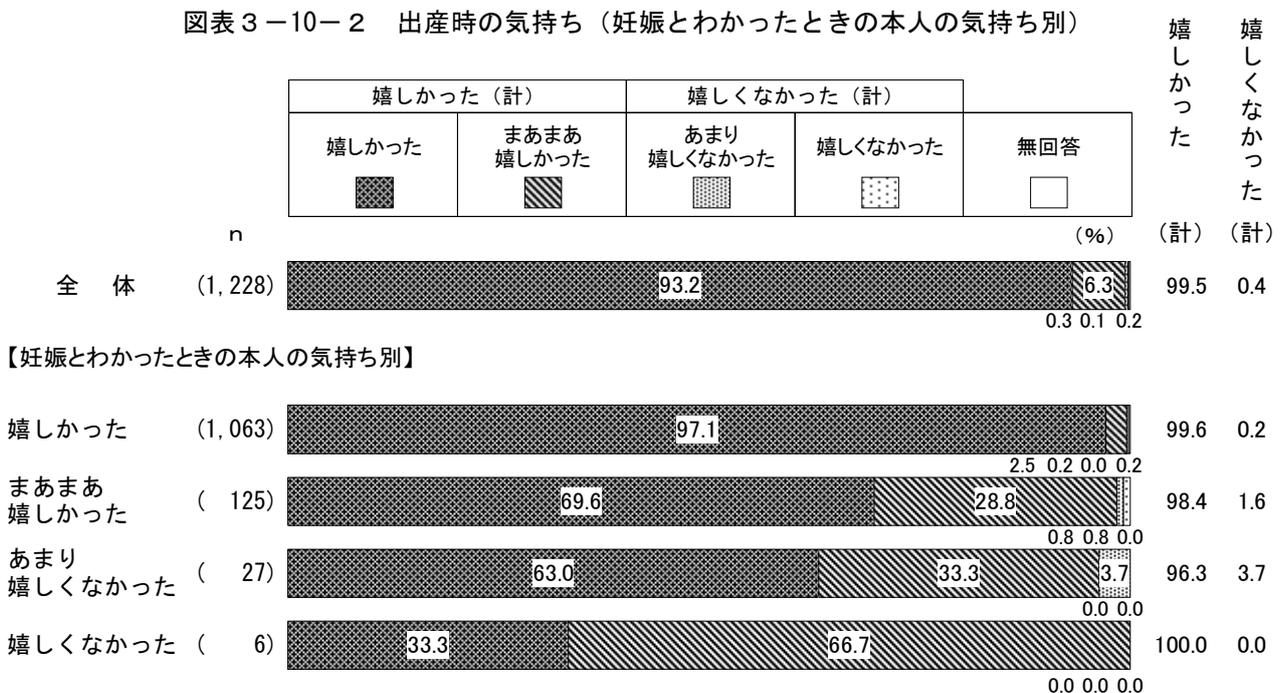
図表 3-10-1 出産時の気持ち（経年比較）



出産時の気持ちについて聞いたところ、「嬉しかった」が93.2%で最も高く、これに「まあまあ嬉しかった」（6.3%）を合わせた『嬉しかった（計）』は99.5%となっている。一方、「あまり嬉しくなかった」（0.3%）と「嬉しくなかった」（0.1%）を合わせた『嬉しくなかった（計）』は0.4%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 3-10-2 出産時の気持ち（妊娠とわかったときの本人の気持ち別）

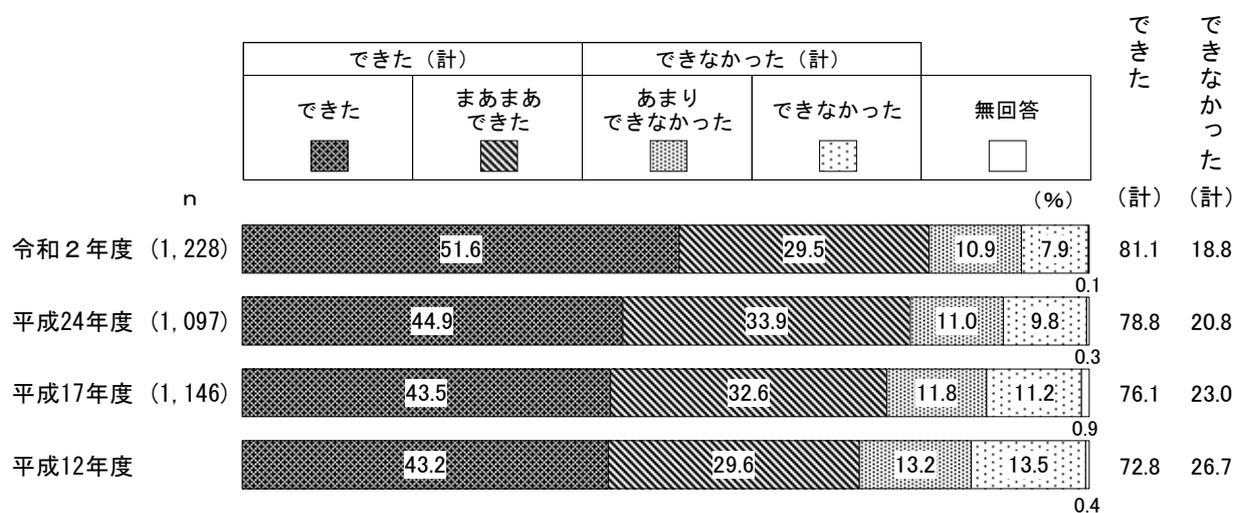


妊娠とわかったときの本人の気持ち別でみると、「嬉しかった」は妊娠とわかったときの嬉しさが強いほど割合が高く、“妊娠とわかったときに嬉しかった人”で97.1%と高くなっている。

(11) 出産の満足度

問32 自分の希望した（満足な）出産ができましたか。

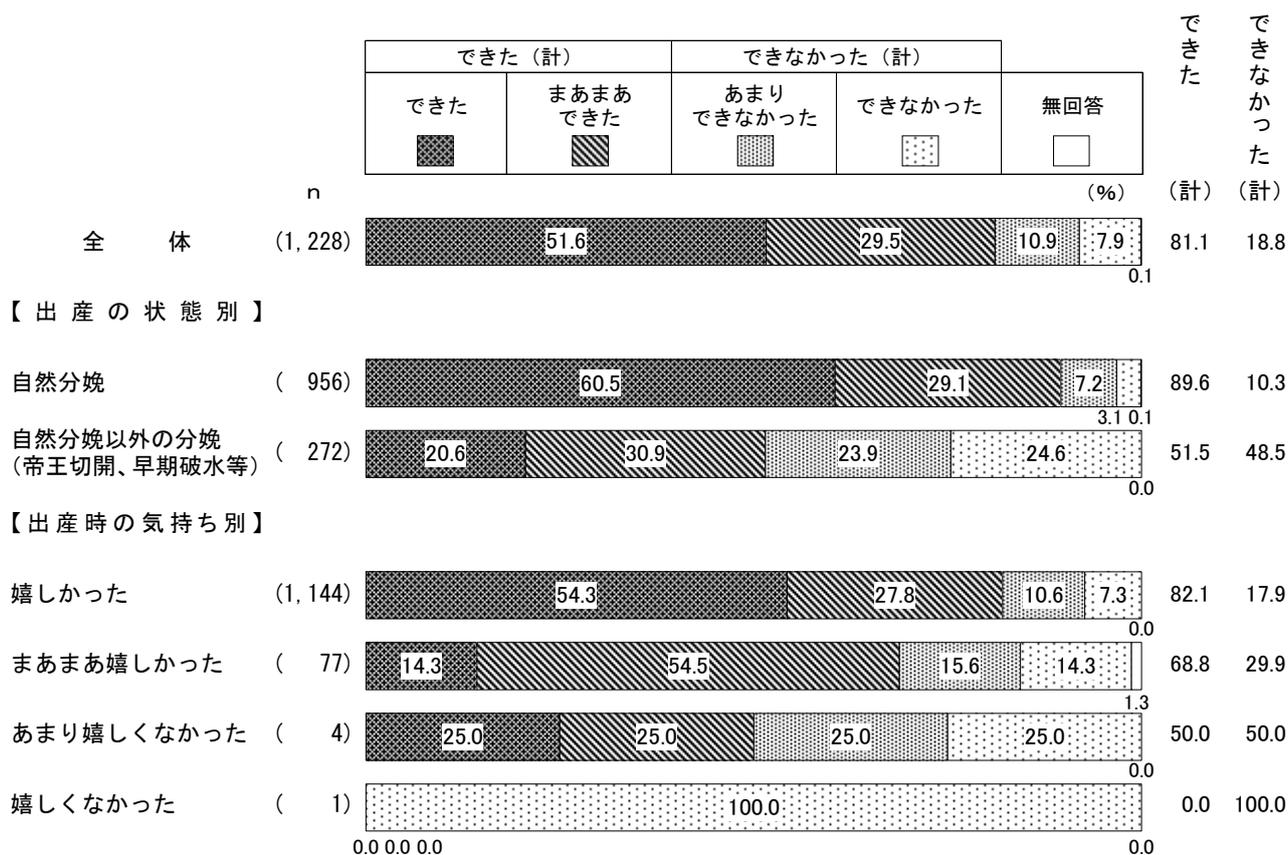
図表3-11-1 出産の満足度（経年比較）



自分の希望した（満足な）出産ができたか聞いたところ、「できた」が51.6%で最も高く、これに「まあまあできた」（29.5%）を合わせた『できた（計）』は81.1%となっている。一方、「あまりできなかった」（10.9%）と「できなかった」（7.9%）を合わせた『できなかった（計）』は18.8%となっている。

過去の調査と比較すると、「できた」は平成24年度より6.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表3-11-2 出産の満足度（出産の状態別、出産時の気持ち別）



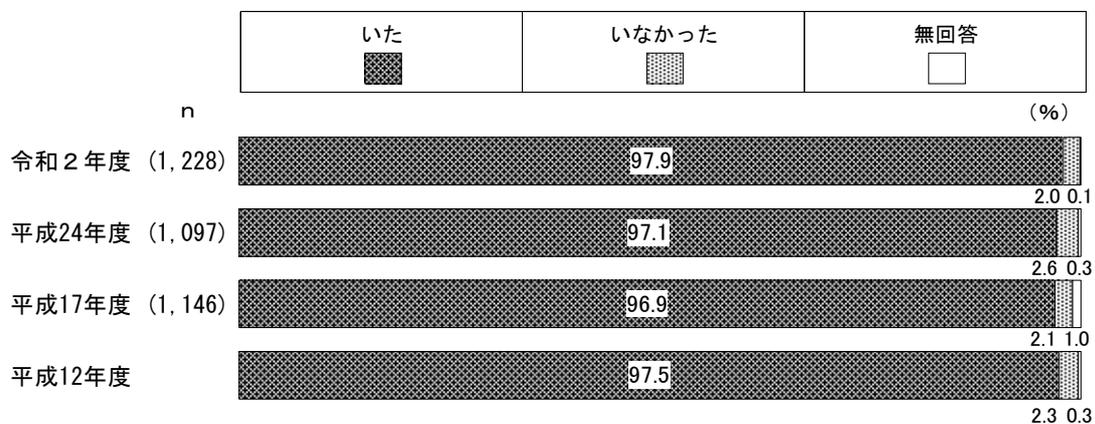
出産の状態別で見ると、『できた（計）』は“自然分娩”（89.6%）が“自然分娩以外の分娩（帝王切開、早期破水等）”（51.5%）より38.1ポイント高くなっている。

出産時の気持ち別で見ると、『できた（計）』は嬉しい気持ちが強いほど割合が高く、“出産時に嬉しかった人”で82.1%と高くなっている。

(12) 産後の協力者の有無

問33 産後1か月頃までの時期に協力してくれた人はいましたか。

図表3-12-1 産後の協力者の有無（経年比較）



産後の協力者の有無を聞いたところ、「いた」が97.9%、「いなかった」は2.0%となっている。

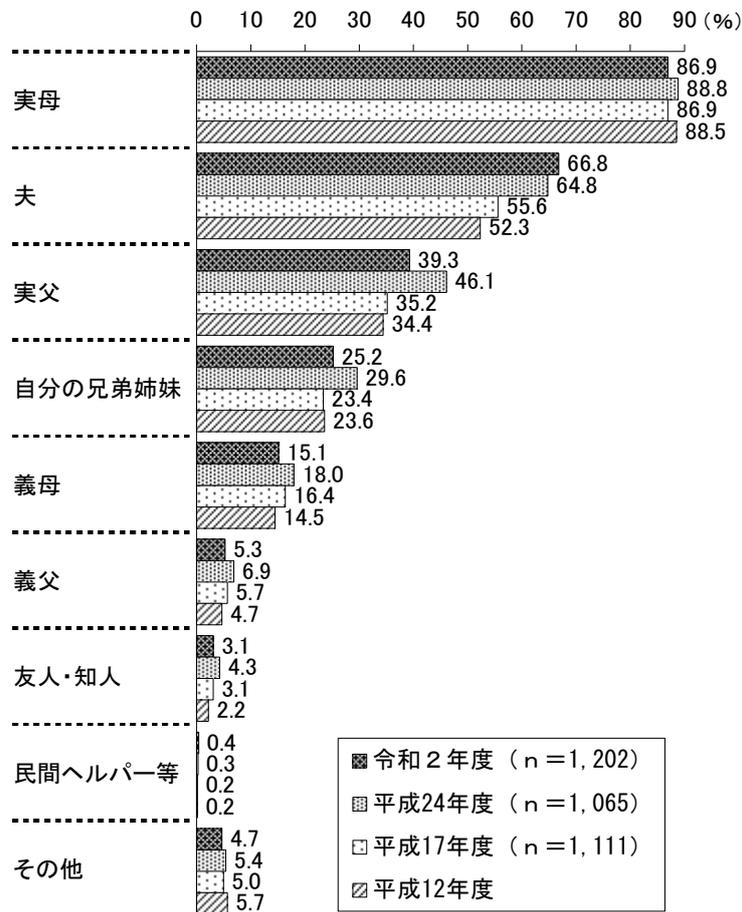
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(13) 産後の協力者

問33で「いた」と答えた方へ

問33-1 誰が協力してくれましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表3-13-1 産後の協力者（経年比較）〔複数回答〕



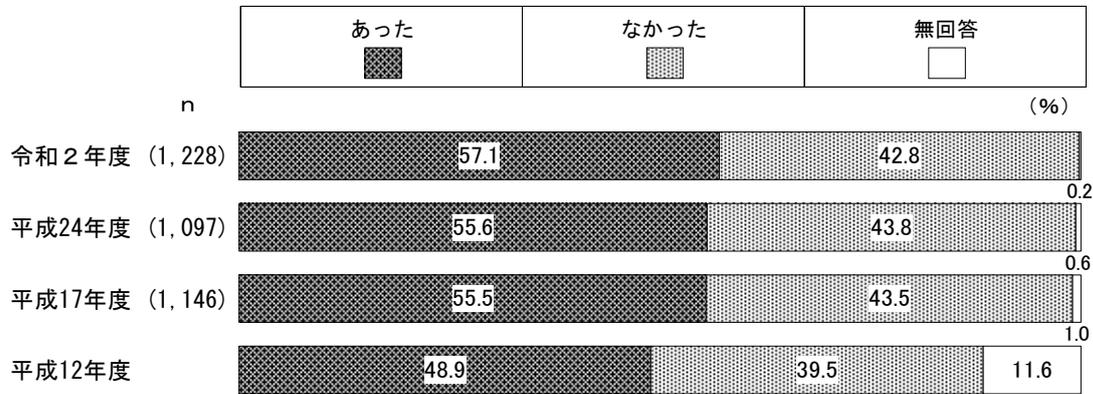
産後の協力者が「いた」と答えた人(1,202人)に、誰が協力してくれたか聞いたところ、「実母」が86.9%で最も高く、次いで「夫」(66.8%)、「実父」(39.3%)、「自分の兄弟姉妹」(25.2%)となっている。

過去の調査と比較すると、「実父」は平成24年度より6.8ポイント、「自分の兄弟姉妹」は平成24年度より4.4ポイント、それぞれ減少している。

(14) 産後の抑うつ状態の有無

問34 産後3か月くらいの中に、気分が沈んだり涙もろくなったり、何もする気になれないということがありましたか。

図表3-14-1 産後の抑うつ状態の有無（経年比較）

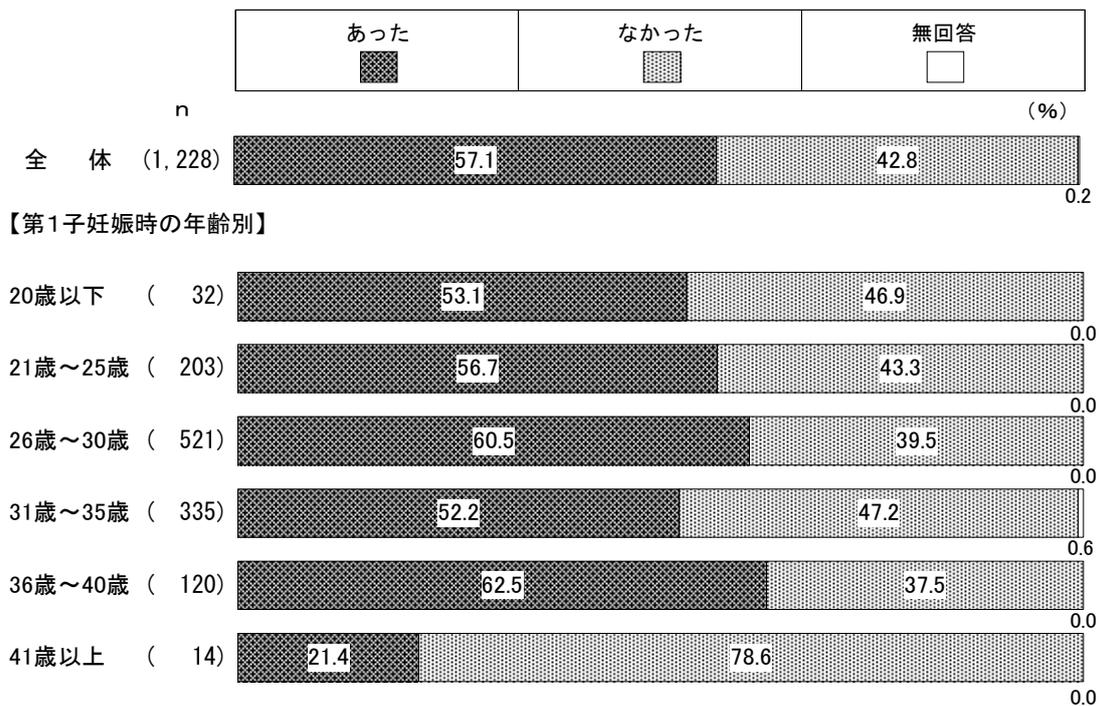


※平成12年度は「わからない(11.4%)」があり、その値は「無回答」に含めて表記している

産後の抑うつ状態の有無を聞いたところ、「あった」が57.1%、「なかった」は42.8%となっている。

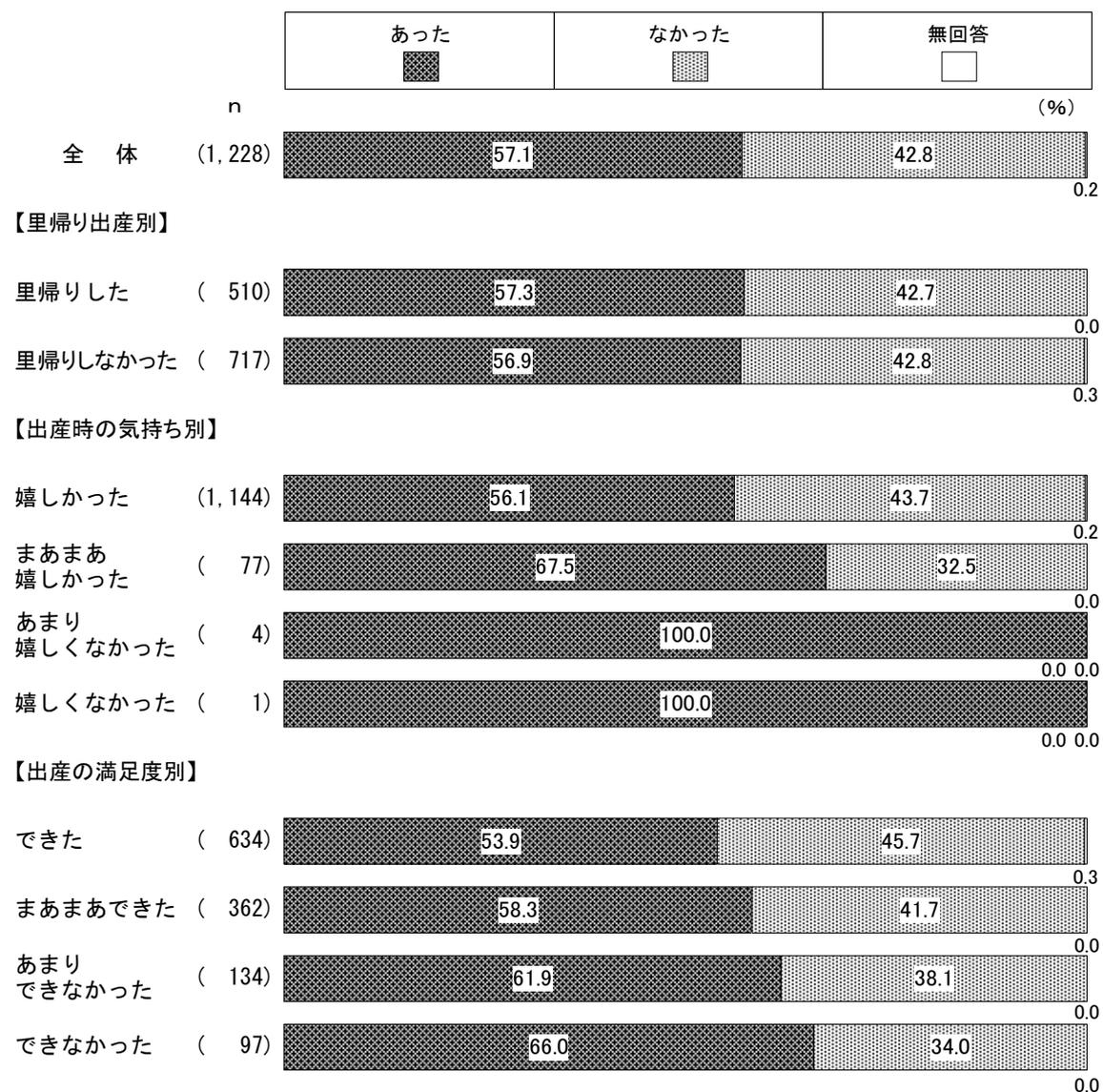
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表3-14-2 産後の抑うつ状態の有無（居住地域別、第1子妊娠時の年齢別）



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「あった」は“36歳~40歳”で62.5%、“26歳~30歳”で60.5%と高くなっている。一方、「なかった」は“41歳以上”で78.6%と高くなっている。

図表3-14-3 産後の抑うつ状態の有無（里帰り出産別、出産時の気持ち別、出産の満足度別）

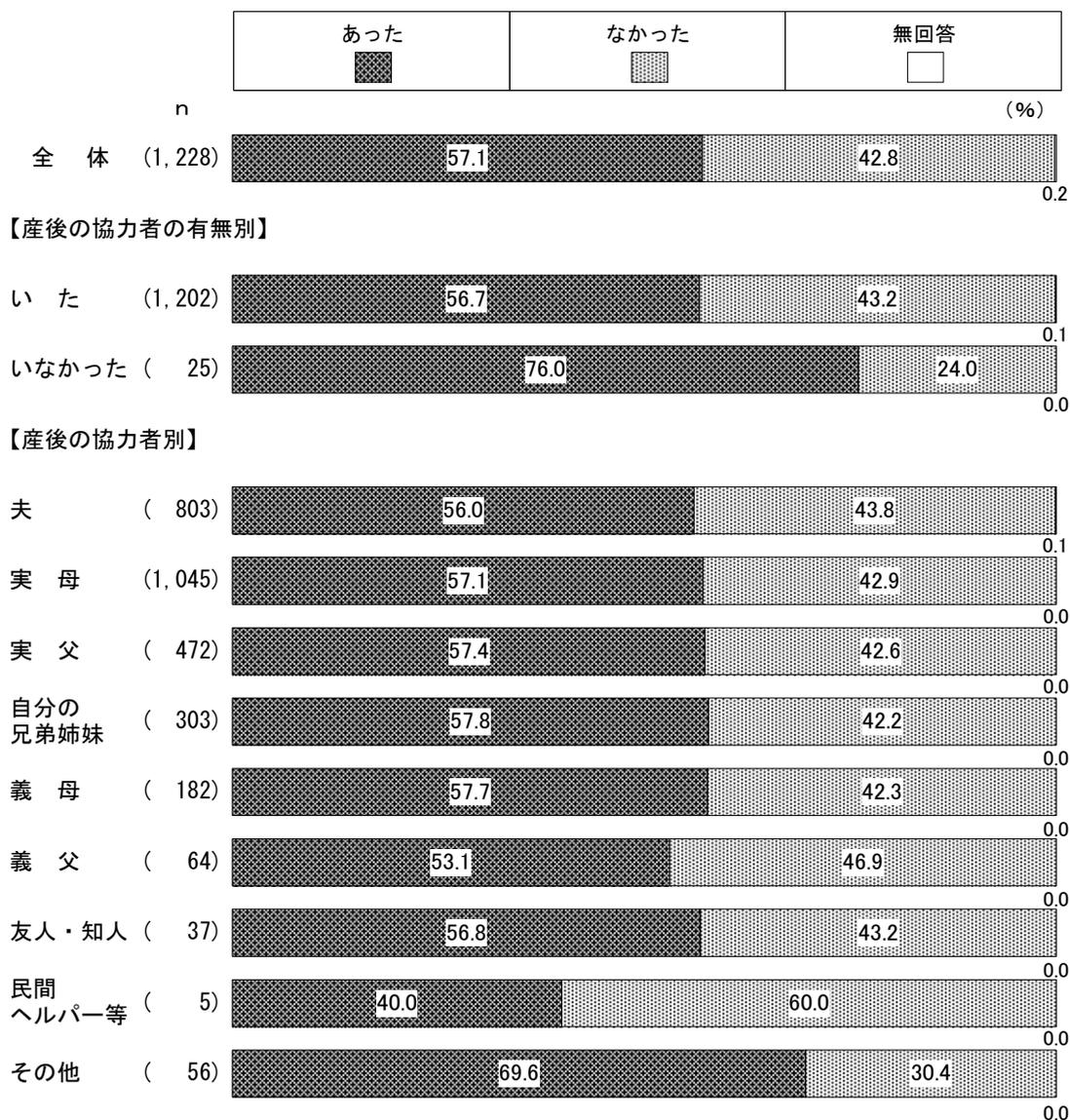


里帰り出産別で見ると、大きな違いはみられない。

出産時の気持ち別で見ると、「なかった」は“嬉しかった人”で43.7%と高くなっている。

出産の満足度別で見ると、「あった」は出産の満足度が低くなるほど割合が高く、“満足できなかった人”で66.0%と高くなっている。一方、「なかった」は出産の満足度が高くなるほど割合が高く、“満足できた人”で45.7%と高くなっている。

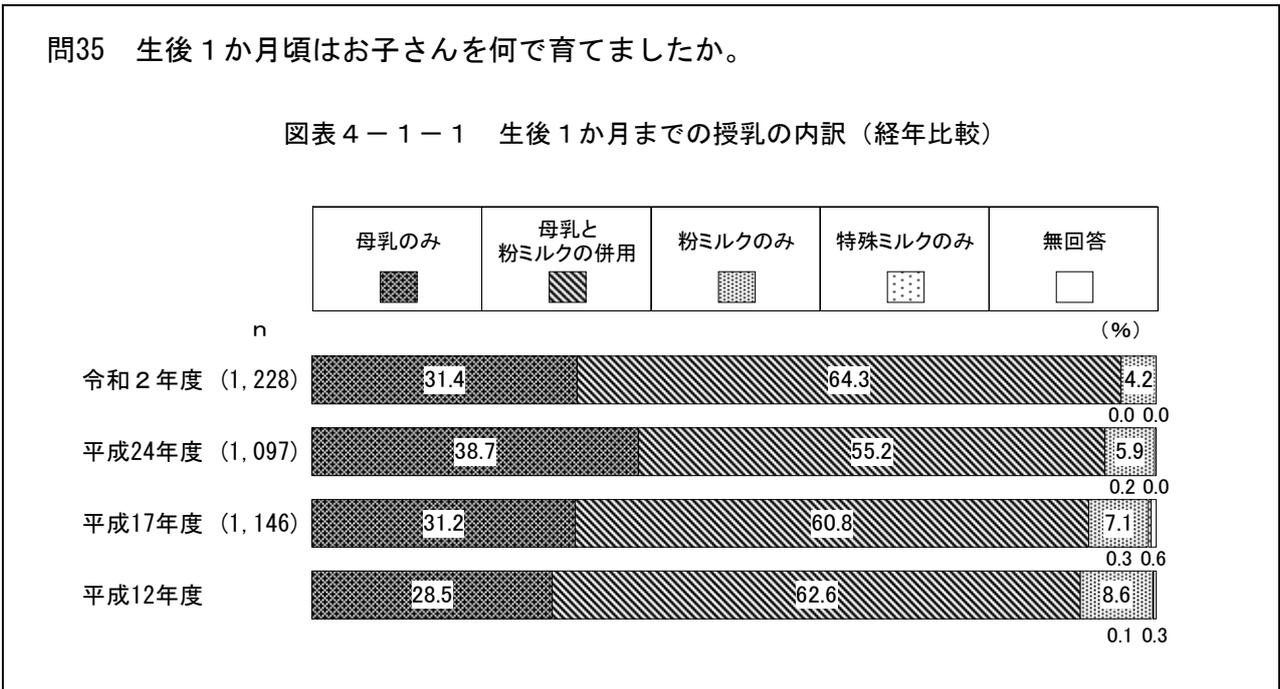
図表3-14-4 産後の抑うつ状態の有無（産後の協力者の有無別、産後の協力者別）



産後の協力者の有無別で見ると、「あった」は“協力者がいなかった人”（76.0%）が“協力者がいた人”（56.7%）より19.3ポイント高くなっている。

4. 第1子の育児について

(1) 生後1か月までの授乳の内訳



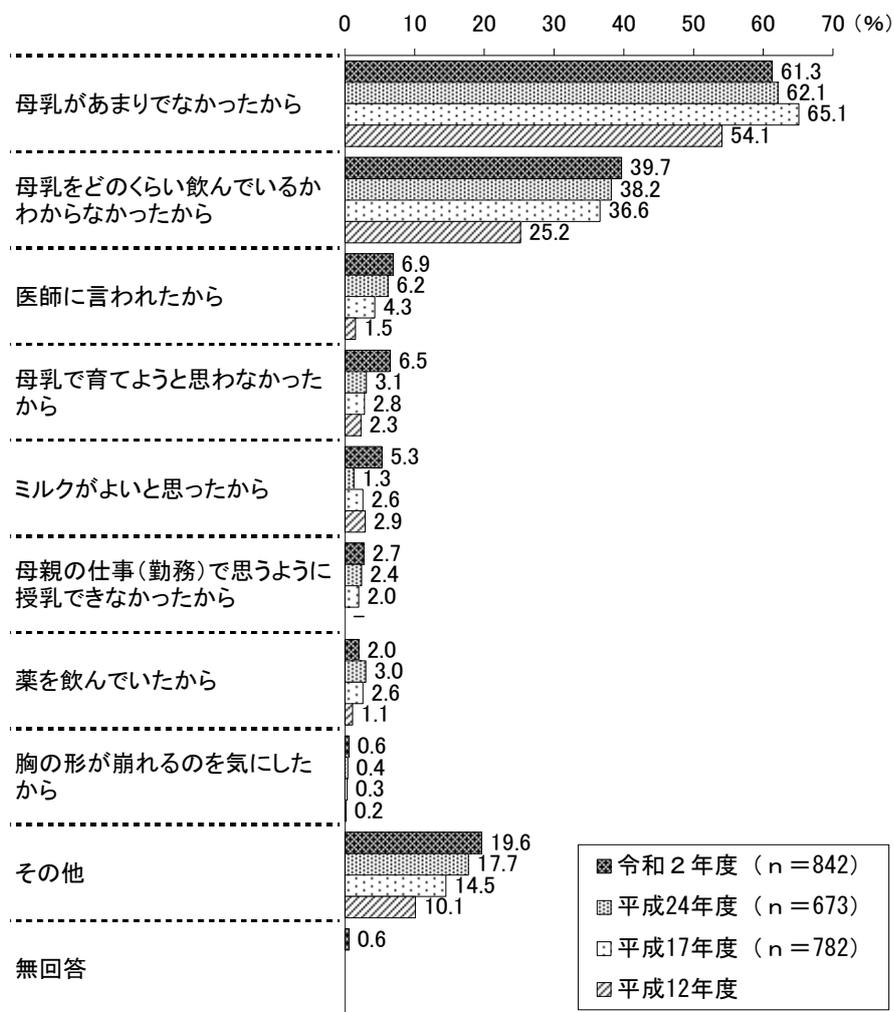
生後1か月までの授乳について聞いたところ、「母乳のみ」が31.4%、「母乳と粉ミルクの併用」は64.3%、「粉ミルクのみ」は4.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「母乳と粉ミルクの併用」は平成24年度より9.1ポイント増加している。一方、「母乳のみ」は平成24年度より7.3ポイント減少している。

(2) 母乳のみにしなかった理由

問35で「母乳と粉ミルクの併用」「粉ミルクのみ」「特殊ミルクのみ」と答えた方へ
問35-1 母乳のみにしなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表4-2-1 母乳のみにしなかった理由（経年比較）[複数回答]



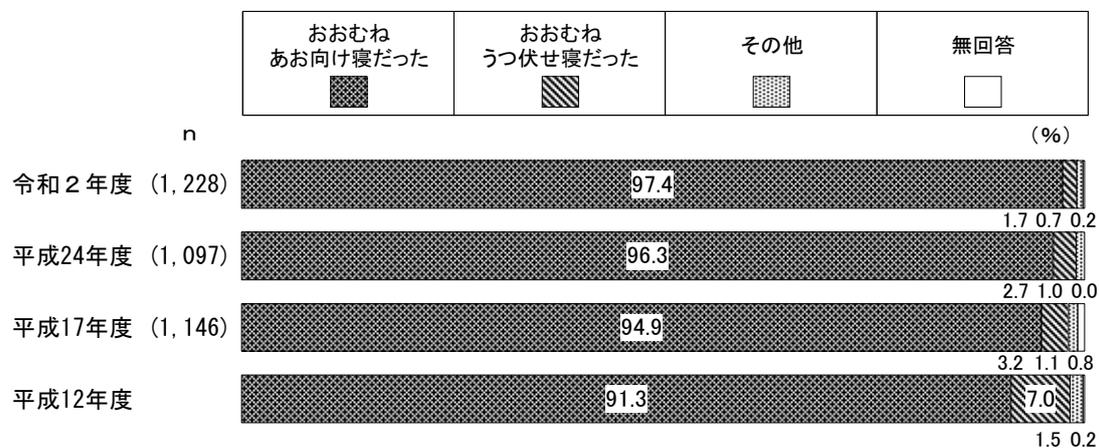
生後1か月までの授乳について、「母乳と粉ミルクの併用」「粉ミルクのみ」「特殊ミルクのみ」と答えた人(842人)に、母乳のみにしなかった理由を聞いたところ、「母乳があまりでなかったから」が61.3%で最も高く、次いで「母乳をどのくらい飲んでいるかわからなかったから」(39.7%)、「医師に言われたから」(6.9%)、「母乳で育てようと思わなかったから」(6.5%)となっている。

過去の調査と比較すると、「ミルクがよいと思ったから」は平成24年度より4.0ポイント、「母乳で育てようと思わなかったから」は平成24年度より3.4ポイント、それぞれ増加している。

(3) 子どもの寝かせ方

問36 お子さんが生まれてからの寝かせ方はどうでしたか。

図表4-3-1 子どもの寝かせ方（経年比較）



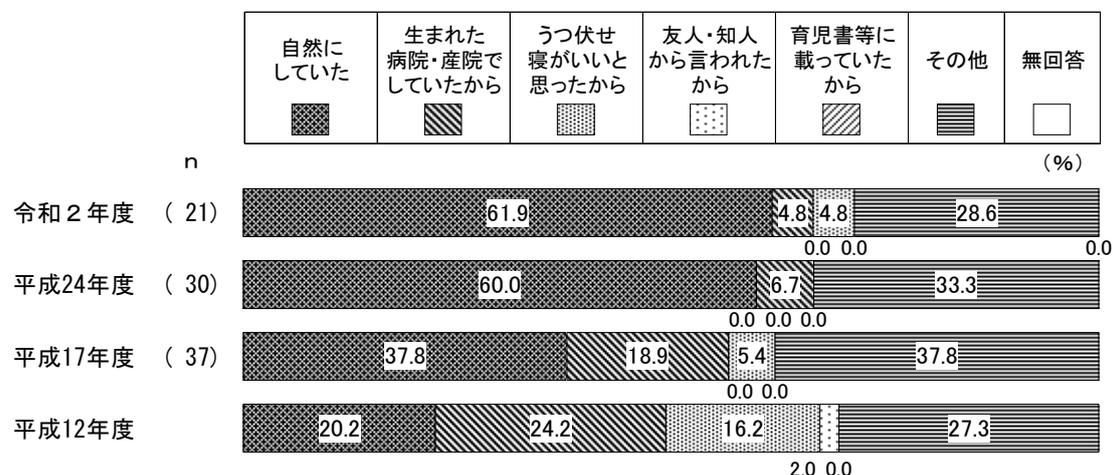
子どもの寝かせ方を聞いたところ、「おむねあお向け寝だった」が97.4%、「おむねうつ伏せ寝だった」は1.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「おむねあお向け寝だった」は平成12年度以降増加傾向にある。

(4) うつ伏せ寝にした理由

問36で「おおむねうつ伏せ寝だった」と答えた方へ
問36-1 どのような理由でそうしましたか。

図表4-4-1 うつ伏せ寝にした理由（経年比較）



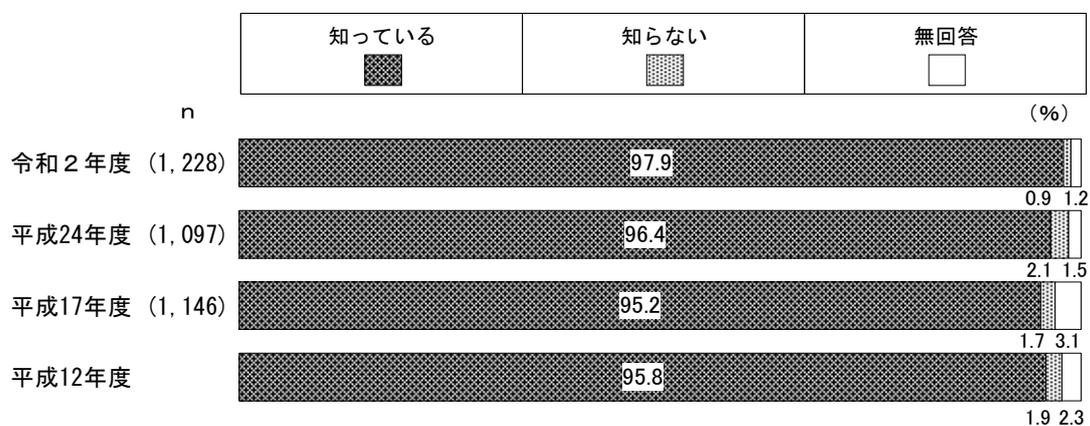
子どもの寝かせ方が「おおむねうつ伏せ寝だった」と答えた人（21人）に、その理由を聞いたところ、「自然にしていた」が61.9%で最も高く、次いで「生まれた病院・産院でしていたから」と「うつ伏せ寝がいいと思ったから」（ともに4.8%）となっている。

過去の調査と比較すると、「自然にしていた」は平成12年度以降増加傾向にある。「うつ伏せ寝がいいと思ったから」は平成24年度より4.8ポイント増加している。

(5) 乳幼児突然死症候群（SIDS）の知識

問37 うつ伏せ寝が乳幼児突然死症候群（SIDS）の危険因子のひとつといわれていることを知っていますか。

図表4-5-1 乳幼児突然死症候群（SIDS）の知識（経年比較）



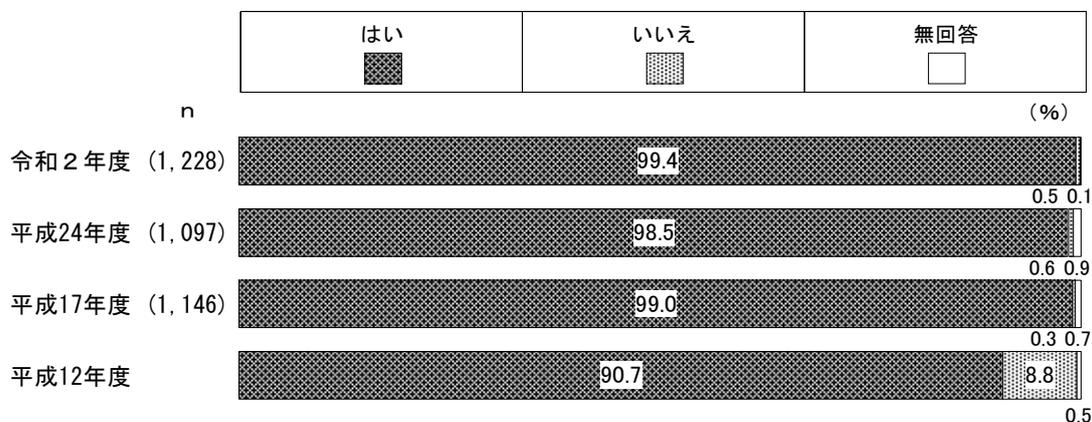
うつ伏せ寝が乳幼児突然死症候群（SIDS）の危険因子のひとつといわれていることを知っているか聞いたところ、「知っている」が97.9%、「知らない」は0.9%となっている。

過去の調査と比較すると、「知っている」は平成17年度以降増加傾向にある。

(6) BCG接種

問38 BCG接種を受けましたか。

図表4-6-1 BCG接種（経年比較）



※平成12年度は「わからない(0.1%)」があり、その値は「無回答」に含めて表記している

BCG接種を受けたか聞いたところ、「はい」が99.4%、「いいえ」は0.5%となっている。

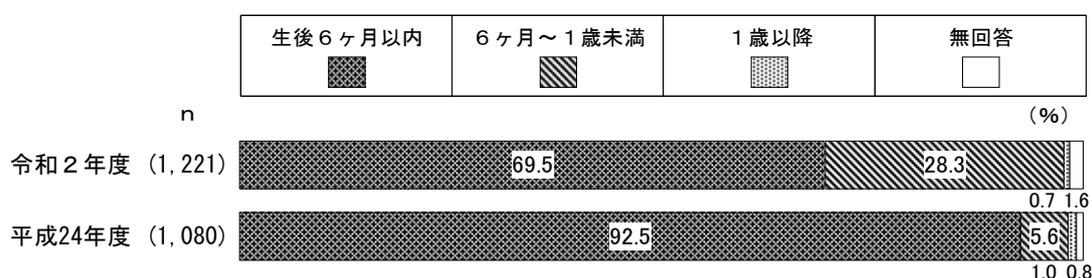
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(7) BCG接種時期

問38で「はい」と答えた方へ

問38-1 接種したのはいつごろですか。

図表4-7-1 BCG接種時期（経年比較）



BCG接種を「受けた」と答えた人(1,221人)に、接種したのはいつごろか聞いたところ、「生後6ヶ月以内」が69.5%で最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」(28.3%)、「1歳以降」(0.7%)となっている。

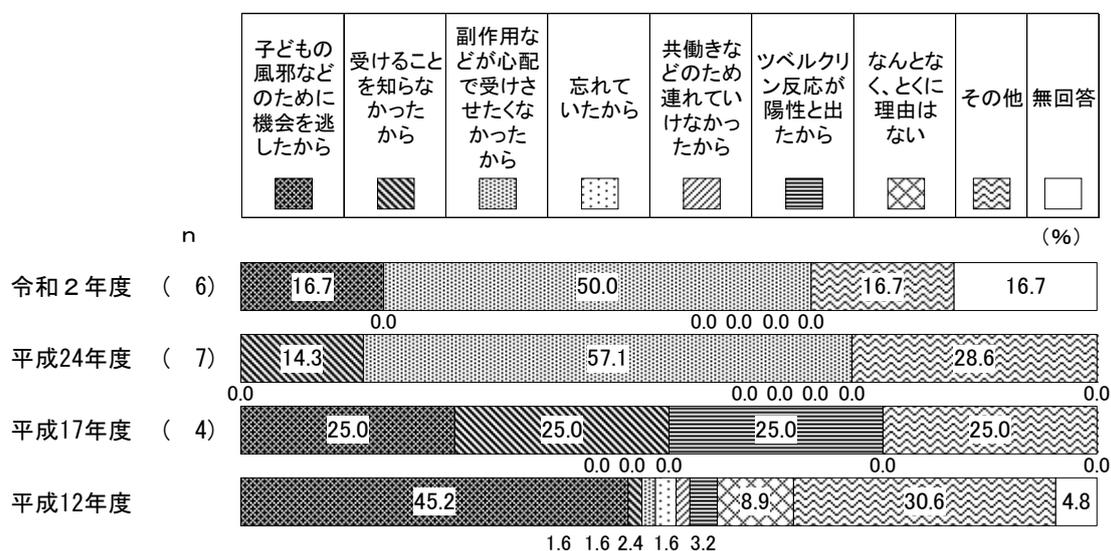
過去の調査と比較すると、「6ヶ月～1歳未満」は平成24年度より22.7ポイント増加している。一方、「生後6ヶ月以内」は平成24年度より23.0ポイント減少している。

(8) BCG接種を受けなかった理由

問38で「いいえ」と答えた方へ

問38-2 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

図表4-8-1 BCG接種を受けなかった理由（経年比較）



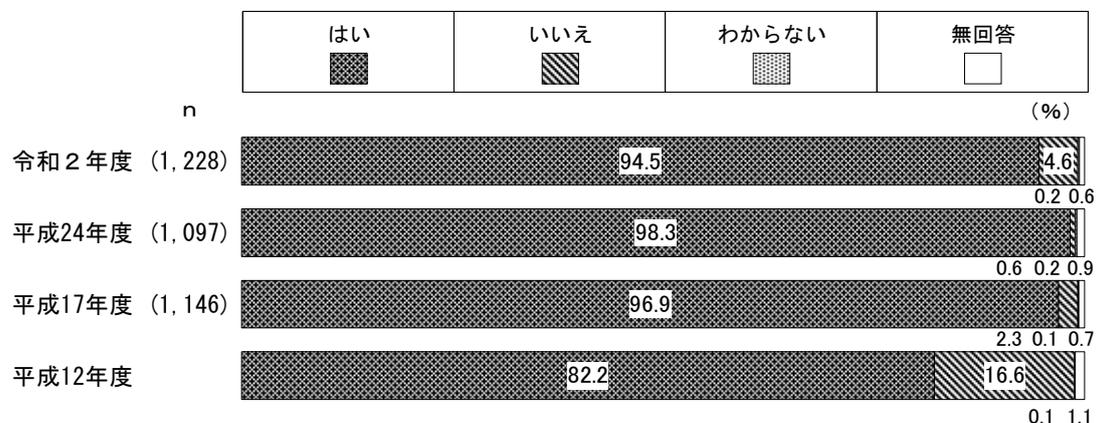
BCG接種を「受けなかった」と答えた人（6人）に、受けなかった理由を聞いたところ、「副作用などが心配で受けさせたくないから」が50.0%で最も高く、次いで「子どもの風邪などのために機会を逃したから」（16.7%）となっている。

過去の調査との比較は、基数が少ないため参考に図示する。

(9) 四種混合接種

問39 四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ）の1期の4回を受けましたか。

図表4-9-1 四種混合接種（経年比較）



※平成24年度以前の設問では、「三種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風）の1期の3回を受けましたか。」としていた

四種混合の1期の4回を受けたか聞いたところ、「はい」が94.5%、「いいえ」は4.6%となっている。

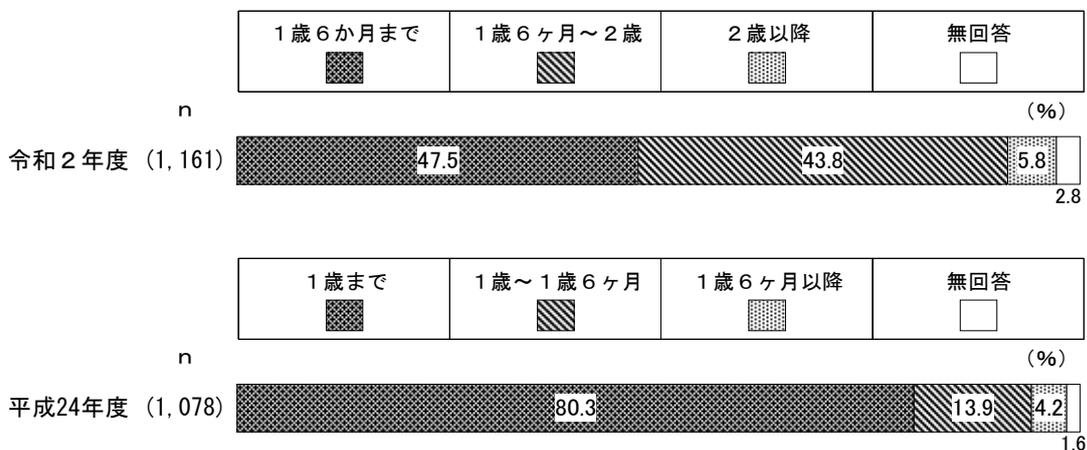
過去の調査との比較は、設問文が異なるため参考に図示する。

(10) 四種混合接種が済んだ時期

問39で「はい」と答えた方へ

問39-1 1期4回が済んだのはいつですか。

図表4-10-1 四種混合接種が済んだ時期（経年比較）



※平成24年度の設問では、「1期3回が済んだのはいつですか。」としていた

四種混合の1期の4回を「受けた」と答えた人(1,161人)に、1期4回が済んだのはいつか聞いたところ、「1歳6か月まで」が47.5%で最も高く、次いで「1歳6ヶ月～2歳」(43.8%)、「2歳以降」(5.8%)となっている。

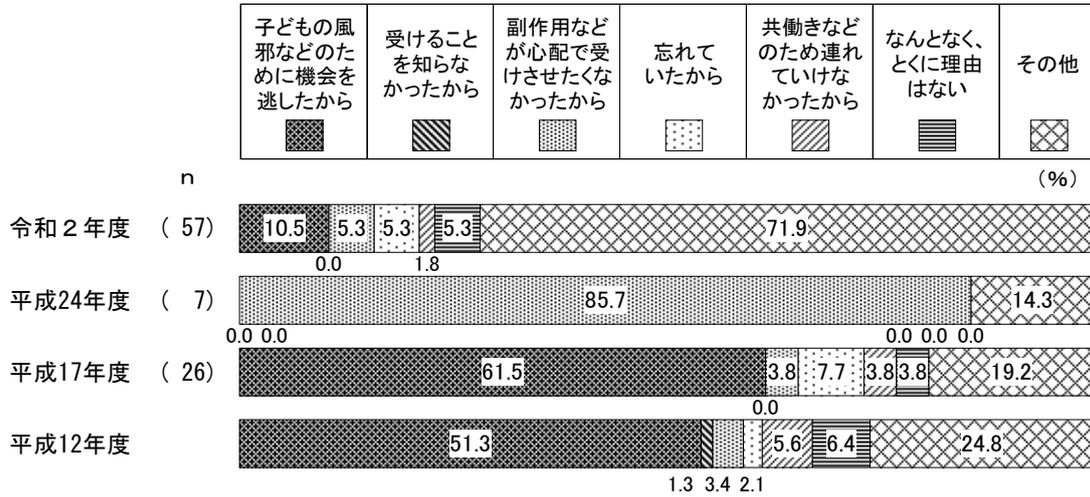
過去の調査との比較は、設問文や選択肢が異なるため参考に図示する。

(11) 四種混合接種を受けなかった理由

問39で「いいえ」と答えた方へ

問39-2 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

図表4-11-1 四種混合接種を受けなかった理由（経年比較）



四種混合の1期の4回を「受けなかった」と答えた人（57人）に、受けなかった理由を聞いたところ、「子どもの風邪などのために機会を逃したから」が10.5%で最も高くなっている。

過去の調査との比較は、基数が少ないため参考に図示する。

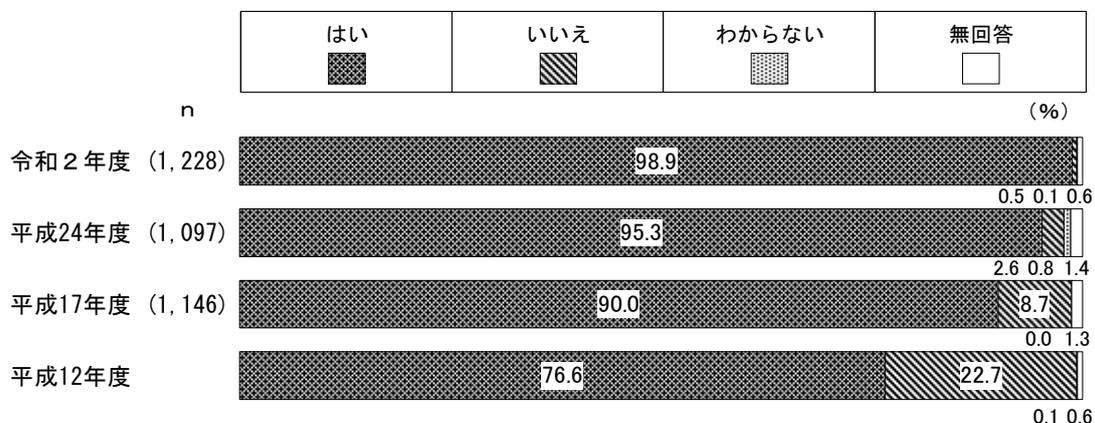
※令和2年度「その他」の主な理由

『三種混合+ポリオを受けた』『これから4回目を受ける予定』

(12) 麻しん・風しん（MR）の接種

問40 麻しん・風しん（MR）の予防接種を受けましたか。

図表4-12-1 麻しん・風しん（MR）の接種（経年比較）



※平成24年度以前の設問では、「麻しん（はしか）の予防接種を受けましたか。」としていた

麻しん・風しん（MR）の予防接種を受けたか聞いたところ、「はい」が98.9%、「いいえ」は0.5%となっている。

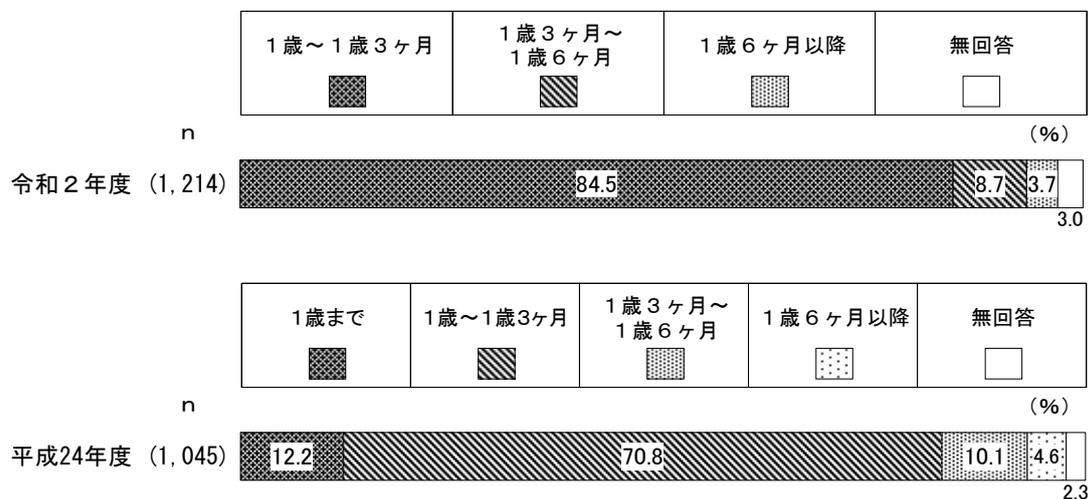
過去の調査との比較は、設問文が異なるため参考に図示する。

(13) 麻しん・風しん（MR）の接種時期

問40で「はい」と答えた方へ

問40-1 接種したのはいつですか。

図表 4-13-1 麻しん・風しん（MR）の接種時期（経年比較）



麻しん・風しん（MR）の予防接種を「受けた」と答えた人（1,214人）に、接種したのはいつか聞いたところ、「1歳～1歳3ヶ月」が84.5%で最も高く、次いで「1歳3ヶ月～1歳6ヶ月」（8.7%）、「1歳6ヶ月以降」（3.7%）となっている。

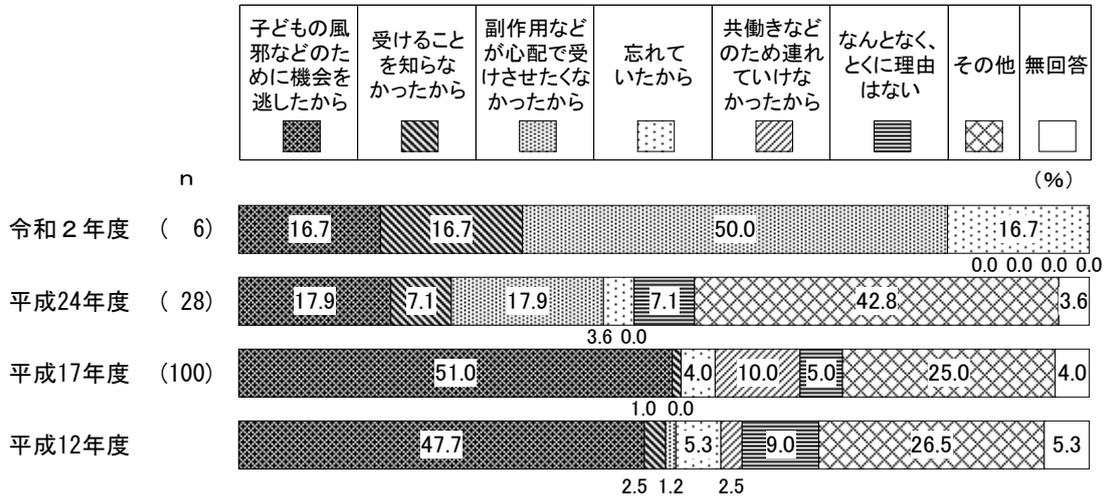
過去の調査との比較は、設問文や選択肢が異なるため参考に図示する。

(14) 麻しん・風しん（MR）の接種を受けなかった理由

問40で「いいえ」と答えた方へ

問40-2 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

図表4-14-1 麻しん・風しん（MR）の接種を受けなかった理由（経年比較）



※平成24年度以前は「受ける前に麻疹（はしか）にかかってしまったから（平成24年度：7.1%、平成17年度：6.0%、平成12年度：8.1%）」があり、その値は「その他」に含めて表記している

麻しん・風しん（MR）の接種を「受けなかった」と答えた人（6人）に、受けなかった理由を聞いたところ、「副作用などが心配で受けさせられなかったから」が50.0%で最も高くなっている。

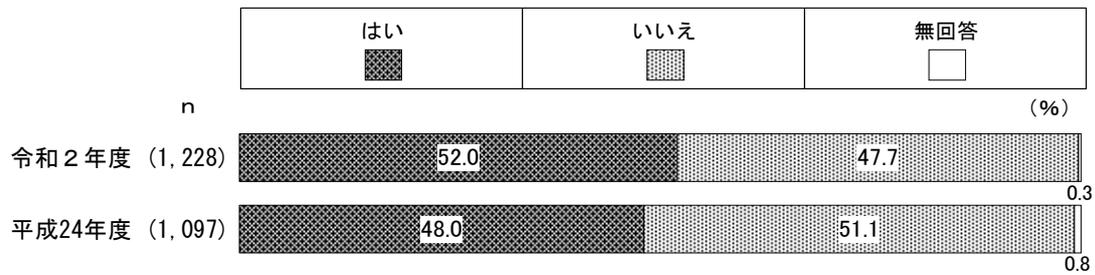
過去の調査との比較は、基数が少ないため参考に図示する。

5. 子どもの事故予防等について

(1) 事故による死亡が多い事実の認知

問41 1歳から14歳までの子どもは、病気で亡くなるよりも事故で亡くなる子どもの方が多いことを知っていましたか。

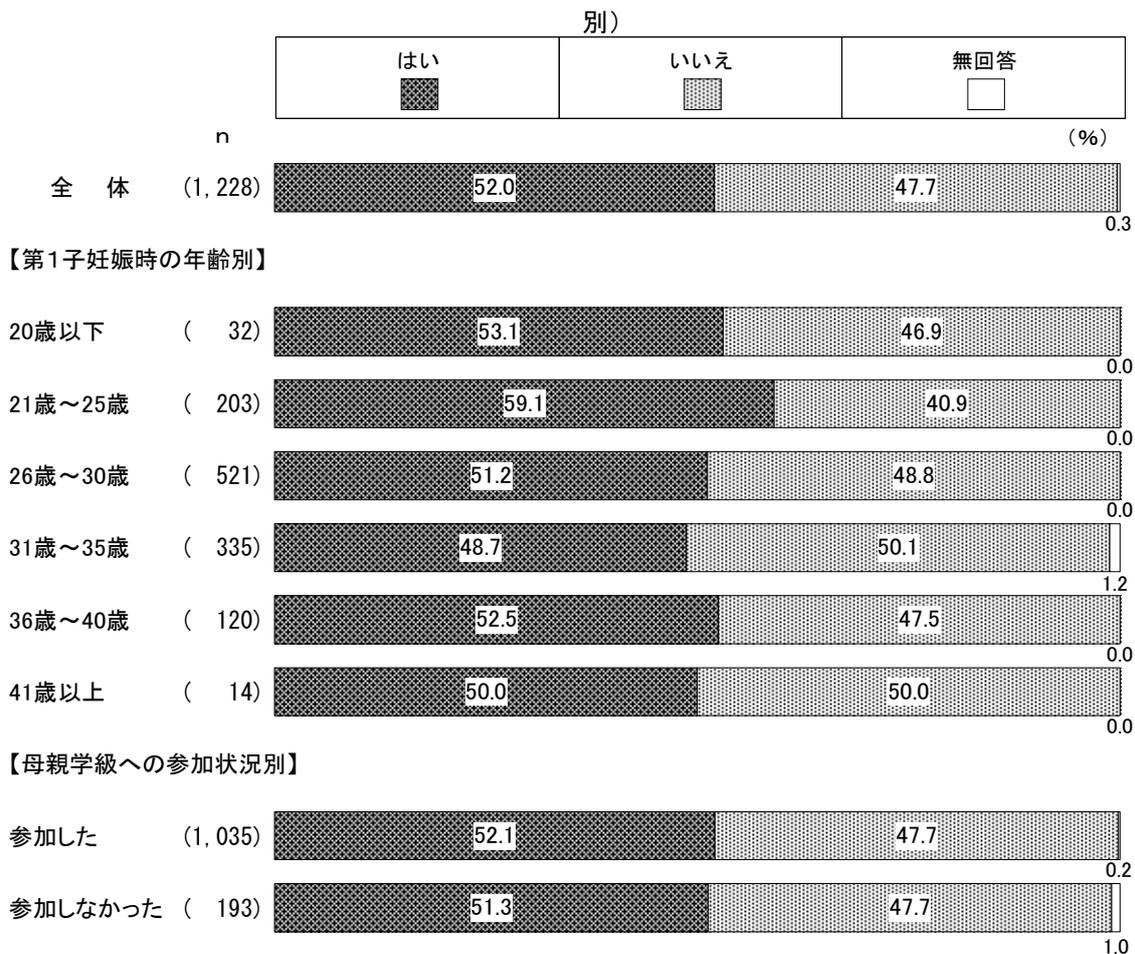
図表5-1-1 事故による死亡が多い事実の認知（経年比較）



子どもは事故による死亡が多い事実について知っていたか聞いたところ、「はい」が52.0%、「いいえ」は47.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成24年度より4.0ポイント増加している。

図表5-1-2 事故による死亡が多い事実の認知（第1子妊娠時の年齢別、母親学級への参加状況別）



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「はい」は“21歳～25歳”で59.1%と高くなっている。

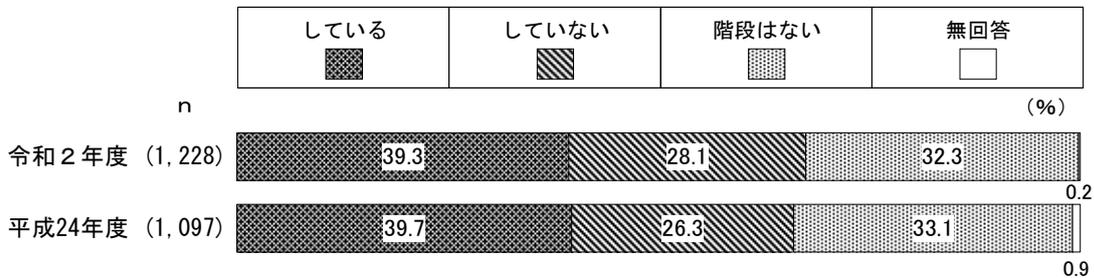
母親学級への参加状況別で見ると、大きな違いはみられない。

(2) 階段から落ちない工夫

問42 家庭内での子どもの事故やけがの防止のための工夫についておうかがいします。

① 階段などから子どもが落ちないように柵などをつけている

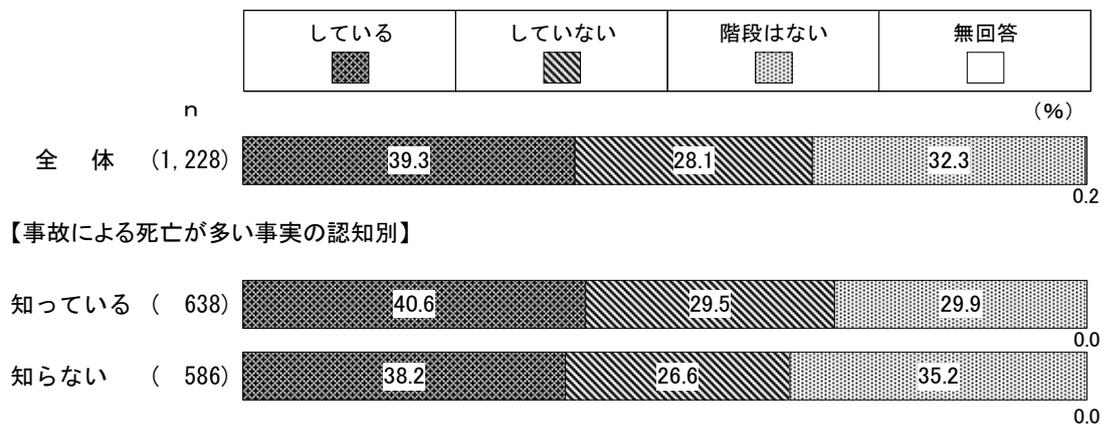
図表5-2-1 階段から落ちない工夫（経年比較）



階段などから子どもが落ちないように柵などをつけているか聞いたところ、「している」が39.3%、「していない」は28.1%となっている。また、「階段はない」は32.3%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表5-2-2 階段から落ちない工夫（事故による死亡が多い事実の認知別）



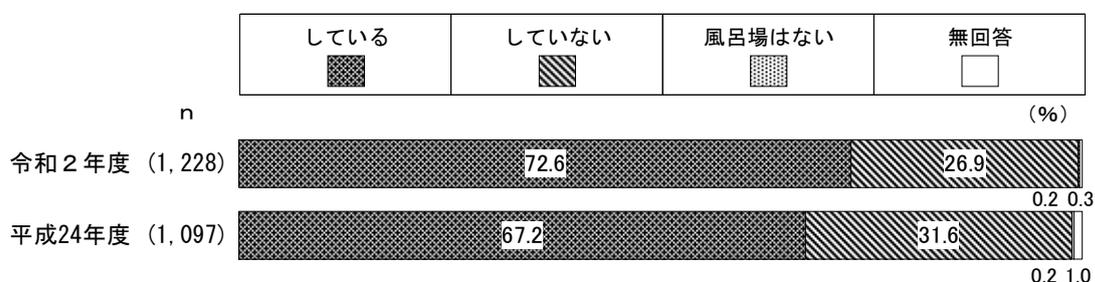
事故による死亡が多い事実の認知別で見ると、大きな違いはみられない。

(3) 浴槽に落ちない工夫

問42 家庭内での子どもの事故やけがの防止のための工夫についておうかがいします。

② 水を張った浴槽に子どもが落ちないように工夫している

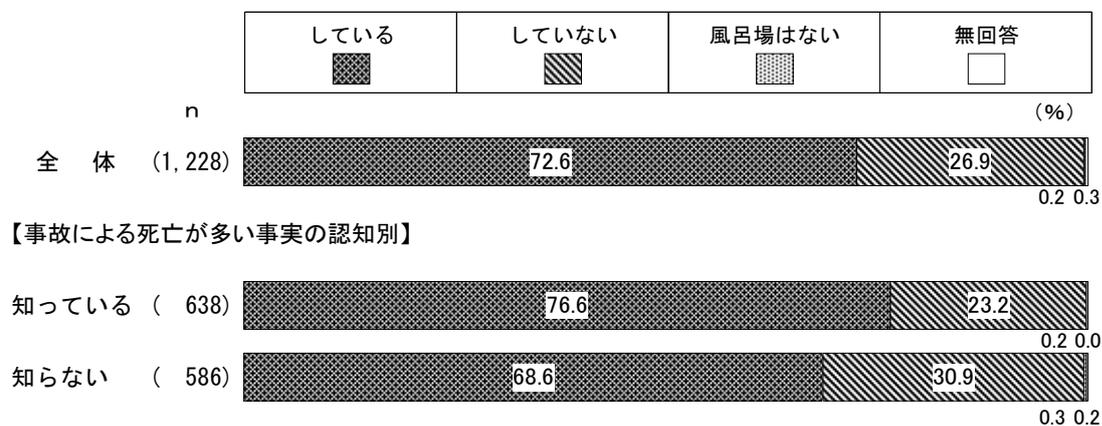
図表5-3-1 浴槽に落ちない工夫（経年比較）



水を張った浴槽に子どもが落ちないように工夫しているか聞いたところ、「している」が72.6%、「していない」は26.9%となっている。また、「風呂場はない」は0.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「している」は平成24年度より5.4ポイント増加している。

図表5-3-2 浴槽に落ちない工夫（事故による死亡が多い事実の認知別）



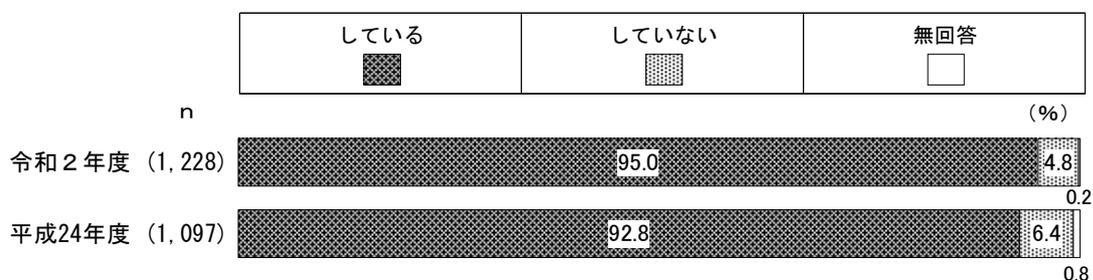
事故による死亡が多い事実の認知別で見ると、「している」は“知っている人”（76.6%）が“知らない人”（68.6%）より8.0ポイント高くなっている。

(4) 子どもだけの留守番の防止

問42 家庭内での子どもの事故やけがの防止のための工夫についておうかがいします。

③ 子どもだけを家に残さないようにしている

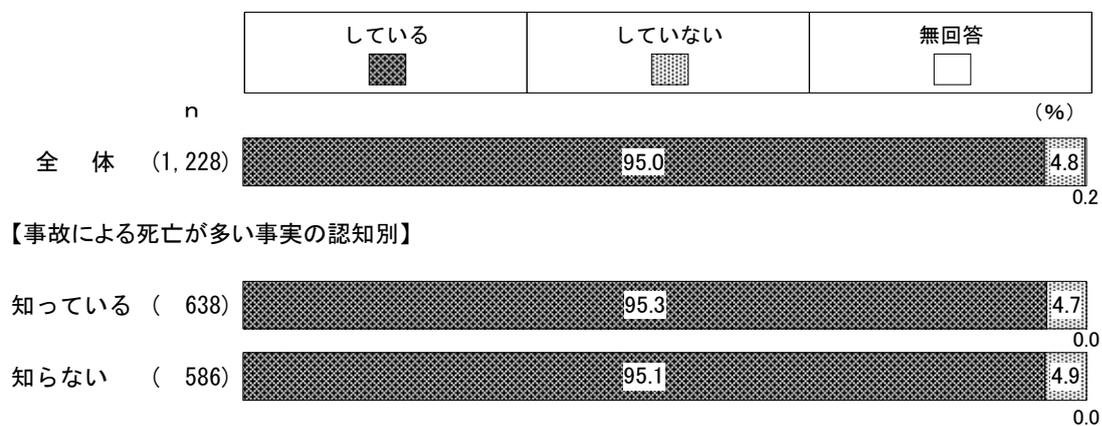
図表5-4-1 子どもだけの留守番の防止（経年比較）



子どもだけを家に残さないようにしているか聞いたところ、「している」が95.0%、「していない」は4.8%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表5-4-2 子どもだけの留守番の防止（事故による死亡が多い事実の認知別）



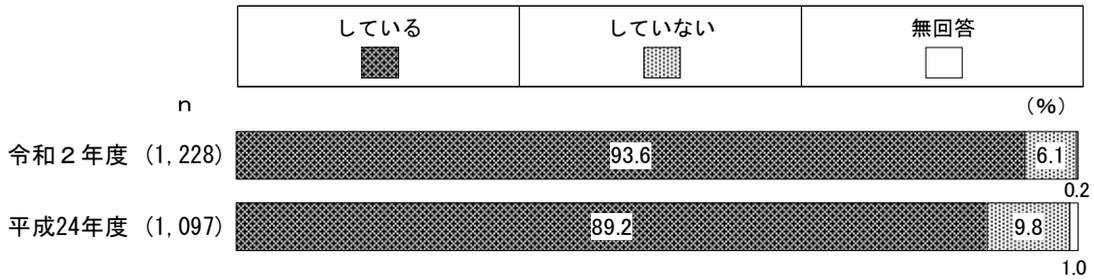
事故による死亡が多い事実の認知別で見ると、大きな違いはみられない。

(5) 異物の誤飲の防止

問42 家庭内での子どもの事故やけがの防止のための工夫についておうかがいします。

- ④ 誤って飲みこまないように、薬やお金などは子どもの手の届かないところに置いている

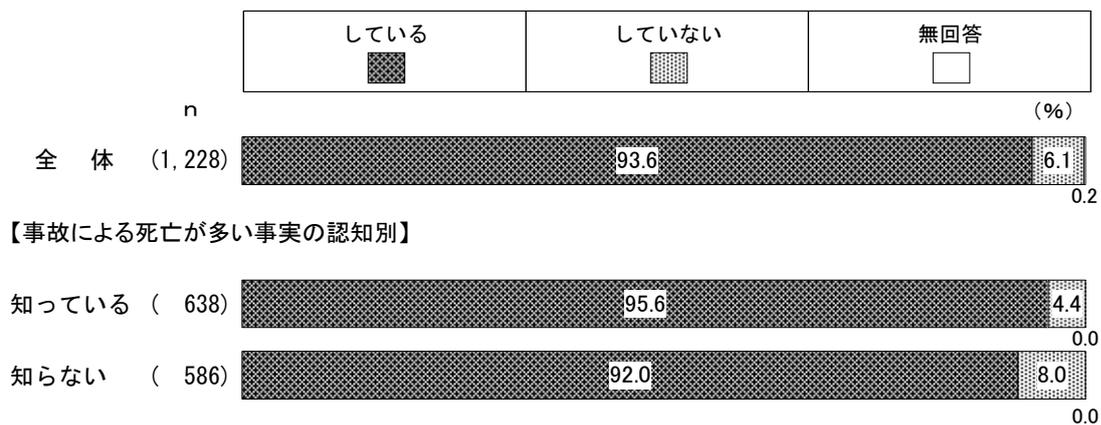
図表5-5-1 異物の誤飲の防止（経年比較）



誤って飲みこまないように、薬やお金などは子どもの手の届かないところに置いているか聞いたところ、「している」が93.6%、「していない」は6.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「している」は平成24年度より4.4ポイント増加している

図表5-5-2 異物の誤飲の防止（事故による死亡が多い事実の認知別）



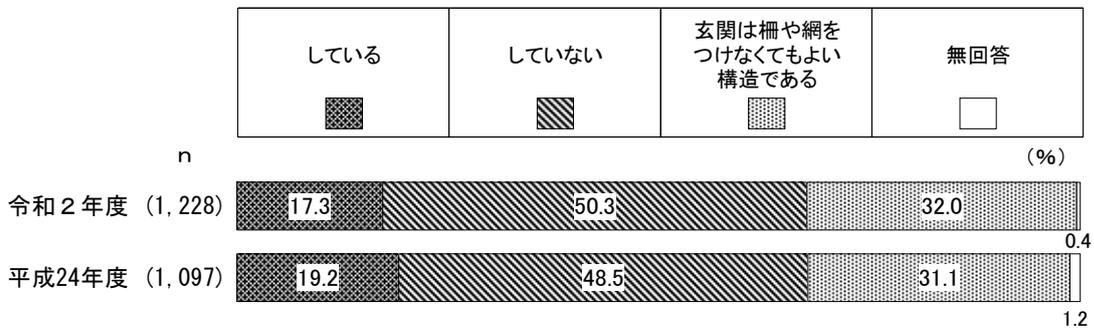
事故による死亡が多い事実の認知別でみると、「している」は“知っている人”（95.6%）が“知らない人”（92.0%）より3.6ポイント高くなっている。

(6) 玄関からの飛び出し防止

問42 家庭内での子どもの事故やけがの防止のための工夫についておうかがいします。

⑤ 玄関から飛び出さないように柵や網をつけている

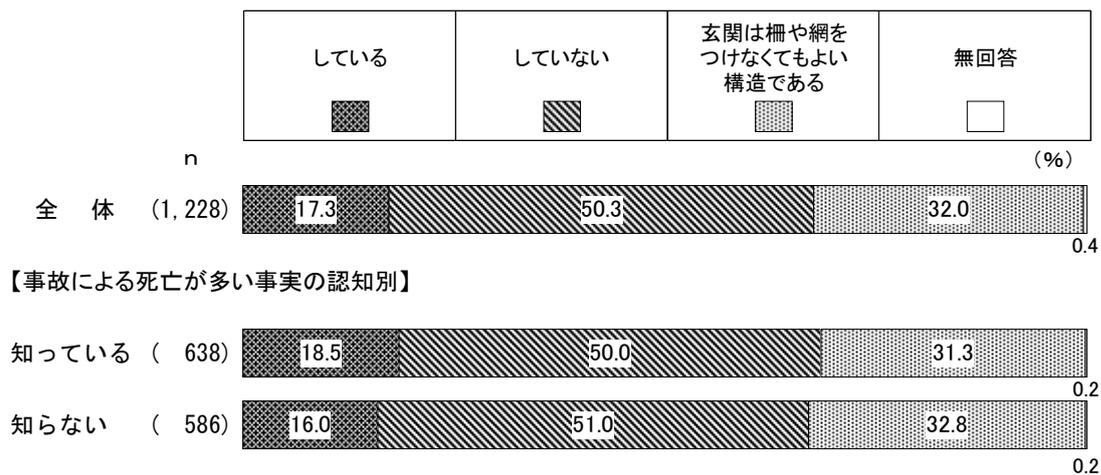
図表5-6-1 玄関からの飛び出し防止（経年比較）



玄関から飛び出さないように柵や網をつけているか聞いたところ、「している」が17.3%、「していない」は50.3%となっている。また、「玄関は柵や網をつけなくてもよい構造である」は32.0%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表5-6-2 玄関からの飛び出し防止（事故による死亡が多い事実の認知別）

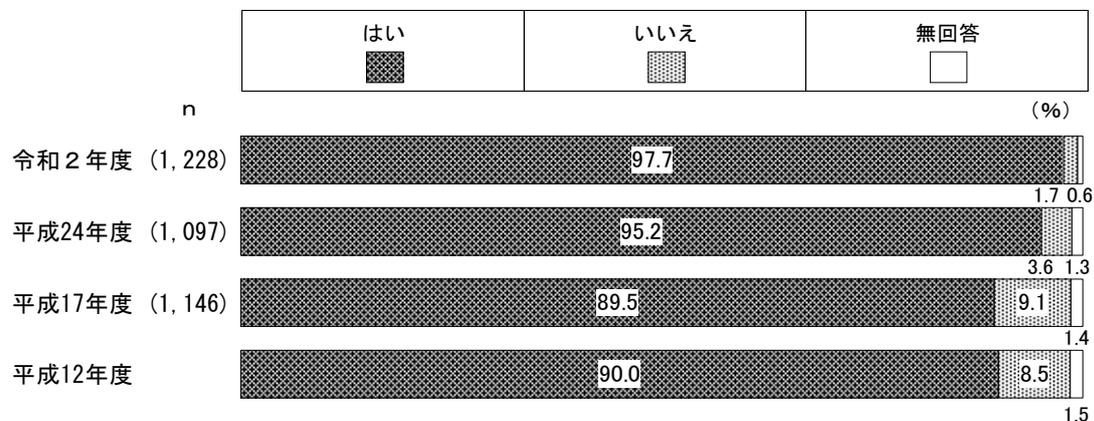


事故による死亡が多い事実の認知別で見ると、大きな違いはみられない。

(7) チャイルドシートの使用状況

問43 子どもを車に乗せるときにはチャイルドシートを使用していますか。

図表5-7-1 チャイルドシートの使用状況（経年比較）



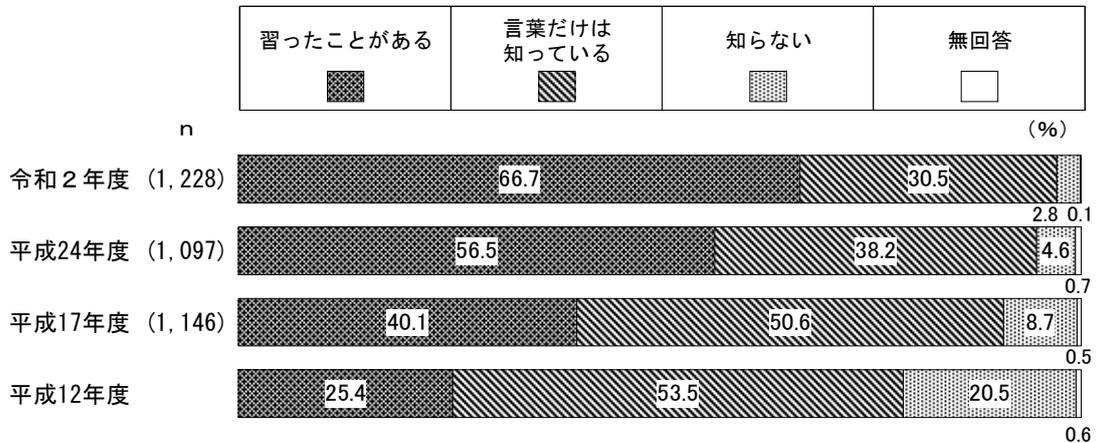
チャイルドシートを使用しているか聞いたところ、「はい」が97.7%、「いいえ」は1.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成17年度以降増加傾向にある。

(8) 心肺蘇生法の認知

問44 心肺蘇生法を知っていますか。

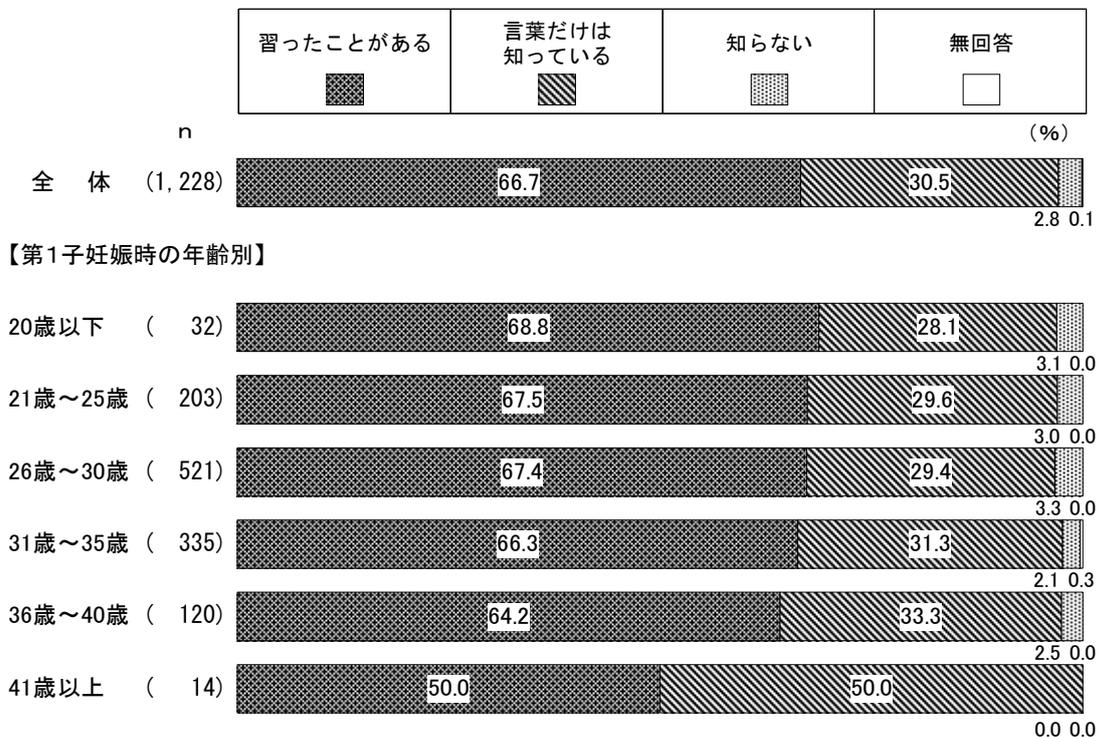
図表5-8-1 心肺蘇生法の認知（経年比較）



心肺蘇生法を知っているか聞いたところ、「習ったことがある」が66.7%、「言葉だけは知っている」は30.5%となっている。

過去の調査と比較すると、「習ったことがある」は平成24年度より10.2ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表5-8-2 心肺蘇生法の認知（第1子妊娠時の年齢別）

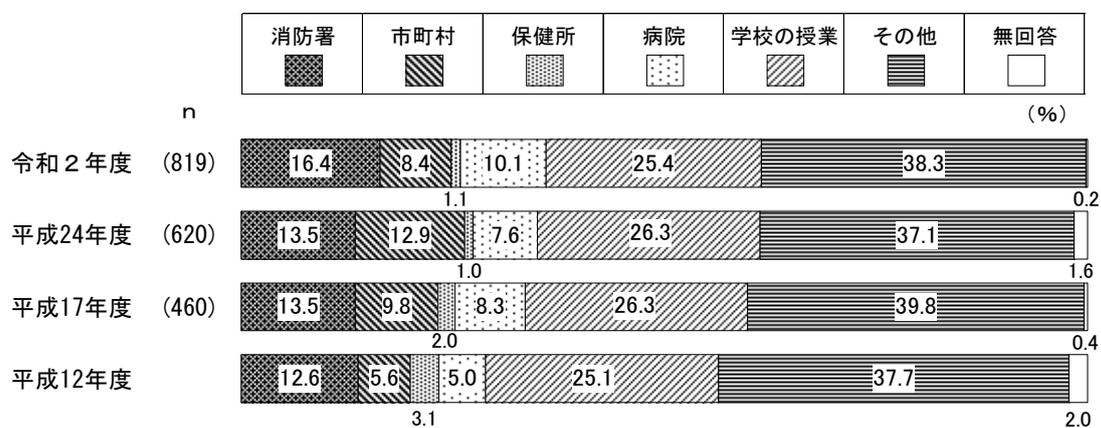


第1子妊娠時の年齢別で見ると、「習ったことがある」は第1子妊娠時の年齢が低くなるほど割合が高く、“20歳以下”で68.8%と高くなっている。

(9) 心肺蘇生法の習得場所

問44で「習ったことがある」と答えた方へ
問44-1 どこで習いましたか。

図表5-9-1 心肺蘇生法の習得場所（経年比較）



心肺蘇生法を「習ったことがある」と答えた人（819人）に、どこで習ったか聞いたところ、「学校の授業」が25.4%で最も高く、次いで「消防署」（16.4%）、「病院」（10.1%）、「市町村」（8.4%）となっている。

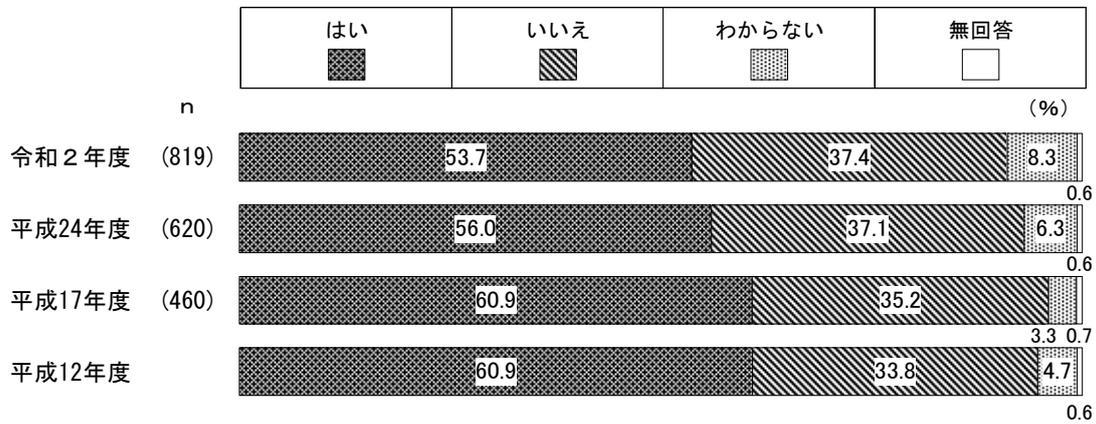
過去の調査と比較すると、「消防署」と「病院」が平成12年度以降増加傾向にある。

(10) 子どもの心肺蘇生法の習得

問44で「習ったことがある」と答えた方へ

問44-2 その際、子どもの心肺蘇生法は習いましたか。

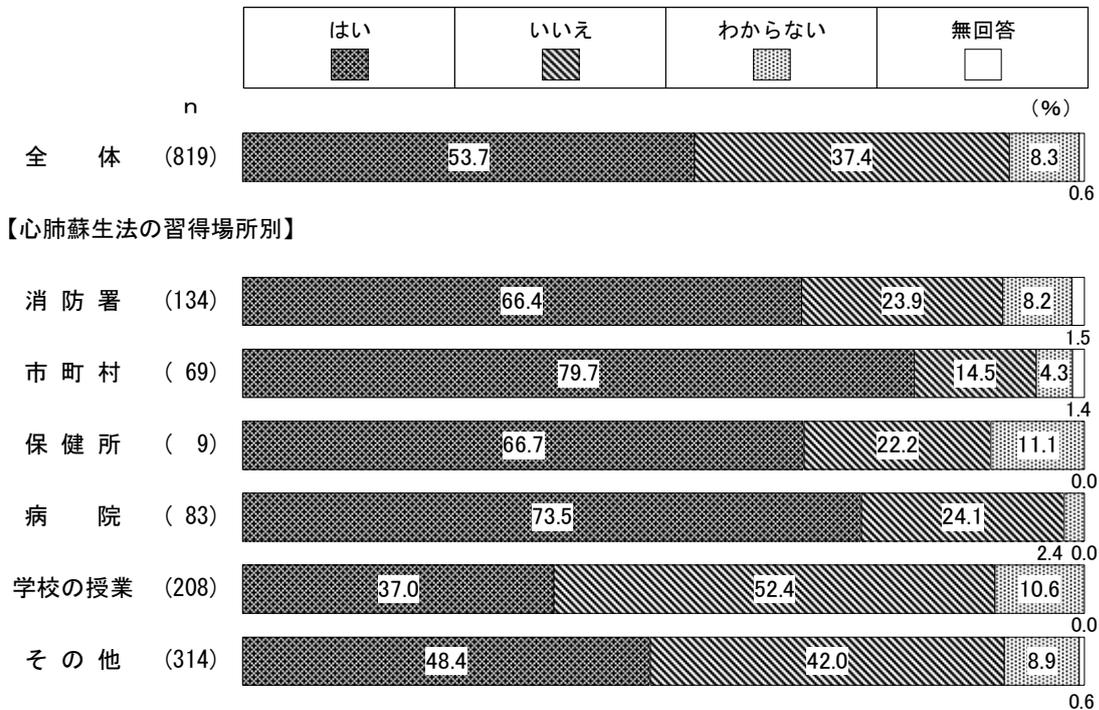
図表5-10-1 子どもの心肺蘇生法の習得（経年比較）



心肺蘇生法を「習ったことがある」と答えた人（819人）に、子どもの心肺蘇生法は習ったか聞いたところ、「はい」が53.7%、「いいえ」は37.4%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成12年度以降減少傾向にある。

図表5-10-2 子どもの心肺蘇生法の習得（心肺蘇生法の習得場所別）



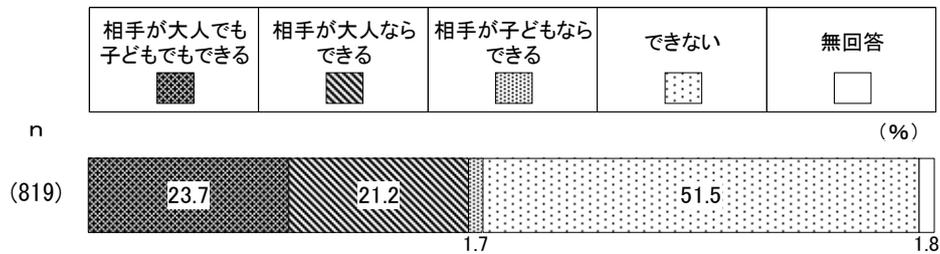
心肺蘇生法の習得場所別でみると、「はい」は“市町村”で79.7%、“病院”で73.5%と高くなっている。

(11) 心肺蘇生法の実践

問44で「習ったことがある」と答えた方へ

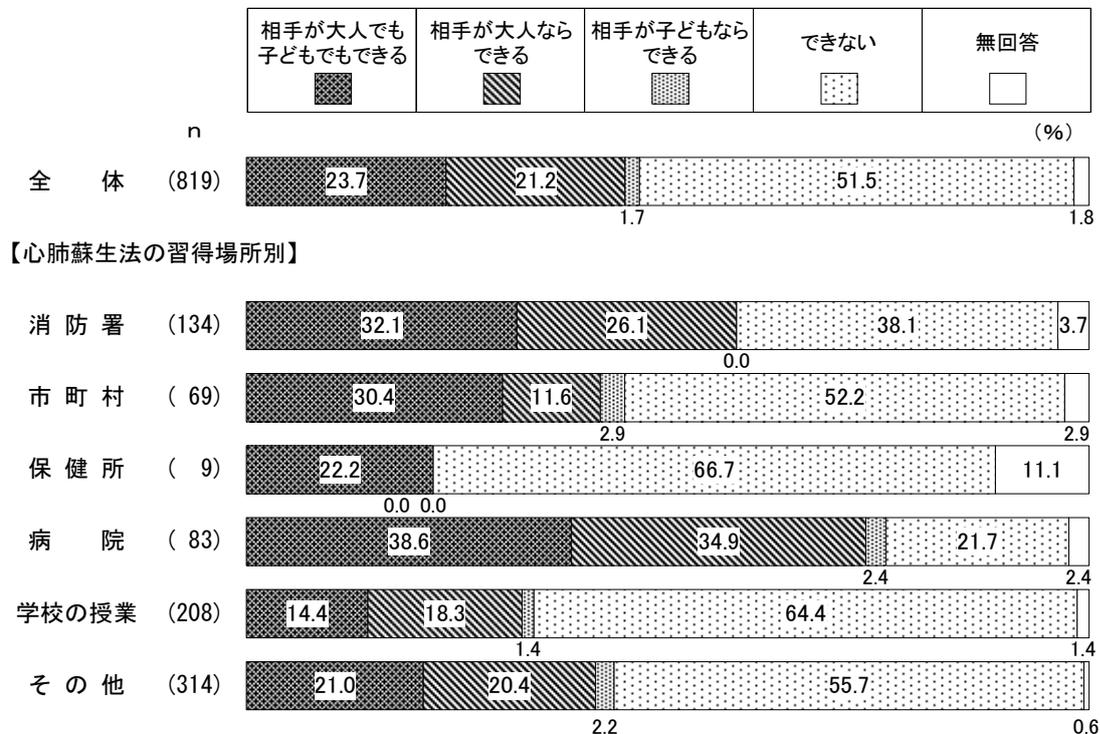
問44-3 実際に心肺蘇生法を実践できると思いますか。

図表5-11-1 心肺蘇生法の実践



心肺蘇生法を「習ったことがある」と答えた人(819人)に、実際に心肺蘇生法を実践できると思うか聞いたところ、「相手も大人でも子どもでもできる」が23.7%、「相手が大人ならできる」は21.2%、「相手が子どもならできる」は1.7%となっている。一方、

図表5-11-2 心肺蘇生法の実践（心肺蘇生法の習得場所別）

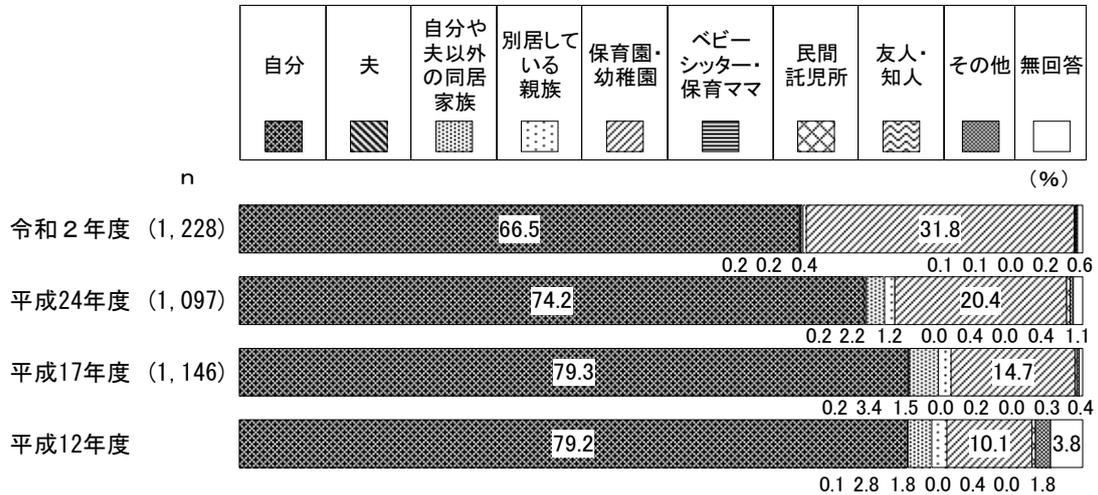


心肺蘇生法の習得場所別でみると、「相手も大人でも子どもでもできる」は“病院”で38.6%と高く、「相手が大人ならできる」でも“病院”で34.9%と高くなっている。一方、「できない」は“学校の授業”で64.4%と高くなっている。

(12) 日中の育児を主に行う人

問45 日中の育児は、主にどなたが行っていますか。続柄はお母さん自身から見たものとして
ます。最も当てはまるものに○をつけてください。

図表5-12-1 日中の育児を主に行う人（経年比較）



※「ベビーシッター・保育ママ」は、平成24年度以前では「家政婦」としていた

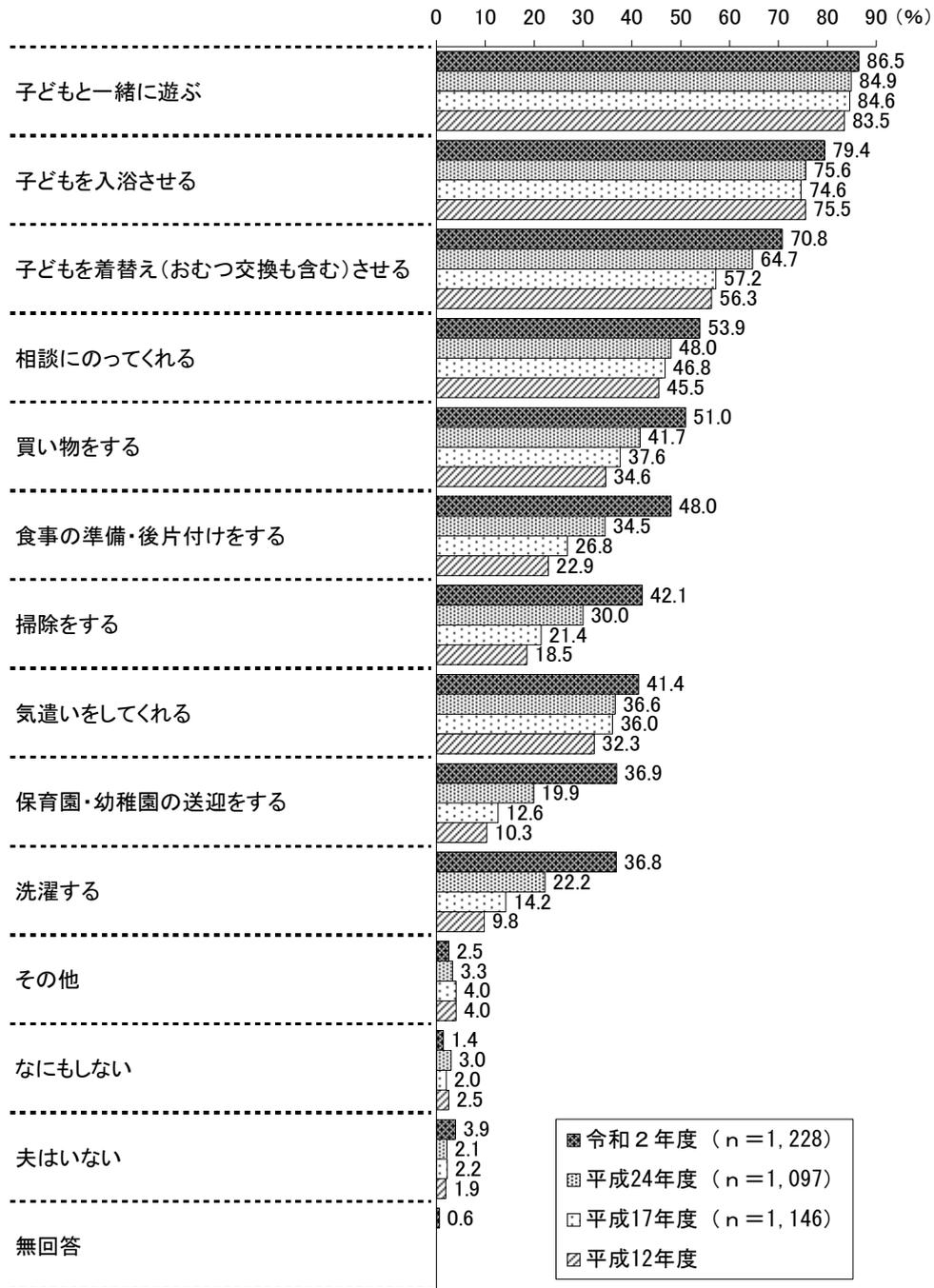
日中の育児を主に行う人を聞いたところ、「自分」が66.5%で最も高く、次いで「保育園・幼稚園」（31.8%）となっている。

過去の調査と比較すると、「保育園・幼稚園」は平成24年度より11.4ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

(13) 夫の育児参加状況

問46 夫は、育児にどのような形で参加してくれていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 5-13-1 夫の育児参加状況（経年比較）[複数回答]



夫は、育児にどのような形で参加してくれているか聞いたところ、「子どもと一緒に遊ぶ」が86.5%で最も高く、次いで「子どもを入浴させる」(79.4%)、「子どもを着替え(おむつ交換も含む)させる」(70.8%)、「相談にのってくれる」(53.9%)となっている。

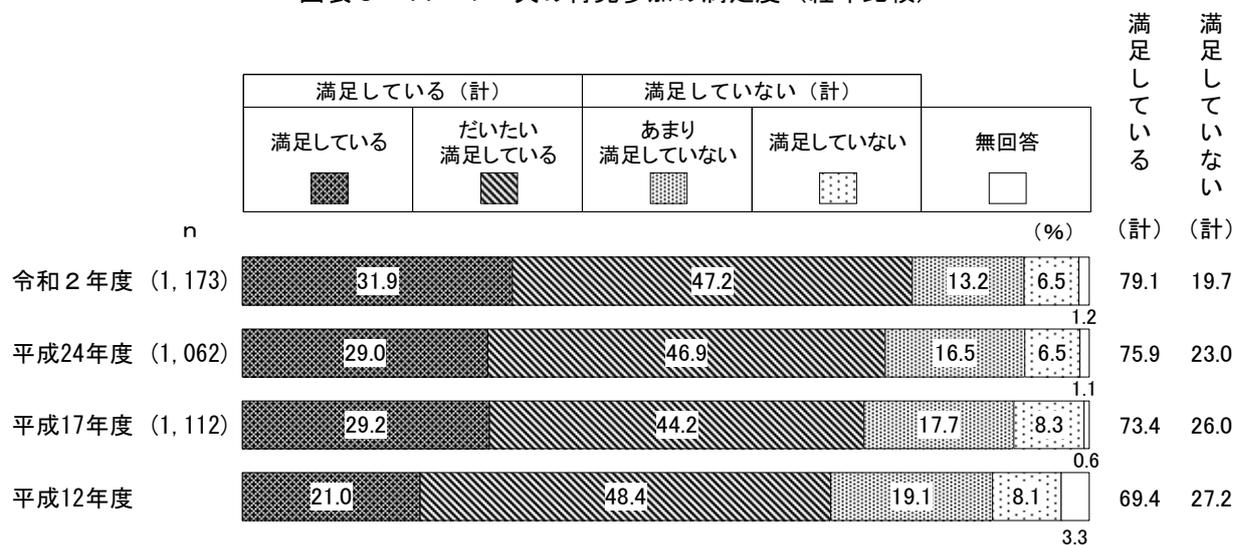
過去の調査と比較すると、「保育園・幼稚園の送迎をする」は平成24年度より17.0ポイント、「洗濯する」は平成24年度より14.6ポイント、「食事の準備・後片付けをする」は平成24年度より13.5ポイント、それぞれ増加している。

(14) 夫の育児参加の満足度

問46で「夫はいない」以外を答えた方へ

問46-1 夫の協力のしかたに満足していますか。

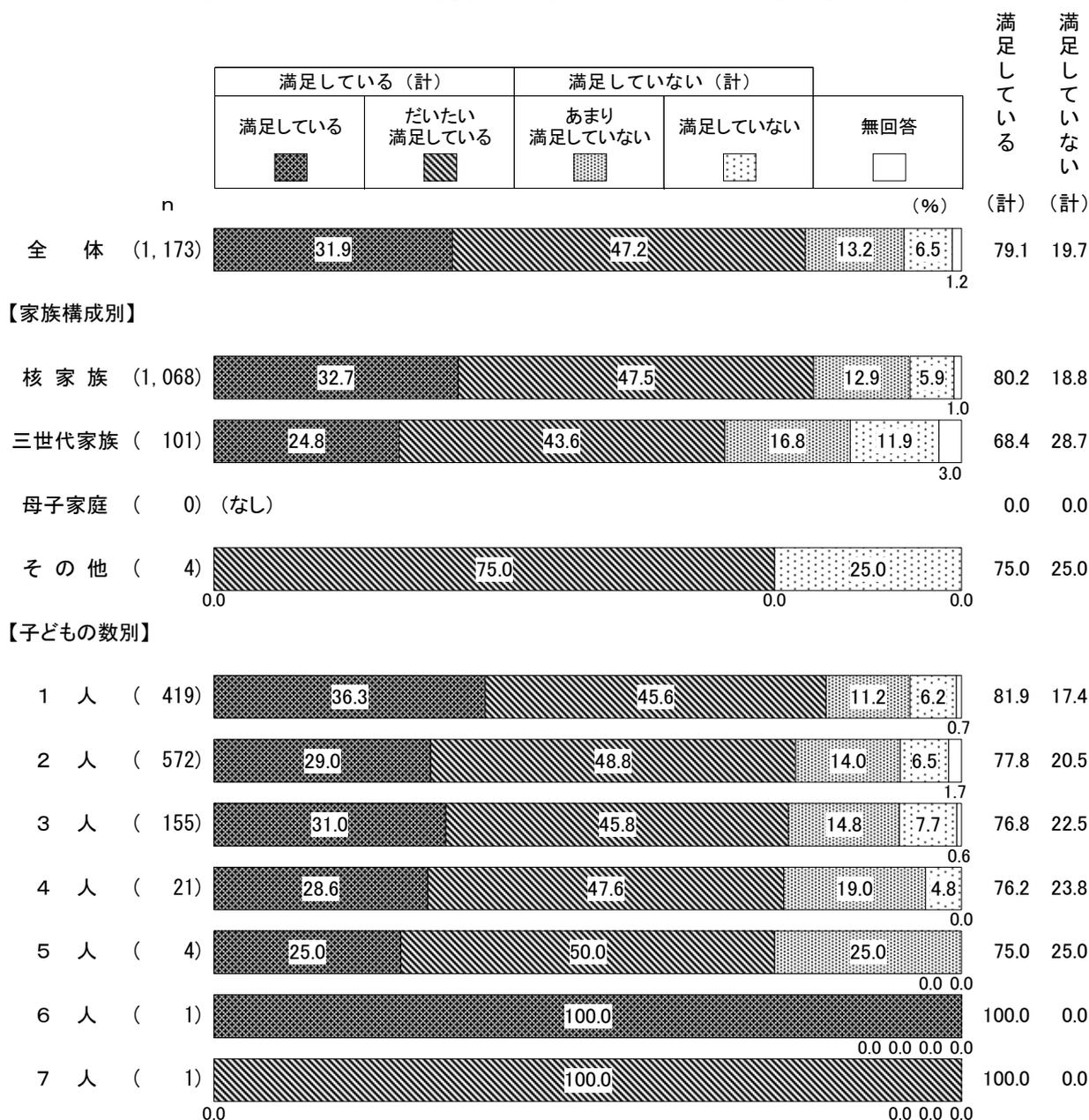
図表5-14-1 夫の育児参加の満足度（経年比較）



夫の育児参加状況で「夫はいない」以外を答えた人（1,173人）に、夫の協力のしかたに満足しているか聞いたところ、「満足している」（31.9%）と「だいたい満足している」（47.2%）を合わせた『満足している（計）』は79.1%となっている。一方、「あまり満足していない」（13.2%）と「満足していない」（6.5%）を合わせた『満足していない（計）』は19.7%となっている。

過去の調査と比較すると、『満足している（計）』は平成24年度より3.2ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

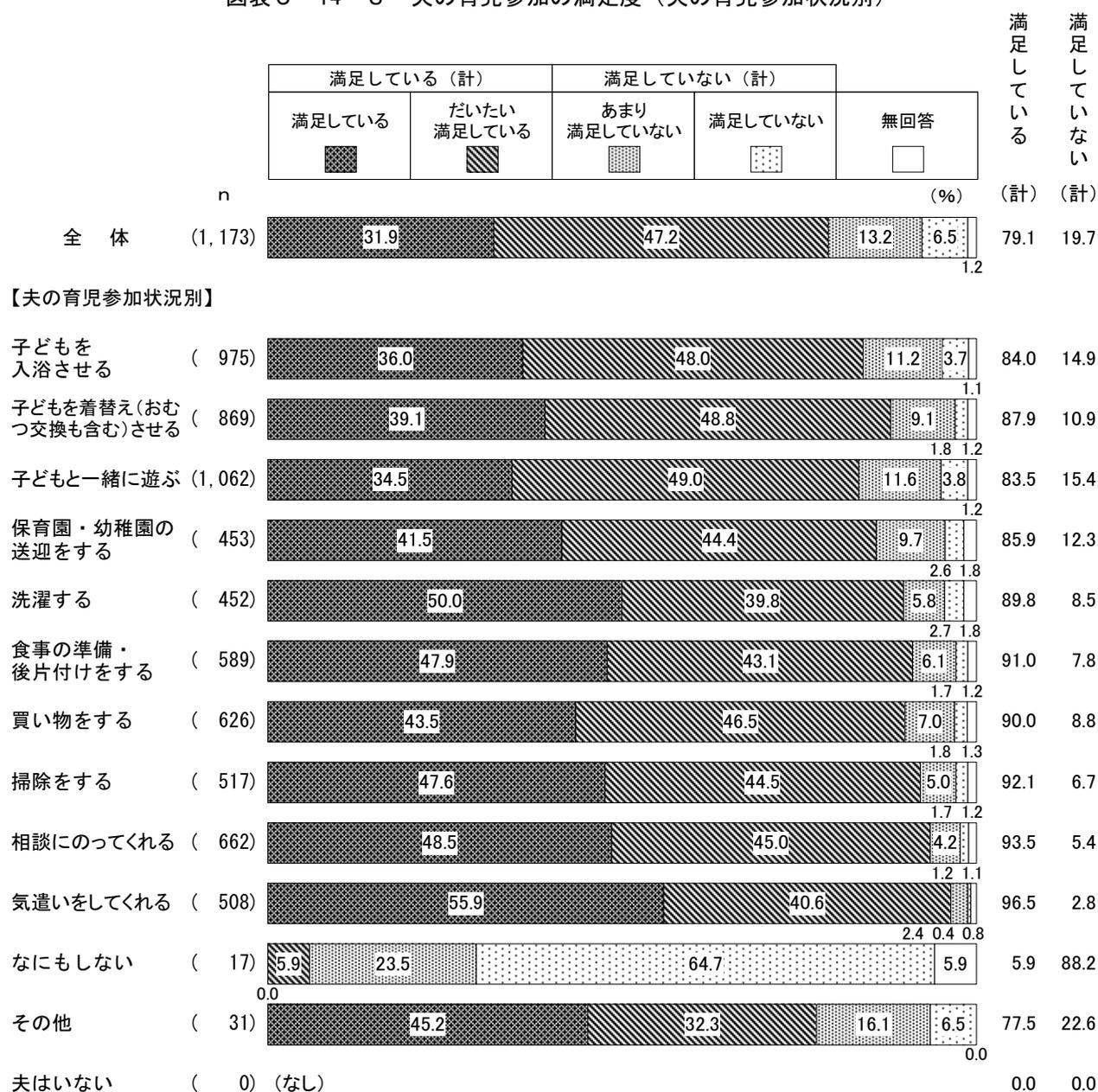
図表5-14-2 夫の育児参加の満足度（家族構成別、子どもの数別）



家族構成別で見ると、『満足している（計）』は“核家族”で80.2%と高くなっている。一方、『満足していない（計）』は“三世代家族”で28.7%と高くなっている。

子どもの数別で見ると、『満足している（計）』はおおむね子どもの人数が少なくなるほど割合が高く、“1人”で81.9%と高くなっている。

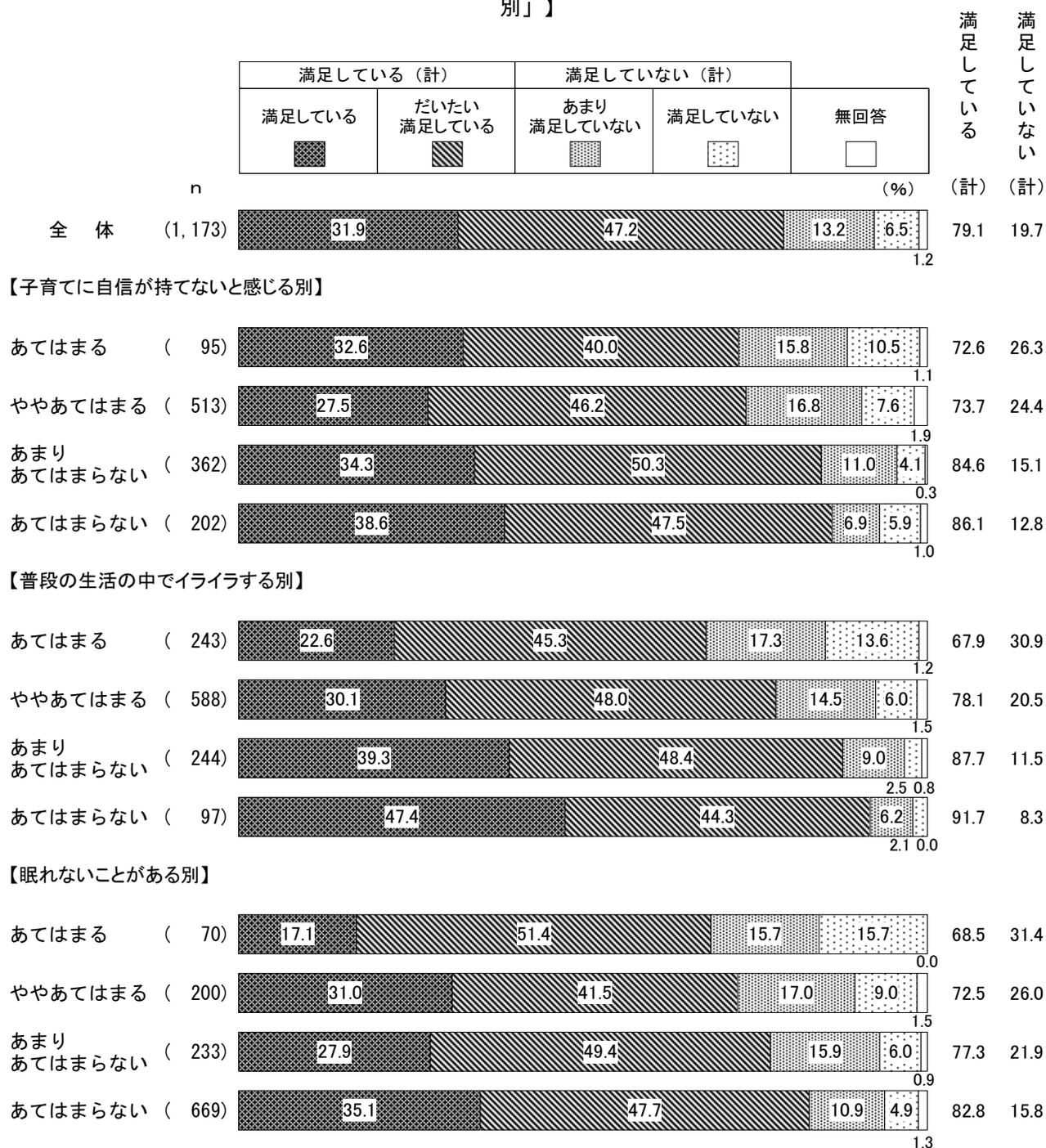
図表 5-14-3 夫の育児参加の満足度（夫の育児参加状況別）



夫の育児参加状況別でみると、『満足している（計）』は“気遣いをしてくれる”で96.5%、“相談にのってくれる”で93.5%、“掃除をする”で92.1%と高くなっている。一方、『満足していない（計）』は“なにもしない”で88.2%と高くなっている。

図表 5-14-4 夫の育児参加の満足度（現在の気分別）

【「子育てに自信が持てないと感じる別」、「普段の生活の中でイライラする別」、「眠れないことがある別」】



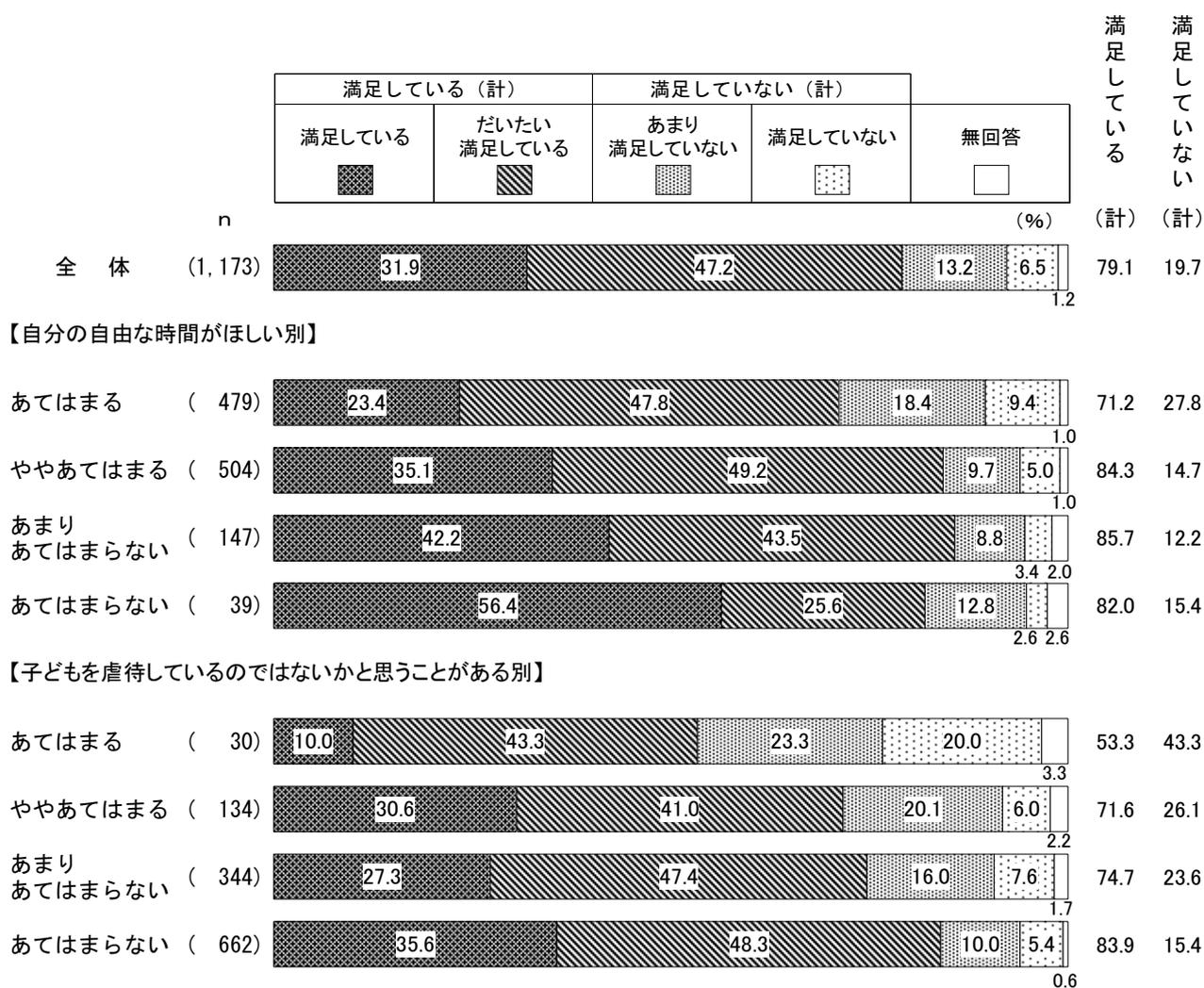
「子育てに自信が持てないと感じる別」で見ると、『満足していない（計）』は子育てに自信が持てないと感じる気持ちが高いほど割合が高く、“あてはまる”で26.3%と高くなっている。

「普段の生活の中でイライラする別」で見ると、『満足していない（計）』は普段の生活の中でイライラする頻度が高くなるほど割合が高く、“あてはまる”で30.9%と高くなっている。

「眠れないことがある別」で見ると、『満足していない（計）』は眠れないことがある頻度が高くなるほど割合が高く、“あてはまる”で31.4%と高くなっている。

図表 5-14-5 夫の育児参加の満足度（現在の気分別）

【「自分の自由な時間がほしい別」、「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある別」】



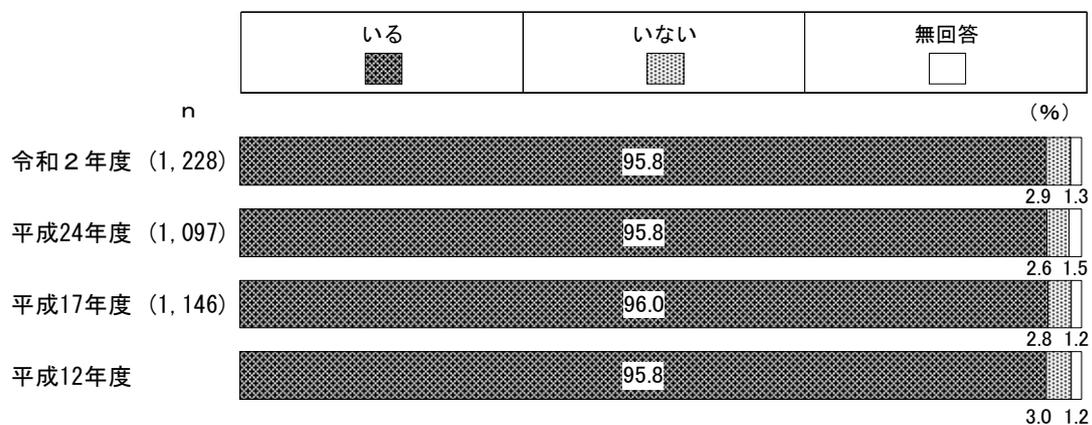
「自分の自由な時間がほしい別」でみると、『満足していない（計）』は“あてはまる”で27.8%と高くなっている。

「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある別」でみると、『満足していない（計）』は子どもを虐待しているのではないかと思うことがある頻度が高くなるほど割合が高く、“あてはまる”で43.3%と高くなっている。

(15) 育児について相談する相手の有無

問47 育児について相談する人はいますか。

図表5-15-1 育児について相談する相手の有無（経年比較）

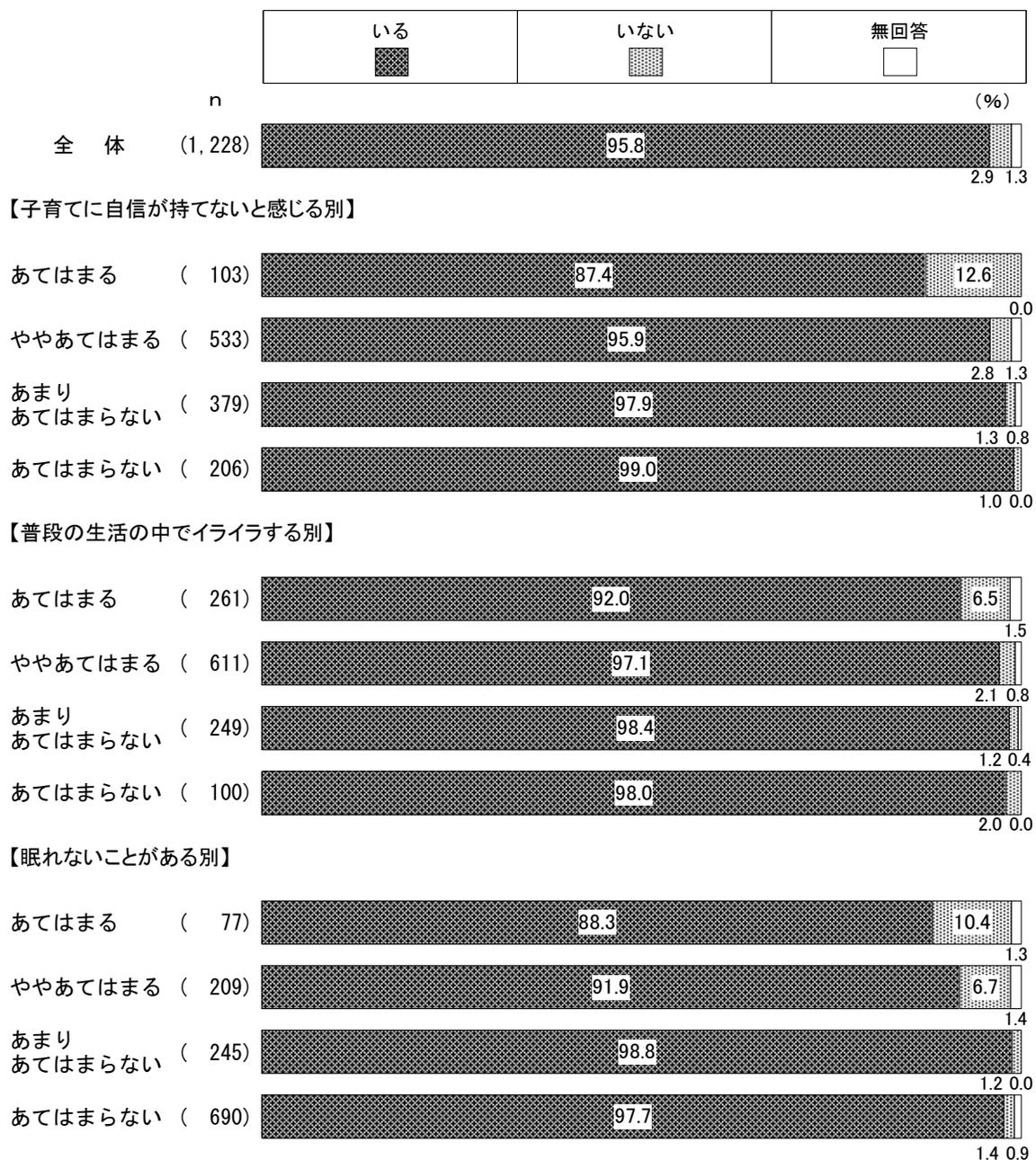


育児について相談する人はいるか聞いたところ、「いる」が95.8%、「いない」は2.9%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 5-15-2 育児について相談する相手の有無（現在の気分別）

【「子育てに自信が持てないと感じる別」、「普段の生活の中でイライラする別」、「眠れないことがある別」】



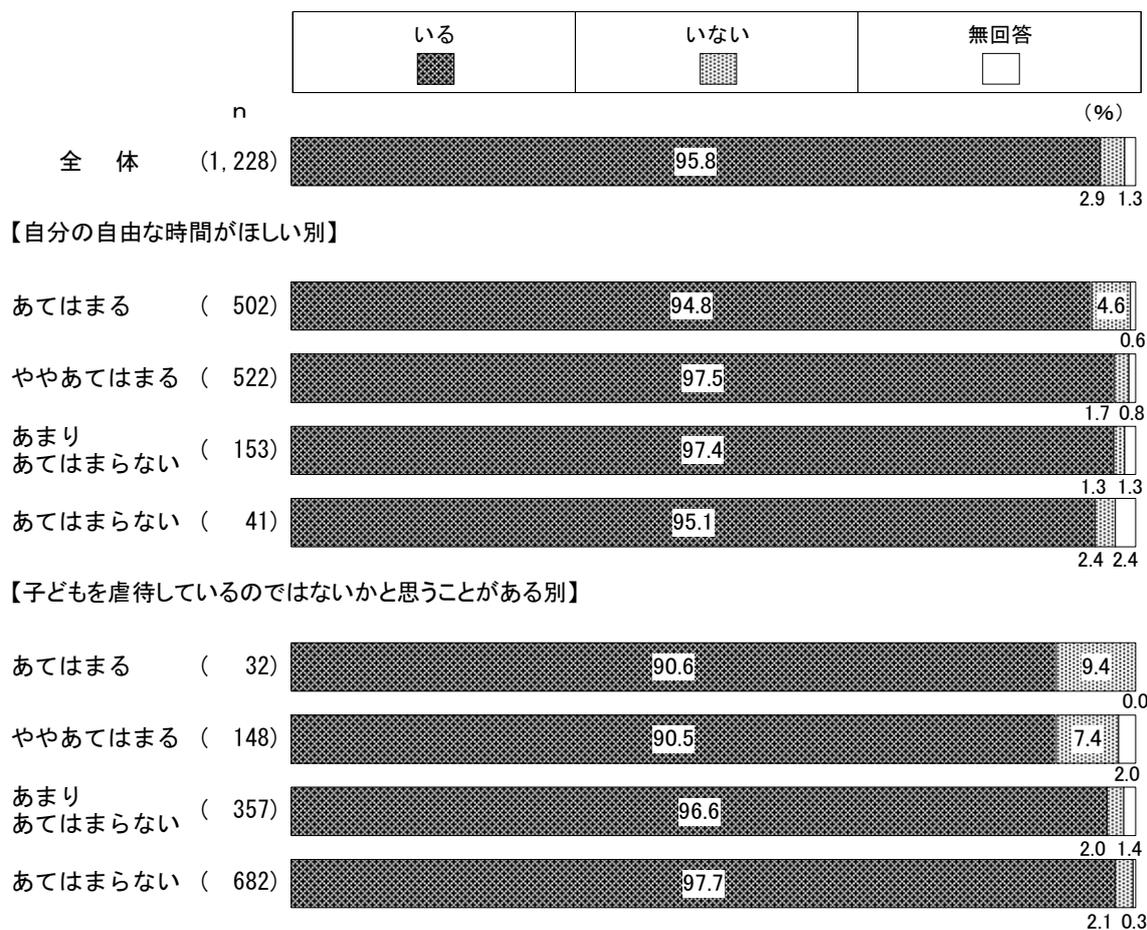
「子育てに自信が持てないと感じる別」で見ると、「いない」は“あてはまる”で12.6%となっている。

「普段の生活の中でイライラする別」で見ると、「いない」は“あてはまる”で6.5%となっている。

「眠れないことがある別」で見ると、「いない」は“あてはまる”で10.4%となっている。

図表 5-15-3 育児について相談する相手の有無（現在の気分別）

【「自分の自由な時間がほしい別」、「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある別」】



「自分の自由な時間がほしい別」で見ると、「いない」は“あてはまる”で4.6%となっている。

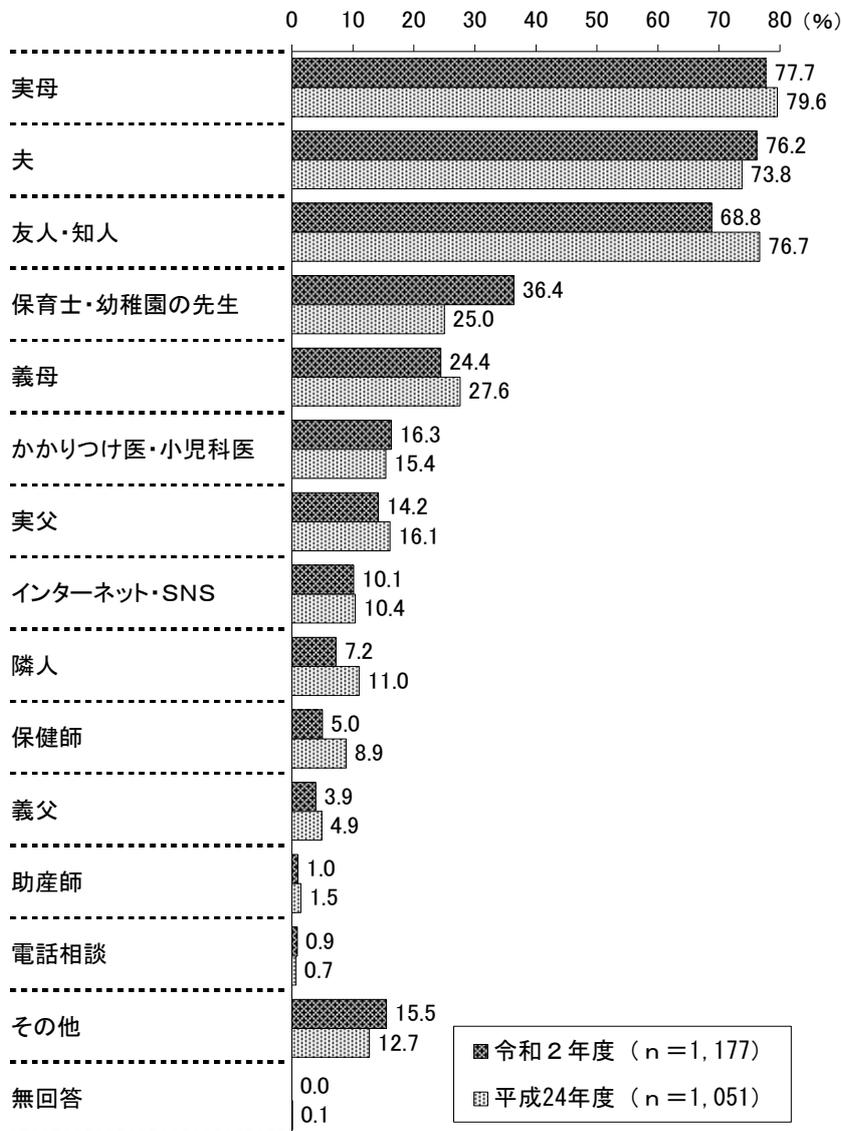
「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある別」で見ると、「いない」は“あてはまる”で9.4%となっている。

(16) 育児について相談する相手

問47で「いる」と答えた方へ

問47-1 相談先として、あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表5-16-1 育児について相談する相手（経年比較）〔複数回答〕



※「インターネット・SNS」は、平成24年度以前では「インターネット」としていた

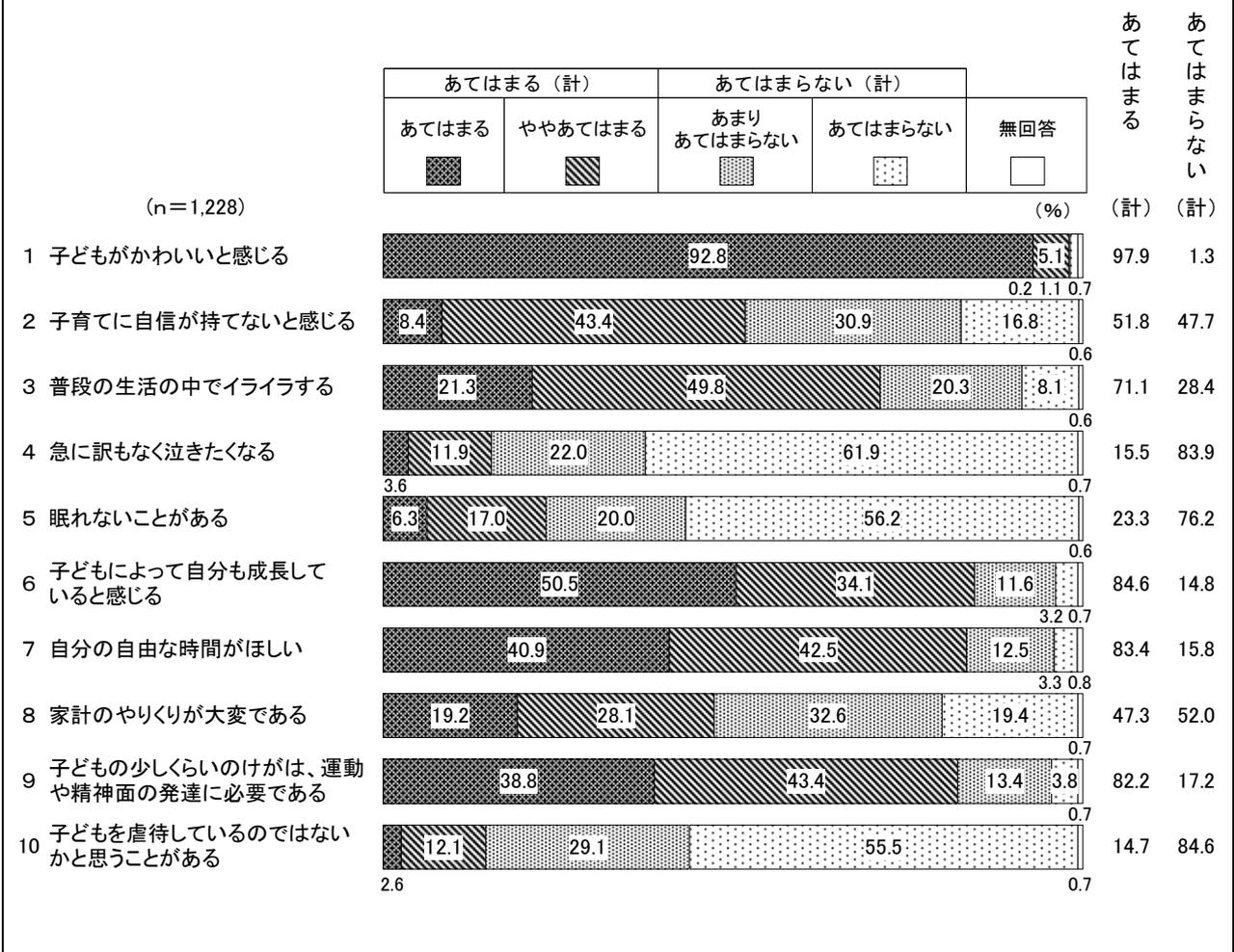
育児について相談する人が「いる」と答えた人(1,177人)に、相談先を聞いたところ、「実母」が77.7%で最も高く、次いで「夫」(76.2%)、「友人・知人」(68.8%)、「保育士・幼稚園の先生」(36.4%)となっている。

過去の調査と比較すると、「保育士・幼稚園の先生」は平成24年度より11.4ポイント増加している。一方、「友人・知人」は平成24年度より7.9ポイント、「保健師」は平成24年度より3.9ポイント、「隣人」は平成24年度より3.8ポイント、それぞれ減少している。

(17) 現在の気分

問48 今のあなたの気持ちに最もあてはまるものに○をつけてください。

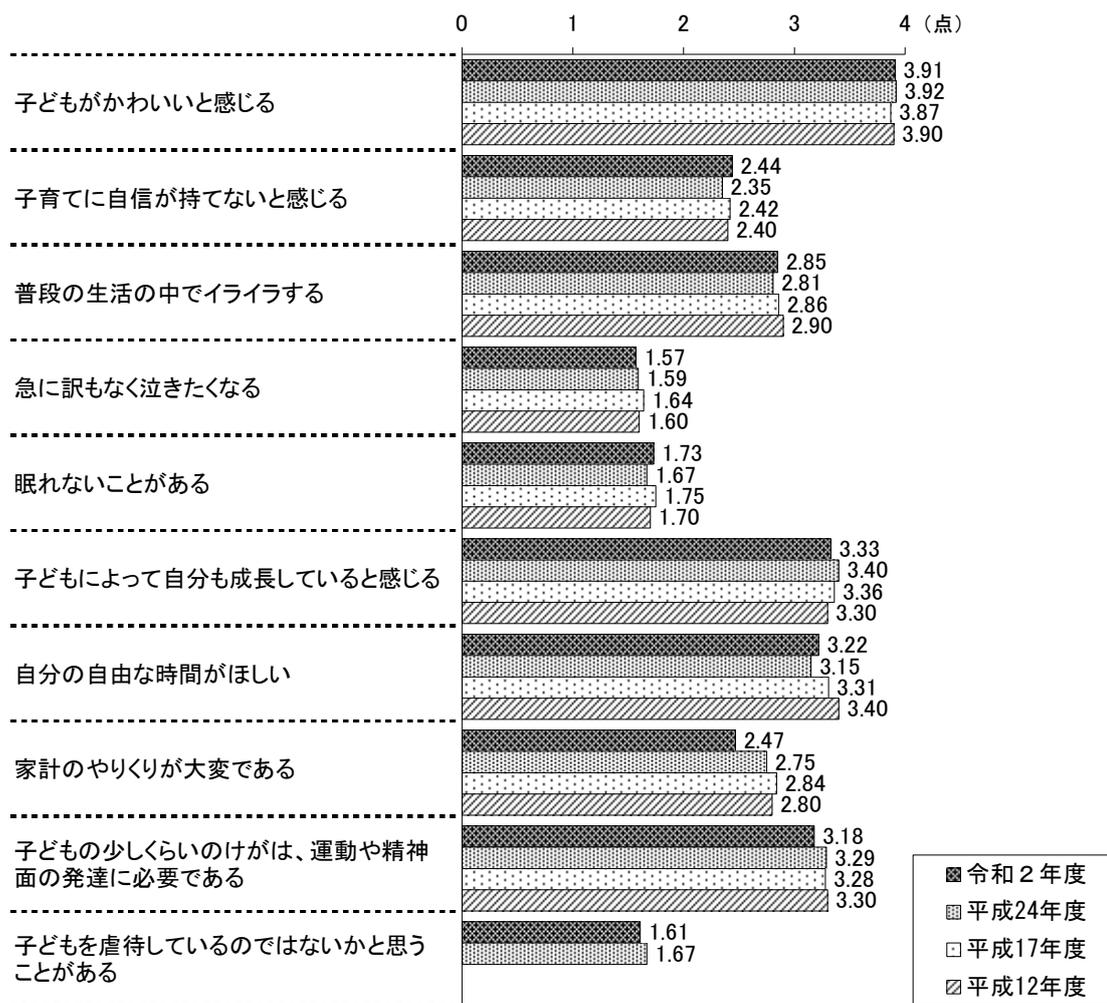
図表5-17-1 現在の気分



現在の気分について、10項目に分けて聞いたところ、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた『あてはまる (計)』は“子どもがかわいいと感じる”で97.9%と最も高く、次いで“子どもによって自分も成長していると感じる” (84.6%)、“自分の自由な時間がほしい” (83.4%)となっている。

一方、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない (計)』は“子どもを虐待しているのではないかと思うことがある”で84.6%と最も高く、次いで“急に涙もなく泣きたくなる” (83.9%)、“眠れないことがある” (76.2%)となっている。

図表5-17-2 現在の気分に関する項目別回答の平均点



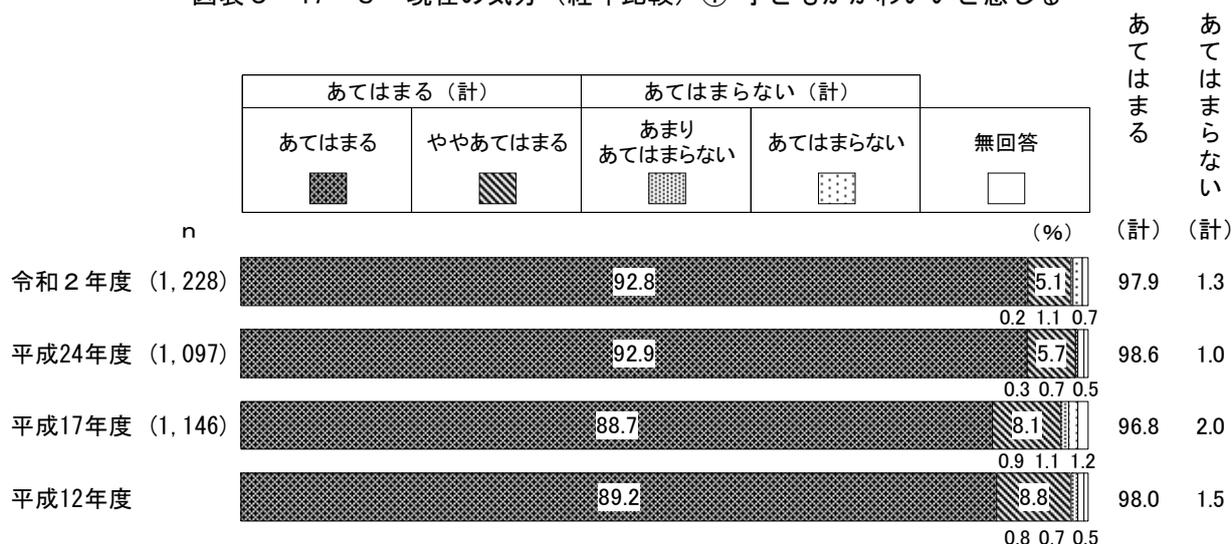
それぞれの項目の回答に、得点を持たせて計算した。

得点は「あてはまる」に4点、「ややあてはまる」に3点、「あまりあてはまらない」に2点、「あてはまらない」に1点を与えた。従って最高点は4点、最低点は1点となり、中間点は2.5点となる。

「子どもがかわいいと感じる」は3.91点で、ほとんどの人がそう思っているということがうかがえる。また、「家計のやりくりが大変である」は2.47点で、どちらともいえない位置にある。一方、「急に涙もなく泣きたくなる」は1.57点で、あてはまらない人がほとんどだと考えられる。

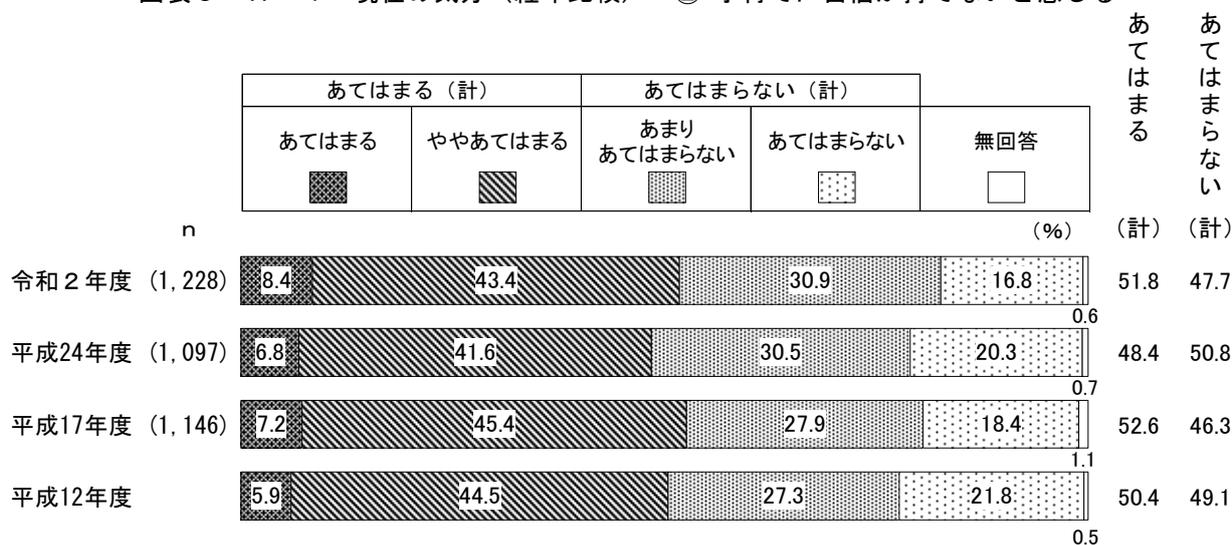
過去の調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

図表 5-17-3 現在の気分（経年比較）① 子どもがかわいいと感じる



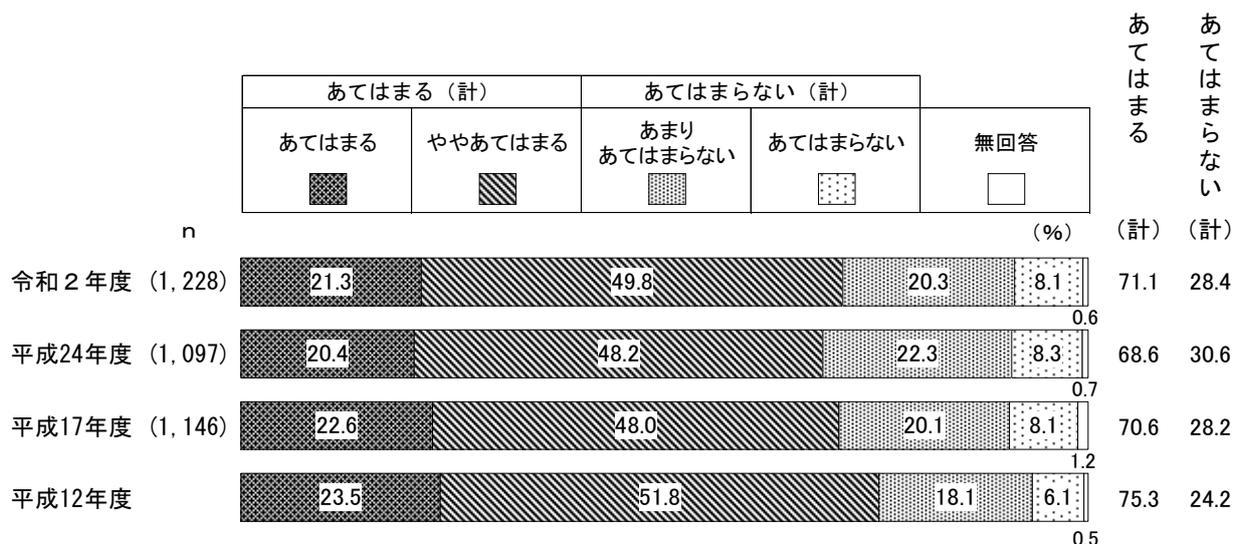
「子どもがかわいいと感じる」を過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 5-17-4 現在の気分（経年比較）② 子育てに自信が持てないと感じる



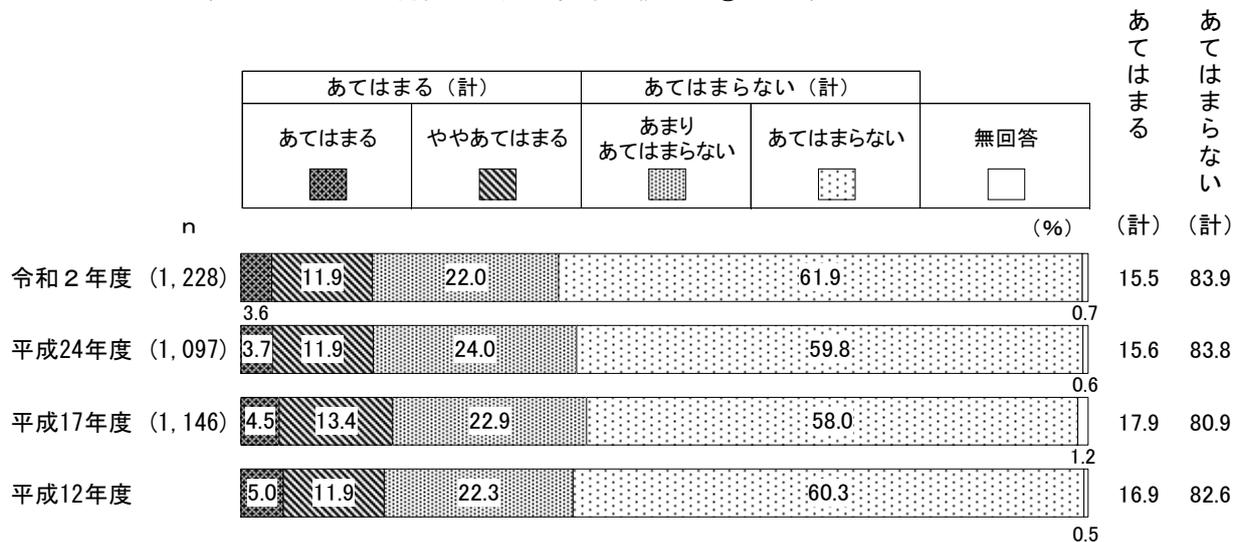
「子育てに自信が持てないと感じる」を過去の調査と比較すると、『あてはまる（計）』は平成24年度より3.4ポイント増加している。

図表5-17-5 現在の気分（経年比較） ③ 普段の生活の中でイライラする



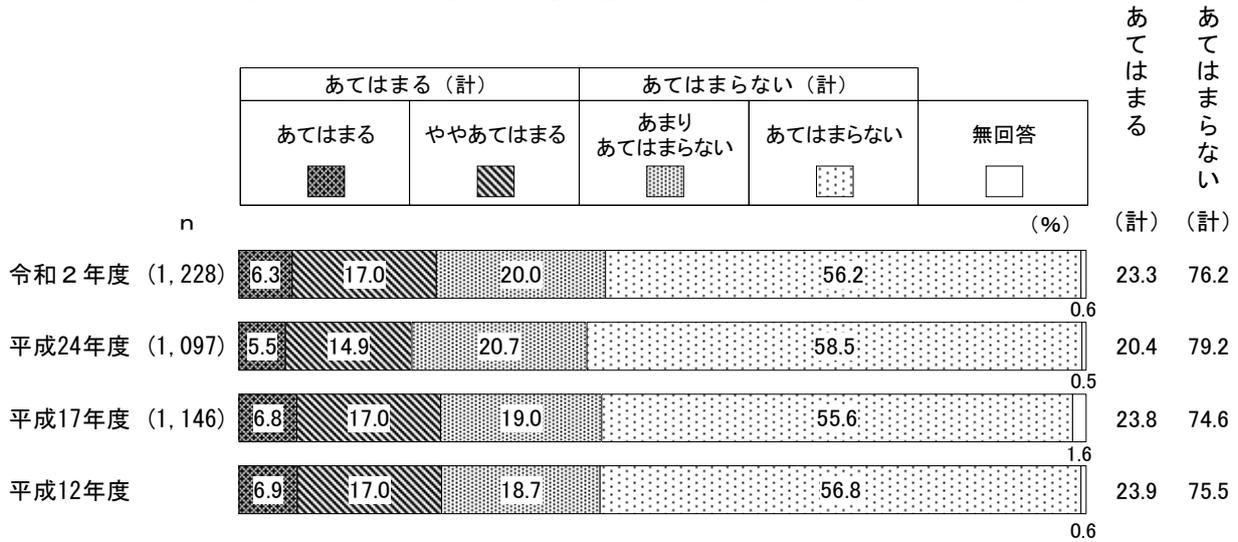
「普段の生活の中でイライラする」を過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表5-17-6 現在の気分（経年比較） ④ 急に涙もなく泣きたくなくなる



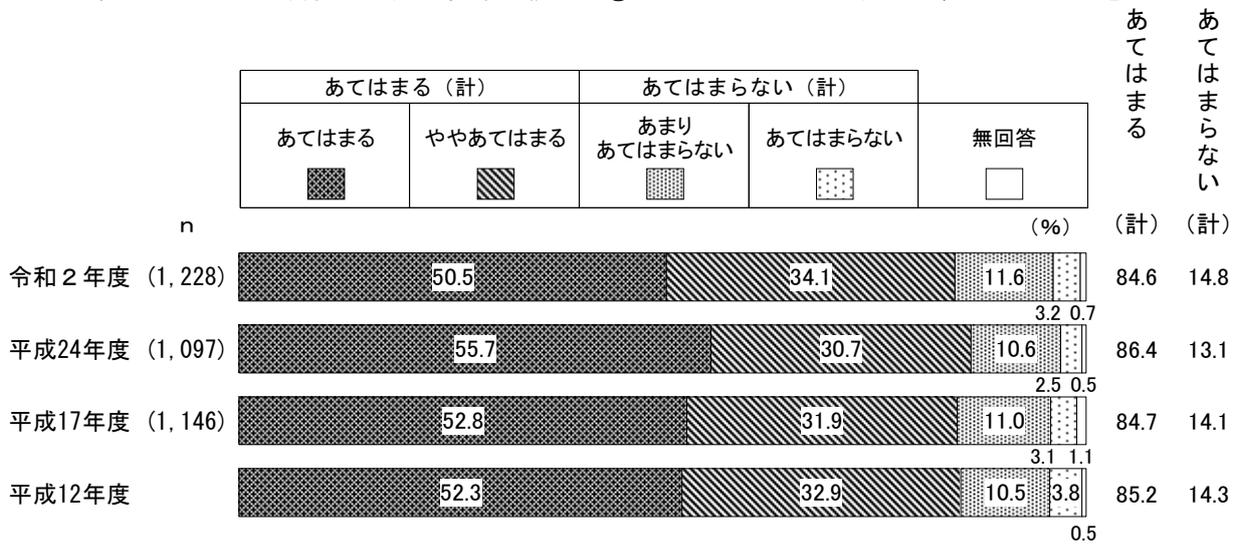
「急に涙もなく泣きたくなくなる」を過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表5-17-7 現在の気分（経年比較） ⑤ 眠れないことがある



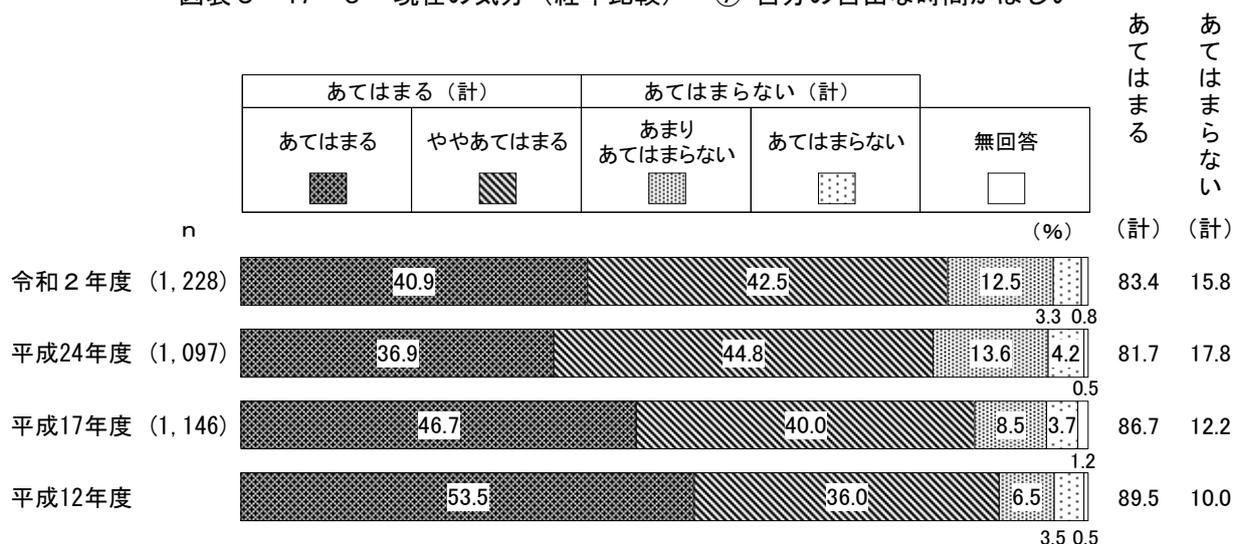
「眠れないことがある」を過去の調査と比較すると、『あてはまらない（計）』は平成24年度より3.0ポイント減少している。

図表5-17-8 現在の気分（経年比較） ⑥ 子どもによって自分も成長していると感じる



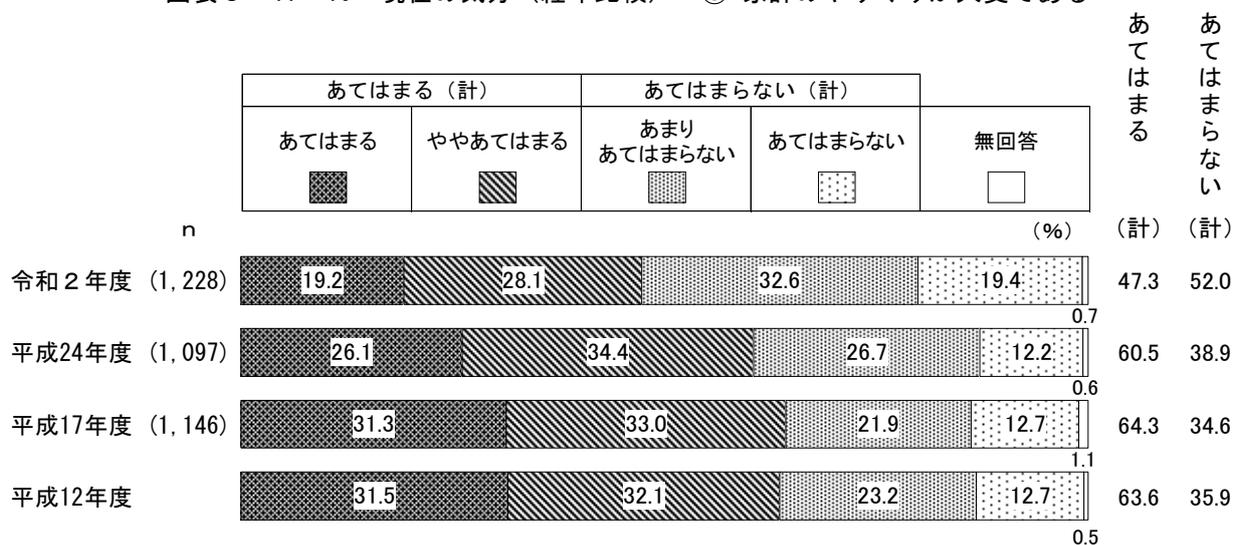
「子どもによって自分も成長していると感じる」を過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 5-17-9 現在の気分（経年比較） ⑦ 自分の自由な時間がほしい



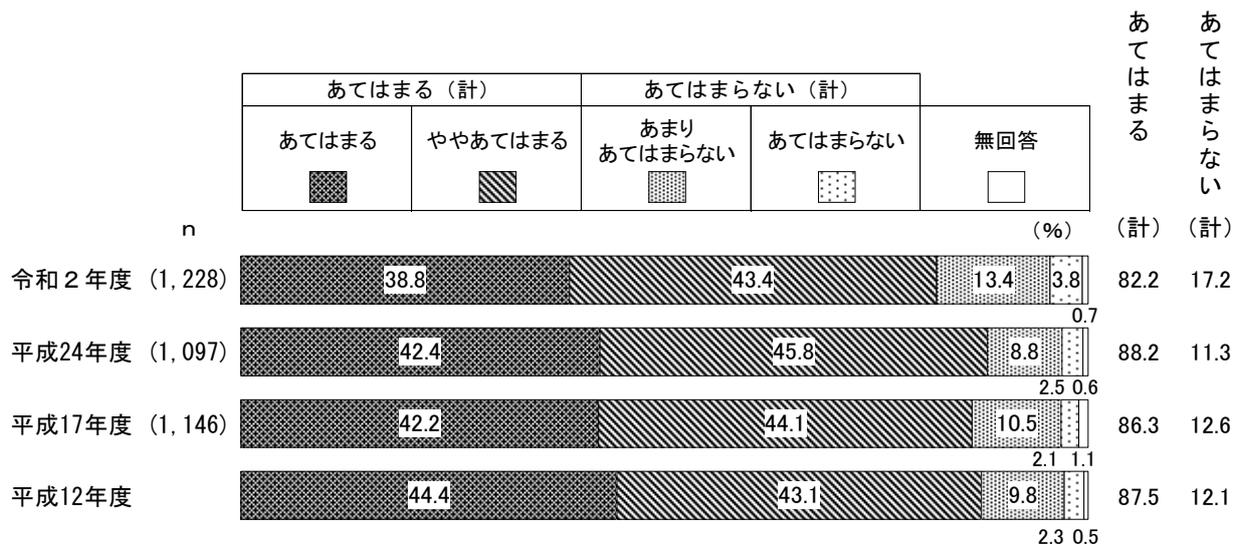
「自分の自由な時間がほしい」を過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 5-17-10 現在の気分（経年比較） ⑧ 家計のやりくりが大変である



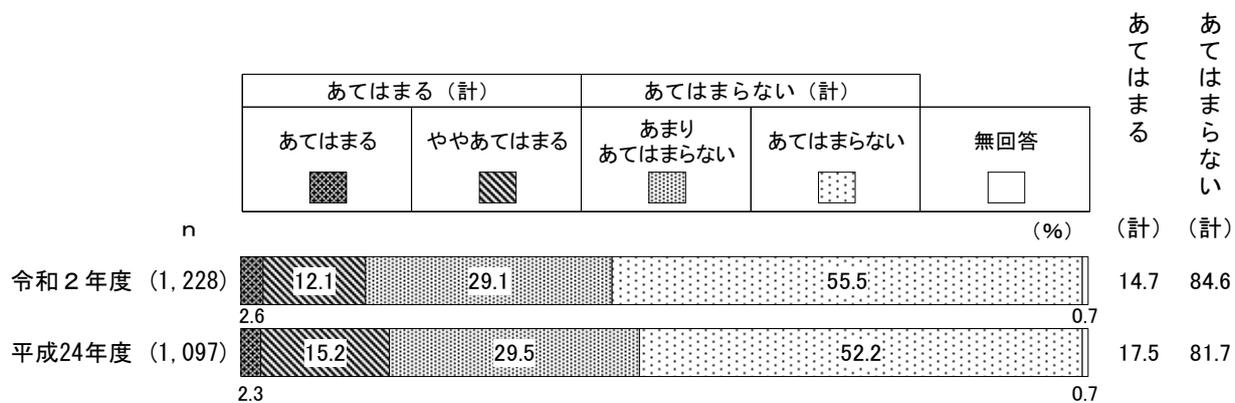
「家計のやりくりが大変である」を過去の調査と比較すると、『あてはまらない（計）』は平成24年度より13.1ポイント増加している。

図表 5-17-11 現在の気分（経年比較） ⑨ 子どもの少しくらいのけがは、運動や精神面の発達に必要である



「子どもの少しくらいのけがは、運動や精神面の発達に必要である」を過去の調査と比較すると、『あてはまらない（計）』は平成24年度より5.9ポイント増加している。

図表 5-17-12 現在の気分（経年比較） ⑩ 子どもを虐待しているのではないかとすることがある



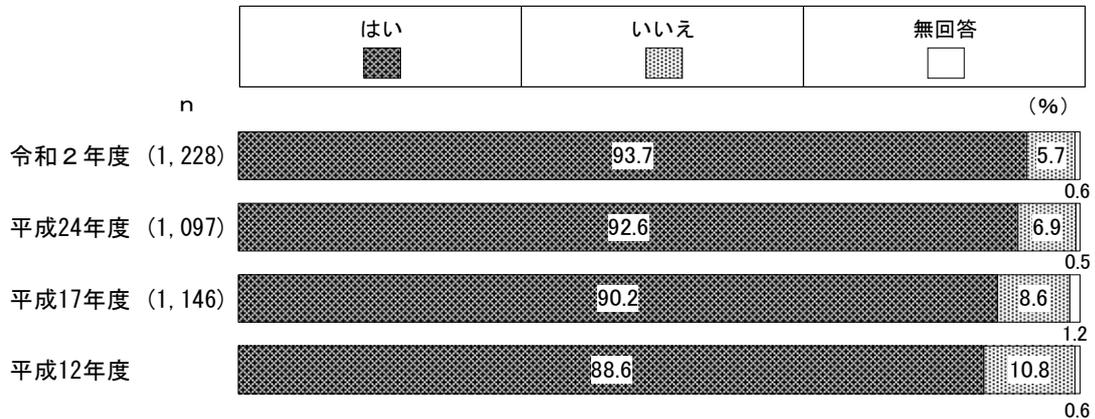
「子どもを虐待しているのではないかとすることがある」を過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

6. 子どもの健康管理について

(1) 小児科のかかりつけ医の有無

問49 小児科のかかりつけ医を持っていますか。

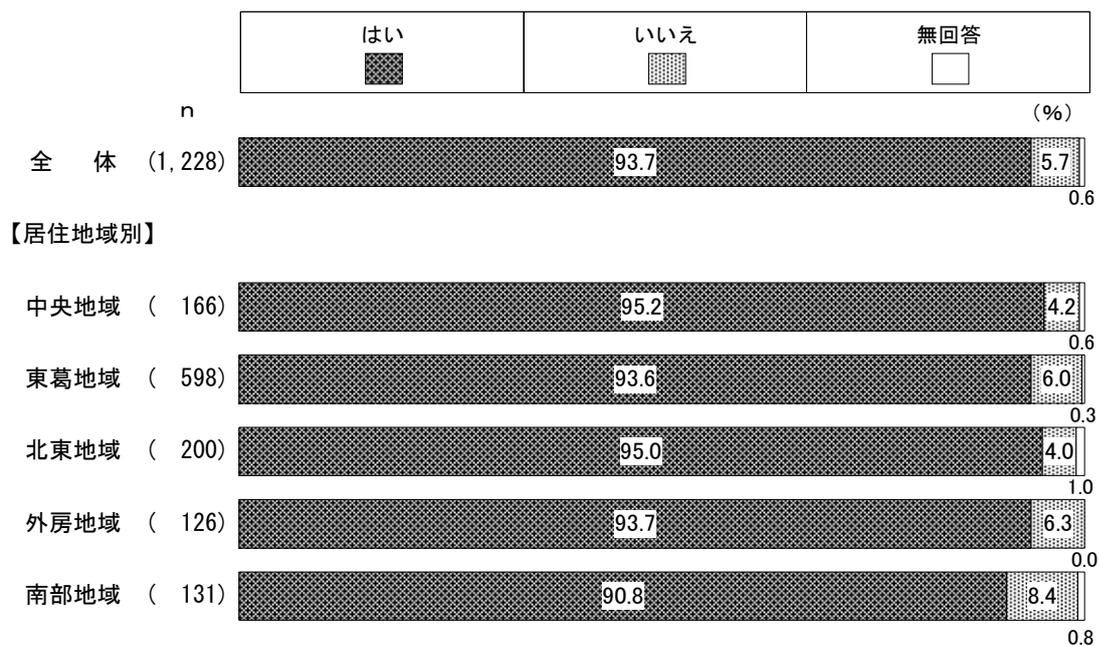
図表6-1-1 小児科のかかりつけ医の有無（経年比較）



小児科のかかりつけ医を持っているか聞いたところ、「はい」が93.7%、「いいえ」は5.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成12年度以降増加傾向にある。

図表6-1-2 小児科のかかりつけ医の有無（居住地域別）



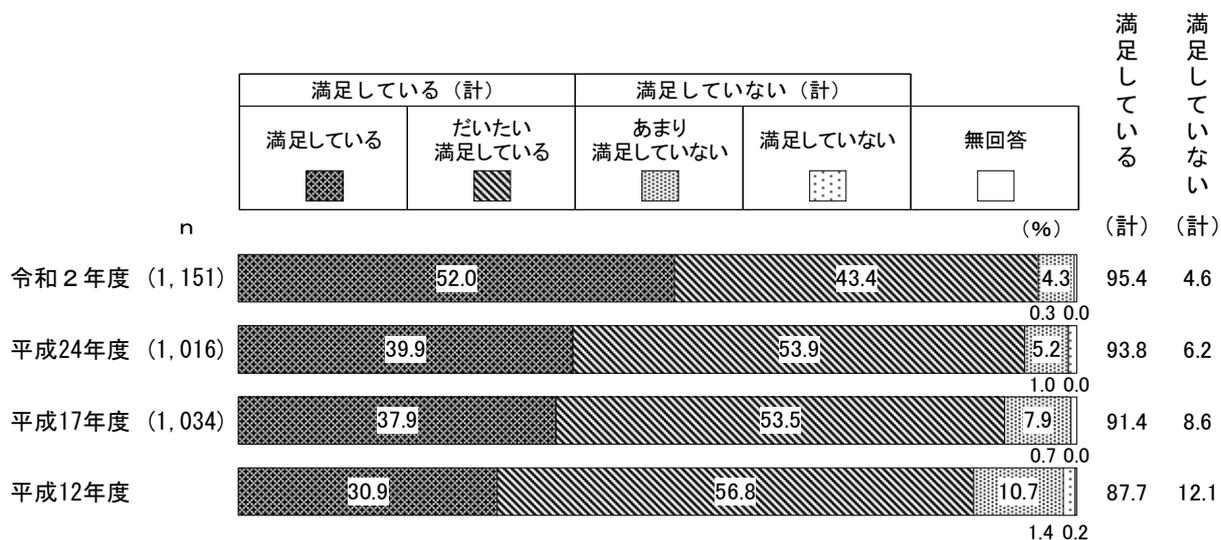
居住地域別で見ると、「はい」は“中央地域”で95.2%、“北東地域”で95.0%と高くなっている。

(2) 小児科のかかりつけ医の満足度

問49で「はい」と答えた方へ

問49-1 かかりつけ医に満足していますか。

図表6-2-1 小児科のかかりつけ医の満足度（経年比較）



小児科のかかりつけ医を「持っている」と答えた人（1,151人）に、かかりつけ医に満足しているか聞いたところ、「満足している」が52.0%で最も高く、これに「だいたい満足している」（43.4%）を合わせた『満足している（計）』は95.4%となっている。一方、「あまり満足していない」（4.3%）と「満足していない」（0.3%）を合わせた『満足していない（計）』は4.6%となっている。

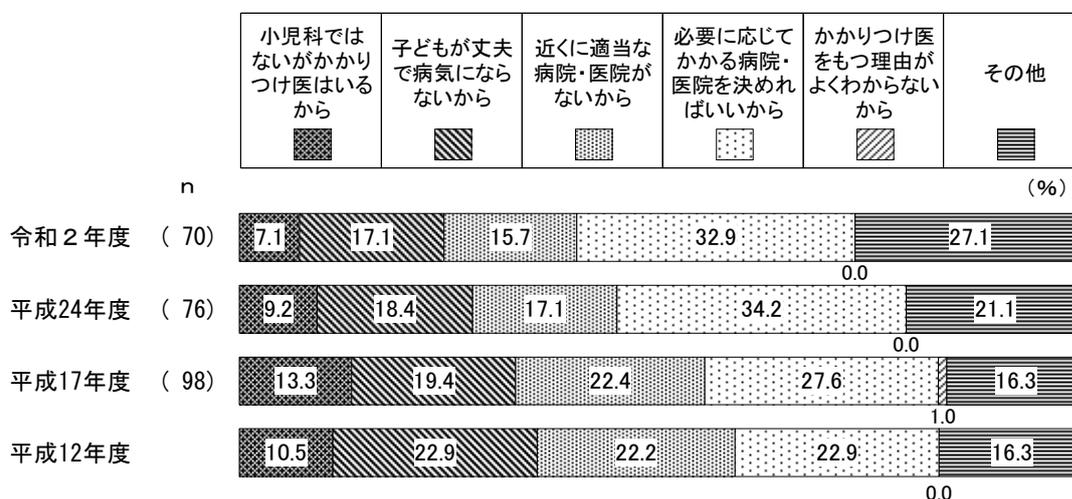
過去の調査と比較すると、『満足している（計）』は平成12年度以降増加傾向にある。

(3) 小児科のかかりつけ医を持たない理由

問49で「いいえ」と答えた方へ

問49-2 かかりつけ医を持っていない理由で最もあてはまるものは何ですか。

図表6-3-1 小児科のかかりつけ医を持たない理由（経年比較）



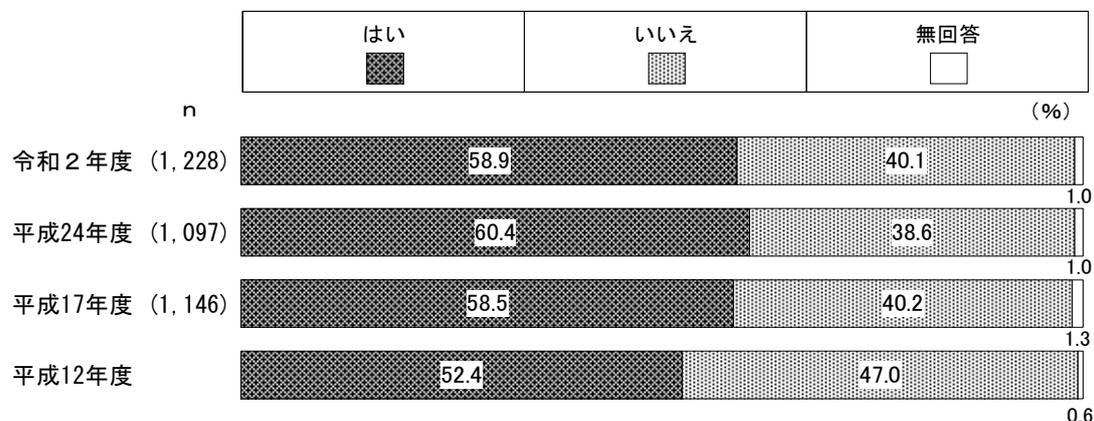
小児科のかかりつけ医を「持っていない」と答えた人（70人）に、かかりつけ医を持っていない理由を聞いたところ、「必要に応じてかかる病院・医院を決めればよいから」が32.9%で最も高く、次いで「子どもが丈夫で病気にならないから」（17.1%）、「近くに適切な病院・医院がないから」（15.7%）、「小児科ではないがかかりつけ医はいるから」（7.1%）となっている。

過去の調査と比較すると、「子どもが丈夫で病気にならないから」は平成12年度以降減少傾向にある。

(4) 市町村（医師会）の休日・夜間救急診療所の受診経験

問50 市町村（医師会）が設置している休日・夜間救急診療所を、お子さんが受診したことがありますか。

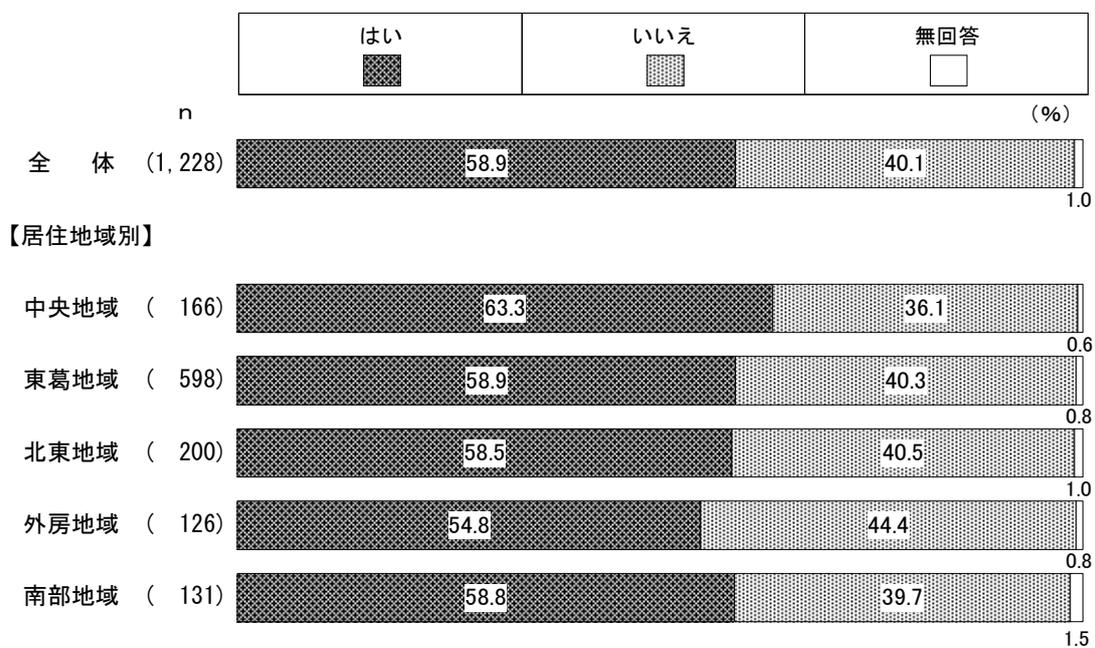
図表6-4-1 市町村（医師会）の休日・夜間救急診療所の受診経験（経年比較）



市町村（医師会）の休日・夜間救急診療所を受診したことがあるか聞いたところ、「はい」が58.9%、「いいえ」は40.1%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表6-4-2 市町村（医師会）の休日・夜間救急診療所の受診経験（居住地域別）

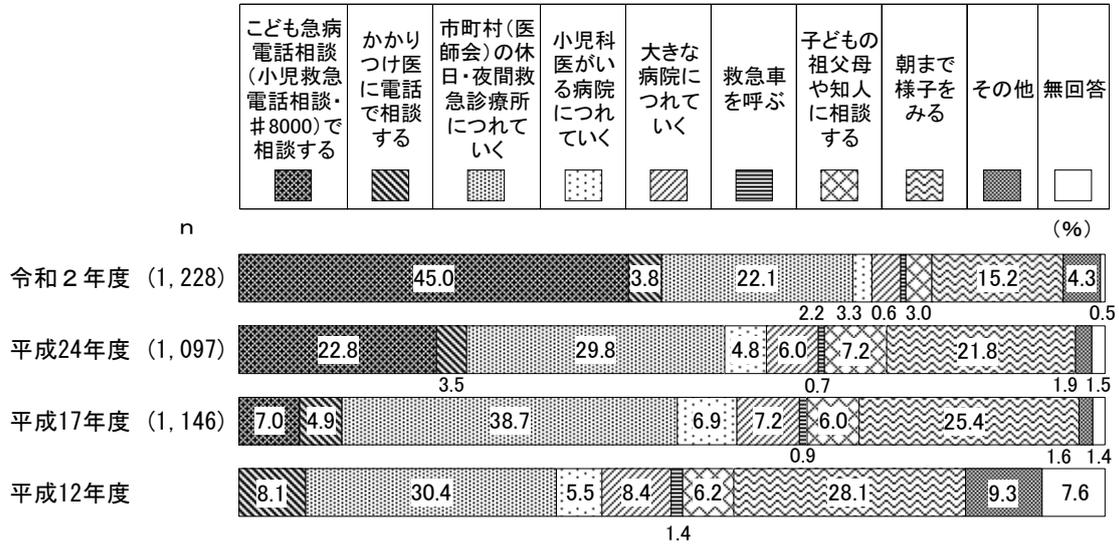


居住地域別でみると、「はい」は“中央地域”で63.3%と高くなっている。一方、「いいえ」は“外房地域”で44.4%と高くなっている。

(5) 夜間に子どもの具合が悪くなったときの対応

問51 夜間、お子さんの具合が悪くなったとき、どうしていますか。

図表6-5-1 夜間に子どもの具合が悪くなったときの対応（経年比較）

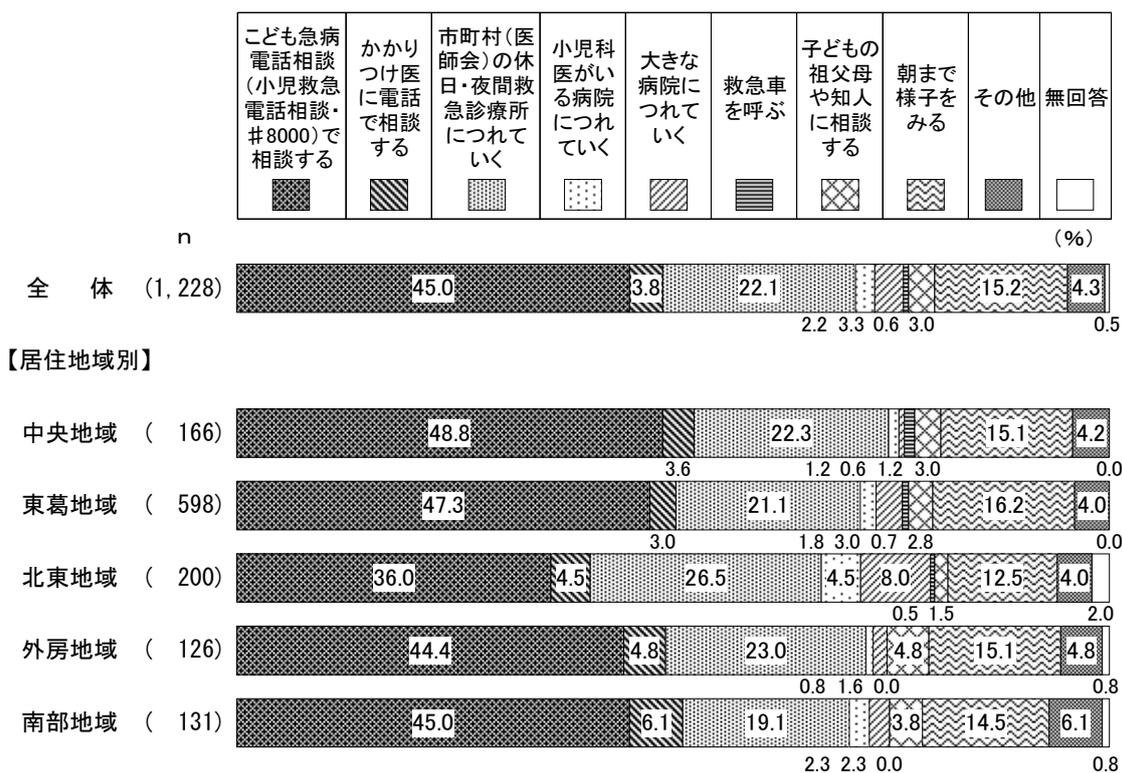


※「子ども急病電話相談（小児救急電話相談・#8000）で相談する」は、平成24年度以前では「子ども電話相談で相談する」としていた
 ※「朝まで様子を見る」は、平成24年度以前では「なるべく朝まで様子を見る」としていた

夜間に子どもの具合が悪くなったときの対応を聞いたところ、「子ども急病電話相談（小児救急電話相談・#8000）で相談する」が45.0%で最も高く、次いで「市町村（医師会）の休日・夜間救急診療所につれていく」（22.1%）、「朝まで様子を見る」（15.2%）となっている。

過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考に図示する。

図表6-5-2 夜間に子どもの具合が悪くなったときの対応（居住地域別）

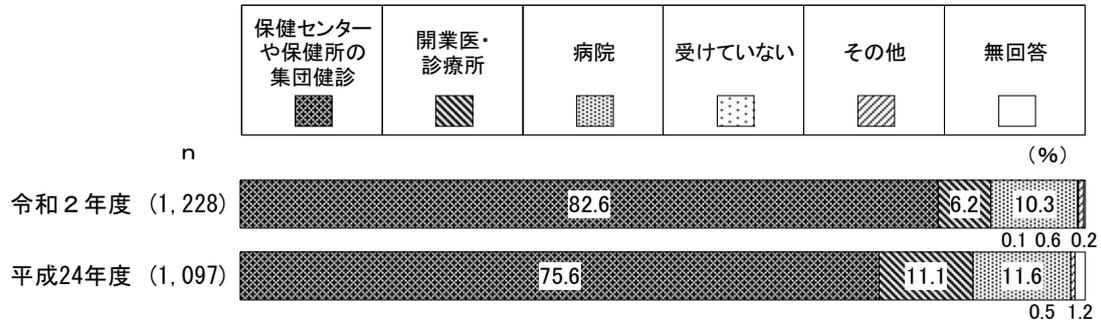


居住地域別で見ると、「子ども急病電話相談（小児救急電話相談・#8000）で相談する」は“中央地域”で48.8%と高くなっている。「市町村（医師会）の休日・夜間救急診療所につれていく」は“北東地域”で26.5%と高くなっている。

(6) 乳幼児健診の受診場所

問52 これまでに乳幼児健診は主にどこで受けましたか。

図表6-6-1 乳幼児健診の受診場所（経年比較）

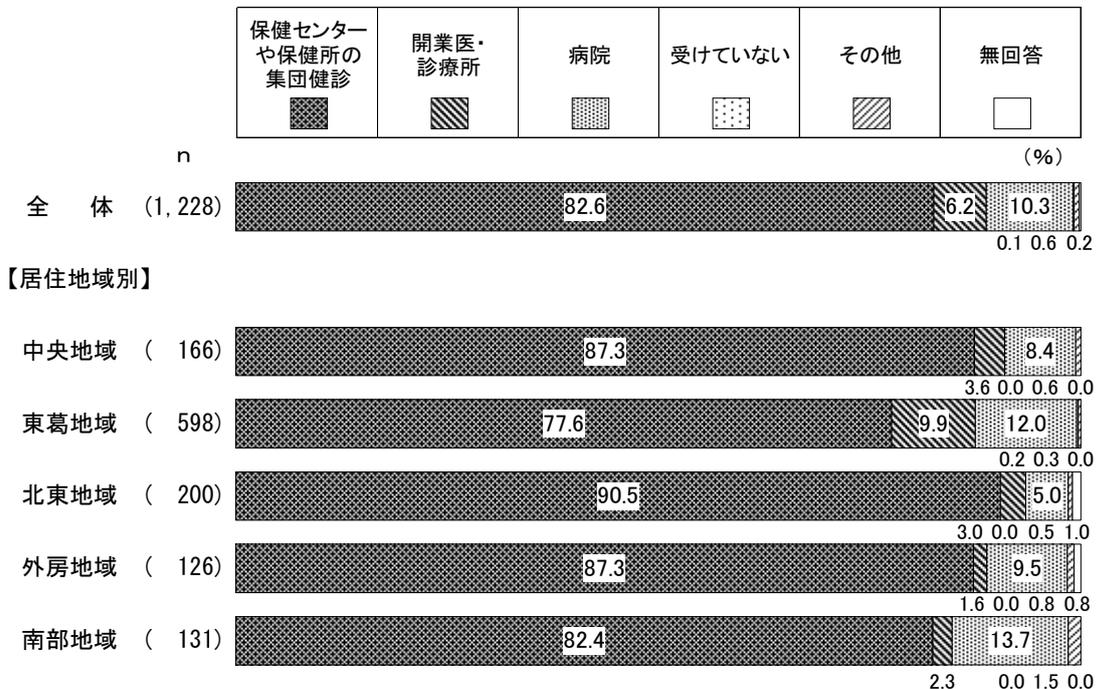


※「受けていない」は令和2年度から追加された選択肢

乳幼児健診は主にどこで受けたか聞いたところ、「保健センターや保健所の集団健診」が82.6%で最も高く、次いで「病院」（10.3%）、「開業医・診療所」（6.2%）となっている。

過去の調査と比較すると、「保健センターや保健所の集団健診」は平成24年度より7.0ポイント増加している。一方、「開業医・診療所」は平成24年度より4.9ポイント減少している。

図表6-6-2 乳幼児健診の受診場所（居住地域別）

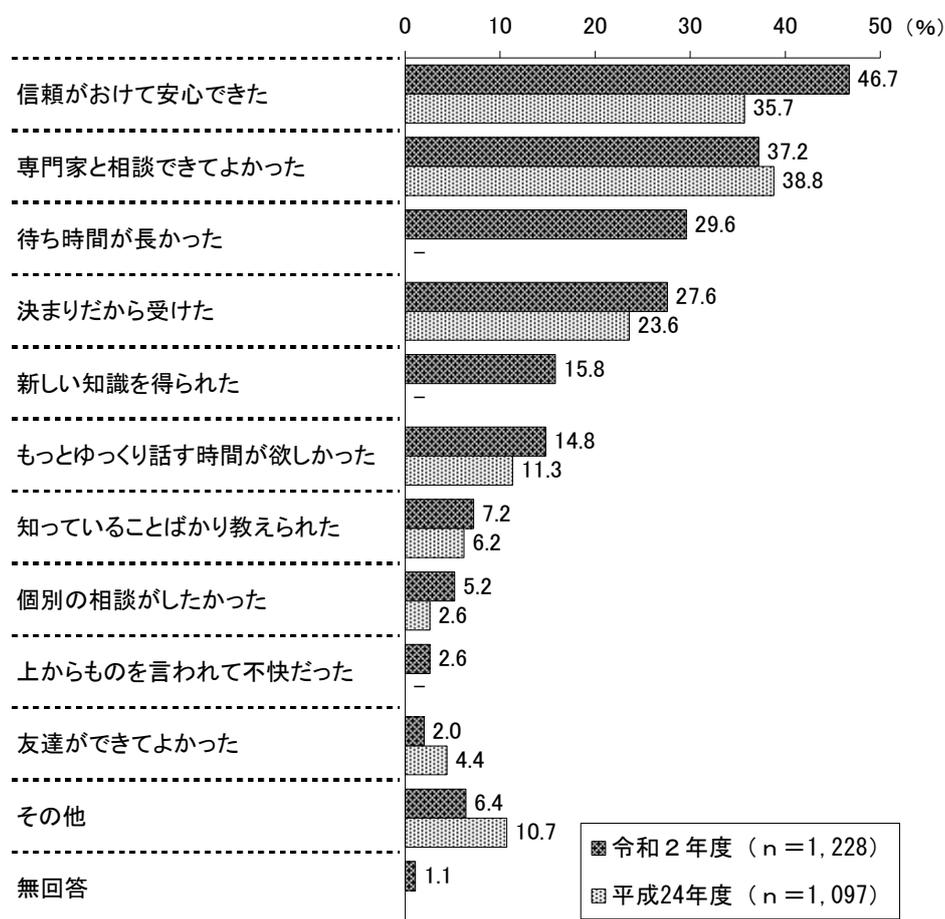


居住地域別で見ると、「保健センターや保健所の集団健診」は“北東地域”で90.5%と高くなっている。

(7) 乳幼児健診を受けた感想

問53 健診を受けた感想はいかがですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表6-7-1 乳幼児健診を受けた感想（経年比較）〔複数回答〕

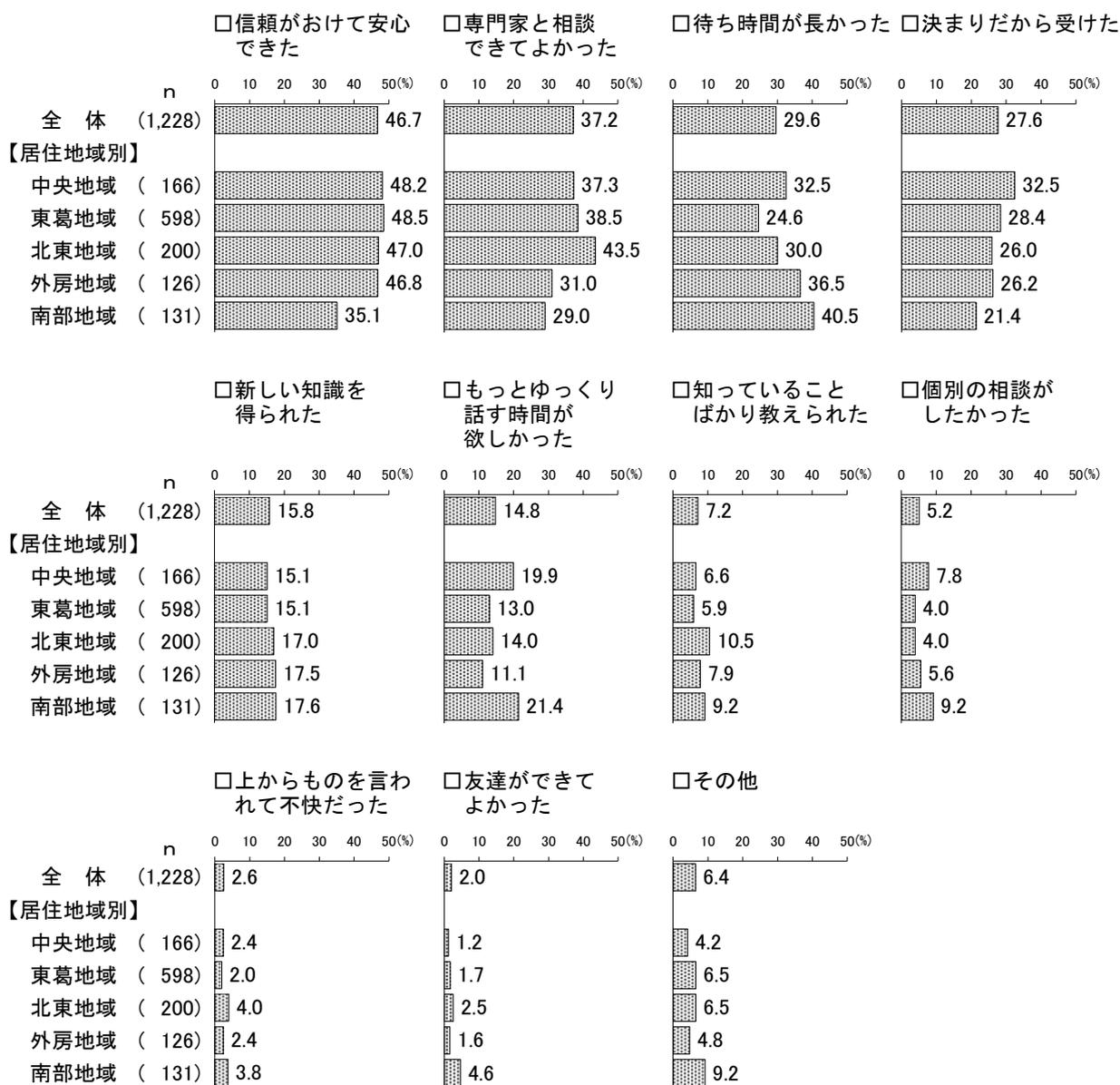


※「専門家と相談できてよかった」は、平成24年度では「医師や保健師の話が勉強になった」としていた
 ※「待ち時間が長かった」、「新しい知識を得られた」、「上からものを言われて不快だった」は、令和2年度から追加された選択肢

乳幼児健診を受けた感想を聞いたところ、「信頼がおけて安心できた」が46.7%で最も高く、次いで「専門家と相談できてよかった」（37.2%）、「待ち時間が長かった」（29.6%）、「決まりだから受けた」（27.6%）となっている。

過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考となるが、「信頼がおけて安心できた」は平成24年度より11.0ポイント、「決まりだから受けた」は平成24年度より4.0ポイント、それぞれ増加している。

図表6-7-2 乳幼児健診を受けた感想（居住地域別）

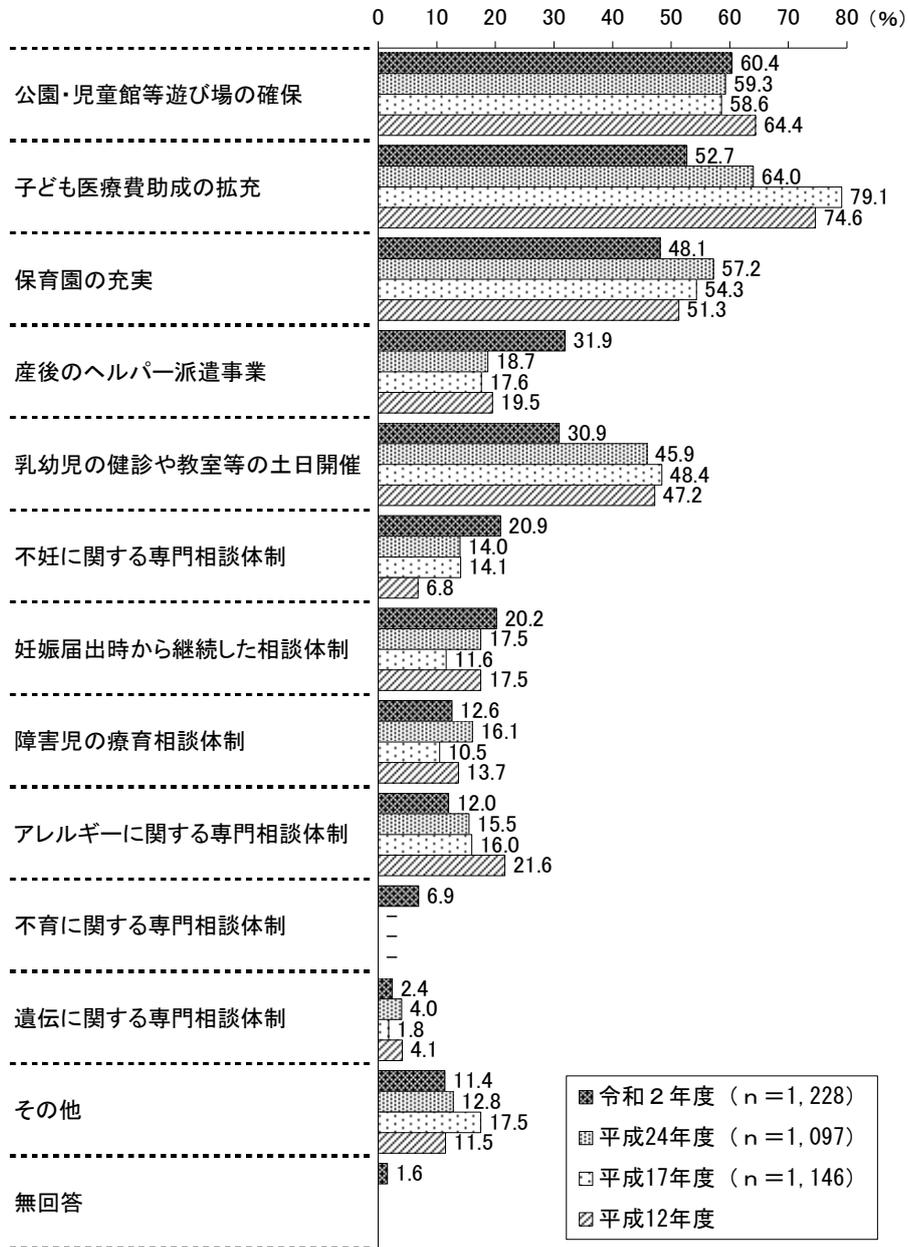


居住地域別で見ると、「専門家と相談できてよかった」は“北東地域”で43.5%と高くなっている。「待ち時間が長かった」は“南部地域”で40.5%と高くなっている。「決まりだから受けた」は“中央地域”で32.5%と高くなっている。

(8) 千葉県に望むこと

問54 21世紀の千葉県の親と子が健やかに生活できるようにするためには、行政として、どこに力を入れていくといいと思いますか。4つまで○をつけてください。

図表6-8-1 千葉県に望むこと（経年比較）[4つまでの複数回答]

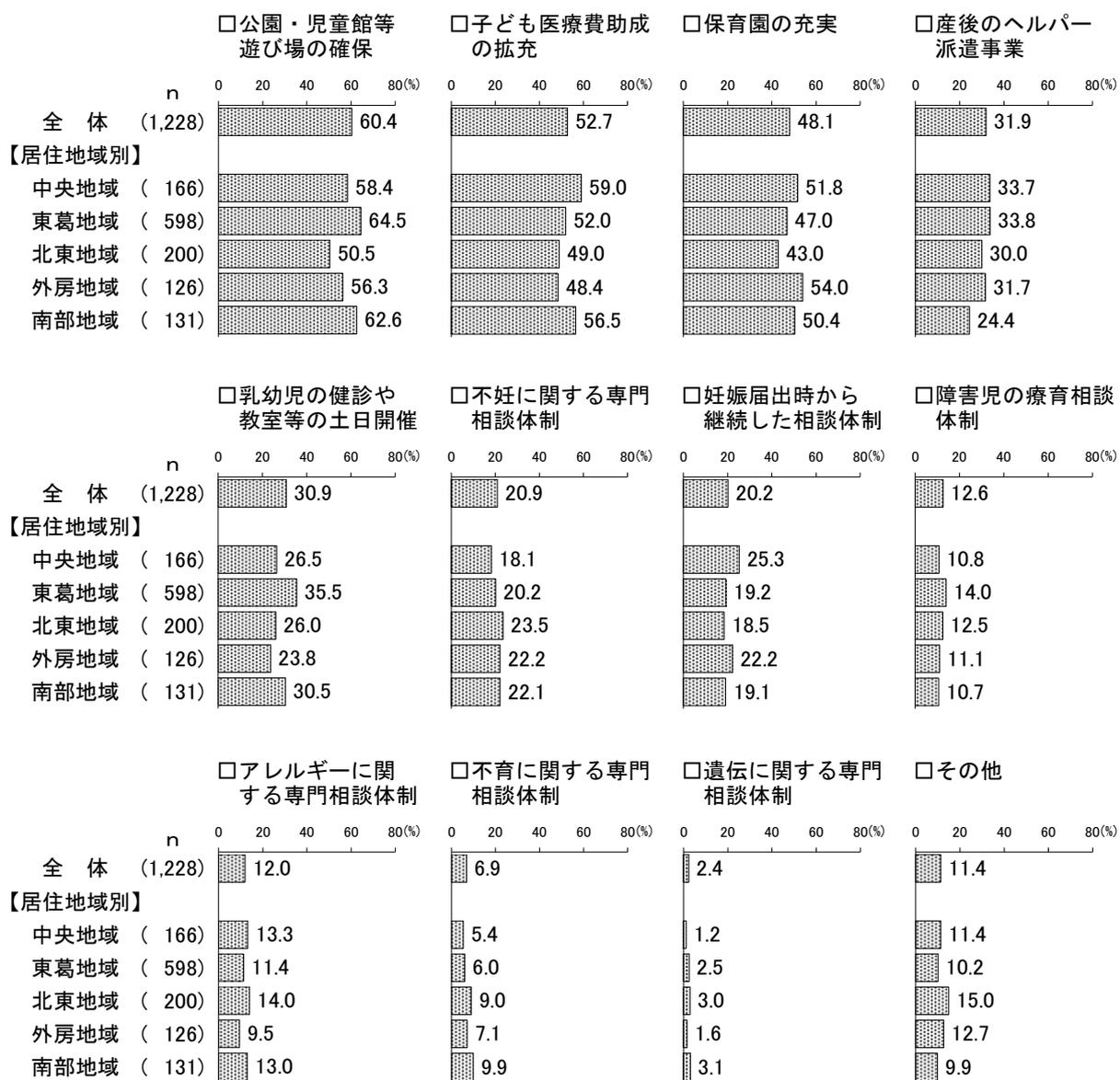


※「子ども医療費助成の拡充」は、平成24年度以前では「子ども医療の助成」としていた
 ※「乳幼児の健診や教室等の土日開催」は、平成24年度以前では「乳幼児の休日健診」としていた
 ※「不育に関する専門相談体制」は、令和2年度から追加された選択肢

千葉県に望むことを聞いたところ、「公園・児童館等遊び場の確保」が60.4%で最も高く、次いで「子ども医療費助成の拡充」（52.7%）、「保育園の充実」（48.1%）、「産後のヘルパー派遣事業」（31.9%）となっている。

過去の調査と比較すると、選択肢が異なるため参考となるが、「産後のヘルパー派遣事業」は平成24年度より13.2ポイント増加している。一方、「保育園の充実」は平成24年度より9.1ポイント減少している。

図表6-8-2 千葉県に望むこと（居住地域別）



居住地域別で見ると、「公園・児童館等遊び場の確保」は“東葛地域”で64.5%と高くなっている。「子ども医療費助成の拡充」は“中央地域”で59.0%と高くなっている。「保育園の充実」は“外房地域”で54.0%と高くなっている。「乳幼児の健診や教室等の土日開催」は“東葛地域”で35.5%と高くなっている。

Ⅲ まとめ

この調査は、千葉県内に在住し、令和2年9月～10月に県内43市町村で実施した1歳6か月児健康健診及び3歳児健康診査の対象児を持つ母親3,631人を対象として実施した。今回はその調査結果の分析をもとに、同様に実施した平成12年度、17年度、24年度の調査結果を比較し、分析を行った。

令和2年度調査で回答のあった母親の状況は、20代～30代が全体の81.7%を占めているが、41歳以上が10.4%と増加している。職業は「専業主婦」が37.1%と最も多いが減少傾向で、職業を持っている人は60.3%と今までの調査で一番多くなっている。家族構成は「核家族」が87.5%と前回調査よりも約10%増加しており、更に核家族化が進んでいる。また、「近所づきあいはしたくない」が8.7%と少ない割合ながらも前回より2倍以上増加しており、地域での孤立が懸念される。

第1子の妊娠時の年齢は、21歳～25歳は減少し、31歳～40歳が増加しており、初回調査の平成12年度に比して、高齢化の傾向が強まっている。

妊娠中の定期健診は「すべて（ほとんど）受けた」が99.2%とほぼ受診できている。

母子健康手帳の交付時期が「妊娠中期」以降の人は、20歳以下の若年層で約10%と多くなっている。妊娠期の保健サービスを利用してもらうためには、早期の妊娠届出をより勧めていくことが必要であり、特に若年層に向けた啓発が重要である。

第1子妊娠時の母親学級へは、84.3%が参加している。母親学級へ参加した感想は「よかった」が66.9%、「まあまあよかった」が31.2%、合わせて98.1%がよかったと回答し、高い満足度を示している。一方、母親学級へ参加しなかった理由としては「仕事等で日程が合わなかったから」が52.8%と最も多くあげられており、妊娠期も職業を持っている人が増加している影響が考えられ、母親学級の企画等に参加しやすくする工夫が必要である。

妊娠中に喫煙をする人は「喫煙をしていた」1.4%、「妊娠中、途中でやめた」2.7%、合わせて4.1%と過去の調査に比して最も少ない。一日の喫煙本数は「11～15本」が増加している。また、吸っていた理由は「習慣性」「精神的にリラックスできたから」が多いことや、25歳以下の若年層の喫煙率が高いことなどから、喫煙への依存が強いことが伺え、妊娠前からの教育が必要である。

さらに、同居家族が同室で吸っていた場合、妊婦本人の喫煙率が高くなっており、本人だけではなく家族も含め、喫煙が妊娠・出産に与える影響について周知・指導をする必要がある。

また、妊娠中も喫煙していた人ほど飲酒もしていた傾向が高く、また、前回調査に比し飲酒頻度が多くなっているため、飲酒についても同様に周知が必要である。

妊娠中に「仕事をしていた人」は69.2%で、過去の調査に比べ年々増加しており、「途中でやめた」は14.6%で減少傾向にある。また、仕事をしていた人に、妊娠しているということで工作上配慮してもらえたか聞いたところ、「配慮してもらえた」が55.1%、「だいたい配慮してもらえた」が33.2%で、88.3%が配慮してもらえたと回答している。平成12年度調査、平成17年度調査では「配慮してもらえた」は3割台であったが、その後年々増加している。これらのことを考え合わせると、「配慮してもらえた」の増加により、「途中でやめた」人が減少していると推測される。

妊娠中も働き続ける人が増加する中で、働きながら安心して子どもを産むことができる労働環境の向上や健康管理等への配慮は必要不可欠である。母性健康管理指導事項連絡カードの認知度は約40%と前年より上昇しているが、適切な母性健康管理の推進のため、さらなる啓発が必要である。

第1子の出産時で産後の抑うつ状態の有無については、過去の調査と比しても大きな変化はない。抑うつ状態が「あった」と回答した人は「出産の満足度が低い」「産後の協力者がいなかった」の割合が「なかった」人より多く、様々な要因が関わっていることが伺える。産後のアセスメントを行い、個々に合わせた身体的心理的なケアが求められる。

また、育児においても母親へのサポートは重要である。育児について相談する相手が「いない」と回答した人は「子育てに自信が持てないと感じる」「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」割合が、「いる」人の約4倍多く、産後から子育て期にかけて継続的な支援が必要である。

また、父親の育児に対する参加状況も変化しており、初回調査時に比べると夫の育児参加項目は全体的に増加しているが、特に「買い物」「炊事」「掃除」「洗濯」など家事への参加が今回は特に増加しており、育児への積極的な参加や家事を負担するなどの状況が伺えた。また、母親が育児について相談する相手は「実母」が減り、「夫」が増えている。母親と児だけでなく、家族全体を支援する視点が重要となる。

乳幼児健診の受診の感想は「信頼がおけて安心できた」が46.7%、「専門家と相談できてよかった」が37.2%となっている。一方で「待ち時間が長かった」が29.6%、「もっとゆっくり話す時間が欲しかった」が14.8%など、不満の声もみられ、今後の改善すべき点として留意が必要である。また、「決まりだから受けた」が27.6%いる。今後の健診受診率向上のためにも、健診の目的と必要性を説明し理解を得ることが重要である。

IV 使用した調査票



令和2年度 健やか親子21実態調査 妊娠・出産・育児に関する調査のお願い



「健やか親子21」は、平成13年から開始した、母子の健康水準を向上させるための様々な取組を、みんなで推進する国民運動計画です。平成27年からは第2次計画が始まっています。

千葉県ではこれを受け、子どもを安心して産み育てられる社会づくりを目指してまいりましたが、この度、その評価及び今後の施策の参考とするために、実態調査をすることとしました。つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、本調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査はすべて無記名で行い、集計・分析に用いるので、個人が特定されることはありません。また、調査票は下記の調査委託機関に送られますが、記入いただいた回答は調査以外の目的には使用しません。

御不明な点がございましたら、下記の調査実施機関にお問い合わせくださいますよう、併せてお願い申し上げます。

ご記入にあたって

- ・この調査は、大きく分けて次の4つの設問項目に分かれています。
1) 生活環境 2) 妊娠 3) 出産 4) 育児
- ・各質問には今回健診に来られたお子さんのお母さんに回答をお願いします。
- ・設問2から4までは、第1子のお子さんを念頭におきながら回答してください。
- ・設問5から6までは、すべてのお子さんについて、回答してください。
- ・書き終わったら、同封の返信用封筒に調査用紙を入れて封をし（切手は不要です）、ポストへ投函してください。封筒に住所やお名前を書かないで返送してください。
- ・各質問に対する回答は、基本的には、自分に最もあてはまる選択肢の番号を1つだけ、○で囲んでください。ただし、いくつでも○をつけてもよい場合がありますので、よく読んで回答してください。

調査実施機関：千葉県健康福祉部 児童家庭課

TEL：043-223-2332

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

調査委託機関：株式会社エスピー研

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-20

妊娠・出産・育児に関する調査

以下は**お母さん自身のこと**についておうかがいします。F 1については、数字の記入を、F 2については、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。

F 1 令和2年4月1日現在の年齢

() 歳

F 2 現在のお仕事は何ですか。なお、「6」を選んだ方はa、bのいずれかを選んでください。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 会社員 | 2 自営業 |
| 3 公務員 | 4 パート・アルバイト |
| 5 その他 () | |
| 6 無職 | a 専業主婦 |
| | b 学生 |

設問 1 あなたと家族、地域とのかかわりについておうかがいします。
次の問1から問6までの質問について、回答を記入するか最もあてはまる選択肢に○をつけてください。

問1 住んでいるところはどこですか。

() 市・町・村

問2 居住年数はどのくらいですか。

- | | |
|------------|-----------|
| 1 1年未満 | 2 1年～5年未満 |
| 3 5年～10年未満 | 4 10年以上 |

問3 お住まいの家の形態はどれですか。

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1 一戸建 | 2 マンション・アパート等集合住宅 |
| 3 その他 () | |

問4 あなたは日頃の近所づきあいについてどのように考えていますか。

- | |
|------------------|
| 1 上手くつきあっている |
| 2 上手くつきあいたいができない |
| 3 つきあいはしたくない |
| 4 その他 () |

問5 あなたの家族構成について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 夫	2 子ども
3 義父あるいは義母	4 実父あるいは実母
5 1～4以外の親族	6 その他 ()

問6 お子さんは何人いますか。

() 人

問6-1 お子さんの年齢を高い順にお書きください。

1 () 歳
2 () 歳
3 () 歳
4 () 歳
5 () 歳
6 () 歳
7 () 歳
8 () 歳

設問2

第1子を妊娠された時のことについておうかがいします。次の問7から問25までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、問9-1、問14-1、3、問15、問18、問23-3は、あてはまるものすべてに○をつけてください。

問7 第1子を妊娠したときの年齢はいくつでしたか。

() 歳

問8 母子健康手帳の交付を受けたのは、いつ頃でしたか。

1 妊娠初期(1～11週)	2 妊娠初期(12～15週)	3 妊娠中期(16～27週)
4 妊娠後期(28～40週)	5 その他 ()	

問9 妊娠中、定期的に健診を受けましたか。

1 すべて(ほとんど)受けた(問10へ)		
2 1～4回受けた(問9-1へ)	3 まったく受けなかった(問9-1へ)	

問9で「2あるいは3」と答えた方へ

問9-1 健診を受けなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 必要ないと思ったから	2 身近なところになかったから
3 忙しくて行けなかったから	4 すでに病院にかかっていたから
5 経済的な理由で行けなかったから	6 その他 ()

問10 妊婦健診時、医師や助産師などから日常生活の指導を受けたことがありますか。

1	ある	2	ない
---	----	---	----

問11 妊娠中、日常生活に注意をしましたか。

1	注意した	2	だいたい注意した
3	あまり注意しなかった	4	注意しなかった

問12 出産直前の体重は、妊娠前に比べて、どのくらいまで増えましたか。

1	4～5kg	2	6～7kg	3	8～9kg
4	10～11kg	5	12kg以上		

問13 妊娠中期（16～27週）頃、積極的に身体を動かしましたか。

1	はい	2	いいえ	3	医師に止められていた
---	----	---	-----	---	------------

問14 妊娠中、喫煙はしていましたか。

1	はい（問14-1～）	2	妊娠中、途中でやめた（問14-1～）
3	いいえ（問15～）		

問14で「1または2」と答えた方へ

問14-1 吸っていたたばこの種類は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	たばこ（紙巻きたばこ、葉巻等）
2	新型たばこ（電子たばこ、加熱式たばこ等）

問14-2 一日何本くらい吸っていましたか。

1	1本以下	2	2～5本	3	6～10本
4	11～15本	5	15本以上		

問14-3 吸っていたのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	習慣でやめられなかったから	2	精神的にリラックスできたから
3	少しくらいなら大丈夫と思ったから	4	その他（ ）

問15 妊娠中の喫煙がお母さんの身体や胎児に与える影響について、どんなことが起こると思いますか。当てはまると思うものすべてに○をつけてください。

1	胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる
2	妊娠期間の異常（早期破水・胎盤異常・自然流産等）の原因となる
3	死産や生後1週間以内の新生児死亡の可能性が高くなる

問16 妊娠中、同居の家族はたばこを吸っていましたか。

1	同室で吸っていた	2	同室で吸わないよう配慮して吸っていた
3	吸う人がいなかった		

問17 妊娠中、飲酒はしていましたか。

1	はい（問17-1～）	2	いいえ（問18～）
---	------------	---	-----------

問17で「はい」と答えた方へ

問17-1 週に何日くらい飲酒していましたか。

1	1日以下	2	2～3日
3	4～6日	4	毎日

問17-2 妊娠中、1日あたりどれくらいの量を飲んでいましたか。(清酒量に換算)

1	1合(180ml)未満	2	1合～2合(360ml)未満	3	2合～3合(540ml)未満
4	3合～4合(720ml)未満	5	4合～5合(900ml)未満	6	5合(900ml)以上

※清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当します。参考にしてください。

ビール・発泡酒 中瓶1本(500ml)、焼酎20%(135ml)、焼酎25%(110ml)、焼酎35%(80ml)
チューハイ7%(350ml)、ウィスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)

問18 妊娠中の大量飲酒がお母さんの身体や胎児の成長に与える影響について、あてはまると思うものすべてに○をつけてください。

1	胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる
2	流産や死産の可能性が高くなる
3	胎児性アルコール症候群が起こる可能性がある

問19 母親学級に参加しましたか。

1	はい(問19-1へ)	2	いいえ(問19-3へ)
---	------------	---	-------------

問19で「はい」と答えた方へ

問19-1 どこで母親学級に参加しましたか。

1	市町村	2	病院・産院	3	その他()
---	-----	---	-------	---	--------

問19-2 参加してよかったと思いますか。

1	よかった	2	まあまあよかった
3	あまりよくなかった	4	よくなかった

問19で「いいえ」と答えた方へ

問19-3 参加しなかった理由で最もあてはまるものは何ですか。

1	自分には必要ないと思ったから
2	仕事等で日程が合わなかったから
3	身体の具合が悪かったから
4	人の中に入って行くのが苦手だから
5	開催していることを知らなかったから
6	その他()

問20 「両親学級」「父親学級」があれば、夫にも参加してもらいたいですか。

1	参加してもらいたい(問20-1へ)		
2	実際あったので参加した(問21へ)	3	参加しなくてよい(問21へ)

問20で「参加してもらいたい」と答えた方へ

問20-1 夫は参加してくれると思いますか。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 参加してくれる | 2 参加してくれない |
| 3 わからない | |

問21 妊娠とわかったときの気持ちで、最もあてはまるのは次のうちどれですか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 嬉しかった | 2 まあまあ嬉しかった |
| 3 あまり嬉しくなかった | 4 嬉しくなかった |

問22 妊娠とわかったときの夫の様子で、最もあてはまるのは次のうちどれですか。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 嬉しそうだった | 2 まあまあ嬉しそうだった |
| 3 あまり嬉しそうではなかった | 4 嬉しそうではなかった |

問23 妊娠中、仕事をしていましたか。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 はい (問23-1へ) | 2 途中でやめた (問23-1へ) |
| 3 いいえ (問24へ) | |

問23で「1あるいは2」と答えた方へ

問23-1 職業は何ですか。(あるいは何でしたか)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 会社員 | 2 自営業 |
| 3 公務員 | 4 パート・アルバイト |
| 5 その他 () | |

問23-2 妊娠ということで、仕事上配慮してもらえたと思いますか。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 配慮してもらえた | 2 だいたい配慮してもらえた |
| 3 あまり配慮してもらえなかった | 4 配慮してもらえなかった |

問23-2で「3あるいは4」と答えた方へ

問23-3 どんな点が配慮してもらえませんでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|-------------------------|
| 1 産休・育休制度がなかった |
| 2 産休はとれたが、育休がとれなかった |
| 3 軽い作業等仕事内容を変えてもらえなかった |
| 4 通勤時間や勤務時間を短縮してもらえなかった |
| 5 その他 () |

問24 母性健康管理指導事項連絡カードを知っていますか。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 知っている (問24-1へ) | 2 知らない (問25へ) |
|------------------|---------------|

問24で「知っている」と答えた方へ

問24-1 利用したことはありますか。

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問25 マタニティマークを知っていますか。

- 1 知っている (問25-1へ) 2 知らない (設問3へ)

問25で「1知っている」と答えた方へ

問25-1 マタニティマークを使用したことはありますか。

- 1 ある (問25-2へ) 2 ない (問25-3へ)

問25-1で「1ある」と答えた方へ

問25-2 マタニティマークの効果を感じたことがありますか。

- 1 ある 2 ない

問25-1で「2ない」と答えた方へ

問25-3 マタニティマークを使用しなかったのはなぜですか。

- 1 持っていなかったから
2 嫌がらせを受けるなどのうわさを聞いて怖かったから
3 「席を譲ってください」と訴えているようで、抵抗があったから
4 公共交通機関を利用しなかったから
5 その他 ()

設問3

第1子の出産のときのことについておうかがいします。**第1子の母子健康手帳を、ご覧になりながら記入してください。**
次の問26から問34までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし問26-2、26-4、33-1はあてはまるものすべてに○をつけてください。

問26 出産に先立って、里帰りしましたか。

- 1 はい (問26-1へ) 2 いいえ (問27へ)

問26で「はい」と答えた方へ

問26-1 いつごろから里帰りしましたか。数字を記入してください。

出産予定日の_____週間前

問26-2 里帰り出産をした理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 出産後、育児の協力をしてもらうため
2 妊娠中、自宅で協力してくれる人がいなかったため
3 妊娠中、体調がすぐれなかったため
4 自宅の近くで適当な病院・産院がなかったため
5 その他 ()

問26-3 里帰り出産で保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことがありましたか。

- 1 あった (問26-4へ) 2 なかった (問27へ)

問26-3で「あった」と答えた方へ

問26-4 どんなことで困りましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 妊婦健診のこと	2 先天性代謝異常検査のこと
3 医療機関のこと	4 新生児訪問指導のこと
5 その他 ()	

問27 出産の状態はどうでしたか。

1 自然分娩	2 1以外の分娩（帝王切開、早期破水等）
--------	----------------------

問28 立ち合い出産でしたか。

1 はい	2 いいえ
------	-------

問29 出産時の妊娠週数はどのくらいでしたか。数字を記入してください。

妊娠_____週

問30 出生時のお子さんの体重と身長はどのくらいでしたか。数字を記入してください。

体重_____ g	身長_____ cm
-----------	------------

問31 出産し、お子さんの顔を見たときに嬉しいと感じましたか。

1 嬉しかった	2 まあまあ嬉しかった
3 あまり嬉しくなかった	4 嬉しくなかった

問32 自分の希望した（満足な）出産ができましたか。

1 できた	2 まあまあできた
3 あまりできなかった	4 できなかった

問33 産後1か月頃までの時期に協力してくれた人はいましたか。

1 いた（問33-1へ）	2 いなかった（問34へ）
--------------	---------------

問33で「いた」と答えた方へ

問33-1 誰が協力してくれましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 夫	2 実母
3 実父	4 自分の兄弟姉妹
5 義母	6 義父
7 友人・知人	8 民間ヘルパー等
9 その他 ()	

問34 産後3か月くらいの間に、気分が沈んだり涙もろくなったり、何もする気になれないということがありましたか。

1 あった	2 なかった
-------	--------

設問4 育児についておうかがいします。**第1子**の時を思い出して回答してください。
次の問35から問40までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、問35-1はあてはまるものすべてに○をつけてください。

問35 生後1か月頃はお子さんを何で育てましたか。

- | | | | |
|--------------|--------|---|----------|
| 1 母乳のみ | (問36へ) | } | (問35-1へ) |
| 2 母乳と粉ミルクの併用 | | | |
| 3 粉ミルクのみ | | | |
| 4 特殊ミルクのみ | | | |

問35で「2～4」と答えた方へ

問35-1 母乳のみにしなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|-----------------------------|
| 1 母乳があまりでなかったから |
| 2 母乳をどのくらい飲んでいるかわからなかったから |
| 3 母乳で育てようと思わなかったから |
| 4 ミルクがよいと思ったから |
| 5 母親の仕事(勤務)で思うように授乳できなかったから |
| 6 薬を飲んでいたので |
| 7 医師に言われたから |
| 8 胸の形が崩れるのを気にしたから |
| 9 その他 () |

問36 お子さんが生まれてからの寝かせ方はどうでしたか。

- | |
|-------------------------|
| 1 おおむねあお向け寝だった (問37へ) |
| 2 おおむねうつ伏せ寝だった (問36-1へ) |
| 3 その他 () (問37へ) |

問36で「2」と答えた方へ

問36-1 どのような理由でそうしましたか。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 自然にしていた | 2 生まれた病院・産院でしていたから |
| 3 うつ伏せ寝がいいと思ったから | 4 友人・知人から言われたから |
| 5 育児書等に載っていたから | 6 その他 () |

問37 うつ伏せ寝が乳幼児突然死症候群(SIDS)の危険因子のひとつといわれていることを知っていますか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問38 BCG接種を受けましたか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 はい (問38-1へ) | 2 いいえ (問38-2へ) |
|---------------|----------------|

問38で「1はい」と答えた方へ

問38-1 接種したのはいつごろですか。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 生後6ヶ月以内 | 2 6ヶ月～1歳未満 |
| 3 1歳以降 | |

問38で「いいえ」と答えた方へ

問38-2 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 子どもの風邪などのために機会を逃したから |
| 2 | 受けることを知らなかったから |
| 3 | 副作用などが心配で受けさせたくなかったから |
| 4 | 忘れていたから |
| 5 | 共働きなどのため連れていけなかったから |
| 6 | ツベルクリン反応が陽性と出たから |
| 7 | なんとなく、とくに理由はない |
| 8 | その他 () |

問39 四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ）の1期の4回を受けましたか。

- | | | | | | |
|---|------------|---|-------------|---|-------------|
| 1 | はい（問39-1へ） | 2 | いいえ（問39-2へ） | 3 | わからない（問40へ） |
|---|------------|---|-------------|---|-------------|

問39で「はい」と答えた方へ

問39-1 1期4回が済んだのはいつですか。

- | | | | |
|---|---------|---|----------|
| 1 | 1歳6か月まで | 2 | 1歳6ヶ月～2歳 |
| 3 | 2歳以降 | | |

問39で「いいえ」と答えた方へ

問39-2 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 子どもの風邪などのために機会を逃したから |
| 2 | 受けることを知らなかったから |
| 3 | 副作用などが心配で受けさせたくなかったから |
| 4 | 忘れていたから |
| 5 | 共働きなどのため連れていけなかったから |
| 6 | なんとなく、とくに理由はない |
| 7 | その他 () |

問40 麻しん・風しん（MR）の予防接種を受けましたか。

- | | | | | | |
|---|------------|---|-------------|---|-------------|
| 1 | はい（問40-1へ） | 2 | いいえ（問40-2へ） | 3 | わからない（設問5へ） |
|---|------------|---|-------------|---|-------------|

問40で「はい」と答えた方へ

問40-1 接種したのはいつですか。

- | | | | | | |
|---|----------|---|-------------|---|---------|
| 1 | 1歳～1歳3ヶ月 | 2 | 1歳3ヶ月～1歳6ヶ月 | 3 | 1歳6ヶ月以降 |
|---|----------|---|-------------|---|---------|

問40で「いいえ」と答えた方へ

問40-2 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 子どもの風邪などのために機会を逃したから |
| 2 | 受けることを知らなかったから |
| 3 | 副作用などが心配で受けさせたくなかったから |
| 4 | 忘れていたから |
| 5 | 共働きなどのため連れていけなかったから |
| 6 | なんとなく、とくに理由はない |
| 7 | その他 () |

設問 5

すべてのお子さんの育児についておうかがいします。

次の問4 1から問4 8までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、問4 6、問4 7-1は、あてはまるものすべてに○をつけてください。

問4 1 1歳から14歳までの子どもは、病気で亡くなるよりも事故で亡くなる子どもの方が多いことを知っていましたか。

1 はい 2 いいえ

問4 2 家庭内での子どもの事故やけがの防止のための工夫についておうかがいします。

問4 2-1 階段などから子どもが落ちないように柵などを付けている

1 している 2 していない 3 階段はない

問4 2-2 水を張った浴槽に子どもが落ちないように工夫している

1 している 2 していない 3 風呂場はない

問4 2-3 子どもだけを家に残さないようにしている

1 している 2 していない

問4 2-4 誤って飲みこまないように、薬やお金などは子どもの手の届かないところに置いている

1 している 2 していない

問4 2-5 玄関から飛び出さないように柵や網をつけている

1 している 2 していない
3 玄関は柵や網をつけなくてもよい構造である

問4 2-6 その他にしている工夫があったらお書きください。

()

問4 3 子どもを車に乗せるときにはチャイルドシートを使用していますか。

1 はい 2 いいえ

問4 4 心肺蘇生法を知っていますか。

1 習ったことがある (問4 4-1へ)
2 言葉だけは知っている (問4 5へ) 3 知らない (問4 5へ)

問4 4で「習ったことがある」と答えた方へ

問4 4-1 どこで習いましたか。

1 消防署 2 市町村 3 保健所
4 病院 5 学校の授業
6 その他 ()

問4 4-2 その際、子どもの心肺蘇生法は習いましたか。

1 はい	2 いいえ	3 わからない
------	-------	---------

問4 4-3 実際に心肺蘇生法を実践できると思いますか。

1 相手が大人でも子どもでもできる	2 相手が大人ならできる
3 相手が子どもならできる	4 できない

問4 5 日中の育児は、主にどなたが行っていますか。続柄はお母さん自身から見たものとします。最も当てはまるものに○をつけてください。

1 自分	2 夫
3 自分や夫以外の同居家族	4 別居している親族
5 保育園・幼稚園	6 ベビーシッター・保育ママ
7 民間託児所	8 友人・知人
9 その他 ()	

問4 6 夫は、育児にどのような形で参加してくれていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 子どもを入浴させる	2 子どもを着替え（おむつ交換も含む）させる
3 子どもと一緒に遊ぶ	4 保育園・幼稚園の送迎をする
5 洗濯する	6 食事の準備・後片付けをする
7 買い物をする	8 掃除をする
9 相談にのってくれる	10 気遣いをしてくれる
11 なにもしない	12 その他 ()
13 夫はいない（問4 7へ）	(1～12は問4 6-1へ)

問4 6で「1～12」と答えた方へ

問4 6-1 夫の協力のしかたに満足していますか。

1 満足している	2 だいたい満足している
3 あまり満足していない	4 満足していない

問4 7 育児について相談する人はいますか。

1 いる（問4 7-1へ）	2 いない（問4 8へ）
---------------	--------------

問4 7で「いる」と答えた方へ

問4 7-1 相談先として、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 夫	2 実母
3 実父	4 義母
5 義父	6 友人・知人
7 隣人	8 かかりつけ医・小児科医
9 保健師	10 助産師
11 保育士・幼稚園の先生	12 電話相談
13 インターネット・SNS	14 その他 ()

問48 今のあなたの気持ちに最もあてはまるものに○をつけてください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
1 子どもがかわいいと感じる	1	2	3	4
2 子育てに自信が持てないと感じる	1	2	3	4
3 普段の生活の中でイライラする	1	2	3	4
4 急に涙もなく泣きたくなる	1	2	3	4
5 眠れないことがある	1	2	3	4
6 子どもによって自分も成長していると感じる	1	2	3	4
7 自分の自由な時間がほしい	1	2	3	4
8 家計のやりくりが大変である	1	2	3	4
9 子どもの少しくらいのけがは、運動や精神面の発達に必要である	1	2	3	4
10 子どもを虐待しているのではないかと思うことがある	1	2	3	4

すべてのお子さんの健康管理についておうかがいします。

次の問49から問54までの質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。ただし、問53はあてはまるものすべてに○をつけ、問54はあてはまるものに4つまで○をつけてください。

問49 小児科のかかりつけ医を持っていますか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 はい (問49-1へ) | 2 いいえ (問49-2へ) |
|---------------|----------------|

問49で「はい」と答えた方へ

問49-1 かかりつけ医に満足していますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 満足している | 2 だいたい満足している |
| 3 あまり満足していない | 4 満足していない |

問49で「いいえ」と答えた方へ

問49-2 かかりつけ医を持っていない理由で最もあてはまるものは何ですか。

- | |
|--------------------------|
| 1 小児科ではないがかかりつけ医はいるから |
| 2 子どもが丈夫で病気にならないから |
| 3 近くに適当な病院・医院がないから |
| 4 必要に応じてかかる病院・医院を決めればいから |
| 5 かかりつけ医をもつ理由がよくわからないから |
| 6 その他 () |

問50 市町村(医師会)が設置している休日・夜間救急診療所を、お子さんが受診したことがありますか。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問5 1 夜間、お子さんの具合が悪くなったとき、どうしていますか。

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 | こども急病電話相談（小児救急電話相談・#8000）で相談する |
| 2 | かかりつけ医に電話で相談する |
| 3 | 市町村（医師会）の休日・夜間救急診療所につれていく |
| 4 | 小児科医がいる病院につれていく |
| 5 | 大きな病院につれていく |
| 6 | 救急車を呼ぶ |
| 7 | 子どもの祖父母や知人に相談する |
| 8 | 朝まで様子をみる |
| 9 | その他（ ） |

問5 2 これまでに乳幼児健診は主にどこで受けましたか。

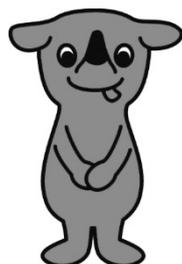
- | | | | |
|---|-----------------|---|---------|
| 1 | 保健センターや保健所の集団健診 | 2 | 開業医・診療所 |
| 3 | 病院 | 4 | 受けていない |
| 5 | その他（ ） | | |

問5 3 健診を受けた感想はいかがですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|----|-----------------|----|-------------------|
| 1 | 信頼がおけて安心できた | 2 | 専門家と相談できてよかった |
| 3 | 上からものを言われて不快だった | 4 | もっとゆっくり話す時間が欲しかった |
| 5 | 決まりだから受けた | 6 | 個別の相談がしたかった |
| 7 | 待ち時間が長かった | 8 | 知っていることばかり教えられた |
| 9 | 新しい知識を得られた | 10 | 友達ができてよかった |
| 11 | その他（ ） | | |

問5 4 21世紀の千葉県の親と子が健やかに生活できるようにするためには、行政として、どこに力を入れていくといいと思いますか。4つまで○をつけてください。

- | | | | |
|----|-----------------|----|---------------|
| 1 | 不妊に関する専門相談体制 | 2 | 不育に関する専門相談体制 |
| 3 | 妊娠届出時から継続した相談体制 | 4 | 産後のヘルパー派遣事業 |
| 5 | 乳幼児の健診や教室等の土日開催 | 6 | 子ども医療費助成の拡充 |
| 7 | 保育園の充実 | 8 | 公園・児童館等遊び場の確保 |
| 9 | 遺伝に関する専門相談体制 | 10 | 障害児の療育相談体制 |
| 11 | アレルギーに関する専門相談体制 | 12 | その他（ ） |



ご協力ありがとうございました。
記入が終わりましたら、返信用封筒に入れ
10月31日までにポストに投函してください

妊娠・出産・育児に関する実態調査
報告書

令和3年3月

発行 千葉県健康福祉部児童家庭課
〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号
電話 043(223)2332